

仙台市文化財調査報告書第423集

長町駅東遺跡第13次調査

—仙台市あすと長町28街区・店舗付駐車場新築工事に伴う発掘調査報告書—

2014年3月

仙台市教育委員会

株式会社 三和商事

序 文

仙台市の文化財保護行政につきまして、日頃から多大なご協力を賜り、まことに感謝にたえません。

市内には、旧石器時代から近世に至るまで数多くの埋蔵文化財が残されており、当教育委員会といたしましても、先人たちが残してきた貴重な文化遺産を保護し、活用を図りながら市民の宝として、次の世代に引き継いでいくことは、これからの「まちづくり」に欠かせない大切なことであると考えております。

本報告書は、多賀城造営以前の陸奥国府と考えられ、国の史跡指定を受けた「仙台郡山官衙遺跡群 郡山官衙遺跡 郡山廃寺」の西側で都市整備が進められている「仙台市あすと長町土地区画整理事業」地内で実施された長町駅東遺跡第13次発掘調査の成果をまとめたものです。

区画整理事業に伴う発掘調査は平成10年から開始され、古墳時代後期から奈良時代としては、東北地方でも最大級の集落が事業地内にあったことが明らかになり、郡山遺跡に営まれた官衙との関係が考えられております。今回の調査は、長町駅東遺跡北西部で行われましたが、竪穴住居跡が密集して確認され、集落内での居住空間の変遷が明らかになりました。

ここに報告する調査成果が地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。

また、発掘調査及び調査報告書の刊行に際しまして、特に事業者である株式会社三和商事様には調査の重要性をご理解いただいた上で、ご協力いただきました。

最後になりましたが、平成23年3月11日の東日本大震災から、早くも3年の月日が過ぎました。仙台市では震災からの復興に向け、「ともに、前へ ～3・11からの再生～」を掲げて、復興計画を進めているところです。そうした中、発掘調査及び調査報告書の刊行に際しまして、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げます、刊行の序といたします。

平成26年3月

仙台市教育委員会
教育長 上田昌孝

例 言

1. 本書は、仙台市あすと長町 28 街区区内の店舗付駐車場新築工事に伴う長町駅東遺跡第 13 次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、仙台市教育委員会の委託を受け、株式会社シン技術コンサルが実施した。
3. 本書の作成は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 荒井 格、工藤 信一郎、水野 一夫、庄子 裕美、結城 慎一の監理の下、基礎整理から本書の編集に至るまでの作業を株式会社シン技術コンサルが担当した。
4. 本書の執筆・図版作成は、第 1 章、第 3 章第 1 節・第 2 節 (1) を工藤 信一郎、第 5 章遺物事実記載を北村 和穂 (株式会社シン技術コンサル)、それ以外を細野 高伯 (株式会社シン技術コンサル、以下同じ) が担当した。また、遺物写真撮影は小池 雄利亜 (株式会社シン技術コンサル)、編集は細野が担当した。
5. 石材鑑定は、柴田 徹 (有限会社考古石材研究所) が行った。
6. 発掘調査および整理作業に際し、以下の方々から多くの御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。(五十音順、敬称略)
(故)今泉 隆雄 岡田 茂弘 (故)工藤 雅樹 桑原 滋郎 進藤 秋輝 須藤 隆 松本 秀明 宮本 長次郎 渡部 育子
7. 調査・整理に関する全ての資料は、仙台市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 第 1 図・第 2 図の地形図は、それぞれ国土地理院発行「長町」1:10,000、「仙台」1:25,000 を使用した。
2. 遺構図中の座標値は、日本測地系「平面直角座標系第 X 系」を基準としている。図中および本文記載の方位北は全て座標北を基準としている。
3. 本書中の土色の記載には『新版 標準土色帖』2005 年版(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)を使用した。
4. 断面図中の数値は、海拔高度 (T・P) を示す。
5. 調査において検出された遺構については以下の遺構記号を使用し、遺構ごとに番号を付した。
SA: 杭列・一本柱列 SB: 掘立柱建物跡 SD: 溝跡 SE: 井戸跡 SI: 竪穴住居跡 SK: 土坑
SM: 小溝状遺構 SX: 性格不明遺構 Pit: ピット
6. 竪穴住居跡における主軸方位の算出および壁面呼称の基準については、『西台畑遺跡第 1・2 次調査』(仙台市教委 2010) に準じた。
7. 遺構図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。これ以外については、個別に凡例を図中に示した。



8. 出土遺物の登録には以下の遺物記号を使用し、種別ごとにアラビア数字を付した。ただし、石器については分類にあたり K のあとに小文字アルファベットを付し、その分類種別を使用している。

C：土師器（非ロクロ） D：土師器（ロクロ） E：須恵器 Kc：礫石器 Kd：石製品 N：金属製品
P：土製品

9. 出土遺物の登録は、種別ごとに通し番号で登録した。
10. 遺物実測図の縮尺は 1/3 を基本としているが、これと異なる場合もあり、全ての図中にスケールを付した。
11. 石器・石製品の実測図には、展開した面に小文字アルファベットを付した。文章中と遺物観察表における「a 面、b 面、c 面…」の記載は、該当する遺物実測図の付された各面に該当する。
12. 土器の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。



13. 土器類の器種・部位呼称、計測位置については、『西台畑遺跡第 1・2 次調査』（前掲）に準じた。
14. 石器・石製品の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。



15. 石器・石製品の実測図における計測位置は、『西台畑遺跡第 1・2 次調査』（前掲）に準じた。
16. 遺構・遺物の観察表内における（ ）付きの計測値は、土器類の各径については推定、その他については残存値を示す。
17. 掲載した遺物写真の縮尺は、遺物実測図に準じた。
18. 本書では、これまでのあすと長町地区の調査成果に基づいて、6 期に時期を区分した。その詳細については下記の通りである。

1 期：5 世紀中葉～後葉（引田式期）

2a 期：6 世紀初頭～前葉

2b 期：6 世紀中葉～末葉

3 期：7 世紀初頭～前葉（栗園式期）

4 期：7 世紀中葉～後葉（郡山 I 期官衙期）

5 期：7 世紀末葉～8 世紀初頭（郡山 II 期官衙期）

6 期：8 世紀前葉以降

目 次

序文
例言
凡例

| | | |
|-------|---------------------|-----|
| 第 1 章 | 調査に至る経過 | 1 |
| 第 1 節 | 調査事由 | 1 |
| 第 2 節 | 調査要項 | 1 |
| | (1) 調査体制 | 1 |
| | (2) 整理体制 | 2 |
| 第 2 章 | 遺跡の位置と環境 | 4 |
| 第 1 節 | 長町駅東遺跡の立地と地形 | 4 |
| 第 2 節 | 周辺の遺跡と歴史的環境 | 4 |
| 第 3 章 | 調査の方法と概要 | 7 |
| 第 1 節 | 調査区の設定 | 7 |
| 第 2 節 | 調査概要 | 7 |
| | (1) 調査経過 | 7 |
| | (2) 測量基準・図面の作成 | 7 |
| | (3) 遺物の取り上げ・調査記録の作成 | 8 |
| | (4) 遺構登録番号 | 8 |
| | (5) 調査報告書作成作業 | 8 |
| 第 4 章 | 基本層序 | 8 |
| 第 5 章 | 検出遺構と出土遺物 | 12 |
| | (1) 竪穴住居跡 | 12 |
| | (2) 掘立柱建物跡 | 88 |
| | (3) 杭列・一本柱列 | 92 |
| | (4) 溝跡 | 96 |
| | (5) 小溝状遺構 | 102 |
| | (6) 井戸跡 | 105 |
| | (7) 土坑 | 107 |
| | (8) ビット | 108 |
| | (9) 性格不明遺構 | 117 |
| 第 6 章 | 総括 | 119 |
| 第 1 節 | 長町駅東遺跡第 13 次調査区について | 119 |

引用・参考文献

写真図版

報告書抄録

挿図目次

| | | | | | |
|------|--------------------------|-------|------|----------------------|-------|
| 第1図 | 長町駅東遺跡第13次調査地点 | 3 | 第37図 | SI369竪穴住居跡出土遺物(1) | 56 |
| 第2図 | 長町駅東遺跡と周辺の遺跡 | 5 | 第38図 | SI369竪穴住居跡出土遺物(2) | 57 |
| 第3図 | 長町駅東遺跡第13次調査区と 周辺の調査区 | 7 | 第39図 | SI370竪穴住居跡 | 58 |
| 第4図 | グリッド配置図 | 8 | 第40図 | SI370竪穴住居跡出土遺物 | 60 |
| 第5図 | 基本層序 | 9・10 | 第41図 | SI371A竪穴住居跡 | 61 |
| 第6図 | 基本層序柱状図 | 11 | 第42図 | SI371A竪穴住居跡出土遺物 | 63 |
| 第7図 | 遺構配置図 | 13・14 | 第43図 | SI371B竪穴住居跡 | 64 |
| 第8図 | SI354竪穴住居跡 | 15 | 第44図 | SI372竪穴住居跡 | 67・68 |
| 第9図 | SI355竪穴住居跡 | 17 | 第45図 | SI372竪穴住居跡出土遺物(1) | 69 |
| 第10図 | SI355竪穴住居跡出土遺物 | 19 | 第46図 | SI372竪穴住居跡出土遺物(2) | 70 |
| 第11図 | SI356竪穴住居跡(1) | 20 | 第47図 | SI374竪穴住居跡 | 71 |
| 第12図 | SI356竪穴住居跡(2) | 21 | 第48図 | SI375竪穴住居跡 | 72 |
| 第13図 | SI356竪穴住居跡出土遺物 | 22 | 第49図 | SI376竪穴住居跡 | 73 |
| 第14図 | SI357竪穴住居跡 | 23 | 第50図 | SI377竪穴住居跡 | 74 |
| 第15図 | SI358竪穴住居跡 | 24 | 第51図 | SI377竪穴住居跡出土遺物 | 74 |
| 第16図 | SI359・360竪穴住居跡 | 27・28 | 第52図 | SI378竪穴住居跡 | 75 |
| 第17図 | SI359竪穴住居跡出土遺物(1) | 29 | 第53図 | SI378竪穴住居跡出土遺物(1) | 76 |
| 第18図 | SI359竪穴住居跡出土遺物(2) | 30 | 第54図 | SI378竪穴住居跡出土遺物(2) | 77 |
| 第19図 | SI361竪穴住居跡 | 32 | 第55図 | SI379竪穴住居跡 | 78 |
| 第20図 | SI361竪穴住居跡出土遺物 | 34 | 第56図 | SI379竪穴住居跡出土遺物 | 80 |
| 第21図 | SI362竪穴住居跡 | 35 | 第57図 | SI380竪穴住居跡 | 81 |
| 第22図 | SI363竪穴住居跡 | 37 | 第58図 | SI381竪穴住居跡 | 82 |
| 第23図 | SI363竪穴住居跡出土遺物 | 39 | 第59図 | SI381竪穴住居跡出土遺物 | 83 |
| 第24図 | SI364竪穴住居跡・出土遺物 | 40 | 第60図 | SI382竪穴住居跡 | 84 |
| 第25図 | SI365竪穴住居跡(1) | 41 | 第61図 | SI383竪穴住居跡 | 86 |
| 第26図 | SI365竪穴住居跡(2) | 43 | 第62図 | SI383竪穴住居跡出土遺物 | 87 |
| 第27図 | SI365竪穴住居跡出土遺物 | 44 | 第63図 | SB42掘立柱建物跡(1) | 88 |
| 第28図 | SI366竪穴住居跡 | 45 | 第64図 | SB42掘立柱建物跡(2) | 89 |
| 第29図 | SI366竪穴住居跡出土遺物 | 46 | 第65図 | SB43掘立柱建物跡 | 90 |
| 第30図 | SI367竪穴住居跡 | 48 | 第66図 | SB44掘立柱建物跡(1) | 91 |
| 第31図 | SI367竪穴住居跡出土遺物(1) | 49 | 第67図 | SB44掘立柱建物跡(2) | 92 |
| 第32図 | SI367竪穴住居跡出土遺物(2) | 50 | 第68図 | SA8一本柱列(1) | 93 |
| 第33図 | SI367竪穴住居跡出土遺物(3) | 51 | 第69図 | SA8一本柱列(2) | 94 |
| 第34図 | SI368竪穴住居跡 | 53 | 第70図 | SA8一本柱列出土遺物 | 94 |
| 第35図 | SI368竪穴住居跡出土遺物 | 54 | 第71図 | SA9一本柱列 | 95 |
| 第36図 | SI369竪穴住居跡 | 55 | 第72図 | SA7杭列・SD277～283溝跡(1) | 97・98 |
| | | | 第73図 | SD280溝跡出土遺物 | 99 |

| | | | | | |
|------|----------------------|---------|------|-----------------|-----|
| 第74図 | SD282溝跡出土遺物 | 100 | 第83図 | ビット(3) | 112 |
| 第75図 | SA7杭列・SD277～283溝跡(2) | 101 | 第84図 | ビット(4) | 113 |
| 第76図 | SM404～435小溝状遺構(1) | 102 | 第85図 | SX35性格不明遺構・出土遺物 | 118 |
| 第77図 | SM404～435小溝状遺構(2) | 103・104 | 第86図 | SX36性格不明遺構 | 119 |
| 第78図 | SE9・10井戸跡 | 106 | 第87図 | 主要遺構重複関係模式図 | 120 |
| 第79図 | SE9井戸跡出土遺物 | 107 | 第88図 | 出土遺物集成(1) | 121 |
| 第80図 | SK324～326土坑 | 108 | 第89図 | 出土遺物集成(2) | 122 |
| 第81図 | ビット(1) | 109・110 | 第90図 | 出土遺物集成(3) | 123 |
| 第82図 | ビット(2) | 111 | | | |

写真図版目次

| | | | |
|--------|---------------|--------|----------------------------|
| 写真図版1 | 調査区全景 | 写真図版18 | ビット(3) |
| 写真図版2 | 基本層序 | 写真図版19 | ビット(4)・性格不明遺構 |
| 写真図版3 | 竪穴住居跡(1) | 写真図版20 | 竪穴住居跡出土遺物(1) |
| 写真図版4 | 竪穴住居跡(2) | 写真図版21 | 竪穴住居跡出土遺物(2) |
| 写真図版5 | 竪穴住居跡(3) | 写真図版22 | 竪穴住居跡出土遺物(3) |
| 写真図版6 | 竪穴住居跡(4) | 写真図版23 | 竪穴住居跡出土遺物(4) |
| 写真図版7 | 竪穴住居跡(5) | 写真図版24 | 竪穴住居跡出土遺物(5) |
| 写真図版8 | 竪穴住居跡(6) | 写真図版25 | 竪穴住居跡出土遺物(6) |
| 写真図版9 | 竪穴住居跡(7) | 写真図版26 | 竪穴住居跡出土遺物(7) |
| 写真図版10 | 竪穴住居跡(8) | 写真図版27 | 竪穴住居跡出土遺物(8) |
| 写真図版11 | 杭列・一本柱列 | 写真図版28 | 竪穴住居跡出土遺物(9) |
| 写真図版12 | 掘立柱建物跡(1) | 写真図版29 | 竪穴住居跡出土遺物(10) |
| 写真図版13 | 掘立柱建物跡(2) | 写真図版30 | 竪穴住居跡出土遺物(11) |
| 写真図版14 | 掘立柱建物跡(3)・溝跡 | 写真図版31 | 竪穴住居跡出土遺物(12) |
| 写真図版15 | 小溝状遺構 | 写真図版32 | 竪穴住居跡出土遺物(13) |
| 写真図版16 | 井戸跡・土坑・ビット(1) | 写真図版33 | 一本柱列・溝跡・井戸跡 ・性格不明遺構出土遺物 |
| 写真図版17 | ビット(2) | | |

第1章 調査に至る経過

第1節 調査事由（第1図）

長町駅東遺跡は、仙台市南部の太白区長町地区に計画された「仙台市あすと長町土地区画整理事業」の施行に伴い実施された確認調査により所在が明らかになった遺跡である。

区画整理事業の施行に伴い、長町駅東遺跡・西台畑遺跡及び郡山遺跡の一部を対象として、平成10年から発掘調査が行われ、7世紀中頃から8世紀始めの時期を中心とする竪穴住居跡が総数500軒近く発見されている。

長町駅東遺跡の調査は、平成13年から開始され、今回の調査で第13次調査となる。そのうち第8・12次調査と今回の第13次調査は、区画整理事業に伴う調査ではなく、事業地内に計画された建築計画に伴い調査を実施している。長町駅東遺跡の調査では、これまでに350軒近い竪穴住居跡が発見されているが、特に第3・4次調査（平成15・16年）では、集落の北部を区画している施設と考えられる材木列1列、一本柱列4列、通路状遺構を伴う大溝跡が確認され、区画施設の変遷が明らかになっている。

今回の長町駅東遺跡第13次調査は、平成24年9月に、あすと長町事業地内28街区において株式会社平和商事により計画された立体駐車場建設に伴い、事業地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについての協議書が提出されたことに始まる。開発地は長町駅東遺跡の北西部にあたり、街区南側の環状線を対象として行われた第4次調査区に隣接した場所である。また西側隣接地で行われた第12次調査（平成23年）では、旧貨物ヤードの大規模な整地の影響を受け古代の遺構は確認できなかったが、近世期の溝跡の変遷が確認されていた。

そこで、発掘調査の実施が必要であると判断されたことから、教育委員会と事業者の協議の結果、計画された建物部分を対象に、試掘確認調査を実施することとした。その結果、北側では整地や河川跡があり古代の遺構面は削平されていたが、その他の調査区では複数の竪穴住居跡が確認された。協議により、発掘調査は平成24年11月から平成25年7月にかけて実施することで事業者との協議を続けていたが、その後事業者から事業計画見直しの申し出があり、平成24年11月に協議が取り下げられた。同時に平屋の倉庫建築計画が出され、基礎掘削深度が遺構面に及ばないことから慎重工事として建築が行われた。平成25年5月に入り、株式会社三和商事（旧（株）平和商事）から倉庫を取り壊し、新たに遊戯施設に併設する駐車場の建築計画による協議書が提出され、発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査要項

遺跡名：長町駅東遺跡（宮城県遺跡地名番号01449、仙台市文化財登録番号C-317）

所在地：仙台市太白区あすと長町28街区4画地

調査原因：店舗付駐車場新築工事に伴う埋蔵文化財の事前調査

(1) 調査体制

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会文化財課調査指導係

荒井 格 工藤 信一郎 水野 一夫 庄子 裕美 結城 慎一

調査組織：株式会社シン技術コンサル

主任調査員 細野 高伯 調査補助員 北村 和穂 桑宮 慶一

調査期間：2013年（平成25年）7月1日～10月31日

調査面積：824㎡

(2) 整理体制

調査主体：仙台市教育委員会

整理担当：仙台市教育委員会文化財課調査係

荒井 格 工藤 信一郎 水野 一夫 庄子 裕美 結城 慎一

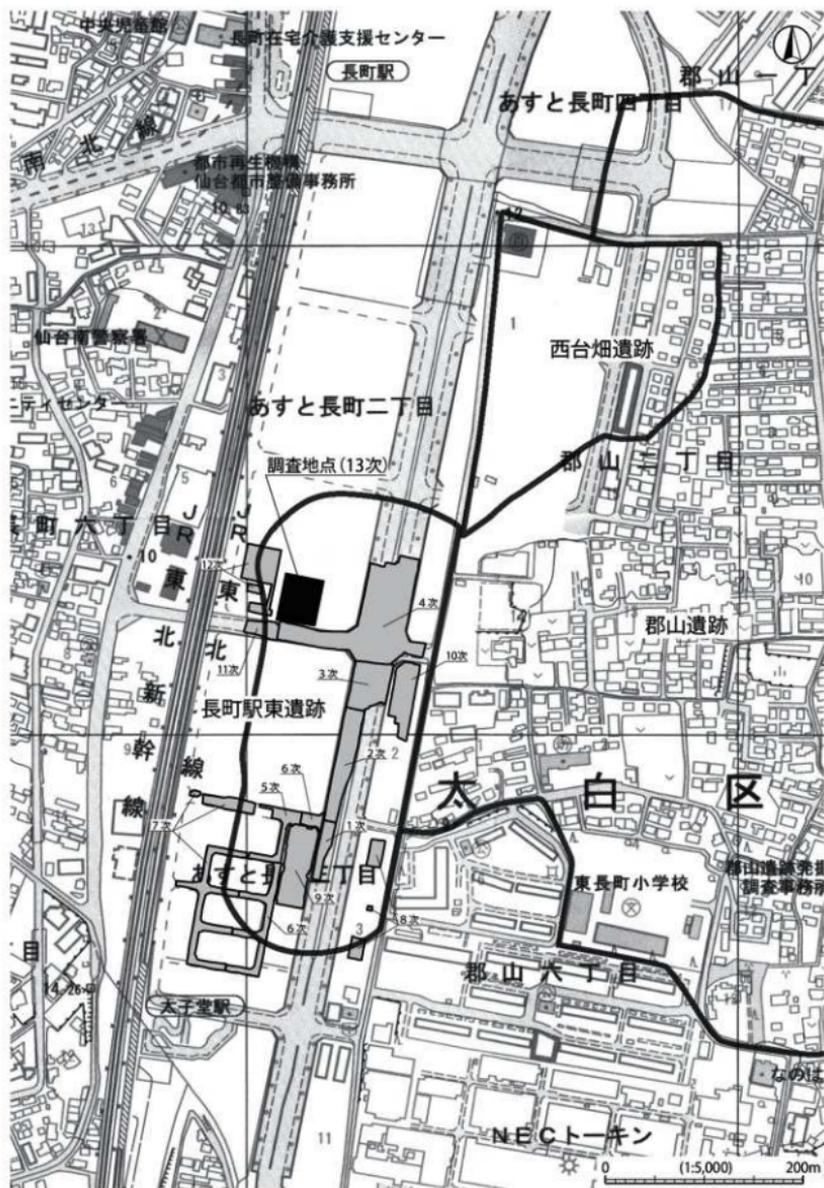
整理組織：株式会社シン技術コンサル

主任調査員 細野 高伯 調査補助員 北村 和穂 桑宮 慶一

整理期間：2013年（平成25年）11月1日～2014年（平成26年）3月20日

長町駅築造跡年度別調査成果一覧

| 調査年度 | 調査回数 | 調査区 | 調査成果 | 発掘調査報告書 |
|-------|-------|----------------|--|-----------------------------|
| 平成13年 | 1次調査 | 1E・2A区・2B区 | 住居跡24軒・竪立柱建物跡2棟・溝跡・土坑 | 仙台市文化財調査報告書第324集 2008年3月 |
| 平成14年 | 2次調査 | 2B区下層調査・3A区 | 住居跡53軒・竪立柱建物跡3棟・溝跡・土坑 / 土器埋設遺構・包含層(劣生) | 仙台市文化財調査報告書第324集 2008年3月 |
| 平成15年 | 3次調査 | 3A区下層調査・3B区 | 住居跡68軒・竪立柱建物跡5棟・区画施設 / 住居跡・性格不明遺構・土器埋設遺構・包含層(劣生) | 仙台市文化財調査報告書第340集 2009年3月 |
| 平成16年 | 4次調査 | 4区 | 住居跡78軒・竪立柱建物跡18棟・区画施設 / 土壘墓・土器埋設遺構・包含層・水田跡(劣生) | 仙台市文化財調査報告書第315集 2007年3月 |
| 平成17年 | 5次調査 | 5A区(40街区・道路) | 住居跡11軒・溝跡・土坑・河川跡 / 包含層(劣生) | 仙台市文化財調査報告書第421集 2014年3月 |
| 平成18年 | 6次調査 | 5B区(40街区・道路) | 住居跡21軒・溝跡・土坑・河川跡 / 包含層(劣生) | 仙台市文化財調査報告書第421集 2014年3月 |
| 平成19年 | 7次調査 | 5C区(40街区・道路) | 竪立柱建物跡1棟・溝跡・土坑・月戸跡・河川跡 | 仙台市文化財調査報告書第421集 2014年3月 |
| | 8次調査 | 41街区・マンション建設 | 溝跡・河川跡 | 仙台市文化財調査報告書第331集 2008年3月 |
| 平成20年 | 9次調査 | 40街区区有換地(宅地造成) | 住居跡48軒・竪立柱建物跡3棟・材木列跡1条・溝跡 / 包含層(劣生) | 仙台市文化財調査報告書第421集 2014年3月 |
| | 10次調査 | 37街区(保管地) | 住居跡17軒・竪立柱建物跡7棟・区画施設・溝跡 / 竪穴遺構・土坑・包含層(劣生) | 仙台市文化財調査報告書第422集 2014年3月 |
| | 11次調査 | 増設区域 | 住居跡1軒・溝跡・土坑 | 仙台市文化財調査報告書第422集 2014年3月 |
| 平成23年 | 12次調査 | 28街区(店舗建築) | 溝跡 | 仙台市文化財調査報告書第309集 2012年3月 |
| 平成25年 | 13次調査 | 28街区(店舗付駐車場建築) | 住居跡29軒・竪立柱建物跡3棟・区画施設・溝跡・土坑・月戸跡 | 本書所収 |



第1図 長町駅東遺跡第13次調査地点

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 長町駅東遺跡の立地と地形（第1図）

長町駅東遺跡は、仙台市太白区長町に計画された副都心整備事業の施行に伴い実施された確認調査で発見された遺跡であり、その範囲は南北480m、東西200mの約90,000㎡に及び、遺跡の西端は南北に走る東北本線によって画されている。遺跡の北約1.2kmには広瀬川、南約1.5kmには名取川と奥羽脊梁山脈に源を発した河川が流れ、これらの河川は遺跡の南東2.5km付近で合流し仙台湾に注いでいる。

宮城県中央部の地形は、船形連峰や二口連峰を中心とし山形県境沿いを南北に縦走する奥羽脊梁山脈、その東側に分布する青葉山丘陵や高館丘陵などの起伏が比較的穏やかな丘陵地、宮城野挽曲崖（長町一利府線）を境として台地と沖積平野の低地に大きく区分される。この平野は成因や地質などから地形区分されており、広瀬川と名取川、長町一利府線によって画されるこれら河川の変流などにより自然堤防と後背湿地が入り組んだ一帯は郡山低地と称されている。長町駅東遺跡は仙台湾より約7.5km西側内陸に位置し、郡山低地の中央やや東寄りの標高10m前後を測る自然堤防と後背湿地上に立地する。

長町駅東遺跡ではこれまでに12次にわたる調査が実施されており、今回の調査地点は第4次調査4C西区・第11次調査区の北側、第12次調査区の東隣にあたる。長町駅東遺跡の東側には平成18年7月に「仙台郡山官衙遺跡群 郡山官衙遺跡 郡山廃寺跡」として国史跡の指定を受けた郡山遺跡（2）、北東側には郡山遺跡のⅠ・Ⅱ期官衙に関連する集落跡と考えられている西台畑遺跡（3）が隣接している。長町駅東遺跡ではこれまでの調査で350軒近い竪穴住居跡が検出されており、出土土器の観察などから郡山遺跡における官衙の造営や運営に関連した集落跡が主体の遺跡であると考えられている。

第2節 周辺の遺跡と歴史的環境（第2図）

長町駅東遺跡の位置する広瀬川および名取川下流域には、旧石器時代から近代にいたるまでの遺跡が数多く分布している。周辺地域の遺跡と歴史的環境については『長町駅東遺跡第3次調査』（仙台市教委2009）などで詳細にまとめられているため、ここでは郡山低地を中心に概観する。

旧石器時代

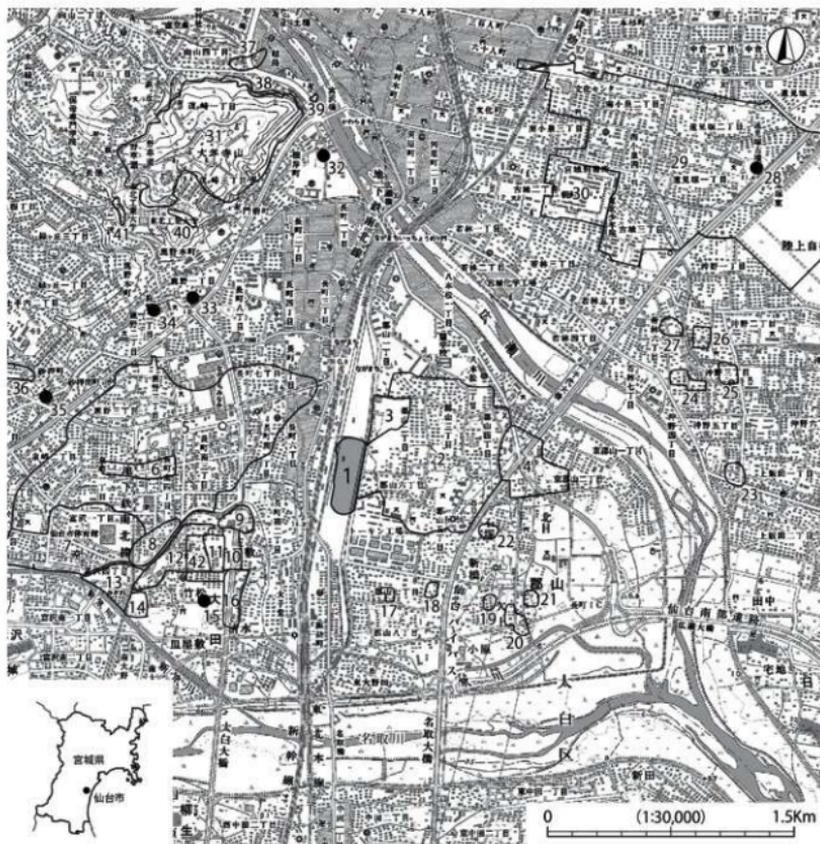
富沢遺跡（5）で約2万年前の湿地林とともに、焚火跡や100点以上の旧石器が発見されている。氷河時代の自然環境と人類の生活跡が同時に発見された遺跡は世界的にも希少であり、仙台市富沢遺跡保存館（地底の森ミュージアム）として保存公開されている。

縄文時代

太白山北麓に源を発し郡山低地内を蛇行する笹川流域の自然堤防上に多くの遺跡が確認されている。早期には低地への進出が始まり、下ノ内浦遺跡（8）では早期前半の竪穴住居跡が2軒検出されている。前期から中期にかけては、富沢一帯の沼澤地化により低地での活動痕跡が希薄となるが、六反田遺跡（12）から中期中葉の竪穴住居跡が2軒検出されている。中期末から後期になると、郡山低地の土地利用が本格化し遺跡数が増加する。下ノ内遺跡（13）では中期末葉の敷石住居跡、六反田遺跡では後期初頭の集落跡、下ノ内浦遺跡・大野田遺跡（10）では後期前半の配石遺構が検出されている。後期後葉から晩期にかけては低地への進出が一段と進み、郡山遺跡では土坑状の遺構と後期後葉の土器が出土している。晩期では、山口遺跡（7）で河川跡が検出されている。

弥生時代

郡山遺跡から前期前半の土器が出土しているが、調査事例が少なく前期の詳細は不明である。中期以降になると富沢遺跡をはじめ郡山低地で水田が営まれるようになり、郡山遺跡や西台畑遺跡など多くの遺跡から水田跡が検出



国土地理院発行 数値地図 1/25,000「仙台」を一部改変

| No | 遺跡名 | 種別 | 立地 | 時代 | No | 遺跡名 | 種別 | 立地 | 古蹟・時代 |
|----|--------|----------|-----------|-------------|----|---------|---------|------|-------|
| 1 | 長町家集落跡 | 官衙関連・集落跡 | 自然塚的・後背原地 | 縄文～中世 | 22 | 矢北遺跡 | 散佈地 | 自然塚的 | 古蹟～平安 |
| 2 | 扇形遺跡 | 官衙跡・寺跡 | 自然塚的 | 縄文～中世 | 23 | 河原田遺跡 | 瓦片地 | 自然塚的 | 古蹟～平安 |
| 3 | 西ノ内遺跡 | 官衙関連・集落跡 | 自然塚的・後背原地 | 縄文～中世 | 24 | 砂押土遺跡 | 瓦片地 | 自然塚的 | 古蹟～平安 |
| 4 | 長日輪跡 | 集落跡・集落跡 | 自然塚的 | 縄文～高世 | 25 | 中郷西遺跡 | 瓦片地 | 自然塚的 | 弥生～平安 |
| 5 | 宮元遺跡 | 集落跡・水田跡 | 後背原地 | 旧石器～近世 | 26 | 神穂遺跡 | 瓦片地 | 自然塚的 | 縄文～平安 |
| 6 | 扇形遺跡跡 | 瓦片地 | 自然塚的 | 縄文・奈良・平安 | 27 | 砂押土遺跡 | 瓦片地 | 自然塚的 | 古蹟～平安 |
| 7 | 山ノ口遺跡 | 集落跡・水田跡 | 自然塚的 | 縄文・弥生・奈良・平安 | 28 | 遠見塚古墳 | 前方後円墳 | 自然塚的 | 古蹟 |
| 8 | 下ノ内遺跡跡 | 集落跡 | 自然塚的 | 縄文～平安 | 29 | 扇小豆遺跡 | 集落跡・塚跡 | 自然塚的 | 弥生～中世 |
| 9 | 火田遺跡 | 集落跡 | 自然塚的 | 縄文～平安 | 30 | 片輪遺跡 | 集落跡 | 自然塚的 | 中世・近世 |
| 10 | 大野出遺跡 | 集落跡 | 自然塚的 | 縄文・弥生 | 31 | 茂ノ輪城跡 | 城跡 | 丘陵 | 中世 |
| 11 | 宮前遺跡 | 集落跡・官衙 | 自然塚的 | 縄文～平安 | 32 | 密塚古墳 | 前方後円墳 | 自然塚的 | 古蹟 |
| 12 | 六反田遺跡 | 集落跡 | 自然塚的 | 縄文～平安 | 33 | 一塚古墳 | 前方後円墳 | 自然塚的 | 古蹟 |
| 13 | 下ノ内遺跡跡 | 集落跡 | 自然塚的 | 縄文～平安 | 34 | 海古墳 | 前方後円墳 | 自然塚的 | 古蹟 |
| 14 | 伊古田遺跡 | 集落跡 | 自然塚的 | 縄文～平安 | 35 | 砂押古墳 | 前方後円墳 | 自然塚的 | 古蹟 |
| 15 | 扇形塚古墳 | 古墳 | 自然塚的 | 古蹟 | 36 | 上ノ内塚古墳群 | 横穴古墳・塚跡 | 丘陵斜面 | 古蹟 |
| 16 | 上ノ内遺跡 | 集落跡・塚跡 | 後背原地 | 縄文～中世 | 37 | 片輪遺跡 | 横穴古墳 | 自然塚的 | 古蹟・古代 |
| 17 | 扇形遺跡 | 集落跡 | 自然塚的 | 奈良・平安 | 38 | 大車山塚古墳群 | 横穴古墳 | 丘陵斜面 | 古蹟 |
| 18 | 扇ノ裏遺跡 | 集落跡 | 自然塚的 | 古蹟～平安 | 39 | 宮前塚古墳群 | 横穴古墳 | 丘陵斜面 | 古蹟 |
| 19 | 矢ノ上1遺跡 | 水田跡 | 自然塚的 | 平安～中世 | 40 | 茂ノ輪塚古墳群 | 横穴古墳 | 丘陵斜面 | 古蹟・古代 |
| 20 | 矢ノ上2遺跡 | 集落跡 | 自然塚的 | 古蹟～平安 | 41 | 二ツの塚古墳群 | 横穴古墳 | 丘陵斜面 | 古蹟 |
| 21 | 矢ノ上3遺跡 | 瓦片地 | 自然塚的 | 古蹟～平安 | 42 | 大野出石室遺跡 | 官衙関連 | 自然塚的 | 古蹟～奈良 |

第2図 長町駅東遺跡と周辺の遺跡

されている。富沢遺跡では中期前半～後期の水田跡から木製農耕具が出土しており、往時の生活様式を窺い知ることが出来る。長町駅東遺跡は、中期中葉の水田跡や水路、竪穴住居跡、土器埋設遺構、土壇墓などが検出され、当時の集落景観を考えるうえで重要な遺跡である。このほか、西台畑遺跡で中期の土壇墓と土器埋設遺構、南小泉遺跡(29)で中期の土器埋設遺構が検出されている。後期では、下ノ内浦遺跡で土壇墓と土器埋設遺構が検出されているが、集落は丘陵部へ移ると考えられる。

古墳時代

前期末頃になると、広瀬川の北側に市内最大の前方後円墳である遠見塚古墳(28)が造られる。その周囲に広がる南小泉遺跡では、前期から終末期にかけての大規模な集落跡が確認されている。中期になると郡山低地西縁の撓曲崖線上に、兜塚古墳(32)・一塚古墳(33)・二塚古墳(34)などが成立し、郡山低地でも中期後半から数多くの古墳が造られるようになる。名取川の北側に位置する大野田古墳群は、中型の帆立貝形古墳である鳥居塚古墳(15)などからなる古墳群で、近年調査された春日社古墳からは2基の埋葬施設が検出され、革盾や鉄矛、鉄鏃などが出土している。終末期になると、法領塚古墳が築造され、また郡山Ⅰ期官衙成立を契機に、長町駅東遺跡や西台畑遺跡など官的要素を持つ集落が出現する。

古代

官衙跡である郡山遺跡を中心に集落が展開する。郡山遺跡の官衙跡は、7世紀中葉から後葉にかけて造られた古代陸奥国の建国に関った重要な柵跡である「Ⅰ期官衙」、7世紀末葉から8世紀初頭の多賀城創建以前の陸奥国府跡と考えられる「Ⅱ期官衙」の2時期の変遷が確認されており、Ⅱ期官衙には付属寺院(郡山庵寺)が併設されている。Ⅱ期官衙は方四町の区画をもち、外周には外郭大溝と外溝の二重の溝を巡らしており、その外郭一辺の長さが藤原京の条坊区画線の1単位分と同等になることが指摘されている。郡山遺跡に隣接する長町駅東遺跡と西台畑遺跡は、出土土器の年代幅などから郡山遺跡における官衙の造営・運営に関連する集落跡と考えられている。長町駅東遺跡では、これまでに350軒近い竪穴住居跡が検出されており、集落の北側では官衙成立以前に一本柱列による区画施設が造られ、官衙期に通路状遺構を伴う大溝跡と材木列による区画施設に造り替えが行われている。郡山遺跡の南西約1.5kmにある大野田官衙遺跡(42)では、真北方向を軸とする掘立柱建物跡6棟と建物群を区画する大溝が検出され、出土土器や建物配置などから、郡山遺跡Ⅱ期官衙に関連する官衙跡と考えられている。これらの集落は、郡山Ⅱ期官衙が多賀城にその機能を移すと急速に衰退する。大年寺山周辺には、愛宕山横穴墓群(37)、大年寺山横穴墓群(38)、宗禪寺横穴墓群(39)、茂ヶ崎横穴墓群(40)などが造られ、その多くは副葬品などの出土遺物から郡山Ⅰ・Ⅱ期官衙との関連が指摘されている。このほか、富沢遺跡や山口遺跡からは真北方向を基準とした水田跡が確認されており、条里制地割との関わりが推定されている。

中世

堀に囲まれた武士層の屋敷跡や阿弥陀堂と推定される仏堂跡が検出されている王ノ壇遺跡(16)では、板波状遺構と側溝を伴う路幅2.8～4.2mの中世の基幹道路である奥大道と推定されている道路跡が検出されている。南小泉遺跡では大規模な堀と土塁を伴う城館跡を中心に、周辺に方形の屋敷を構えた中世村落の景観が復元されている。北目城跡(4)は、戦国時代に仙台市南東部から名取市北部にかけて勢力を富った栗野大膳の居城で、仙台城築城以前の関ヶ原の合戦の際には伊達政宗が拠点としたことで知られており、仙台城の完成まで居住したとされている。

近世

伊達政宗の隠居所として築城され晩年を過ごしたとされる若林城跡(30)は、土塁と幅約20mの堀で囲まれた平城である。南小泉遺跡では、若林城下町として整備された武家屋敷跡と考えられる遺構が検出されている。

第3章 調査の方法と概要

第1節 調査区の設定 (第3図)

今回の調査地点は東北本線長町駅の約500m南に位置し、長町駅東遺跡内の北西寄りにあたる。計画された建物範囲のうち、前年度に実施した試掘確認調査の成果から、調査対象地の北側は旧貨物ヤード造成に伴う整地と河川跡により遺構検出面が失われていることが確認されていることから調査対象から除外した。さらに西側部分についても、第12次調査区から旧貨物ヤード造成に伴う整地層が延びていることも想定されたことから、河川跡や整地層が確認されるまでの範囲を調査区とした。

第2節 調査概要

(1) 調査経過

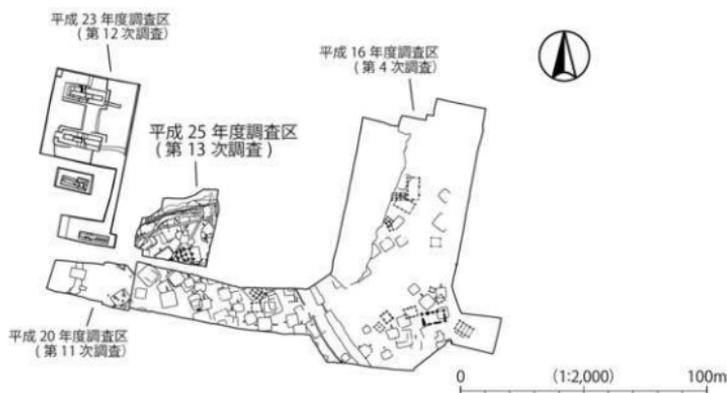
調査は遺構検出面が残存する南東側から表土除去を行い、遺構面の検出を行うこととした。古代の遺構検出作業は基本土層IV層上面で行った。古代面の調査終了後、調査区東壁や南壁に下層トレンチを設定し、弥生期の遺物包含層の確認を行ったが、確認することは出来なかった。

写真記録は35mmモノクロームフィルム、カラーズライドフィルムでの撮影を基本とし、補完的にデジタル一眼レフカメラを使用した。

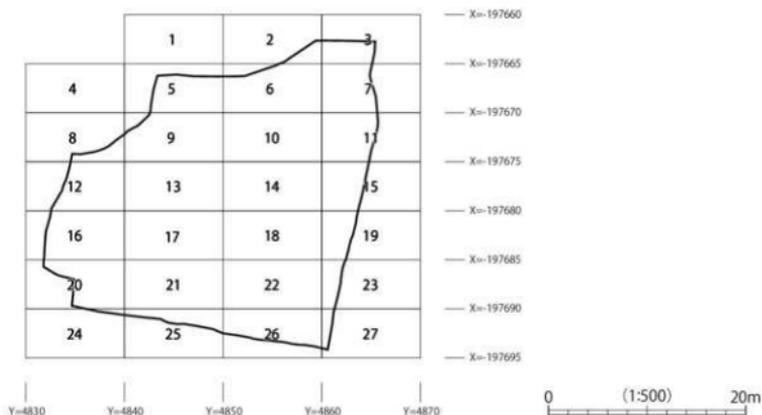
(2) 測量基準・図面の作成 (第4図)

測量は、日本測地系「平面直角座標系第X系」を基準としている。5×10mを単位とする平面区配図を作成した。第13次調査では調査区北西端を1とし、南東端の27までの番号を付けて遺構図面の作成を行った。本文中で遺構の所在位置を示す場合は、この番号をグリッド番号として使用している。

平面図の作成はトータルステーションによる器械実測、断面図は手実測による縮尺20分の1を基本としたが、一部写真実測を併用し作業の迅速化を図った。



第3図 長町駅東遺跡第13次調査区と周辺の調査区



第4図 グリッド配置図

(3) 遺物の取り上げ・調査記録の作成

遺物の取り上げにあたっては、測量基準とした平面区配図の番号をグリッド名として利用した。特に必要と認められた遺物については、出土状態図を作成し、位置とレベルを記録している。

整理作業の段階で、各遺構について遺構観察カードを作成し、事実記載および調査時の所見を記録している。

(4) 遺構登録番号

各遺構の登録番号については、長町駅東遺跡調査開始時からの通し番号とし、小ピットについてのみ1番からの番号を付した。

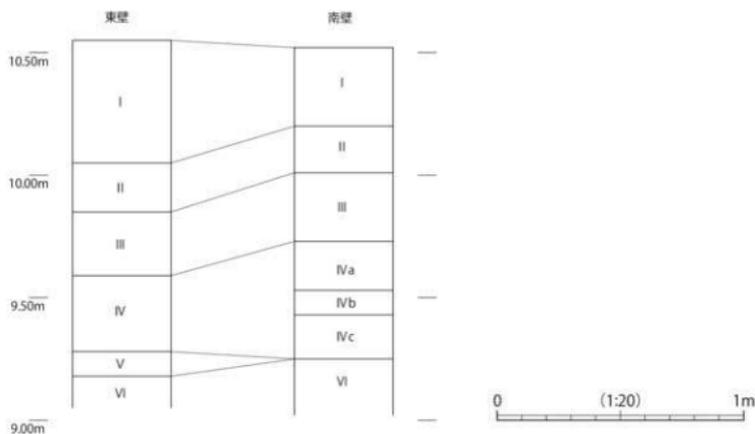
(5) 調査報告書作成作業

出土遺物の基礎整理（水洗・注記）は野外作業と並行して現場事務所で行われ、野外作業終了後に報告書作成に向けた整理作業を、仙台市太白区中田に所在する株式会社シン技術コンサル東北支店で行った。

出土遺物の登録・実測図作成、遺物図版・遺構図版・写真図版の作成および編集・原稿執筆等を行い、その間必要に応じて整理作業内容の確認・協議を行った。特に、土師器などの出土遺物の実測図およびデジタルトレース図面については、仙台市あすと長町関係遺跡発掘調査事務所において点検を行った。

第4章 基本層序

現地は貨物ヤードとして利用されていた経緯から、その整地土（第1層）が遺跡全体を覆っており、また建物基礎や石灰ガラを埋めた攪乱も多く見られた。特に調査区西壁はグライ化が著しく、北壁は旧河川にあたるため、基本土層の観察は調査区南壁で行い、一部東壁で補完した（第5図）。第4層は基本的にはにぶい黄褐色のシルトであるが、調査区南壁で灰黄褐色の間層がみられたため3層に分層した。



第6図 基本層序柱状図

I層：砂礫を大量に含む近・現代の盛土層。旧貨物ヤードの造成土で、層厚 30～80cm。

II層：褐灰色（7.5YR4/1）シルト層。層厚 12～30cm。

III層：灰黄褐色（10YR4/2）シルト層。古代の遺構の構築面と考えられる。層厚 3～30cm。

IVa層：にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト層。本遺跡での古代の遺構検出面。層厚 12～20cm。

IVb層：灰黄褐色（10YR4/2）シルト層。炭化物を微量含む。層厚 8～12cm。

IVc層：にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト層。層厚 6～22cm。

V層：褐灰色（10YR5/1）粘土質シルト層。弥生時代の遺物包含層に対比される層と考えられるが、東壁北半で確認されたのみである。層厚 4～10cm。

VI層：褐色（10YR4/6）砂質シルト層。粗粒。

第5章 検出遺構と出土遺物

今回の調査で検出した遺構は、竪穴住居跡 29 軒、掘立柱建物跡 3 棟、杭列・一本柱列 3 列、溝跡 7 条、小溝状遺構 32 条、井戸跡 2 基、土坑 3 基、ピット 105 基、性格不明遺構 2 基の総数 186 遺構である（第 7 図）。

遺構は基本土層Ⅳ層上面で検出した。重複関係や遺構観察の所見から、杭列や溝跡など近世以降の所産と考えられる遺構もあるが、他の遺構については古墳時代～古代の遺構と考えられる。小溝状遺構についても、重複関係から SM404・405 を除き竪穴住居跡よりも古い時期のものである。

トレンチを設定し弥生時代以前の確認調査も実施したが、遺構は検出されなかった。

出土遺物は土師器を主体に、須恵器、鉄製品、石製品、土製品などコンテナ 60 箱程が出土している。

以下、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、杭列・一本柱列、溝跡、小溝状遺構、井戸跡、土坑、ピット、性格不明遺構の順に記載する。

(1) 竪穴住居跡（第 8～62 図）

竪穴住居跡を 29 軒検出した。調査範囲の制約や重複遺構などにより、カマド煙道部のみを検出した竪穴住居跡が 5 軒あり、また建て替えによる竪穴住居跡も含まれている。平面形状は概ね方形で、規模は最大の SI372 で長軸 760cm、最小の SI368 で長軸 295cm を測る。長軸 450cm 前後の竪穴住居跡が多く、方向は SI364・366・380 の 3 軒を除いて、N-2°-60°-W と西へ傾く。

カマドは煙道部のみを検出を含め 20 軒から検出されており、このうち SI356・359・365 ではカマドの造り替えが行われている。カマドの付設位置は、SI380 が東壁と考察される以外、すべて北壁である。燃焼部は壁内に位置するものが多いが、SI354 では壁外に 35cm 程度張り出す。袖は基本土層Ⅳ層土を主体として構築されるが、SI372 では白色粘土が使用されている。SI356・371A・379 ではカマド袖先端部に芯材と考えられる礫が検出され、SI356 では加工礫と土師器裏を共用している。SI368 の袖は失われているが、先端部に芯材を埋設したと考えられる施設を検出した。支脚は SI371A・379 で検出し、SI372 では燃焼部に支脚を埋設したと考えられる施設が 2 つ並んで検出されている。煙道部の長さは 100cm 以上を測るものが大半であり、SI354・356・358・359・361・362・365・374 の煙出し部分の形状はピット状を呈す。

主柱構造が確認できる竪穴住居跡の柱穴位置は、4 本の主柱穴が殆どであるが、主柱穴を持たず壁柱穴や補助柱穴による構造の竪穴住居跡も数軒確認されている。その他の床面施設としては、周溝や間仕切り溝、貯蔵穴、カマドに関連する施設と考えられる土坑などがある。

出土遺物は床面やカマドから比較的多く出土しているが、SI383 床面出土の土師器裏（第 62 図-1）など 2a 期（6 世紀初頭～前葉）以前と考えられる遺物から SI365 カマド出土の土師器環（第 27 図-2）など 5 期（7 世紀末葉～8 世紀初頭）のものまであり、時期差が認められる。

SI354 竪穴住居跡（第 8 図）

【位置・確認】 調査区南端部中央東寄りの 26 グリッドに位置する。カマドを含む北壁の 2/3 程度の検出であり、南側の大半は調査区外に延びる。基本土層Ⅳ層上面で検出した。

【重複】 SI355・356 と重複し、一番新しい。

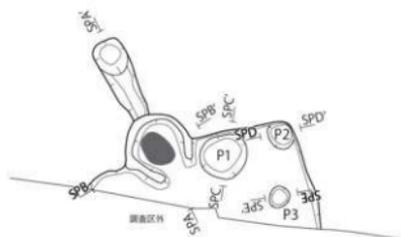
【規模・形態】 検出した規模は長軸 256cm、短軸 135cm を測る。平面形状は一辺 320cm 程度の方形ないしは隅丸方形と推察される。

【方向】 カマド煙道部を基準として N-26°-W である。

X=197690
Y=4850



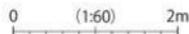
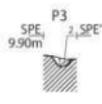
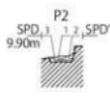
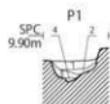
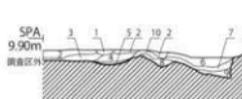
X=197690
Y=4856



X=197694
Y=4850



X=197694
Y=4856



SI354 増殖土誌記表

| 部位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-------|----|----------------|--------|-------------------------|
| 住設増殖土 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 焼土粒、焼土塊10%含む。 |
| | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 焼土粒、炭化物微量含む。 |
| | 3 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化物10%含む。 |
| カマド | 4 | 10YR5/4 に赤い黄褐色 | シルト | 焼土ブロック、炭化物10%含む。(天井崩壊土) |
| | 5 | 7.5YR3/4 暗褐色 | シルト | 焼土主体。 |
| | 6 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化物10%含む。 |
| | 7 | 10YR2/2 黒褐色 | シルト | 焼土ブロック30%、灰多量に含む。 |
| | 8 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化物10%含む。 |
| | 9 | 10YR2/2 黒褐色 | シルト | 炭化物40%、灰を比較的多く含む。 |
| | 10 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む。 |

SI354 施設増殖土誌記表

| 遺構名 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|----------------|--------|----------------------------------|
| P1 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 瓦器土ブロック(10mm程度)30%、炭化物、焼土粒10%含む。 |
| | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 焼土ブロック20%、炭化物微量含む。 |
| | 3 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化物10%含む。 |
| | 4 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | |
| P2 | 1 | 10YR3/1 黒褐色 | シルト | 炭化物多量に含む。 |
| | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化物多量に含む。 |
| | 3 | 10YR2/2 黒褐色 | 粘土質シルト | |
| P3 | 1 | 10YR4/3 に赤い黄褐色 | シルト | 焼土ブロック20%含む。 |
| | 2 | 10YR4/4 褐色 | 粘土質シルト | |

SI354 施設縮尺表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 |
|-----|-----|--------|----|----|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P1 | 楕円形 | 60×55 | 25 | |
| P2 | 円形 | 35×31 | 7 | |
| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 |
| | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P3 | 円形 | 28×24 | 10 | |

第8図 SI354 竪穴住居跡

【堆積土】 10層に分層した。1～3層は暗褐色粘土質シルトを主体とする住居堆積土である。4～10層はカマド関連の堆積土で、4層は焼土ブロック・炭化物を含む天井崩落土、5層は焼土主体の燃焼部、7～9層は灰を多く含む煙道の堆積土、10層は粘性に富むカマド袖構築土である。

【壁面】 直線的にやや外傾して立ち上がる。壁高は、東壁で11cm、北壁で15cmを測る。

【床面】 掘り方を持たず、基本土層IV層上面を床面としている。概ね平坦で、周溝は付設しない。

【柱穴】 床面から1基（P3）検出した。位置的には柱穴と考察されるが、深さが10cmと浅い。

【カマド】 北壁中央部に位置すると推察され、壁外に張り出して付設されている。袖は壁面より50cm程度突出し緩やかに外傾して立ち上がる奥壁より連続した半円形を呈し、袖の規模は、東袖が長さ30cm、幅17cm、西袖が長さ48cm、幅22cmを測る。燃焼部の規模は奥行き66cm、幅35～52cm、奥壁高12cm程である。底面は皿状に4cm程窪み、長軸45cm×短軸33cm程の楕円形の焼面がみられる。煙道部は、基部が細く先端に行くに従い広くなり、底面は煙出し部に向かって低くなる。規模は長さ104cm、幅33cm、深さ19cmを測る。煙出し部分は、長軸44cm、短軸38cm、深さ35cmの円形のピット状に掘り込まれる。

【その他の施設】 床面から土坑2基（P1・P2）を検出した。P1は位置的には貯蔵穴と考えられるが、堆積土に焼土ブロックなどが含まれる事からカマドに関連した施設とも考えられる。P2は北東隅に位置し、堆積土に炭化物を多く含む。

【出土遺物】 土師器の破片が少量出土したが、図示できるものはない。

【時期】 時期を決定できる遺物は出土していないが、重複関係にあるSI355が5期（7世紀末葉～8世紀初頭）であることから、5期以降と考えられる。

SI355 竪穴住居跡（第9・10図）

【位置・確認】 調査区南壁際、東寄りの21・22・26グリッドに位置する。基本土層IV層上面で検出した。

【重複】 SI354・356、SA8、SB42、Pit13・17・21～23と重複し、SI356より新しく、他の遺構より古い。

【規模・形態】 規模は長軸418cm、短軸410cmを測る。平面形状は隅丸方形を呈す。

【方向】 カマド煙道部を基準としてN-32°-Wである。

【堆積土】 16層に分層した。1～4層は黒褐色ないし暗褐色シルトを主体とする住居堆積土であり、部分的にグライ化する。5層は周溝堆積土、6～15層はカマド関連の堆積土で、6層は天井崩落土、7・8層は燃焼部、9～14層は煙道部および煙出し部堆積土、15層はカマド袖構築土である。16層は掘り方土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、5～11cmを測る。

【床面】 南側は掘り方土（16層）上面を、北側は掘り方底面（基本土層IV層）を床面としている。平坦である。

【柱穴】 床面から7基（P1～4・6・7・12）、周溝内から8基（P13～20）を検出した。位置関係から、P1～4は主柱穴と考えられる。規模は長軸45～61cm、深さ48～65cmを測る。P1では柱痕跡および底面には変色範囲が確認された。P13～20は、規模は径17～25cm、深さ9～20cm、堆積土は灰黄褐色粘土質シルトが主体でいずれも単層である。規模・堆積土ともに類似しており、補助柱穴ないしは堰板止めと考えられる。

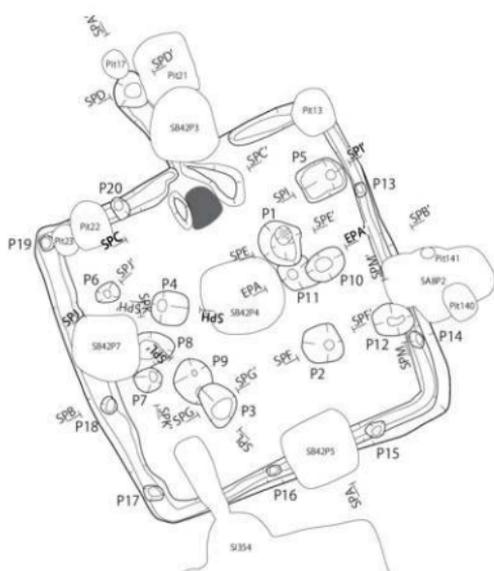
【周溝】 壁面に沿って全周する。規模は幅15～35cm、深さ4～15cmを測り、断面は「U」字状を呈する。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面にほぼ直交して付設されている。袖の規模は、東袖が長さ90cm、幅40cm、西袖が長さ50cm、幅21cmを測る。袖は壁面に対して「ハ」字状に付設される。燃焼部の規模は奥行き54cm、幅35cm程度、奥壁高は15cm程と推察されるがSB42-P3により壊されており詳細は不明である。底面は皿状に6cm程窪み、径48×36cm程の楕円形の焼面がみられる。煙道部の規模は、長さ115cm程、幅35cm程、深さ9cm程と考えられるが、SB42-P3に切られるため形状など詳細は不明である。煙出し部分は径50cm程度、

X=197686
Y=4849



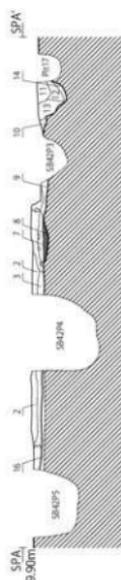
X=197686
Y=4856



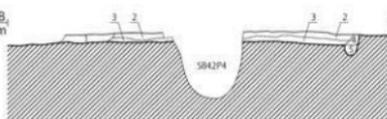
X=197692
Y=4849



X=197692
Y=4856



SPB₁
9.90m



SPC₁
9.90m



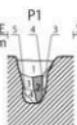
カマド

SPC'₁

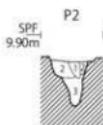
SPD₁₄
9.90m



SPE₁
9.90m



SPE'₁



SPG₃
9.90m



SPH₁
9.90m



SPI₄
9.90m



SPI₆
9.90m



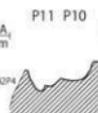
SPK₁
9.90m



SPL₁
9.90m



EPA₁
9.90m



SPM₁
9.90m



0 (1:60) 2m

第9図 SI355 竪穴住居跡

S055 堆積土誌記表

| 層位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-------|------|-----------------|-------------|--------------------------|
| 住居層土 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 炭化物、粘土粒を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物を微量含む。 |
| | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物10%含む、部分的にグライ化。 |
| | 4 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 炭化物10%含む。 |
| カマド | 5 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | |
| | 6 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 焼土塊20%、炭化物を微量含む。 |
| | 7 | 10YR3/1 黒褐色 | シルト | 灰多量、焼土粒20%含む。 |
| | 8 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 焼土粒20%含む。 |
| | 9 | 10YR2/3 黒褐色 | シルト | 灰多量、焼土塊微量含む。(埋没) |
| | 10 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 炭化物80%、焼土塊10%含む。 |
| | 11 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物60%、焼土粒微量含む。 |
| | 12 | 10YR4/3 にぶい 黄褐色 | シルト | 炭化物20%、焼土粒微量含む。 |
| | 13 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物30%、焼土粒10%含む。 |
| | 14 | 10YR3/1 黒褐色 | 粘土質シルト | 灰層土小粒20%含む。 |
| | カマド層 | 15 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト |
| 住居層の方 | 16 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | N層土ブロック中取込に20%、炭化物を微量含む。 |

S155 施設堆積土誌記表

| 遺構名 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|-----------------|--------|-----------------------------|
| P1 | 1 | 10YR4/1 暗灰色 | シルト | 炭化物約5%含む。 |
| | 2 | 10YR4/1 暗灰色 | シルト | N層土ブロック30%、炭化物微量含む。 |
| | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | N層土ブロック20%含む。 |
| | 4 | 10YR4/3 にぶい 黄褐色 | シルト | N層土ブロック10%含む。 |
| | 5 | 10YR4/4 褐色 | シルト | N層土ブロック50%含む。 |
| P2 | 1 | 10YR4/1 暗灰色 | 粘土質シルト | 粘土中粒10%含む、グライ化。 |
| | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物10%、焼土粒3%含む。 |
| | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | N層土粒30%、炭化物を微量含む。 |
| P3 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | N層土中粒10%含む。 |
| | 2 | 10YR4/3 にぶい 黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む。 |
| | 3 | 10YR3/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | |
| P4 | 1 | 10YR4/1 暗灰色 | 粘土質シルト | 炭化物10%含む、グライ化。 |
| | 2 | 10YR3/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物約5%含む、グライ化。 |
| P5 | 1 | 10YR4/3 にぶい 黄褐色 | 粘土質シルト | 焼土中粒40%、炭化物約5%含む。 |
| | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 焼土粒、炭化物を微量含む。 |
| | 3 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 焼土粒、炭化物10%含む。 |
| | 4 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 焼土粒を微量含む。 |
| | 5 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | N層土ブロック(5mm)炭化物を微量含む。 |
| P6 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | N層土ブロック(2~5mm)20%、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/3 にぶい 黄褐色 | 粘土質シルト | N層土粒10%、炭化物を微量含む。 |
| P7 | 1 | 10YR4/4 褐色 | シルト | N層土ブロック(20~30mm)10%含む。 |
| | 2 | 10YR4/3 にぶい 黄褐色 | シルト | N層土粒10%含む。 |
| P8 | 1 | 10YR4/3 にぶい 黄褐色 | シルト | N層土粒40%、焼土粒10%、炭化物約5%含む。 |
| | 2 | 10YR3/4 にぶい 黄褐色 | シルト | N層土ブロック取込に20%含む。 |
| P9 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | N層土ブロック30%含む。 |
| | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | N層土ブロック30%含む。 |
| P10 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 焼土粒を微量含む。 |
| P11 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 炭化物を微量含む。 |
| P12 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物、焼土粒を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | |
| | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | N層土中粒10%含む。 |
| | 4 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む。 |
| P13 | 1 | 2.5Y5/1 黄灰色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む、グライ化。 |
| P14 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む、グライ化。 |
| P15 | 1 | 10YR4/1 暗灰色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む。 |
| P16 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む、一部グライ化。 |
| P17 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む。 |
| P18 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む。 |
| P19 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化物、焼土粒を微量含む。 |
| P20 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物10%、焼土粒を微量含む。 |

S155 施設遺構表

| 遺構名 | 平面形 | 幅(m) | | 備考 | 遺構名 | 平面形 | 幅(m) | | 備考 |
|-----|------|---------|----|----|-----|-------|-----------|----|----|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P1 | 円形 | 61×54 | 58 | | P11 | 不整形円形 | (31)×(30) | 24 | |
| P2 | 圓九方形 | 48×48 | 55 | | P12 | 楕円形 | 49×41 | 50 | |
| P3 | 楕円形 | 54×41 | 48 | | P13 | 圓九方形 | 18×13 | 9 | |
| P4 | 圓九方形 | 45×42 | 65 | | P14 | 楕円形 | 24×17 | 20 | |
| P5 | 正方形 | 56×46 | 18 | | P15 | 楕円形 | 25×20 | 12 | |
| P6 | 楕円形 | 29×24 | 32 | | P16 | 楕円形 | 17×13 | 13 | |
| P7 | 円形 | 29×23 | 29 | | P17 | 圓九方形 | 23×19 | 14 | |
| P8 | 楕円形 | (42)×42 | 26 | | P18 | 圓九方形 | 22×20 | 10 | |
| P9 | 楕円形 | (40)×47 | 31 | | P19 | 圓九方形 | 19×(15) | 10 | |
| P10 | 楕円形 | 49×36 | 23 | | P20 | 楕円形 | 28×19 | 11 | |

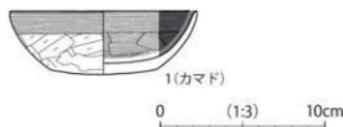
深さ 36cm の平面円形のビット状に掘り込まれる。

【その他の施設】 床面から土坑 5 基 (P5・8～11) を検出した。P5 は長軸 56cm、短軸 46cm、深さ 18cm を測る平面長方形の土坑で、堆積土は焼土粒や炭化物を含む暗褐色ないしにぶい黄褐色シルトが主体である。

【掘り方】 南・西壁際で確認された。深さ 3～10cm 前後で、底面には緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】 堆積土から土師器、少量の須恵器が出土した。カマドより出土した土師器環 1 点を図示した (第 10 図-1)。体部から口縁部へやや湾曲しながら立ち上がる。底部は平底気味に整形される。

【時期】 カマドから出土した第 10 図-1 が直接住居跡に伴う遺物で、5 期 (7 世紀末葉～8 世紀初頭) と考えられる。



| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | |
|------|-----------------------|-------|----------------------------|-----|----|--------|-----|-----|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 |
| 1 | C-1 | SI355 | カマド | 土師器 | 杯 | 11.2 | 6.4 | 3.9 |
| | 外面調整 | | 内面調整 | | 備考 | 写真 | | 図版 |
| | 口縁部ヨコナデ、体～底部 ヘラケズリ | | 口縁部ヨコナデ、体～底部 ヘラケズリ、黒色処理 | | | | | 23 |

第 10 図 SI355 竪穴住居跡出土遺物

SI356 竪穴住居跡 (第 11～13 図)

【位置・確認】 調査区南東隅の 18・22・26 グリッドに位置する。基本土層IV層上面で検出した。

【重複】 SI354・355・374、SA8、SB42、SM412～414・423・425・426・427、Pit13・38・130・140・141 と重複し、SM412～414・423・425・426・427 より新しく、他の遺構より古い。

【規模・形態】 規模は長軸 610cm、短軸 580cm を測る。平面形状は北壁がやや膨らむ方形を呈する。

【方向】 カマドを基準として N-17°-W である。

【堆積土】 20 層に分層した。1～3 層は住居堆積土で、4～6 層は周溝堆積土である。7～16 層はカマド関連の堆積土で、7 層は天井崩落土、8 層は焼土、9～13 層は煙道関連の堆積土、14～16 層はカマド袖構築土である。17 層は貼床、18～20 層は暗褐色シルトを主体とした掘り方埋土である。

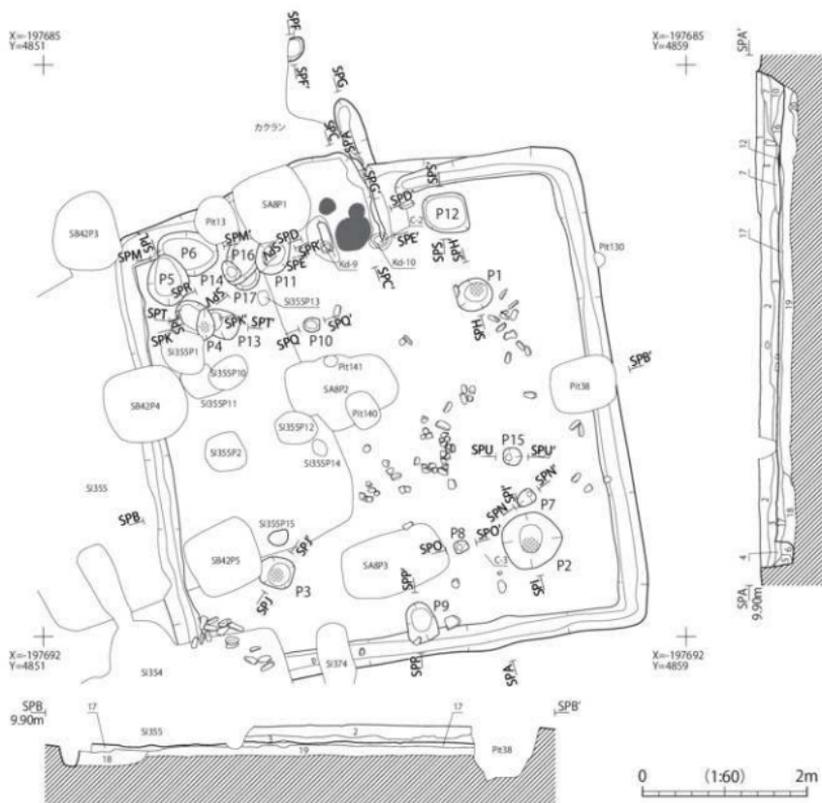
【壁面】 ほば垂直に立ち上がる。壁高は、16～28cm を測る。

【床面】 17 層上面を床面とする。貼床である。概ね平坦であるが、カマド周辺ではわずかに起伏がみられる。

【柱穴】 床面から 5 基 (P1～4・7) 検出した。P1～P4 は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、P1～3 では柱痕跡が確認され、すべての柱穴底面で変色範囲を確認した。規模は長軸 38～72cm、深さ 41～55cm を測る。柱痕跡は径 13～28cm 程で、変色範囲は径 13～19cm 程である。

【溝溝】 カマドが付設されている北壁の一部を除き、壁面に沿って全周する。断面は逆台形を呈する。規模は幅 20～38cm、深さ 10～30cm を測る。土層断面で堰板痕が確認でき、周溝底面でも緩やかな起伏が認められる。

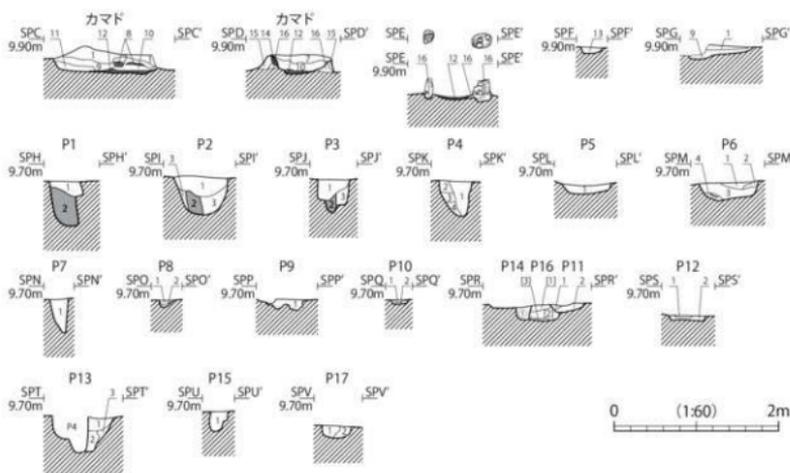
【カマド】 北壁中央部のやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖の規模は、東袖が長さ 75cm、幅 23cm、西袖は SABP1 に切られており現況で長さ 57cm、幅 30cm を測る。両袖の先端には、東袖では土師器甕に入れた長さ 24cm、幅 10cm、厚さ 5cm の加工礫と長さ 16cm の自然礫、西袖は長さ 24cm、幅 10cm、厚さ 5cm の加工礫が芯材として埋設されている。両袖に埋設された加工礫は、接合はしないものの石材と規格から同一の可能性が高い。袖は壁面に対して直交して付設される。燃烧部の規模は奥行 55cm、幅 50cm、奥壁高 20cm 程である。底面は皿状に 5cm 程窪み、径 45×42cm 程の境面がみられる。奥壁および煙道は攪乱の影響で不明瞭であるが、北壁外 170cm の位置で径 27cm の煙出し部分を検出した。ビット状に深く掘り込まれないことから、奥壁から緩やかに立ち上がる煙道であったと考察される。東袖の延長上に煙道を検出し、カマド 2 とした。



SI356 堆積土層記表

| 部位 | 層位 | 土色 | 土質 | 備考 |
|-------|----|----------------|--------|---------------------------|
| 住居構土 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物5%含む。 |
| | 2 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | IV層土小粒20%、炭化物10%含む。 |
| | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土小粒10%、炭化物微量含む。 |
| 雑溝 | 4 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | |
| | 5 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土小粒10%、炭化物微量含む。 |
| | 6 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土小粒5mm程度140%含む。 |
| カマド | 7 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | IV層土ブロックを微量含む。 |
| | 8 | 10YR3/2 黄褐色 | シルト | 焼土粒、炭化物を微量含む。 |
| | 9 | 10YR4/1 褐色 | シルト | 焼土粒。 |
| | 10 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | 粘土質シルト | 焼土粒、IV層土ブロック(5mm程度)を微量含む。 |
| | 11 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 焼土粒、IV層土ブロック(5mm程度)を微量含む。 |
| カマド前 | 12 | 5YR3/4 暗赤褐色 | シルト | 焼土と微量の炭化物を含む。 |
| | 13 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | 炭化物約20%、焼土粒微量含む。 |
| | 14 | 7.5YR3/4 暗褐色 | シルト | 焼熟により焼土化。 |
| | 15 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | 粘土質シルト | |
| 住居掘り方 | 16 | 10YR4/6 褐色 | シルト | |
| | 17 | 10YR3/4 に近い黄褐色 | シルト | 炭化物微量含む。(築床面) |
| | 18 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック30%、炭化物微量含む。 |
| | 19 | 10YR3/3 に近い黄褐色 | シルト | |
| | 20 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土小粒15%含む。 |

第11図 SI356 竪穴住居跡 (1)



S156 換設増補土層記表

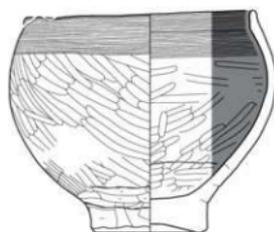
| 遺構名 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|------------------|--------|----------------------------------|
| P1 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土中粒20%、焼土粒、炭化物を微量含む。(柱状取崩) |
| | 2 | 10YR4/4 褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む。(柱状取崩) |
| P2 | 1 | 10YR3/2 互層色 | 粘土質シルト | IV層土粒30%、炭化粒を微量含む。(柱状取崩) |
| | 2 | 10YR4/4 褐色 | 粘土質シルト | IV層土粒30%、炭化粒を微量含む。(柱状取崩) |
| P3 | 3 | 10YR4/3 に 5Y 黄褐色 | 粘土質シルト | |
| | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土粒10%、炭化粒を微量含む。(柱状取崩) |
| | 2 | 10YR4/2 灰褐色 | 粘土質シルト | (柱状取崩) |
| P4 | 3 | 10YR4/3 に 5Y 黄褐色 | 粘土質シルト | |
| | 1 | 10YR4/2 灰褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック5%、焼土粒、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック20%、炭化物を微量含む。 |
| | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック10%含む。 |
| P5 | 4 | 10YR4/4 褐色 | シルト | |
| | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 焼土粒20%、炭化物、灰白色粘土塊を微量含む。 |
| | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 焼土ブロック20%、炭化物10%含む。 |
| | 2 | 10YK3/2 黒褐色 | シルト | 炭化物を微量含む。 |
| P6 | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 焼土塊40%、IV層土ブロック薄板状に10%、炭化物を微量含む。 |
| | 4 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 焼土塊、炭化物10%含む。 |
| P7 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 黒褐色シルト砂粒を微量含む。 |
| P8 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | |
| | 2 | 10YR4/3 に 5Y 黄褐色 | シルト | |
| P9 | 1 | 10YR4/3 に 5Y 黄褐色 | シルト | IV層土粒5%、炭化物粒、焼土粒を微量含む。 |
| | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 焼土粒ブロック30%、炭化物粒5%含む。 |
| P10 | 2 | 10YR5/4 に 5Y 黄褐色 | シルト | 炭化物粒、焼土粒を微量含む。 |
| | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 焼土粒10%、炭化物を微量含む。 |
| P11 | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 焼土粒10%、IV層土粒5%含む。 |
| | 1 | 10YR4/2 灰褐色 | シルト | IV層土10%、焼土粒、炭化粒を微量含む。 |
| P12 | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック40%、炭化物を微量含む。 |
| | 1 | 10YR4/2 灰褐色 | シルト | 炭化粒を微量含む。 |
| P13 | 2 | 10YR4/4 褐色 | シルト | |
| | 3 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック(10~20cm)20%含む。 |
| P14 | ① | 10YR4/3 に 5Y 黄褐色 | シルト | 焼土粒、炭化物を微量含む。 |
| P15 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物を微量含む。 |
| P16 | ① | 10YR4/4 褐色 | 粘土質シルト | 焼土粒を微量含む。 |
| | ② | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック30%、互層状に炭化物、焼土粒20%含む。 |
| | ③ | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 焼土粒5%含む。 |
| P17 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土粒10%、焼土粒3%、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土粒、焼土粒、炭化物を微量含む。 |

第 12 図 S156 壁穴住居跡 (2)

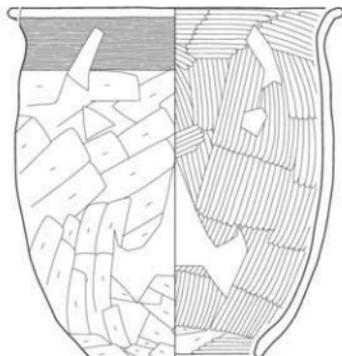
SI356 施設観察表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 |
|-----|-------|---------|----|----|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P1 | 円形 | 44×39 | 55 | |
| P2 | 円形 | 72×68 | 47 | |
| P3 | 楕円方形 | 38×(30) | 41 | |
| P4 | 楕円形 | 54×(38) | 43 | |
| P5 | 楕円形 | 63×51 | 10 | |
| P6 | 楕円形 | 75×53 | 22 | |
| P7 | 楕円方形 | 25×19 | 41 | |
| P8 | 楕円方形 | 19×16 | 9 | |
| P9 | 楕円長方形 | 50×35 | 13 | |

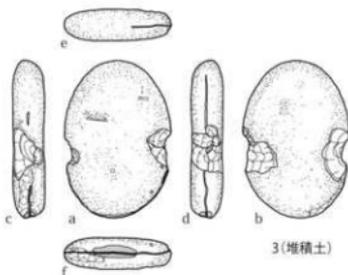
| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 |
|-----|------|-----------|----|----|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P10 | 楕円方形 | 21×18 | 5 | |
| P11 | 楕円形 | (55)×40 | 11 | |
| P12 | 楕円方形 | 64×56 | 6 | |
| P13 | 楕円形 | (35)×34 | 43 | |
| P14 | 楕円形 | 27×18 | 16 | |
| P15 | 円形 | 23×21 | 24 | |
| P16 | 楕円形 | (65)×(47) | 19 | |
| P17 | 円形 | (35)×(13) | 15 | |



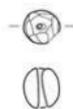
1(床面)



2(カマド)



3(堆積土)



4(轆り方)

0 (1:2) 5cm

※図版番号 4のみ

0 (1:3) 10cm

| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 表面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真図版 |
|------|-------|------------|---------|-----|--------|--------|------|--------|-------|-------------------------------|-------------------------------|----|------|
| | | | | | | 口径 | 口径 | 高さ | | | | | |
| 1 | C-3 | SI356 | 床面 | 土器器 | 鉢 | (13.8) | 6.3 | 13.6 | | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ、台部ヘラケズリ、輪筋のみ彫 | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ、黒色地肌、輪筋のみ彫 | | 23 |
| 2 | C-2 | SI356 | カマド | 土器器 | 甕 | 20.0 | - | (21.5) | | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ、下部ヘラケズリ→ヘラミガキ | 単孔 | 23 |
| 3 | Kc-1 | SI356(a/c) | 堆積土 | 礎石部 | 石罫 | 9.6 | 6.5 | 1.9 | 106.9 | | 凝灰岩 | | 23 |
| - | Kd-9 | SI356 | カマド(左側) | 石製品 | カマド構築材 | 27.5 | 10.4 | 5.3 | 1440 | | 凝灰岩 | | 23 |
| - | Kd-10 | SI356 | カマド(右側) | 石製品 | カマド構築材 | 26.5 | 10.0 | 4.5 | 795 | | 凝灰岩 | | 23 |
| 4 | P1 | SI356(b/c) | 轆り方 | 土製品 | 土玉 | 全径 | 口径 | 厚さ | 重量(g) | | ナデ調整 | | 23 |
| | | | | | | 1.6 | 径1.3 | 孔径0.2 | 2.8 | | | | |

第13図 SI356 竪穴住居跡出土遺物

規模は長さ 54cm、幅 29cm で、「U」字状の煙出し部分に向かって緩やかに立ち上がる。方向は煙道を基準として $N-17^{\circ}-W$ で、カマド基準の本竈穴住居跡と同方向を指す。本竈穴住居跡では建て替えの痕跡が認められず、北壁を一部拡張しカマド 2 とほぼ同位置にカマドの造り替えが行われたものと考えられる。

【その他の施設】 床面で土坑 6 基 (P5・6・8～11)、貼床面下から 6 基 (P12～17) を検出した。北西隅に位置する P5・6 は、いずれも堆積土に焼土粒または焼土ブロックを多く含んでおり、位置的に SI355 のカマドに関連する施設の可能性もある。P9 はカマドに正対する南壁際中央にあり、位置関係と形状から本竈穴住居跡の入口施設と考えられる。P10 は一辺 50cm 程の方形を呈し位置関係からは貯蔵穴とも考えられるが、貼床面下での検出であり遺物も出土していない。

床面上から、計 83 個の礫が出土した。これらの大部分は自然礫であり、大きく北東壁寄り・中央・南西隅の 3 箇所に纏まりを持つが規則性はない。本竈穴住居跡は SA8 および SB42 に切られる事から、それらのピットに関連する根石などの可能性も考えられる。

【掘り方】 深さ 12cm 前後で、壁際では 20cm 程掘り込む。底面には起伏がみられる。

【出土遺物】 堆積土から土師器が、比較的多く出土した。土師器鉢 1 点、土師器甎 1 点、土製土玉 1 点、礫石器 1 点を図示した (第 13 図)。また、カマド袖の構築材 2 点を写真のみ掲載した。

1 は土師器の鉢であり、台を持ち、最大径が胴部上半にくる。胴部上半から内湾して立ち上がるが、口縁部は短く直立する。胴部の調整は内外面ともにヘラミガキとなり、内面は黒色処理が施される。2 は単孔の甎であり、胴部上半がほぼ円筒状を呈し、口縁部が外反する。内面の調整はヘラミガキが主体となる。3 は両側面の中央部を意図的に打ち欠いているとみられたため石鍾とした。また、f 面の一部に磨痕がみられる。

【時期】 床面から出土した第 13 図-1 が直接伴う遺物で、2b 期 (6 世紀中葉～末葉) と考えられる。

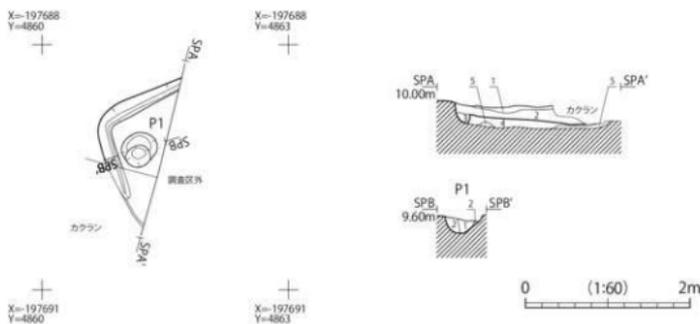
SI357 竈穴住居跡 (第 14 図)

【位置・確認】 調査区南東隅の 22・27 グリッドに位置する。基本土層 IV 層上面で北西隅のみを検出し、竈穴住居跡の大半は調査区東壁外へ延びる。

【重複】 重複する遺構はない。

【規模・形態】 検出した規模は北壁 112cm、西壁 138cm を測る。平面形状は隅丸方形ないしは隅丸長方形と考えられる。

【方向】 西壁を基準として $N-27^{\circ}-W$ である。



第 14 図 SI357 竈穴住居跡

SI357 堆積土誌記表

| 階位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-------|----|----------------|--------|------------------------------|
| 住居堆積土 | 1 | 10YR3/2 灰褐色 | シルト | 炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/4 灰褐色 | 粘土質シルト | 炭化物、焼土粒を微量含む。 |
| | 3 | 10YR4/3 に近い灰褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む。 |
| 住居掘り方 | 4 | 10YR3/3 灰褐色 | 粘土質シルト | IV層土小粒15%、炭化粒、焼土粒を微量含む。(陥体面) |
| | 5 | 10YR3/3 灰褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック(10mm程度)多量に含む。 |

SI357 施設堆積土誌記表

| 遺構名 | 階位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|-------------|--------|-----------|
| P1 | 1 | 10YR3/4 灰褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/3 灰褐色 | シルト | |

SI357 施設縦断表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 |
|-----|-----|--------|----|----|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P1 | 円形 | 44×40 | 20 | |

【堆積土】 1・2層は住居堆積土、3層は周溝堆積土、4・5層は掘り方埋土である。

【壁面】 緩やかに外傾して立ち上がる。壁高は、10～19cmを測る。

【床面】 4層上面を床面としており、概ね平坦である。

【柱穴】 床面で1基(P1)検出した。P1は形状や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は径44×40cm、深さ20cmを測る。

【周溝】 北壁と西壁北側から検出された。規模は幅15cm、深さ2～10cm程である。断面は「U」字状を呈する。

【掘り方】 深さ4～10cmで、底面には起伏がみられる。

【出土遺物】 堆積土から土師器が少量出土したが、図示できるものはない。

【時期】 時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、時期は不明である。

SI358 竪穴住居跡 (第15図)

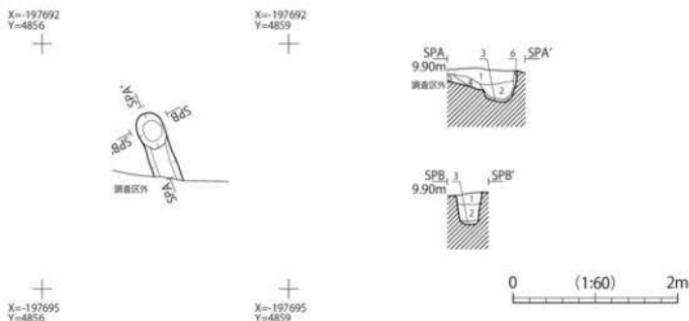
【位置・確認】 調査区南端東側の26グリッドに位置する。基本土層IV層上面で、煙道部のみを検出した。

【重複】 SI362、SM414と重複し、SI362より新しく、SM414より古い。

【規模・形態】 不明である。

【方向】 カマド煙道部を基準としてN-21°-Wである。

【堆積土】 6層に分層した。いずれもカマドの堆積土である。3層は煙出し部分の底面であり、炭化物が主体である。



第15図 SI358 竪穴住居跡

S358 埋積土誌記表

| 層位 | 層色 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|-------------|--------|-------------------------------|
| カマド | 1 | 10YR2/1 黒色 | シルト | 暗褐色シルトブロック40%、粘土塊20%、炭化物微量含む。 |
| | 2 | 10YR2/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 暗褐色ブロック20%、炭化物を微量含む。 |
| | 3 | 10YR2/1 黒色 | 粘土質シルト | 炭化物を多量に含む。 |
| | 4 | 10YR3/1 黒褐色 | シルト | 暗褐色シルト小粒20%含む。 |
| | 5 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 暗褐色シルト小粒10%、炭化物を微量含む。 |
| | 6 | 10YR2/1 黒色 | 粘土質シルト | 暗褐色シルト粒を微量含む。 |

6層は煙出し部分の掘り方埋土と考えられる。

【カマド】 検出した煙道部の規模は、長さ85cm、幅31cm、深さ18cmを測る。煙出し部分は平面楕円形のピット状に掘り窪められ、長軸45cm、短軸32cm、深さ33cmを測る。

【出土遺物】 埋積土から土師器がわずかに出土したが、図示できるものはない。

【時期】 時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、時期は不明である。

S359 竪穴住居跡（第16～18図）

【位置・確認】 調査区南端中央西寄りの20・21・24・25グリッドに位置する。基本土層IV層上面で検出したが、調査区南壁の土層観察により基本土層II層下面より掘り込まれることを確認した。南西半は調査区南壁外へ延びる。

【重複】 S1360、SB42、SD280、SM404・405、Pit14・24・25と重複する。S1360より新しく、他の遺構より古い。

【規模・形態】 検出した規模は長軸684cm、短軸が656cmを測る。平面形状は方形ないし長方形と推察される。

【方向】 カマドを基準としてN-33°-Wである。

【埋積土】 20層に分層した。1～4層は住居埋積土で、4層は貼床面上に点在して薄く堆積し、上面に起伏が見られる。本竪穴住居跡の天井崩落土と考えられる。5～16層はカマドに関連した埋積土で、7層はカマドの天井崩落土、11層は燃焼部の埋積土、12・13層はカマド2の廃棄による袖構築土などの埋積土、14層は煙出し部分の埋積土、15層はカマド袖構築土、16層はカマド掘り方埋土である。17～20層は掘り方埋土で、18層はカマドに関連した掘り方埋土である。

【壁面】 ほぼ垂直に立ち上がる。壁高は、54～84cmを測る。

【床面】 3層ないし4層下面を床面とする。貼床である。概ね平坦であるが、わずかに起伏がみられる。調査区南壁の土層観察により、3回の貼り替えが確認できる。

【柱穴】 床面から3基（P1～3）、床面下から3基（P8・10・11）の6基検出した。P1～3は規模と位置関係から主柱穴と考えられる。規模は長軸37～48cm、深さ22～59cmを測る。P8・10・11は建て替え前の主柱穴と考えられ、規模は長軸46～59cm、深さ56～71cmを測る。

【溝溝】 検出した部分では、北壁のカマド周辺を除き、壁面に沿って全周する。規模は、幅13～20cm、深さ3～15cmを測り、断面は「U」字状である。

【カマド】 北壁中央に位置し、壁面に直交して付設される。袖の規模は、東袖が長さ85cm、幅30cm、西袖は長さ82cm、幅42cmを測る。袖は壁面に対し、「ハ」字状に付設される。燃焼部の規模は奥行き68cm、幅45cm、奥壁高16cmである。底面は平坦で、奥壁は22cm壁外へ突出し外傾して立ち上がる。燃焼部のほぼ全域に平面楕円形の焼面がみられる。煙道部の規模は長さ133cm、幅30cm程で、なだらかに立ち上がる。煙出し部分は上部が削平されており不明瞭ではあるが、ピット状を呈すると考えられる。本カマド（カマド1）の西隣にカマド埋積土が検出されたため、カマド2とした。カマド2の東袖は、カマド1の西袖として一部残存するが規模・形状などは不明である。カマド2に関連した燃焼部の土坑を見ると白色粘土が多量廃棄されており、カマド2の構築土に白色粘土が使用されていた可能性が示唆される。カマド2周辺から袖芯材もしくは支脚、懸架材と考えられる礫も出土しているが、煙道などは確認出来なかった。

【その他の施設】床面から3基（P4～6）、貼床面下から6基（P7・9・12～15）の9基を検出した。P5・6は焼土と炭化物が互層に堆積しており、カマド燃焼部～西袖前に位置することから、カマドに関連した土坑と考えられる。P12は間仕切り溝で、東壁中央やや北寄りから壁面に直交して延び、規模は長さ155cm、幅14～28cm、深さ14cmを測り、断面は「U」字状を呈す。P13は北西のP10・11の延長上に位置し、南端は調査区外へ延びる。検出した規模は長さ135cm、幅20～33cm、深さ15cmを測り、断面は箱状である。堅穴住居跡の軸に斜行するものの、一種の間仕切り溝と考えられる。P15は径97cmの円形の土坑で、埋土に板状の灰白色粘土を含む。

【掘り方】深さ5～12cmで底面はほぼ平坦であるが、壁面に沿って幅40cm、深さ20cm程掘り窪める。

【出土遺物】堆積土から出土した土師器がほとんどを占める。土師器坏4点、土師器鉢1点、土師器甕6点、金属製品1点、石製品2点を図示した（第17～18図）。また、カマドの構築材1点を写真のみ掲載した。

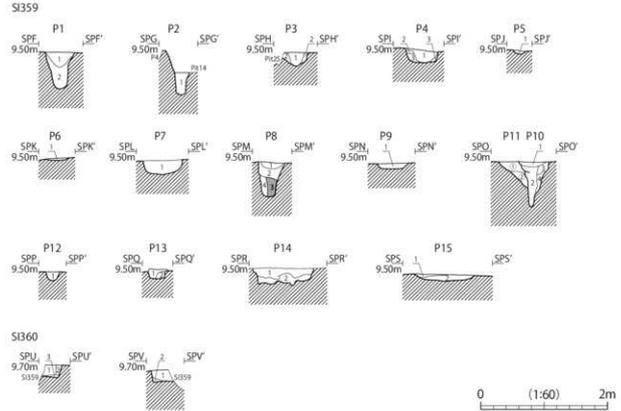
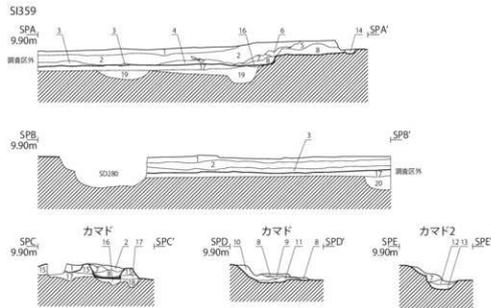
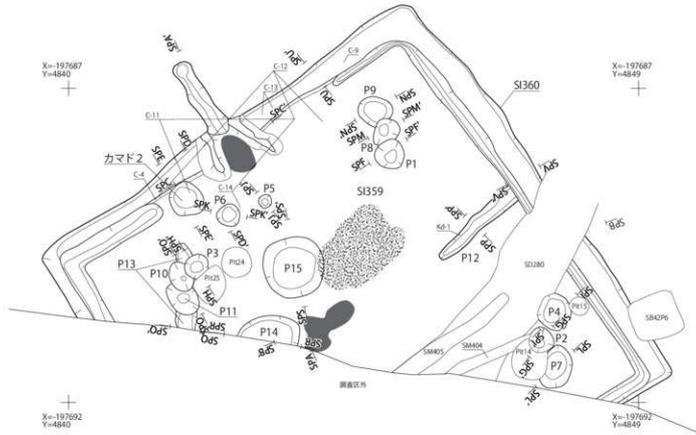
第17図-1～4は土師器の坏である。1は口縁部と体部の境界の稜が不明瞭なものであり、全体的に器壁が厚く特に底部が厚い。内外面ともヘラミガキが主体である。2は関東系土師器の坏である。丸底を呈し、口縁部は直線状に内傾する。内面はヘラミガキ調整で黒色処理される。3は有段丸底坏である。口縁部と体部の境界に段を持ち、口縁部は直線状に外傾する。内面はヘラミガキ調整で黒色処理される。4は口縁部と体部の境界に稜を持ち、口縁部は直線状に外傾する。内面はヘラミガキ調整で、内外面に黒漆の付着がみられる。

第17図-5は土師器の鉢である。5は口縁部と体部の境界に段を持ち、口縁部は外反する。底部は厚みを持ち、平底気味である。体部は外面がハケメ後ヘラナデ、内面がヘラミガキで調整される。

第17図-6・7、第18図-1～4は土師器の甕である。第17図-6は胴部上半が円筒状を呈し、口縁部は直線状に外傾する。胴部は外面がハケメ、内面がヘラナデで調整される。第18図-2～4は胴部が楕円形を呈し、口縁部と胴部の境に段を持つ。2・4の口縁部は直線状に外傾し、3の口縁部は外反する。さらに4は底部が台状を呈する。調整は共通しており、口縁部は内外面ともにヨコナデ、胴部は外面がハケメ、内面がヘラナデで調整される。第17図-7、第18図-1は胴部が球状を呈し、最大径が胴部下半にくる。口縁部は外反するなど器形の上では共通する点が多いが、第17図-7は外面がヘラケズリ、内面がヘラナデで調整されるのに対し、第18図

S039 施設増録土器表

| 遺構名 | 層位 | 土色 | 土作 | 備考 |
|-----|----|----------------|--------|--|
| P1 | 1 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | IV 層土ブロック(10mm)30%含む。 |
| | 2 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | IV 層土ブロック(10mm)50%含む。 |
| F2 | 1 | 10YR4/1 黒褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む。 |
| P3 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 黒炭色シルトブロック30%、底部にIV 層土ブロック少量含む。 |
| | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV 層土ブロック(5～10mm)40%、粘土ブロック、炭化物微量含む。 |
| P4 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | IV 層土ブロック(5～10mm)20%含む。 |
| | 2 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | IV 層土ブロック(5～10mm)50%含む。 |
| | 3 | 10YR3/3 に近い黄褐色 | 砂質シルト | |
| P5 | 1 | 10YR4/4 褐色 | シルト | 炭化物主体で、薄い板状の焼土層が固まる。 |
| P6 | 1 | 10YR3/3 に近い黄褐色 | シルト | 焼土と炭化物が薄い板状に互層に入る。 |
| P7 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV 層土粒40%含む。 |
| P8 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物10%、焼土粒微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV 層土ブロック30%含む。 |
| | 3 | 10YR4/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化物30%、焼土粒微量含む。(柱石跡) |
| | 4 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | 粘土質シルト | IV 層土粒40%含む。 |
| P9 | 1 | 10YR3/3 に近い黄褐色 | シルト | IV 層土ブロック(10～20mm)20%、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV 層土粒20%、炭化物微量含む。 |
| P10 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV 層土粒30%、炭化物微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 黒炭色シルトブロック10%、焼土粒、炭化物微量含む。 |
| | 4 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV 層土粒30%、黒炭色シルト粒10%含む。 |
| P11 | ① | 10YR5/4 に近い黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む。 |
| | ② | 10YR4/4 褐色 | 粘土質シルト | 黒色シルトブロック(5～10mm)20%含む。 |
| P12 | 1 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | IV 層土粒50%、炭化物粘土質シルトブロック10%、焼土粒、炭化物を微量含む。 |
| P13 | 1 | 10YR3/1 黒褐色 | シルト | IV 層土ブロック(5mm程度)以上に30%含む。 |
| | 2 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | |
| P14 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV 層土ブロック、炭化物微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | |
| P15 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | |
| | 2 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | 粘土質シルト | 灰白色粘土を板状に少量、焼土粒を微量含む。 |



SI359 増築土留記表

| 部位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-------|----|----------------|----------------------|---------------------------------|
| 自設増築土 | 1 | HOVR3-2 黒褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 |
| | 2 | HOVR3-4 黒褐色 | シルト | 炭化物20%、粘土粒微量含む。 |
| | 3 | HOVR3-3 白い・黄褐色 | 粘土質シルト | 石膏土粒50%、炭化物、粘土粒を微量含む。(天開成土) |
| | 4 | HOVR3-3 白い・黄褐色 | シルト | 炭化物0%、粘土粒10%含む。 |
| カマド | 5 | HOVR4-1 黒褐色 | シルト | 石膏土粒40%含む。 |
| | 6 | HOVR4-4 黒褐色 | シルト | 炭化物10%含む。 |
| | 7 | HOVR3-3 白い・黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む。(天開成土) |
| | 8 | HOVR3-2 黒褐色 | 粘土質シルト | 粘土粒30%、炭化物を微量含む。 |
| | 9 | HOVR4-4 黒褐色 | シルト | 炭化物を微量含む。 |
| | 10 | HOVR3-3 黄褐色 | 粘土質シルト | 粘土粒、炭化物を微量含む。 |
| | 11 | HOVR3-2 黒褐色 | シルト | 炭化物0%、粘土粒30%、炭を微量含む。 |
| | 12 | HOVR3-2 黒褐色 | シルト | 白色粘土ブロック多量、粘土ブロックを微量含む。 |
| | 13 | HOVR4-2 灰黒褐色 | シルト | 粘土ブロック50%、炭化物5%含む。 |
| | 14 | HOVR3-2 黒褐色 | シルト | 炭化物10%含む。(増し土面?) |
| カマド取方 | 15 | HOVR4-1 黒褐色 | 粘土質シルト | |
| | 16 | HOVR3-2 黒褐色 | 粘土質シルト | 粘土粒5%、炭化物を微量含む。 |
| | 17 | HOVR3-3 白い・黄褐色 | シルト | 灰色粘土ブロック20%、炭土粒、炭化物約5%含む。(増し土面) |
| | 18 | HOVR3-3 黄褐色 | シルト | 粘土粒20%含む。 |
| | 19 | HOVR3-1 黒褐色 | 粘土質シルト | 粘土ブロック10%、炭化物を微量含む。 |
| | 20 | HOVR4-3 白い・黄褐色 | 黒褐色粘土質シルトブロックを20%含む。 | |

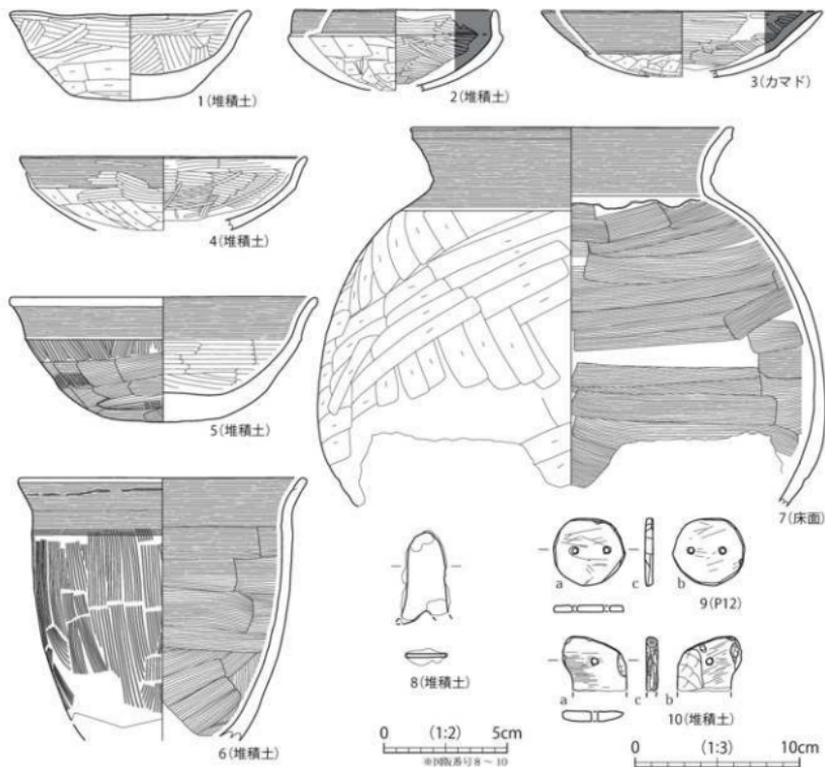
SI360 増築土留記表

| 部位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-------|----|----------------|--------|-----------------|
| 自設増築土 | 1 | HOVR3-3 黄褐色 | シルト | 炭化物0%、粘土粒を微量含む。 |
| | 2 | HOVR4-3 白い・黄褐色 | 粘土質シルト | 石膏土ブロック20%含む。 |
| | 3 | HOVR3-4 黒褐色 | 粘土質シルト | 粘土粒を微量含む。 |

SI359 施設取組表

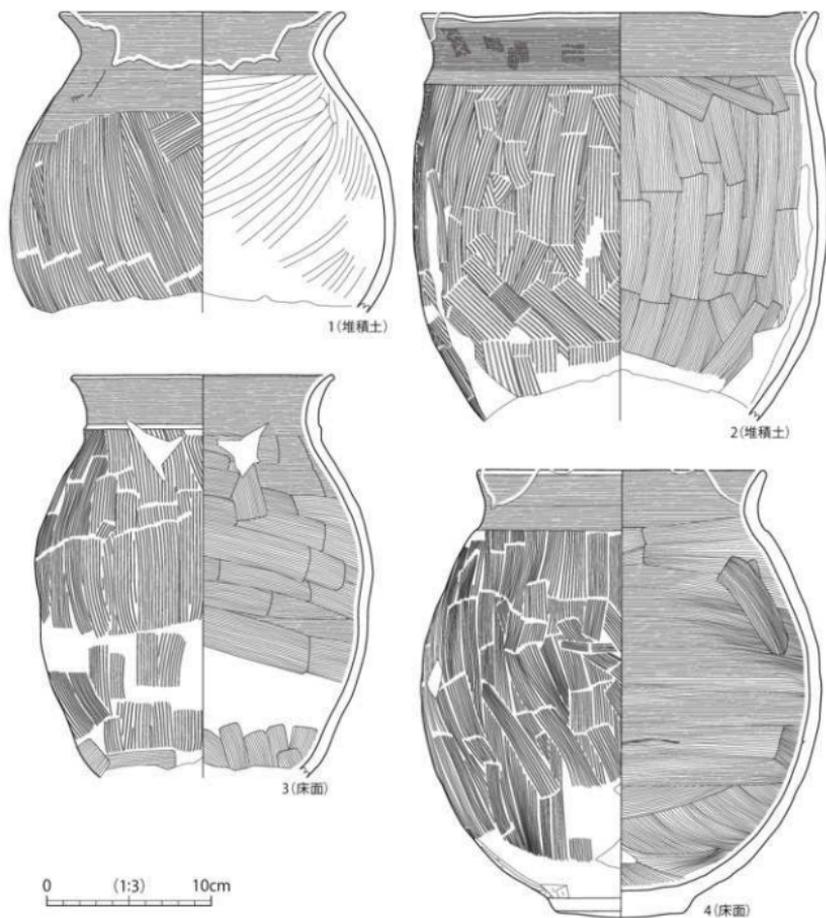
| 建構名 | 平面形 | 幅員(cm) | | 備考 |
|-----|------|--------------|----|------|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P1 | 円形 | 48×47 | 39 | |
| P2 | 円形 | 41×39 | 35 | |
| P3 | 円形 | 37×35 | 22 | |
| P4 | 円形 | 57×52 | 21 | |
| P5 | 円形 | 23×20 | 6 | |
| P6 | 円形 | 37×35 | 4 | |
| P7 | 円形 | 60×50 | 29 | |
| P8 | 円形 | 46×40 | 36 | |
| 建構名 | 平面形 | 幅員(cm) | | 備考 |
| | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P9 | 円形 | 55×45 | 9 | |
| P10 | 円形 | 50×35 | 7 | |
| P11 | 円形 | 59×42 | 40 | |
| P12 | 不規則形 | (135)×(4-28) | 14 | 間仕切壁 |
| P13 | 長方形 | (135)×20 | 15 | 間仕切壁 |
| P14 | 円形 | 97×144 | 25 | |
| P15 | 円形 | 99×97 | 11 | |

第 16 図 SI359-360 壁穴住居跡



| 図版番号 | 図録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真掲載 |
|------|------|-----------|-----|------|-------|--------|-------|--------|----------------------------------|----------------------|---------|------|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 高さ | | | | |
| 1 | C-4 | SI359 | 堆積土 | 土器 | 坏 | (14.4) | 6.4 | 5.5 | 口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ、体部ヘラケズリ | 口縁→体部ヘラミガキ | | 23 |
| 2 | C-5 | SI359 | 堆積土 | 土器 | 坏 | (12.0) | - | (4.9) | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ | 口縁→体部ヘラミガキ、黒色施埋 | | 23 |
| 3 | C-6 | SI359 | カマド | 土器 | 坏 | (17.0) | - | (4.0) | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ | 口縁→体部ヘラミガキ、黒色施埋 | | 23 |
| 4 | C-7 | SI359(aC) | 堆積土 | 土器 | 坏 | (17.2) | - | (4.5) | 口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ、体部ヘラケズリ→ヘラミガキ、黒漆付着 | 口縁→体部ヘラミガキ、黒漆付着 | | 23 |
| 5 | C-8 | SI359(aC) | 堆積土 | 土器 | 鉢 | (18.6) | (6.0) | 7.7 | 口縁部ヨコナデ、体部ハケメ→ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ→ヘラミガキ | | 23 |
| 6 | C-13 | SI359 | 堆積土 | 土器 | 甕 | (17.2) | - | (16.1) | 口縁部ハケメ→ヨコナデ、輪轆みね、胴部ハケメ | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ | | 23 |
| 7 | C-12 | SI359 | 床面 | 土器 | 甕 | 19.5 | - | (21.9) | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ | | 24 |
| 図版番号 | 図録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 備考 | 写真掲載 | |
| | | | | | | 全径 | 幅 | 厚さ | | | | |
| 8 | N-1 | SI359(aC) | 堆積土 | 金属製品 | 鉄鏝 | 3.5 | (2.0) | 0.2 | 6.7 | | 23 | |
| 図版番号 | 図録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 石材 | 備考 | 写真掲載 |
| | | | | | | 全径 | 幅 | 厚さ | | | | |
| 9 | Kd-1 | SI359 | P12 | 石製品 | 双孔片輪 | 径2.9 | 孔径0.2 | 0.3 | 3.8 | 磨板岩 | | 23 |
| 10 | Kd-2 | SI359(cE) | 堆積土 | 石製品 | 石製刺道具 | (2.3) | (2.6) | 0.5 | 4 | 磨板岩 | 孔径0.3cm | 23 |

第17図 SI359 竪穴住居跡出土遺物(1)



| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真 00版 |
|------|-------|-----------|------|-----|--------|--------|------|--------|---------------------------------|---------------------|----|-----------|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 高さ | | | | |
| 1 | C-9 | SI359 | 堆積土 | 土師器 | 甕 | (17.2) | - | 18.4 | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ→ハケメ、胴部ハケメ | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ | | 24 |
| 2 | C-10 | SI359(aK) | 堆積土 | 土師器 | 甕 | (24.0) | - | (25.0) | 口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ | 口縁部ヘラナデ→ヨコナデ、胴部ヘラナデ | | 24 |
| 3 | C-11 | SI359 | 床面 | 土師器 | 甕 | (15.8) | - | (12.6) | 口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、胴部下位ヘラナデ | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ | | 24 |
| 4 | C-14 | SI359 | 床面 | 土師器 | 甕 | 17.4 | 7.6 | 27.4 | 口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ→胴部下位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪結痕 | | 25 |
| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 石材 | 備考 | 写真 00版 |
| | | | | | | 全長 | 幅 | 厚さ | | | | |
| - | 和F-11 | SI359 | カマド2 | 石製品 | カマド棟梁材 | 21.0 | 13.0 | 9.5 | 2330 | 燧石片 | | 24 |

第18図 SI359 竪穴住居跡出土遺物(2)

ー1は外面がハケメ、内面がヘラミガキで調整されており、胴部の調整方法に違いがみられる。

第17図ー8は鉄籤である。無茎三角籤と思われるが、籤身部中央に穿たれるはずの単孔は錆の進行が著しく確認ができなかった。第17図ー9は完形の双孔円盤で、石材は粘板岩である。第17図ー10は欠損するが、勾玉形ないしは剣形の石製模造品と考えられ、径0.3cmの孔が1つ穿たれている。石材は粘板岩である。

【時期】床面より出土した土師器甕（第18図ー3・4）が直接伴う遺物で、3～5期（7世紀初頭～8世紀初頭）と考えられる。

SI360 竪穴住居跡（第16図）

【位置・確認】調査区南端中央西寄りの20・21・24・25グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で、SI359の外周で検出された。当初はSI359のテラス部分として調査を行ったが、調査区南壁の土層観察により竪穴住居跡とした。本来はSI359Bとすべき竪穴住居跡と考えられる。

【重複】SI359、SB42、SD280、SM404・405、Pit14・24・25と重複し、これより古い。

【規模・形態】規模は長軸420cm、短軸が419cmを測る。平面形状は隅丸方形を呈する。

【方向】東壁を基準としてN-36°-Wである。SI359を東壁基準とした場合と同方向である。

【堆積土】3層に分層した。当初SI359のテラスとして取り扱っていた経緯から、いずれも住居堆積土の上位の層を細分したものと考えられる。

【壁面】調査区南壁の観察から、直線的に外傾して基本土層Ⅱ層下面まで立ち上がる。Ⅱ層下面までの壁高は、90cm程を測る。

【床面】調査区南壁の観察から、SI359掘り方理土下15cm程に、東に向かって緩やかに傾斜している床面が確認される。

【掘り方】調査区南壁の観察から、深さ5～10cmである。底面に起伏を持ち、東に向かって緩やかに傾斜する。

【出土遺物】土師器片がごく少量出土したのみで、図示できるものはない。

【時期】重複関係にあるSI359の下限である5期（7世紀末葉～8世紀初頭）より古い。

SI361 竪穴住居跡（第19・20図）

【位置・確認】調査区中央部東端の14・15・18・19グリッドに位置し、南東隅は調査区東壁外に延びる。

【重複】SB44、SD283、SM423～429と重複し、SM423～429より新しく、他の遺構より古い。

【規模・形態】検出した規模は長軸508cm、短軸が487cmを測る。平面形状は隅丸方形である。

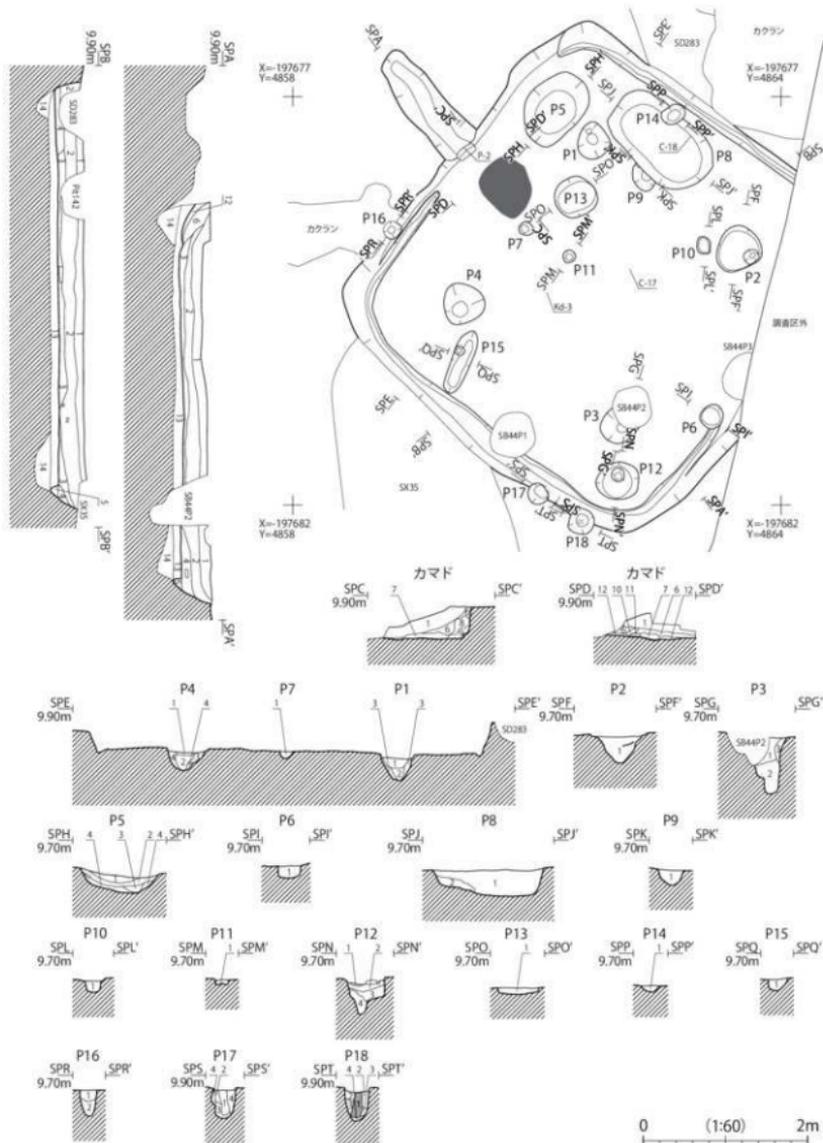
【方向】カマドを基準としてN-41°-Wである。

【堆積土】14層に分層した。1～4層は住居堆積土で、5層は周溝堆積土である。6～12層はカマドに関連した堆積土で、6層はカマド天井部崩落土、7層は燃焼部、8層は奥壁の構築土で燃焼部側が被熱により焼土化が著しい。13層は貼床面、14層は掘り方理土である。

【壁面】直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、22～37cmを測る。

【床面】13層上面を床面とする。貼床である。概ね平坦であるが、掘乱の影響などにより部分的に床面がはがれ、掘り方が床面上で確認されるところが見受けられた。

【柱穴】床面から11基（P1～4・6・7・9～12・14）、北壁から1基（P16）、西壁から2基（P17・18）の総数14基を検出した。P1～4は、規模と位置関係から主柱穴と考えられる。規模は長軸42～55cm、深さ22～68cmを測る。P4～7・9・10はいずれも単層で、規模は長軸18～30cm、深さ9～18cmを測る。P7は位置関係から、カマド西袖芯材を埋設した可能性も考えられる。壁面に位置するP16～18は、長軸20～32cm、深



第19図 SI361 竪穴住居跡

S361 埋積土誌記表

| 部位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-------|----|----------------|--------|-------------------------------------|
| 住居埋積土 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 炭化料を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 互層土ブロック(10mm程度)40%、炭化物を微量含む。 |
| | 3 | 10YR4/1 褐色 | 粘土質シルト | 互層土粘30%、炭化物を微量含む。 |
| | 4 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 互層土粘30%、炭化物を微量含む。 |
| 階段 | 5 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | 炭化物を微量含む。 |
| | 6 | 10YR4/4 褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む。(天井崩落土) |
| | 7 | 7.5YR4/4 褐色 | シルト | 焼土粘50%、炭化物30%含む。 |
| | 8 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | 炭化物を微量含む。燃焼部熱熱を受け焼土化する。 |
| | 9 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | 互層土粘40%、炭化物を微量含む。 |
| | 10 | 5YR3/3 暗赤褐色 | シルト | 焼土粘5%、炭化物を微量含む。 |
| | 11 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 焼土粘15%、炭化物を微量含む。 |
| カマド | 12 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | 炭化物(10mm程度)60%、焼土粘微量含む。 |
| | 13 | 10YR4/4 褐色 | 粘土質シルト | 互層土ブロック(5~15mm程度)40%、炭化物を微量含む。(階床面) |
| | 14 | 10YR4/4 褐色 | シルト | 黒褐色シルトブロック(50mm程度)40%含む。 |

S361 施設埋積土誌記表

| 遺構名 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|----------------|--------|-----------------------------------|
| P1 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 互層土ブロック(5~10mm)20%、炭化物少量含む。(柱状取込) |
| | 2 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | 粘土質シルト | 互層土ブロック(5~10mm)少量含む。 |
| | 3 | 10YR4/4 褐色 | シルト | 互層土粘30%、炭化物を微量含む。 |
| P2 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 互層土ブロック(5~20mm)60%、炭化物を微量含む。 |
| | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 互層土粘40%、炭化物を微量含む。 |
| P3 | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 互層土ブロック30%、炭化物を微量含む。 |
| | 3 | 10YR3/4 に近い黄褐色 | シルト | |
| P4 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 互層土粘30%、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 互層土粘10%、炭化物を微量含む。 |
| | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 互層土ブロック20%含む。 |
| P5 | 4 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 互層土ブロック6%含む。 |
| | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 炭化物、焼土粘微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | 粘土質シルト | 互層土ブロック40%、焼土粘微量含む。 |
| | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 焼土に灰白色粘土ブロック20%、炭化物を微量含む。 |
| P6 | 4 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 互層土ブロック(2~5mm)20%含む。 |
| | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 互層土ブロック(10~20mm)40%、炭化物を微量含む。 |
| P7 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 互層土ブロック20%含む。 |
| P8 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 互層土ブロック50%、炭化物粘10%、焼土粘3%含む。 |
| | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 互層土粘50%含む。 |
| P9 | 1 | 10YR4/4 褐色 | シルト | 互層土粘20%含む。 |
| P10 | 1 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | 炭化物を微量含む。 |
| P11 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 互層土粘少量、炭化物を微量含む。 |
| | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 互層土ブロック50%、炭化物5%含む。 |
| P12 | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 互層土粘20%、炭化物を微量含む。 |
| | 3 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 互層土ブロック(5~10mm)10%、炭化物を微量含む。 |
| | 4 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 互層土粘50%、炭化物を微量含む。 |
| P13 | 1 | 10YR4/4 褐色 | シルト | 黒褐色シルトブロック(30mm)20%、炭化物を微量含む。 |
| P14 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 互層土粘40%、炭化物5%、焼土粘微量含む。 |
| P15 | 1 | 10YR6/2 灰黄褐色 | シルト | 互層土粘40%、炭化物を微量含む。 |
| P16 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 互層土粘50%、焼土粘、炭化物粘微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | 互層土粘50%含む。 |
| P17 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物粘20%含む。 |
| | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物粘10%含む。 |
| | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 互層土ブロック、炭化物を少量含む。 |
| | 4 | 10YR4/1 褐色 | シルト | 炭化物を微量含む。 |
| P18 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 焼土粘、炭化物粘微量含む。(柱礎跡) |
| | 2 | 10YR4/1 褐色 | シルト | 互層土ブロック(5~20mm)60%、炭化物を微量含む。 |
| | 3 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 互層土ブロック(5~10mm)10%、炭化物を微量含む。 |
| | 4 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 互層土粘60%含む。 |

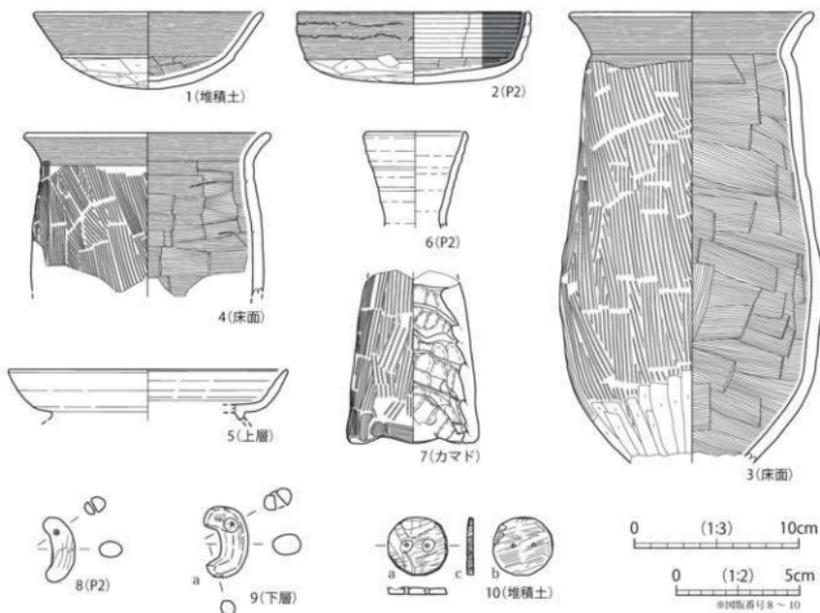
S361 施設断面表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(m) | | 備考 | 遺構名 | 平面形 | 規模(m) | | 備考 |
|-----|-----|---------|----|----|-----|-----|-------|----|------|
| | | 直径×距離 | 深さ | | | | 直径×距離 | 深さ | |
| P1 | 円形 | 46×40 | 27 | | P10 | 楕円形 | 21×16 | 14 | |
| P2 | 円形 | 55×53 | 32 | | P11 | 円形 | 30×30 | 10 | |
| P3 | 円形 | 42×(24) | 68 | | P12 | 円形 | 51×46 | 37 | |
| P4 | 円形 | 52×52 | 22 | | P13 | 円形 | 50×47 | 8 | |
| P5 | 楕円形 | 77×50 | 20 | | P14 | 楕円形 | 30×20 | 11 | |
| P6 | 円形 | 30×28 | 15 | | P15 | 楕円形 | 81×22 | 14 | 調査切溝 |
| P7 | 円形 | 18×18 | 9 | | P16 | 円形 | 20×20 | 31 | |
| P8 | 楕円形 | 141×78 | 32 | | P17 | 円形 | 26×22 | 35 | |
| P9 | 円形 | 24×(20) | 18 | | P18 | 楕円形 | 32×30 | 35 | |

さ 31 ~ 35cm を測り、P18 から径 12cm の柱痕跡を確認した。

【周溝】 検出した部分では、北壁のカマド・P5 周辺およびカマド逆面の南壁の一部を除き、壁面に沿って全周する。規模は、幅 10 ~ 20cm、深さ 8 ~ 10cm を測り、断面形は「U」字状を呈す。

【カマド】北壁中央に位置し、壁面より18°東へ傾いて付設される。両袖ともに崩壊しているが、燃焼部の位置関係から長さ90cm程の袖が壁面に対し「ハ」字状に付設されていたと推察される。平坦な燃焼部には、径58×67cmの境面が見られる。奥壁は25cm程で、竪穴住居跡の壁面に沿って立ち上がり、奥壁上面から懸架材と考えられる礫が出土している。煙道部の規模は、長さ147cm、幅33～51cmを測り、徐々に幅を狭めながら緩やかにピット状に一段掘り窪められ煙出し部分へ立ち上がる。



| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真掲載 |
|------|------|------------|-----|-----|-------|--------|-------|--------|--------------------------|-----------------------------|---------|------|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1 | C-15 | SI361(a&c) | 堆積土 | 土器部 | 埴 | (13.8) | — | 4.7 | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ | | 25 |
| 2 | C-16 | SI361 | P2 | 土器部 | 埴 | (14.0) | — | 4.4 | 口縁→体部ヨコナデ、底部ヘラナデズリ、輪結み痕 | 口縁→底部ヘラミガキ、黒色処理 | | 25 |
| 3 | C-18 | SI361(a&c) | 床面 | 土器部 | 糞 | 14.6 | — | 27.7 | 口縁部ヨコナデ、製部ハケメ→製部下位ヘラナデズリ | 口縁部ヨコナデ、製部ヘラナデ | | 25 |
| 4 | C-17 | SI361(a&c) | 床面 | 土器部 | 糞 | (15.0) | — | (10.0) | 口縁部ヨコナデ、製部ハケメ | 口縁部ヨコナデ、製部ヘラナデ、輪結み痕 | | 25 |
| 5 | E-1 | SI361(a&c) | 上層 | 須弥器 | 高台付き埴 | (17.0) | — | (3.1) | ロクロ調整 | ロクロ調整 | | 25 |
| 6 | E-2 | SI361 | P2 | 須弥器 | 便壺 | (6.0) | — | (5.8) | ロクロ調整 | ロクロ調整 | | 25 |
| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 備考 | 写真掲載 | |
| | | | | | | 全長 | 幅 | 厚さ | | | | |
| 7 | P-2 | SI361 | カマド | 土製品 | 円筒土製品 | (10.5) | 8.0 | 1.3 | 205.6 | 外面ハケメ、下位ナデ 内面:ユビオサエ、輪結み痕 | 25 | |
| 8 | P-3 | SI361 | P2 | 土製品 | 勾玉 | 2.7 | φ0.9 | 孔径0.1 | 1.8 | ミガキ調整 | 25 | |
| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 石材 | 備考 | 写真掲載 |
| | | | | | | 全長 | 幅 | 厚さ | | | | |
| 9 | Kd-3 | SI361(a&c) | 下層 | 石製品 | 勾玉 | 2.9 | 1.1 | 0.8 | 5.4 | メノウ | 孔径0.1cm | 25 |
| 10 | Kd-4 | SI361(a&c) | 堆積土 | 石製品 | 双孔丸礫 | 径2.4 | 孔径0.1 | 0.3 | 2.6 | 粘板付 | | 25 |

第20図 SI361 竪穴住居跡出土遺物

【その他の施設】 床面から土坑 3 基 (P5・8・13)、溝 1 条 (P15)、総数 4 基を検出した。P5 は平面楕円形で、規模は長軸 94cm、短軸 66cm、深さ 20cm を測り、堆積土の中心に粘土ブロックを含む。規模と位置関係から貯蔵穴と考えられる。P15 は間仕切り溝と考えられ、規模は長さ 82cm、幅 23cm、深さ 14cm を測り、断面は半円状である。P8 は長軸 137cm、短軸 80cm の平面長楕円形を呈し、深さは 32cm を測る。人為的埋土であるが、性格は不明である。床面では一部の検出であり、床下の遺構の可能性もある。P13 は径 48 × 50cm、深さ 7cm を測る平面円形の土坑である。

【掘り方】 深さ 10cm 程である。底面は概ね平坦であるが、壁面に沿って幅 30 ~ 70cm、深さ 18cm 程掘り下げる。

【出土遺物】 堆積土から出土した土師器がほとんどを占め、少量の須恵器などが混ざる。土師器環 2 点、土師器甕 2 点、須恵器高台付坏 1 点、須恵器提瓶 1 点、土製品 2 点、石製品 2 点を図示した (第 20 図)。

1・2 は有段丸底坏である。1 は口縁部が直線状に外傾し、底部は丸底を呈する。体部の調整は外面がヘラケズリで、内面がヘラナデである。2 は体部下端に段が付き、底部は平底状を呈する。調整は外面の口縁部がヨコナデ、体部がヘラケズリ、内面はヘラミガキである。

3・4 は土師器の甕である。3 は胴部上半が円筒状を呈し、胴部下半に最大径がくる下膨れの器形である。口縁部は直線状に外傾する。胴部の調整は外面がハケメ、下半はヘラケズリ、内面がヘラナデである。4 は口縁部が直線状に外傾し、胴部上半が円筒状を呈する。胴部の調整は外面がハケメ、内面がヘラナデであり、胴部下半の状況が不明であるが、口縁部～胴部上半の器形・調整は 3 と共通する部分が多い。

5 は須恵器の高台付坏であり、体部から口縁部はほぼ直線的に外傾し、底部は平底で、断面「ハ」の字状に高台が付く。口径は 17cm と推定される。6 は須恵器の提瓶の口縁部であり、逆「ハ」の字状に直線的に外傾する。口縁部の中央には平行する 2 条の沈線が確認できる。

7 は円筒状の土製品の下部である。外面はハケメで下端の一部はナデにより調整される。内面はユビオサエで、輪積み痕が顕著に残る。用途などは不明であるが、その器形よりカマド構築材の可能性が考えられる。8 は土製の勾玉であり、ヘラミガキで調整される。

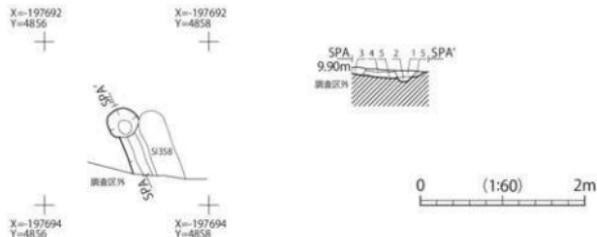
9 は石製の勾玉で、石材はメノウである。10 はほぼ完形の双孔円盤で、石材は粘板岩である。

【時期】 床面から出土した第 20 図-3・4 と P2 堆積土から出土した 2・6 が直接伴う遺物で、3 期 (7 世紀初頭～前葉) と考えられる。

SI362 竪穴住居跡 (第 21 図)

【位置・確認】 調査区南端東隅の 26 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で、煙道部のみを検出した。

【重複】 SI358 と重複し、それより古い。



第 21 図 SI362 竪穴住居跡

SD62 堆積土誌記表

| 階位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|-------------|--------|--------------------------|
| 堆積土 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 古層土ブロック(10mm程度)20%含む。 |
| | 2 | 10YR3/3 黒褐色 | 粘土質シルト | |
| | 3 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 焼土粒、炭化物を微量含む。 |
| | 4 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | |
| | 5 | 10YR4/4 褐色 | シルト | 黒褐色シルトブロック(10mm程度)10%含む。 |

【規模・形態】 不明である。

【方向】 カマド煙道部を基準として N - 20° - W である。

【堆積土】 5層に分層した。いずれもカマドの堆積土である。1・2層は煙出し部分、4層は煙道の天井崩落土、5層は煙道である。

【カマド】 検出した煙道部の規模は、長さ53cm、幅30cm程、深さ9cmを測る。煙出し部分は、径32×38cmの平面円形で、ビット状に14cm掘り窪められる。

【出土遺物】 遺物は出土していない。

【時期】 時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、時期は不明である。

SI363 竪穴住居跡 (第22・23図)

【位置・確認面】 調査区中央部北寄りの9・10・13・14グリッドに位置する。基本土層IV層上面で検出した。

【重複】 SA7、SD279・281、SM434・435、Pit12と重複し、SM434・435より新しく、他の遺構より古い。

【規模・形態】 規模は長軸398cm、短軸394cmを測る。平面形状は方形を呈する。

【方向】 カマド煙道部を基準として N - 15° - W である。

【堆積土】 12層に分層した。1・2層は住居堆積土、3層は周溝堆積土である。4～11層はカマドに関連する堆積土で、4層は天井崩落土、5層は燃焼部堆積土、7層は煙道部堆積土、8層は煙出し部分堆積土、10層は煙出し部分の掘り方である。12層は掘り方土であるが、10mm程のIV層土ブロックと微量の焼土粒・炭化物を含み、硬く締まった貼床面である。

【壁面】 ほぼ直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、9cm～22cmを測る。

【床面】 2層下面を床面とする。概ね平坦である。

【柱穴】 床面から6基(P1～4・7・8)、壁面から5基(P10～14)の計11基を検出した。P1～4は、規模や位置関係から主柱穴と考えられる。規模は、長径27～47cm、深さ20～40cmを測る。P7は平面円形で、規模は径26×30cm、深さ13cmを測り、位置関係から芯材の埋設などカマドに関連した可能性が考えられる。壁面で検出したP10～14はいずれも平面円形で、径13～28cm、深さ30～59cmを測り、補助柱穴と考えられる。

【周溝】 北壁のカマド周辺を除き壁面に沿って全周するが、東壁面際の両隅は11～15cm壁面の内側に位置する。断面は浅い皿状で、規模は幅13～20cm、深さ5～8cmを測る。

【カマド】 北壁中央に位置し、壁面に直交して付設される。袖の規模は、東袖は長さ52cm、幅23cmを測り、西袖は不明である。東袖から、袖は北壁面に対直交して付設されていたと考えられる。燃焼部の規模は、奥行き43cm、幅40cm、奥壁高8cm程と考えられる。底面はほぼ平坦で、奥壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面には径40cm程の焼面がみられる。煙道部の規模は、長さ171cm、幅30～40cm、深さ10～15cmを測る。底面は、煙出し部分に向かって緩やかに傾斜する。煙出し部分の形状は、上端をSD278によって失っているため詳細は不明であるが、底面形状からはビット状の掘り込みは持たなかったと考えられる。

【その他の施設】 床面から土坑2基(P5・6)、溝1条(P9)を検出した。P5は径77×81cmの平面円形の土坑で、深さ17cmを測る。規模と位置関係から貯蔵穴と考えられ、底面上位に焼土ブロックや灰を多く含む層が堆積し

S063 堆積土柱記表

| 部位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-------|----|----------------|-------|----------------------------------|
| 住居堆積土 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 炭化物、焼土粒を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物10%含む。 |
| | 3 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック(10m程度)、炭化物、焼土粒を微量含む。 |
| カマド | 4 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 炭化物20%、焼土粒10%含む。(天井崩壊土) |
| | 5 | 10YR4/1 褐色 | シルト | 炭化物、焼土粒を微量含む。 |
| | 6 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | シルト | 焼土粒20%、炭化物を微量含む。 |
| | 7 | 10YR3/1 黒褐色 | シルト | 炭化物主体。(煙道部) |
| | 8 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | シルト | 炭化物30%、焼土粒20%、炭を微量含む。 |
| | 9 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物80%、焼土粒10%含む。 |
| | 10 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物70%含む。 |
| カマド袖 | 11 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物10%、焼土粒を微量含む。 |
| 住居盛り方 | 12 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘質シルト | IV層土ブロック(10m程度)10%、炭化物、焼土粒を微量含む。 |

S063 無段階堆積土柱記表

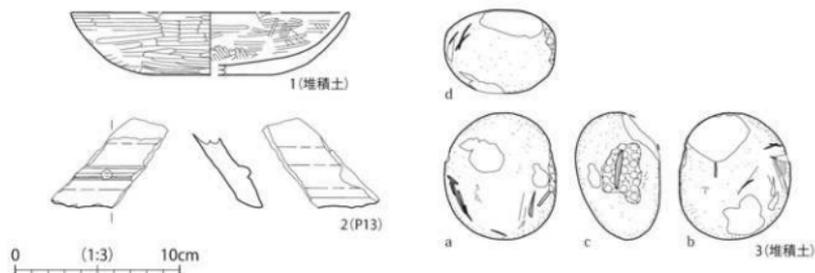
| 遺構名 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|--------------|----------------|-------------|-------------------------------|
| P1 | 1 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | シルト | 炭化物10%含む。 |
| | 2 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | IV層土粒30%、炭化物を微量含む。 |
| | 3 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | シルト | IV層土粒20%含む。 |
| P2 | 1 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | シルト | |
| | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土粒30%、炭化物を微量含む。 |
| P3 | 1 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | シルト | IV層土粒10%、炭化物を微量含む。(柱状取組) |
| | 2 | 10YR4/1 褐色 | 粘土質シルト | 炭化物20%含む。 |
| | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック少量含む。 |
| P4 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 炭化物10%含む。 |
| | 2 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック多量に含む。 |
| P5 | 1 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 焼土ブロック20%、炭化物微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/4 褐色 | シルト | 焼土粒を微量含む。 |
| | 3 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 焼土ブロック40%、炭30%、炭化物を微量含む。 |
| P6 | 4 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | シルト | 焼土粒を微量含む。 |
| | 1 | 10YR4/1 褐色 | シルト | 焼土ブロック70%、炭化物10%含む。 |
| | 2 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 焼土ブロック60%、炭化物20%含む。 |
| | 3 | 10YR4/4 褐色 | シルト | 焼土ブロック20%、炭化物を微量含む。 |
| P7 | 4 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | シルト | 焼土ブロック10%含む。 |
| | 1 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | シルト | IV層土粒20%含む。 |
| P8 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土粒少量含む。 |
| | 2 | 10YR5/3 にぶい黄褐色 | シルト | IV層土ブロック(5~20mm)50%、炭化物微量含む。 |
| P9 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土粒20%、炭化物微量含む。 |
| | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土粒を微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | シルト | IV層土ブロック10~20mm)50%含む。 |
| P10 | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土粒20%含む。(柱状取組) |
| | 4 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | シルト | IV層土ブロック(10~20mm)70%含む。 |
| | 5 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土粒10%含む。 |
| | 1 | 10YR4/1 褐色 | シルト | IV層土粒を微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | シルト | IV層土ブロック(5~10mm)10%、炭化物を微量含む。 |
| P11 | 3 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土粒30%含む。 |
| | 4 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土粒30%含む。 |
| | 5 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土粒10%含む。 |
| | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土粒少量、炭化粒を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック20%、焼土粒、炭化物を微量含む。 |
| P12 | 1 | 10YR4/1 褐色 | シルト | IV層土粒10%含む。 |
| | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック40%含む。 |
| | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土粒20%含む。 |
| | 4 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック(5~10mm)30%、炭化物を微量含む。 |
| P13 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック20%、炭化物微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック40%含む。 |
| | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土粒20%含む。 |
| P14 | 4 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック(5~10mm)30%、炭化物を微量含む。 |
| | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック20%、炭化物微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック30%、炭化物微量含む。 |
| 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土粒20%含む。 | |

S063 無段階遺構表

| 遺構名 | 平面形 | 径幅(cm) | | 備考 | 遺構名 | 平面形 | 径幅(cm) | | 備考 |
|-----|-----|--------|----|----|-----|-------|--------|----|------|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P1 | 円形 | 35×32 | 36 | | P8 | 楕円形 | 30×24 | 22 | |
| P2 | 楕円形 | 39×31 | 40 | | P9 | 不整形円形 | 84×13 | 8 | 間仕切溝 |
| P3 | 円形 | 47×43 | 34 | | P10 | 円形 | 31×25 | 58 | |
| P4 | 円形 | 27×24 | 20 | | P11 | 円形 | 30×17 | 30 | |
| P5 | 円形 | 81×77 | 17 | | P12 | 円形 | 33×21 | 38 | |
| P6 | 円形 | 87×78 | 15 | | P13 | 円形 | 39×27 | 27 | |
| P7 | 円形 | 30×26 | 13 | | P14 | 円形 | 20×13 | 42 | |

ている。P6は径78×87cmの平面円形の土坑で、深さ15cmを測る。堆積土に焼土ブロックを多量に含んでおり、カマドに関連した施設の可能性も考えられる。P9の規模は、長さ84cm、幅11~13cm、深さ8cmを測る。断面は「V」字状を呈し、一種の間仕切りと考えられる。

【掘り方】 深さ12~18cmで、底面は概ね平坦である。



| 発掘 番号 | 発掘 地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真 掲載 |
|----------|----------|-------|-----|-----|--------|--------|----|-------|-------------------------|------------|----------|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1 | C-19 | SI363 | 堆積土 | 土師器 | 杯 | (16.8) | - | (3.8) | 口縁部ヘラミガキ, 体部下位 ヘラケズリ | 口縁-体部ヘラミガキ | 25 |
| 2 | E-3 | SI363 | P13 | 須恵器 | 円面硯 | - | - | (5.4) | ロケロ調整 | | 25 |

| 発掘 番号 | 発掘 地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 石材 | 備考 | 写真 掲載 |
|----------|----------|------------|-----|-----|--------|-----|-----|-------|-------|-----|----------|
| | | | | | 全径 | 幅 | 厚さ | | | | |
| 3 | Kc-2 | SI363(GFC) | 堆積土 | 礫石器 | 礫石 | 7.8 | 6.8 | 5.1 | 188.1 | 凝灰岩 | 25 |

第 23 図 SI363 竪穴住居跡出土遺物

【出土遺物】 堆積土から土師器や須恵器、礫石器が少量出土した。土師器杯 1 点、須恵器 1 点、礫石器 1 点を図示した（第 23 図）。

1 は全体的に器壁がやや厚く、丸みを帯びる。底部は平底を呈し、内外面ともに調整はヘラミガキである。2 は須恵器の円面硯の台脚と思われる。台脚の外周中央部には横位の突帯が巡る。3 は礫石器で、敲打痕が認められることから敲石とした。石材は凝灰岩である。

【時期】 他の竪穴住居跡との重複関係がなく、直接伴う遺物もないため不明である。

SI364 竪穴住居跡（第 24 図）

【位置・確認】 調査区北端西側の 8・9 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で南東隅の一部を検出し、大半は調査区北壁外へ延びる。

【重複】 SI369 と重複し、それより新しい。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 355cm、短軸 196cm を測る。平面形状は隅丸方形ないしは隅丸長方形と考えられる。

【方向】 東壁を基準として N-1°-E である。

【堆積土】 6 層に分層した。1・2 層は住居堆積土、3～6 層は周溝堆積土で、3 層は堰板痕跡である。

【壁面】 検出した部分では、直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、12～16cm を測る。

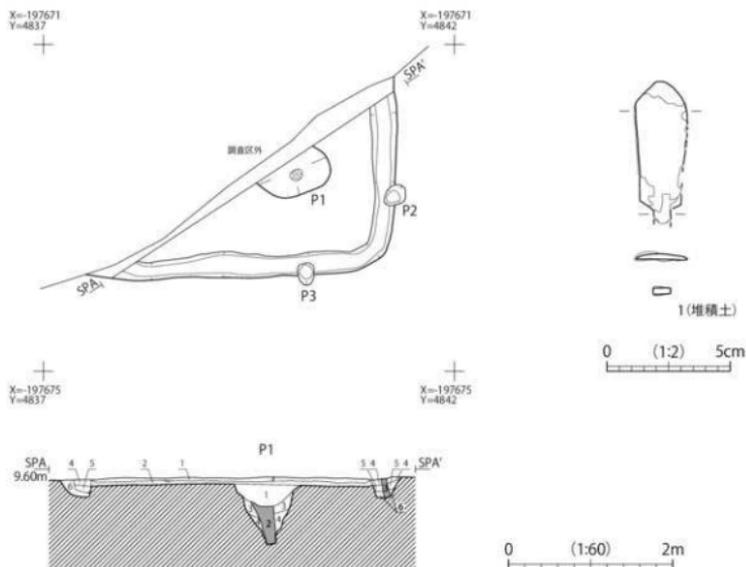
【床面】 掘り方底面を床面としており、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 1 基（P1）、壁面から 2 基（P2・3）の計 3 基を検出した。P1 は長径 90cm、深さ 73cm を測り、土層断面で径 21cm の柱痕跡、底面で径 12cm 程の変色範囲が認められた。規模と位置関係から主柱穴と考えられる。P2 は東壁面、P3 は南壁面から検出さる、規模は径 20～30cm、深さ 39～46cm を測る。位置関係から、P1 に伴う補助柱穴と考えられる。

【周溝】 検出した部分では、壁面に沿って全周する。断面は「U」字状を呈し、東壁面際の周溝では堰板痕跡が確認された。規模は幅 20～32cm、深さ 22～27cm を測る。

【出土遺物】 堆積土から土師器や須恵器、鉄製品が少量出土した。金属製品1点を図示した(第24図)。1は鉄鎌である。鎌首部は長五角形を呈し、有茎である。

【時期】 出土遺物から時期の特定はできなかったが、重複関係にあるSI369が4期(7世紀中葉～後葉)であることから、4期以降と考えられる。



SI364 堆積土層記表

| 深位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-------|----|-------------------|-----|--------------------|
| 住居堆積土 | 1 | 2.5G/Y3/1 暗オリーブ灰色 | シルト | 炭化物、焼土粒10%含む、グライ化。 |
| | 2 | 2.5G/Y2/1 黒色 | シルト | 炭化物、焼土粒を微量含む、グライ化。 |
| | 3 | 10YR3/2 暗褐色 | シルト | 炭化物を微量含む。 |
| 溝溝 | 4 | 10YR3/1 黒褐色 | シルト | 焼土粒10%、炭化物を微量含む。 |
| | 5 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物10%、焼土粒を微量含む。 |
| | 6 | 10YR4/1 褐色 | シルト | 炭化物を微量含む。 |

SI364 施設堆積土層記表

| 遺構名 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|--------------|--------|--|
| P1 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土粒20%、炭化物10%、焼土粒を微量含む。一部グライ化。(柱礎取組) |
| | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化物10%、IV層土粒微量含む。(柱礎跡) |
| | 3 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック30%含む。 |
| | 4 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化物、焼土粒を微量含む。 |
| P2 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック10%含む。 |
| P3 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック、炭化物を微量含む。 |

SI364 施設建群表

| 遺構名 | 平面形 | 距離(cm) | | 備考 | 遺構名 | 平面形 | 距離(cm) | | 備考 |
|-----|-------|---------|----|----|-----|-----|--------|----|----|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P1 | 楕円方形 | 90×(45) | 73 | | P3 | 楕円形 | 27×20 | 39 | |
| P2 | 楕円長方形 | 30×23 | 40 | | | | | | |

| 調査番号 | 発掘番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 備考 | 写真掲載 |
|------|------|-------|-----|------|----|--------|-----|-----|-------|----|------|
| | | | | | | 全長 | 幅 | 厚さ | | | |
| 1 | N-2 | SI364 | 堆積土 | 金属製品 | 鉄鎌 | (5.7) | 2.4 | 0.3 | 9.2 | | 26 |

第24図 SI364 竪穴住居跡・出土遺物

SI365 竪穴住居跡 (第 25 ~ 27 図)

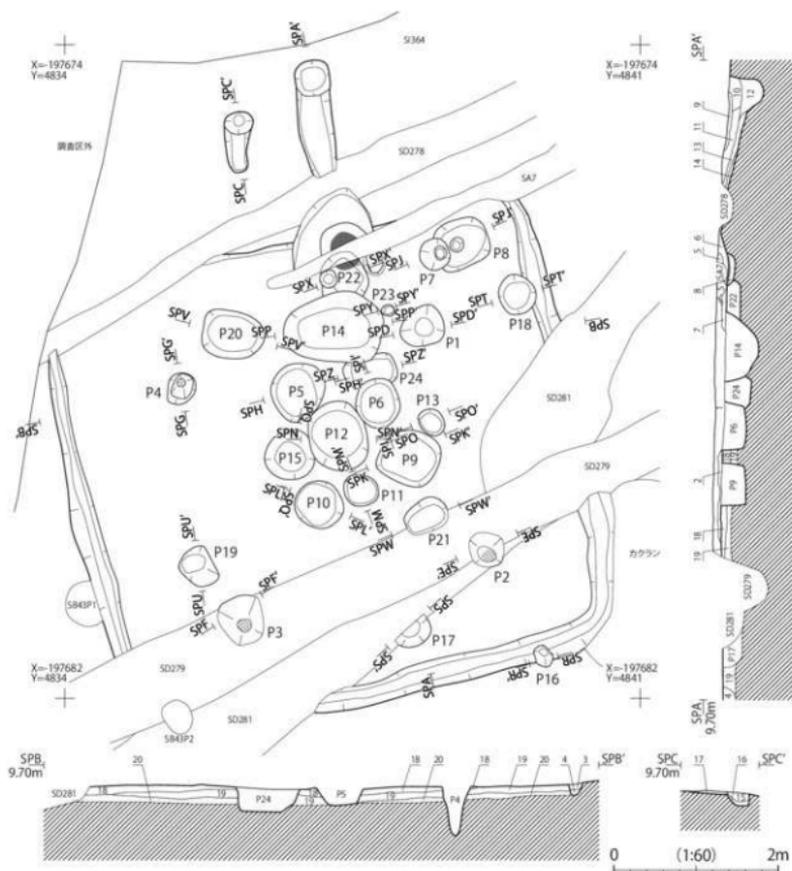
【位置・確認】 調査区中央部西端の 8・12・13・16・17 グリッドに位置する。基本土層IV層上面で検出したが、西側はグライ化が著しく一部面を下げて確認を行った。

【重複】 SI369・370・378・379、SA7、SB43、SD278・279・281 と重複し、SI369・370・378・379 より新しく、SA7、SB43、SD278・279・281 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 642cm、短軸 575cm を測る。平面形状は方形である。

【方向】 カマド 1 煙道部を基準として N-8°-W である。

【堆積土】 20 層に分層した。1・2 層は住居堆積土、3・4 層は周溝堆積土である。5 ~ 14 層はカマド 1 に関連



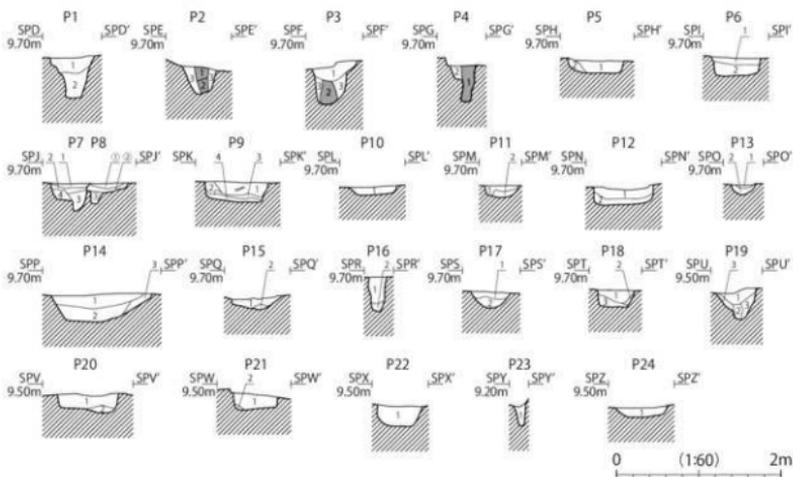
第 25 図 SI365 竪穴住居跡 (1)

S065 増殖土目録表

| 品名 | 順位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-------|----------------|----------------|--------------------------------|---------------------------|
| 住居増殖土 | 1 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | 炭化物20%、堆土和を微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | N層土和20%、炭化物、堆土和を微量含む。 |
| 増殖 | 3 | 10YR4/1 黄褐色 | シルト | N層土和5%、炭化物を微量含む。 |
| | 4 | 2.5Y/1 黄灰色 | シルト | グライ化。 |
| | 5 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 堆土和30%、炭化物、灰を微量含む。(天井崩壊土) |
| | 6 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 堆土和を微量含む。 |
| | 7 | 10YR4/1 黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物80%、灰、堆土和を微量含む。 |
| | 8 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 炭化物、堆土和を微量含む。 |
| | 9 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | 炭化物、堆土和を微量含む。 |
| | 10 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 炭化物主体。 |
| | 11 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 堆土和15%、炭化物10%含む。 |
| | 12 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化物30%含む。 |
| 13 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む。 | |
| 14 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 炭化物40%含む。 | |
| 15 | 10YR2/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 炭化物60%含む。 | |
| 16 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | 炭化物を微量含む。 | |
| 17 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物30%含む。(埋蔵) | |
| 18 | 10YR3/1 黒褐色 | シルト | N層土ブロック状の互層に20%、炭化物を微量含む。(崩壊面) | |
| 19 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | N層土ブロック5%、炭化物を微量含む。 | |
| 20 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | N層土ブロック、炭化物を微量含む。 | |

S065 雑草増殖土目録表

| 品名 | 順位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|----------------|--------|---|
| P1 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N層土和50%、炭化物、堆土和5%含む。 |
| | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | N層土和40%含む。 |
| P2 | 1 | 10YR2/2 黒褐色 | シルト | N層土ブロック40%、炭化物を微量含む。(柱状跡) |
| | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | N層土ブロック20%、炭化物を微量含む。(柱状跡) |
| P3 | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N層土ブロック10%含む。 |
| | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | N層土ブロック(3~5m)20%含む。(柱状跡) |
| | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 堆土和、炭化物を微量含む。(柱状跡) |
| P4 | 3 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | 粘土質シルト | N層土ブロック(3~5m)40%、炭化物を微量含む。 |
| | 1 | 2.5Y/1 黄灰色 | 粘土質シルト | N層土和20%、炭化物を微量含む。(柱状跡) |
| P5 | 2 | 10Y3/1 暗緑灰色 | 粘土質シルト | N層土ブロック10%含む。 |
| | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | N層土ブロック50%、炭化物を微量含む。 |
| P6 | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N層土和30%、炭化物、堆土和を微量含む。 |
| | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | N層土ブロック(5~20m)40%、薄い灰状に炭化物と堆土和じりり土が入る。 |
| P7 | 2 | 10YR4/4 褐色 | シルト | 炭化物15%含む。 |
| | 1 | 10YR3/1 黒褐色 | シルト | 堆土和10%、炭化物5%含む。 |
| | 2 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 灰白色粘180%、堆土和を微量含む。 |
| P8 | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | N層土ブロック60%、炭化物を微量含む。 |
| | 4 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | N層土ブロック40%含む。 |
| | ① | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物を微量含む。 |
| | ② | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | 灰白色粘土ブロック(5~20m)20%、炭化物を微量含む。 |
| P9 | ③ | 10YR4/4 褐色 | シルト | N層土ブロック(3~5m)10%、炭化物を微量含む。 |
| | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 堆土和、炭化物10%含む。 |
| | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 堆土和10%、N層土ブロックを微量含む。 |
| | 3 | 10YR2/3 黒褐色 | シルト | 堆土和を微量含む。 |
| P10 | 4 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 堆土和を微量含む。 |
| | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | N層土和10%、炭化物を微量含む。 |
| P11 | 1 | 10YR4/4 褐色 | シルト | N層土和40%、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 堆土和40%、炭化物10%、灰白色粘土ブロックを微量含む。 |
| P12 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 堆土ブロック70%、炭化物5%含む。 |
| | 2 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | 粘土質シルト | 堆土ブロック15%、炭化物を微量含む。 |
| P13 | 1 | 10YR4/4 褐色 | シルト | 炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR2/3 黒褐色 | シルト | 堆土ブロック30%、炭化物10%含む。 |
| P14 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物20%、堆土ブロック10%含む。 |
| | 2 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 堆土ブロック40%、炭化物5%、N層土ブロック少量含む。 |
| | 3 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | 堆土和、炭化物を微量含む。 |
| P15 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 堆土ブロック40%、炭化物10%含む。 |
| | 2 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む。 |
| P16 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | N層土ブロック20%、堆土和、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む。 |
| P17 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | N層土ブロック10%、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/1 黒褐色 | 粘土質シルト | N層土和30%含む。 |
| | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 堆土ブロック、N層土ブロック各20%、骨片、炭化物各10%含む。 |
| P18 | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | N層土ブロック10%含む。 |
| | 3 | 10YR4/4 褐色 | シルト | 黒褐色シルトブロック(20~40m)10%、N層土ブロック、炭化物を微量含む。 |
| | 1 | 10YR3/3 に近い黄褐色 | シルト | N層土和20%、炭化物を微量含む。 |
| P19 | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化物5%含む。 |
| | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | N層土和30%、炭化物を微量含む。 |
| | 1 | 10YR3/1 黒褐色 | シルト | N層土ブロック40%、堆土和10%含む、グライ化。 |
| P20 | 2 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | N層土和30%、堆土和少量含む。 |
| | 1 | 10YR3/1 黒褐色 | シルト | N層土和20%、堆土ブロック、炭化物を微量含む。 |
| P21 | 2 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | N層土ブロック20%含む。 |
| | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 堆土ブロック20%、炭化物少量含む。 |
| P22 | 1 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | 粘土質シルト | N層土ブロック少量、炭化物を微量含む。 |
| P23 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 堆土ブロック60%、炭化物、N層土和少量含む。 |
| P24 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 堆土ブロック60%、炭化物、N層土和少量含む。 |



第 26 図 SI365 竪穴住居跡 (2)

SI365 施設調査表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 | 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 |
|-----|------|---------|----|----|-----|-------|---------|----|----|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P1 | 楕円形 | 53×48 | 49 | | P13 | 円形 | 34×30 | 12 | |
| P2 | 楕丸方形 | 43×42 | 34 | | P14 | 楕円形 | 119×85 | 34 | |
| P3 | 楕円形 | 58×49 | 45 | | P15 | 円形 | 62×60 | 14 | |
| P4 | 楕円形 | 41×39 | 45 | | P16 | 不整形円形 | 27×19 | 42 | |
| P5 | 円形 | 67×67 | 15 | | P17 | 円形 | 48×(25) | 20 | |
| P6 | 楕円形 | 61×54 | 22 | | P18 | 円形 | 49×46 | 21 | |
| P7 | 楕丸方形 | (58)×52 | 24 | | P19 | 楕丸方形 | 49×37 | 37 | |
| P8 | 円形 | 38×36 | 33 | | P20 | 楕円形 | 74×57 | 20 | |
| P9 | 楕丸方形 | 72×67 | 24 | | P21 | 楕丸方形 | 53×(33) | 21 | |
| P10 | 円形 | 58×57 | 10 | | P22 | 不整形円形 | (48)×52 | 24 | |
| P11 | 円形 | 40×41 | 14 | | P23 | 円形 | 15×14 | 26 | |
| P12 | 楕円形 | 86×68 | 19 | | P24 | 楕丸方形 | 64×(40) | 11 | |

した堆積土で、5層は天井崩落土、6・7層は燃焼部による堆積土、12層は煙出し部分、13層は煙道である。15～17層はカマド2煙道部の堆積土で、15・16層は煙出し部分である。18～20層は掘り方柱土で、18層は薄板状にしたIV層土を互層に埋めて貼床面としている。

【壁面】 緩やかに外傾して立ち上がる。壁高は、4～11cmを測る。

【床面】 18層上面を床面とする。貼床である。概ね平坦であったと考えられるが、グライ化が著しく、また重複するSD278・279・281などの影響により、南側へ向かって緩やかに傾斜する。

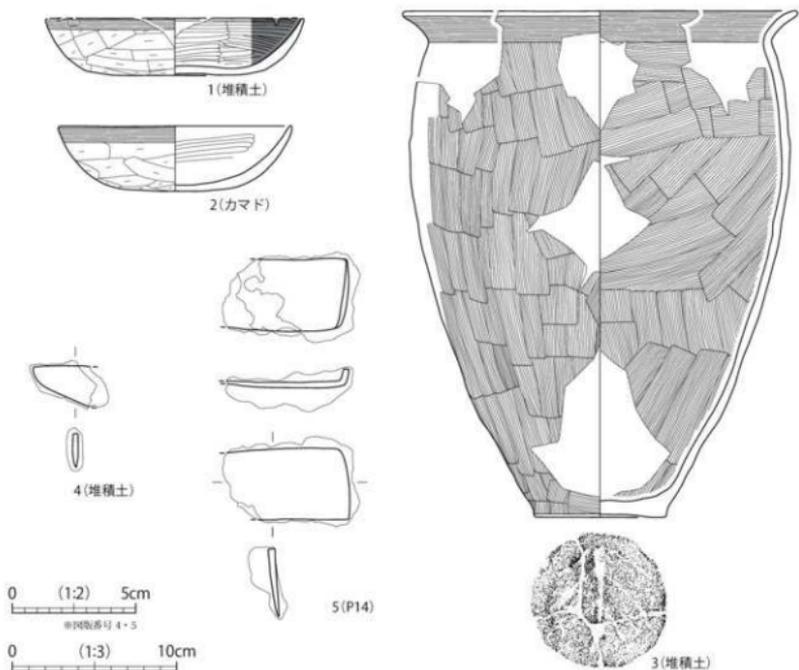
【柱穴】 床面から7基 (P1～4・7・8・19)、壁面から1基 (P16)、貼床面下から1基 (P23) の計9基を検出した。P1～4は、規模と位置関係から主柱穴と考えられる。規模は長径39～58cm、深さ34～49cmを測る。P7・8は断面形状から柱穴としたが、共に堆積土中位上部に灰白色粘土を多量に含む層が認められており、位置関係から貯蔵穴であった可能性も考えられる。

【周溝】 検出した部分では、北壁際を除き壁面に沿って周る。断面は「U」字状を呈し、規模は幅15～26cm、深さ7～15cmを測る。

【カマド】 カマド1は北壁東寄り位置し、壁面に直交して付設される。両袖ともSA7によって壊されているが、東袖は残存する先端部から長さ57cm、幅23cm程であったと考えられる。燃焼部の規模は、径30×40cm程の

焼面がみられる事から、奥行き 50cm、幅 40cm 程で皿状に 5cm 程掘り窪められていたと考えられる。奥壁の高さや形状は不明である。煙道部の規模は、長さ 160cm、幅 44cm、深さ 18cm 程と考えられ、底面は煙出し部分に向かって傾斜する。煙出し部分は平面隅丸方形のビット状を呈し、規模は径 43cm、深さ 44cm を測る。カマド 1 の西側に煙道部が検出され、カマド 2 とした。検出された煙道部の規模は、長さ 47cm、幅 20～29cm、深さ 3cm を測る。底面は平坦で、煙出し部分に向かってやや幅広になる。煙出し部分は平面楕円形のビット状を呈し、規模は長軸 36cm、深さ 15cm を測る。

【その他の施設】 床面から土坑 12 基 (P5・6・9・10～15・17・18・20)、貼床面下から 3 基 (P21・22・24) の計 15 基を検出した。床面から検出した 12 基の土坑は中央部に密集しており、すべての土坑が堆積土に炭



| 図録番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真回数 |
|------|------|---------------|-----|------|--------|--------|-------|------|----------------------|-----------------|------|------|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1 | C-20 | SI365 (南側) | 堆積土 | 土器部 | 坏 | (15.6) | — | 3.5 | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ | 口縁～体部ヘラミガキ、黒色処理 | | 26 |
| 2 | C-21 | SI365 | カマド | 土器部 | 坏 | (14.0) | — | 4.0 | 口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ | 口縁部～体部ヘラミガキ | | 26 |
| 3 | C-22 | SI365 (北) | 堆積土 | 土器部 | 甕 | (24.0) | 8.0 | 31.0 | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、底部本装束 | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ | | 26 |
| 図録番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 備考 | 写真回数 | |
| | | | | | | 全長 | 幅 | 厚さ | | | | |
| 4 | N-3 | SI365 (南側) | 堆積土 | 金属製品 | 刀子(先端) | (3.2) | (1.6) | 0.2 | 3.4 | | | 26 |
| 5 | N-4 | SI365 | P14 | 金属製品 | 鎌(軸元) | (5.0) | 2.8 | 0.2 | 31.6 | | | 26 |

第 27 図 SI365 竈穴住居跡出土遺物

化物を含み、特にP11～15・18は焼土ブロックを多量に含む。カマドに関連した施設とも考えられ、貼床面下のP24も同様に焼土ブロックを多量に含む。

【掘り方】 深さ5～19cmで、底面はやや起伏があり南西に向かって緩やかに傾斜する。

【出土遺物】 出土遺物の量は比較的多いが、小破片が多く図示可能なものが少ない。土師器環2点、土師器甕1点、金属製品2点を図示した(第27図)。

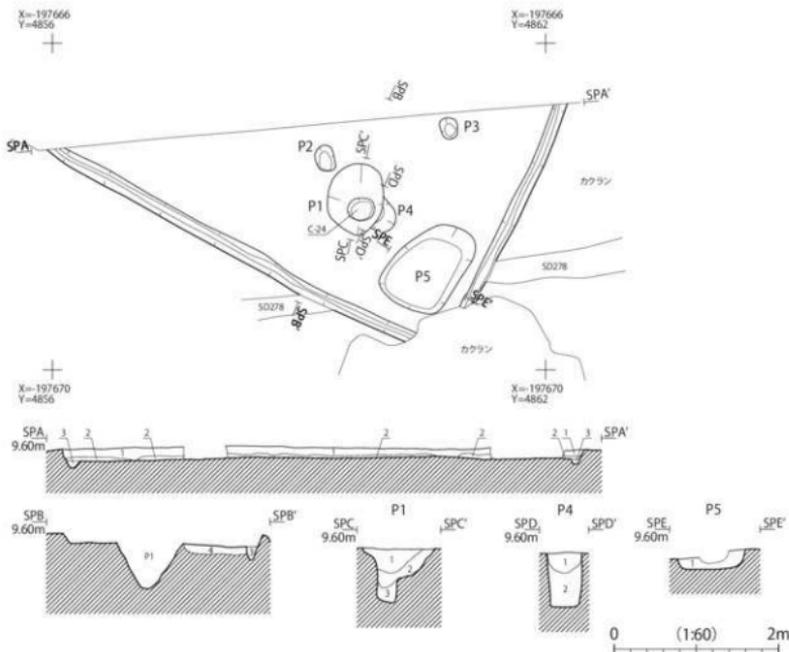
1・2は土師器の環で、体部から口縁部にかけて丸み帯びて外傾する。底部は平底だが、丸みを帯びるため体部と底部の境が判然としない。1・2とも外面の調整は口縁部がヨコナデ、体部がヘラケズリで共通する。内面もヘラミガキで共通するが、2には黒色処理がみられない。3は土師器の甕であり、外反する口縁部の角度が急で、胴部の最大径は上半にきている。胴部の調整は内外面ともにヘラナデで、底部には木葉痕が確認できる。4は刀子の刃部先端と思われる。5は曲刃鎌の刃部で、柄に近い部分と思われる。

【時期】 カマドから出土した第27図-2が直接伴う遺物で、5期(7世紀末葉～8世紀初頭)と考えられる。

SI366 竪穴住居跡(第28・29図)

【位置・確認】 調査区北東隅の6・7グリッドに位置する。基本土層IV層上面で南東部を検出し、北側および南東隅は擾乱によって壊される。

【重複】 SI371、SD278、SM406と重複し、SI371、SM406より新しく、SD278より古い。



第28図 SI366 竪穴住居跡

S366 堆積土柱記表

| 部位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-------|----|----------------|-----|-------------------------|
| 住居堆積土 | 1 | 10YR4/1 黒灰色 | シルト | N層土ブロック20%、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | N層土ブロック40%、炭化物を微量含む。 |
| | 3 | 10YR5/4 に近い黄褐色 | シルト | 暗褐色シルトブロック50%、炭化物を微量含む。 |
| 住居崩り方 | 4 | 10YR5/4 に近い黄褐色 | シルト | 暗褐色シルトブロック約30%、炭化物微量含む。 |

S366 施設堆積土柱記表

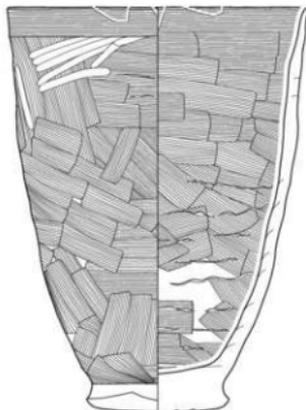
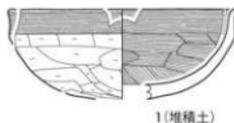
| 遺構名 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|----------------|--------|---------------------------------|
| P1 | 1 | 10YR4/1 黒灰色 | シルト | N層土ブロック20%含む。(柱状取組) |
| | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | N層土約10%、炭化物微量含む。(柱状取組) |
| | 3 | 10YR4/1 黒灰色 | 粘土質シルト | N層土約、炭化物微量含む。 |
| P2 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘質土 | N層土約、炭化物微量含む。 |
| P3 | 1 | 10YR3/3 黒褐色 | シルト | N層土約、炭化物微量含む。 |
| P4 | 1 | 10YR5/4 に近い黄褐色 | シルト | N層土ブロック50%含む。 |
| | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | N層土約40%、炭化物微量含む。 |
| P5 | 1 | 10YR5/4 に近い黄褐色 | シルト | 暗褐色シルトブロック(30~50cm)50%、炭化物微量含む。 |

S366 施設縦断面表

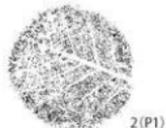
| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 | 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 |
|-----|-----|--------|----|----|-----|-----|---------|----|----|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P1 | 楕円形 | 86×67 | 65 | | P4 | 楕円形 | 36×(20) | 67 | |
| P2 | 楕円形 | 33×23 | 5 | | P5 | 楕円形 | 117×80 | 25 | |
| P3 | 楕円形 | 27×22 | 18 | | | | | | |

【規模・形態】 検出した規模は、長軸（南壁）532cm、短軸（東壁）333cmを測る。平面形状は方形ないし隅丸方形と考えられる。

【方向】 東壁を基準としてN-25°-Eである。



0 (1:3) 10cm



| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真掲載 |
|------|------|-------|-----|-----|----|--------|-----|-------|---------------------------------|-------------------|----|------|
| | | | | | | C径 | 底径 | 高さ | | | | |
| 1 | C-23 | SI366 | 堆積土 | 土器類 | 環 | (13.6) | - | (5.5) | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ | | 26 |
| 2 | C-24 | SI366 | P1 | 土器類 | 甕 | 18.2 | 8.0 | 24.8 | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、一部ヘラミズキ、輪彫、底面木炭痕 | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪彫 | | 26 |

第29図 SI366 竪穴住居跡出土遺物

【堆積土】 4層に分層した。1・2層は住居堆積土、3層は周溝堆積土、4層は掘り方埋土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は13～15cmを測る。

【床面】 2層下面ないしは4層上面を床面とし、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から4基（P1～4）検出した。P1は平面楕円形を呈し、長軸86cm、深さ67cmを測る。規模と位置関係から主柱穴と考えられる。P4はP1と底面をほぼ共有しており、P1の掘り方ないしは造り替えの可能性はある。

【周溝】 検出した部分では壁面に沿って全周する。断面は「U」字状を呈する。規模は、幅10～15cm、深さ15～26cmを測る。

【その他の施設】 掘り方から1基（P5）検出した。P5は平面楕円形で、規模は長軸117cm、深さ25cmを測る。掘り方の一部とも考えられる。

【掘り方】 深さ10cm程で、底面は概ね平坦で壁際がやや掘り窪められる。

【出土遺物】 堆積土から出土した土器がほとんどを占める。土器器環1点、土器器囊1点を図示した（第29図）。1は関東系土器の環である。口縁部がほぼ直立状に立ち上がり、底部は丸底を呈する。口縁部と体部の境には明確な稜を伴い、全体的に器壁がやや厚い。内面に黒色処理はみられない。2はほとんど膨らみを持たずにほぼ直線状に開く甕である。台部を持ち、底部は木葉痕がみられる。口縁部は内外面ヨコナデで、胴部は外面の一部にヘラミガキがみられるものの、それ以外はヘラナデで調整される。

【時期】 P1から出土した土器器囊（第29図-2）から、3期（7世紀初頭～前葉）と考えられる。

SI367 竪穴住居跡（第30～33図）

【位置・確認】 調査区中央部東側の18・22グリッドに位置する。基本土層IV層上面で検出した。攪乱により北西側が失われている。

【重複】 SD282、SM428～430、Pit18・137と重複し、SM428～430より新しく、SD282、Pit18・137より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸320cm、短軸301cmを測る。平面形状は隅丸方形を呈する。

【方向】 東壁面を基準としてN-35°-Wである。

【堆積土】 11層に分層した。1～4層は住居堆積土で、2層は炭化物をやや多く含み、3層から遺物が多く出土している。5層は周溝堆積土、6～9層はカマド関連の堆積土、10・11層は掘り方埋土で、10層は灰白色粘土粒を含む貼床面である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、15～34cmを測る。

【床面】 10層及び11層上面を床面とし、部分的に貼床される。概ね平坦である。

【柱穴】 床面から9基（P1～P9）検出した。P1は東壁南東隅に位置し、規模は長径50cm、深さ43cmを測り、P2は西壁南西隅に位置し、規模は長径42cm、深さ37cmを測る。P3は北東隅東壁際に位置し、規模と位置関係からは主柱穴とも考えられるが、深さが7cmと浅い。P5～7は壁柱穴である。P9はSD282により消失したカマド東袖の先端部にあり、袖芯材の埋設施設と考えられる。

【周溝】 東壁と南壁で壁面に沿って検出した。断面は浅い皿状を呈する。規模は幅13～17cm、深さ5～13cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置すると考えられる。攪乱およびSD282によって壊されるため構造などは不明であるが、燃焼部に長軸32cm、短軸25cmの楕円形の焼面が検出された。

【掘り方】 深さ8～11cmを測り、底面は中央がやや高くなるものの概ね平坦である。

【出土遺物】 完形に近い遺物が、一括廃棄された状態で堆積土から多量に出土した。土器器環5点、土器器鉢1点、

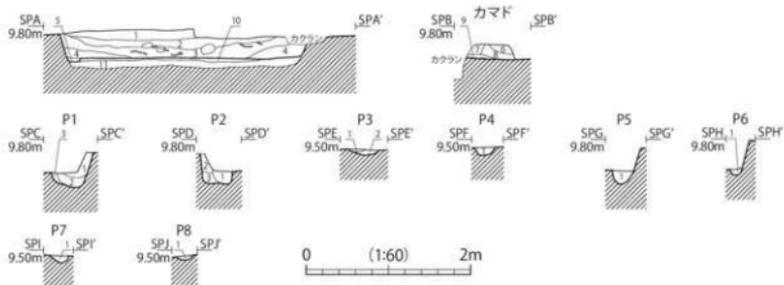
X=197681
Y=4852

X=197681
Y=4857



X=197686
Y=4852

X=197686
Y=4857



SI367 雑糞土計測表

| 深位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-------|----|----------------|--------|--------------------------|
| 住居母積土 | 1 | 10YR4/1 褐色色 | シルト | 炭化物5%含む。 |
| | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 炭化物20%、IV層土ブロック層状に10%含む。 |
| | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土粒40%、炭化物を微量含む。 |
| 雑糞 | 4 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土粒20%含む。 |
| | 5 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土粒60%含む。 |
| カマト | 6 | 10YR4/1 褐色色 | シルト | 塊土可視、炭化物を微量含む。 |
| | 7 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | シルト | 塊土粒20%含む。 |
| | 8 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土粒30%、炭化物10%含む。 |
| | 9 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 塊土粒40%、炭化物10%、灰を微量含む。 |
| 住居層のり | 10 | 10YR4/1 褐色色 | 粘土質シルト | 灰白色粘土中粒2%、炭化物を微量含む。(層状面) |
| | 11 | 10YR4/4 褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック10%、炭化物を微量含む。 |

SI367 雑糞土計測表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 | 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 |
|-----|------|--------|----|----|-----|------|--------|----|----|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P1 | 円形 | 50×46 | 43 | | P6 | 円形 | 18×15 | 8 | |
| P2 | 隅丸方形 | 42×41 | 37 | | P7 | 円形 | 25×22 | 9 | |
| P3 | 楕円形 | 43×39 | 7 | | P8 | 円形 | 22×20 | 5 | |
| P4 | 円形 | 28×26 | 9 | | P9 | 隅丸方形 | 16×13 | 4 | |
| P5 | 円形 | 28×26 | 16 | | | | | | |

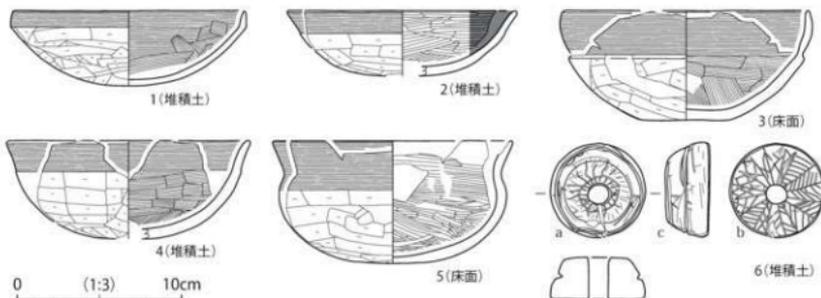
第30図 SI367 竪六住居跡

| 遺構名 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|----------------|--------|-------------------------|
| P1 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 焼土粒を微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/2 灰黒褐色 | 粘土質シルト | 炭化物層下に20%、N層土ブロック10%含む。 |
| | 3 | 10YR4/4 褐色 | 粘土質シルト | N層土ブロック少量、炭化物を微量含む。 |
| P2 | 1 | 10YR4/2 灰黒褐色 | 粘土質シルト | N層土粒10%、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/4 褐色 | シルト | N層土ブロック20%含む。 |
| | 3 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | N層土ブロック少量、炭化物を微量含む。 |
| P3 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | N層土粒10%、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR2/2 黒褐色 | シルト | 炭化物40%、焼土粒10%、灰を微量含む。 |
| P4 | 1 | 10YR4/3 に赤い黄褐色 | シルト | N層土ブロック10%含む。 |
| P5 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化粒を微量含む。 |
| P6 | 1 | 10YR4/3 に赤い黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化粒を微量含む。 |
| P7 | 1 | 10YR4/3 に赤い黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化粒を微量含む。 |
| P8 | 1 | 10YR4/3 に赤い黄褐色 | 粘土質シルト | 焼土粒を微量含む。 |
| P9 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物20%、N層土ブロック10%含む。 |

土師器瓶1点、土師器甕6点、石製品1点を図示した(第31～33図)。

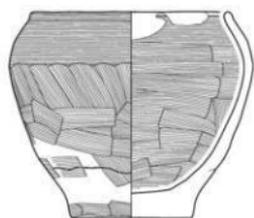
第31図-1は関東系土師器の環である。口縁部が直立状に立ち上がり、底部は丸底を呈する。口縁部と体部の境には明瞭な稜を伴い、内面に黒色処理は施されない。2は有段丸底環で、口縁部が直線状に外傾し、底部は丸底を呈する。内面はヘラミガキで調整され、黒色処理が施される。3は有段丸底環で、体部から口縁部へ半球状に立ち上がるが、口縁部と体部の境に明瞭な段を持ち、底部は平底状を呈する。内面に黒色処理は施されない。4は口縁部が逆「ハ」の字状に開き、体部から底部は半球状を呈する。口縁部と体部の境には明瞭な稜を持つ。内面に黒色処理は施されない。5は口縁部がS字状を呈し、底部は平底気味である。内面はヘラミガキで調整されるが、黒色処理は施されない。

第32図-1は土師器の鉢で、口縁部は内湾し、胴部上半に最大径を持つ。底部は台状に作られ、胴部の調整は内外面ともにヘラナデである。2は小型の甕である。口縁部は外反し、口縁部と胴部の境に段がみられる。底部は

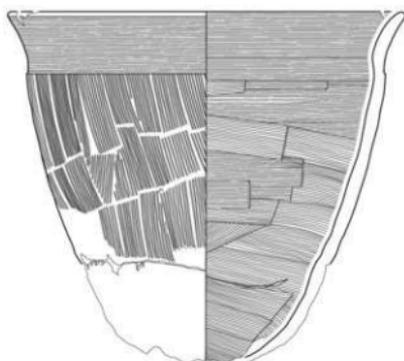


| 図録番号 | 図録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真掲載 |
|------|------|----------|-----|-----|----|--------|-------|-------|-----------------|----------------|-------------|------|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1 | C-25 | S367(a5) | 堆積土 | 土師器 | 環 | (14.2) | - | 4.6 | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ | | 26 |
| 2 | C-27 | S367 | 堆積土 | 土師器 | 環 | (13.8) | - | 4.0 | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ | 口縁部ヘラミガキ、黒色処理 | | 26 |
| 3 | C-29 | S367 | 床面 | 土師器 | 環 | (15.0) | 5.2 | 6.7 | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ | | 26 |
| 4 | C-26 | S367 | 堆積土 | 土師器 | 環 | (14.6) | - | (6.0) | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ | | 26 |
| 5 | C-28 | S367 | 床面 | 土師器 | 環 | (14.4) | - | 7.5 | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ | 口縁部ヘラミガキ | | 26 |
| 図録番号 | 図録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 石材 | 備考 | 写真掲載 |
| | | | | | | 全長 | 幅 | 厚さ | | | | |
| 6 | Id-5 | S367(a5) | 埋積土 | 石製品 | 磨鉢 | 径3.9 | 孔径1.0 | 1.7 | 43.3 | 板状岩 | S383H土遺物と整合 | 26 |

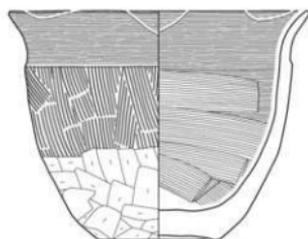
第31図 S1367 竪穴住居跡出土遺物(1)



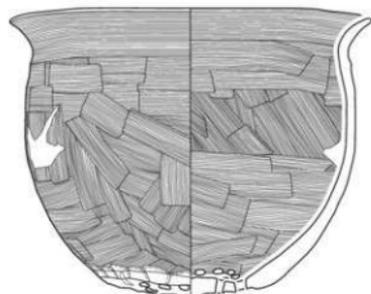
1(堆積土)



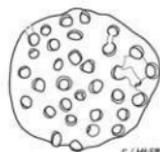
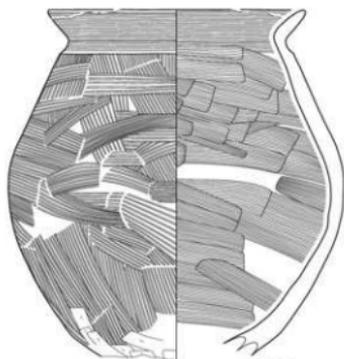
3(堆積土)



2(床面)



4(堆積土)

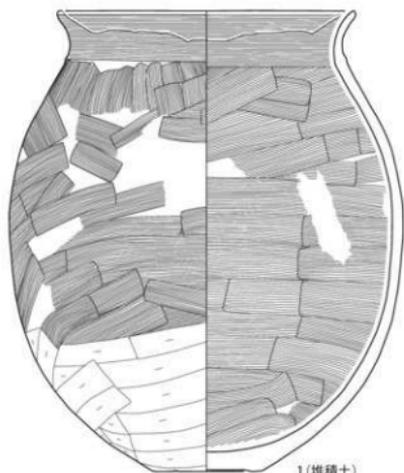


5(堆積土)

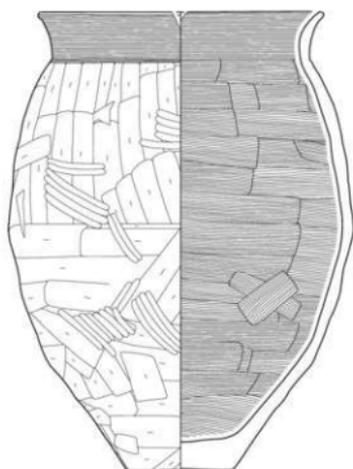
0 (1:3) 10cm

| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 部位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真図版 |
|------|------|-----------|-----|-----|----|--------|-----|--------|---------------------------|--------------------|--------|------|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 高さ | | | | |
| 1 | C-30 | SI367 | 堆積土 | 土器器 | 鉢 | (12.0) | 7.3 | 12.6 | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、輪轆痕 | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ | | 27 |
| 2 | C-31 | SI367(a区) | 床面 | 土器器 | 盤 | (18.0) | 7.0 | 14.0 | 口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、ヘラケズリ、底部木炭痕 | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ | | 27 |
| 3 | C-36 | SI367 | 堆積土 | 土器器 | 盤 | (23.8) | — | (21.5) | 口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、後合面キザミ | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪轆痕 | | 27 |
| 4 | C-33 | SI367 | 堆積土 | 土器器 | 盤 | 15.6 | — | (21.5) | 口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ | | 27 |
| 5 | C-32 | SI367 | 堆積土 | 土器器 | 瓶 | (21.8) | 9.2 | 17.7 | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、胴部下位ユビオサエ | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ | 等孔33ヶ所 | 27 |

第 32 図 SI367 竪穴住居跡出土遺物 (2)



1(堆積土)



2(堆積土)



3(堆積土)

0 (1:3) 10cm

| 図記 番号 | 登録 番号 | 出土 地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真 図版 | |
|----------|----------|----------|-----|-----|----|--------|-----|------|--|--------------------------|----------|----|
| | | | | | | 口径 | 底径 | | | | | 器高 |
| 1 | C-34 | SI367 | 堆積土 | 土師器 | 甕 | (18.0) | 6.6 | 28.2 | 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナ デ→ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナ デ | | 27 |
| 2 | C-37 | SI367 | 堆積土 | 土師器 | 甕 | 17.0 | 6.2 | 28.1 | 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラケ ズリ→一部ヘラミガキ | 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナ デ | | 28 |
| 3 | C-35 | SI367 | 堆積土 | 土師器 | 甕 | (16.2) | 7.2 | 31.0 | 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナ デ→胴部下段ヘラケズリ, 輪 轆直 | 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナ デ, 輪轆直 | | 28 |

第 33 図 SI367 竪穴住居跡出土遺物 (3)

平底を呈し、わずかに木葉痕がみられる。胴部の調整は外面の胴部上半がハケメ、胴部下半がヘラケズリ、内面がヘラナデである。3は逆台形状に開く器形であり、口縁部は外反し、口縁部と胴部の境に段を持つ。底部は丸みを帯びる形状がみられるが、欠損のため詳細は不明である。胴部下半の亀裂に、粘土積み上げ時の刻み目が確認でき、胴部の調整は外面がハケメ、内面がヘラナデである。第33図-1～3は胴部が楕円形を呈する甕である。3点とも口縁部はほぼ同じ角度で外反し、胴部中央に最大径をもつが、頸部と底部の径のバランスが異なる。外面の調整も異なり、1・3はヘラナデで下位がヘラケズリになるのに対し、2はヘラケズリで部分的にヘラミガキが施される。4の口縁部は直線状に外傾し、胴部は中央に最大径を持ち、胴部上半はほぼ直線状に内傾する。口縁部と胴部の境には段がみられる。胴部の調整は外面がハケメ主体となり、内面はヘラナデ、底部は輪積みから剥離する。

第32図-5は小型で多孔の甕である。底部から胴部は半球状を呈し、口縁部は外反する。口縁部と胴部の境にわずかに段がみられる。孔は33箇所穿たれている。調整は内外面ともに口縁部がヨコナデ、胴部がヘラナデである。

第31図-6は石製の紡錘車である。a面には中心の孔から放射状に蛇行した線が何本も描かれ、その上から中心の孔を取り囲む円が描かれる。側面には横位の沈線が巡り、b面には石臼の目のような矢羽状の模様を描かれる。石材は蛇紋岩である。

【時期】 床面から2期と考えられる土師器環(第31図-5)が出土している。一括廃棄されたと考えられる遺物(第31図-1・2・4、第32・33図)がいずれも2b期の様相を呈することから、本住居跡の時期は2b期(6世紀中葉～末葉)と考える。

SI368 竪穴住居跡(第34・35図)

【位置・確認】 調査区中央部13・14・17・18グリッドに位置する。基本土層IV層上面で検出し、南東隅は攪乱により失われている。

【重複】 SI372と重複し、それより新しい。

【規模・形態】 規模は長軸295cm、短軸292cmを測る。平面形状は隅丸方形である。

【方向】 カマド煙道部を基準としてN-30°-Wである。

【堆積土】 20層に分層した。1～7層は住居堆積土で、2層は炭化物・焼土ブロックを多く含み、5層は位置関係からカマドに関連した堆積土の可能性もある。8・9層は周溝堆積土、10～18層はカマド関連の堆積土で、17層は焼土層、18層は焼土を多く含むカマド掘り方の埋土である。19・20層は掘り方埋土である。

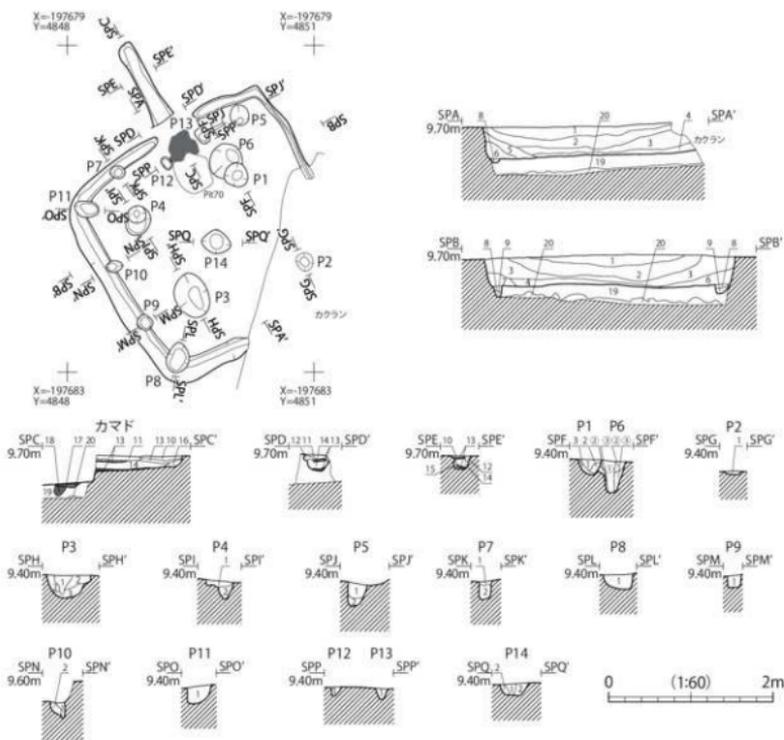
【壁面】 直線的にやや外傾して立ち上がる。壁高は、33cm～38cmを測る。

【床面】 19層上面を床面とする。起伏がみられ、中央がやや高くなる。

【柱穴】 床面で12基(P1・3～13)、攪乱底面で1基(P2)の計13基を検出した。P1～4は、位置関係から主柱穴と考えられる。規模は長径23～55cm、深さは4～29cmを測る。P6の規模は長径43cm、深さ38cmを測り、位置関係からP1以前の主柱穴であった可能性が考えられる。P7～11は壁柱穴と考えられ、壁面から周溝にかけて位置する。規模は19～30cm、深さ16～23cmを測る。P12・13はカマド両袖先端部と推定される場所に位置し、袖芯材の埋設施設と考察される。

【周溝】 検出した部分では、北壁のカマド周辺を除き壁面に沿って全周する。断面は「U」字状を呈し、規模は幅5～15cm、深さ11～24cmを測る。

【カマド】 北壁中央東寄りに位置し、壁面に直交して付設される。芯材を埋設したと考えられるP12・13の位置関係から、長さ30cm程の袖が「ハ」字状に壁面に付設されていたと推察される。また燃焼部の規模は、奥行き30cm、幅40cm程であったと考えられ、径25×30cm程の焼面がみられる。床上20cmの北壁面で煙道部が検出されており、奥壁は直線的に立ち上がっていたと考えられる。検出した煙道部の規模は、長さ105cm、幅20



S1368 増積土層記表

| 部位 | 層位 | 土色 | 土質 | 備考 |
|--------|----------------|----------------|-----|--|
| 住居増積土 | 1 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | IV層土粒20%、炭化物0%含む。 |
| | 2 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 炭化物、焼土ブロックを多量に含む。 |
| | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土粒50%、炭化物を微量含む。 |
| | 4 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土粒50%、炭化物を微量含む。 |
| | 5 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 焼土ブロック20%、IV層土中粒、炭化物を微量含む。 |
| 周溝 | 6 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土粒30%、炭化物を微量含む。 |
| | 7 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土粒30%、黒褐色シルトブロック(5~10mm)20%、炭化物を微量含む。 |
| | 8 | 10YR5/4 に近い黄褐色 | シルト | IV層土粒30%、炭化物を微量含む。 |
| カマド | 9 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | 焼土粒、炭化物を微量含む。 |
| | 10 | 10YR3/1 黒褐色 | シルト | IV層土ブロック(5~20mm)30%、炭化粉を微量含む。 |
| | 11 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | 焼土粒、炭化物を微量含む。 |
| | 12 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | IV層土中粒10%、焼土中粒を微量含む。 |
| | 13 | 10YR2/3 黒褐色 | シルト | 焼土主体。 |
| | 14 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土粒30%、焼土粒10%、炭化物を微量含む。 |
| | 15 | 10YR2/2 黒褐色 | シルト | 焼土主体、IV層土ブロック(5~10mm)を微量含む。 |
| | 16 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 焼土ブロック20%、炭化粉を微量含む。 |
| 17 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | 焼土。 | |
| カマド掘り方 | 18 | 7.5YR4/3 褐色 | シルト | 焼土主体、IV層土中粒10%含む。 |
| 住居掘り方 | 19 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | IV層土ブロック(10~30mm)15%、焼土粒を微量含む。 |
| | 20 | 10YR4/4 褐色 | シルト | 焼土粒、炭化粉を微量含む。 |

第 34 図 SI368 竪穴住居跡

S068 雑穀堆積土目録表

| 遺構名 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|----------------|-------|-----------------------------|
| P1 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/1 黒灰色 | シルト | N質土ブロック60%含む。 |
| | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N質土ブロック10%含む。 |
| P2 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | N質土ブロック50%含む。 |
| | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N質土粒40%含む。 |
| P3 | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N質土粒40%含む。 |
| | 3 | 10YR6/6 明黄褐色 | 砂質シルト | M質土粒50%含む。 |
| | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N質土粒30%、炭化物微量含む。 |
| P4 | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N質土粒50%、炭化物微量含む。 |
| | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N質土粒30%、炭化物少量含む。 |
| P5 | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 粘質土ブロック50%、炭化物微量含む。 |
| | ① | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N質土粒50%、炭褐色シルト10%、炭化物微量含む。 |
| | ② | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N質土粒40%含む。 |
| P6 | ③ | 10YR6/6 明黄褐色 | 砂質シルト | M質土粒50%含む。 |
| | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N質土粒60%含む。 |
| P7 | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N質土粒50%、炭化物微量含む。 |
| | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N質土ブロック粒30%含む。 |
| P8 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N質土ブロック30%含む。 |
| P9 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N質土ブロック30%含む。 |
| P10 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N質土ブロック40%含む。 |
| | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N質土ブロック30%、炭化粘重量含む。 |
| P11 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N質土ブロック50%含む。 |
| P12 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N質土30%、粘土ブロック10%含む。 |
| P13 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N質土ブロック20%含む。 |
| P14 | 1 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | シルト | N質土ブロック50%含む。 |
| | 2 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | シルト | 黒褐色シルトブロック(10m)30%、炭化物微量含む。 |

S1368 雑穀観察表

| 遺構名 | 平面形 | 縦横(cm) | | 備考 | 遺構名 | 平面形 | 縦横(cm) | | 備考 |
|-----|-----|---------|----|----|-----|------|--------|----|----|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P1 | 円形 | 30×29 | 20 | | P8 | 楕円形 | 30×28 | 19 | |
| P2 | 円形 | 23×20 | 4 | | P9 | 圓丸方形 | 20×17 | 16 | |
| P3 | 楕円形 | 55×40 | 29 | | P10 | 楕円形 | 20×15 | 20 | |
| P4 | 楕円形 | 37×30 | 24 | | P11 | 楕円形 | 30×20 | 23 | |
| P5 | 円形 | 25×23 | 30 | | P12 | 楕円形 | 18×12 | 5 | |
| P6 | 円形 | 43×(27) | 38 | | P13 | 楕円形 | 20×15 | 14 | |
| P7 | 円形 | 19×15 | 23 | | P14 | 圓丸方形 | 30×28 | 15 | |

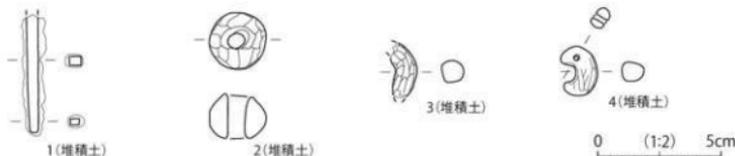
～26cmで煙出し部分に向かってやや幅が狭くなり、深さは18cmを測る。底面は、煙出し部分に向かって僅かに傾斜して立ち上がる。

【その他の施設】床面から土坑1基(P14)を検出した。床面中央に位置し、規模は径30cm、深さ15cmを測る。

【掘り方】深さ13～23cmを測る。底面は起伏に富み、西側へ傾斜する。

【出土遺物】堆積土から土師器や須恵器が少量出土したが、図示できるものはない。金属製品1点、土製品3点を図示した(第35図)。1は断面が長方形を呈し棒状であることから、棒状鉄製品とした。長頸罐の某部の可能性がある。2は土玉、3・4は土製勾玉である。

【時期】出土遺物から時期の決定はできなかったが、重複関係にあるS1372より新しいため、2a期(6世紀初頭～前葉)以降と考えられる。



| 図号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 備考 | 写真掲載 |
|----|------|-------------|-----|------|-------|--------|------|-------|-------|-------|------|
| | | | | | | 全長 | 幅 | 厚さ | | | |
| 1 | N-5 | SE368(a)(c) | 堆積土 | 金属製品 | 棒状鉄製品 | 4.8 | 0.5 | 0.4 | 5.4 | | 28 |
| 2 | P-5 | SE368(d)(c) | 堆積土 | 土製品 | 土玉 | 1.8 | 径2.3 | 孔径0.7 | 8.2 | ナ子調整 | 28 |
| 3 | P-4 | SE368(d)(c) | 堆積土 | 土製品 | 勾玉 | (2.2) | 径0.9 | | 1.8 | ナ子調整 | 28 |
| 4 | P-6 | SE368(a)(c) | 堆積土 | 土製品 | 勾玉 | 2.0 | 径0.9 | 孔径0.2 | 1.6 | ミヤケ調整 | 28 |

第35図 S1368 竪穴住居跡出土遺物

SI369 竪穴住居跡 (第 36 ~ 38 図)

【位置・確認】 調査区北端西側の 8・9・12・13 グリッドに位置する。重複遺構により南壁の大半は失われており、北側は調査区北壁外へ延びる。基本土層IV層上面で検出した。

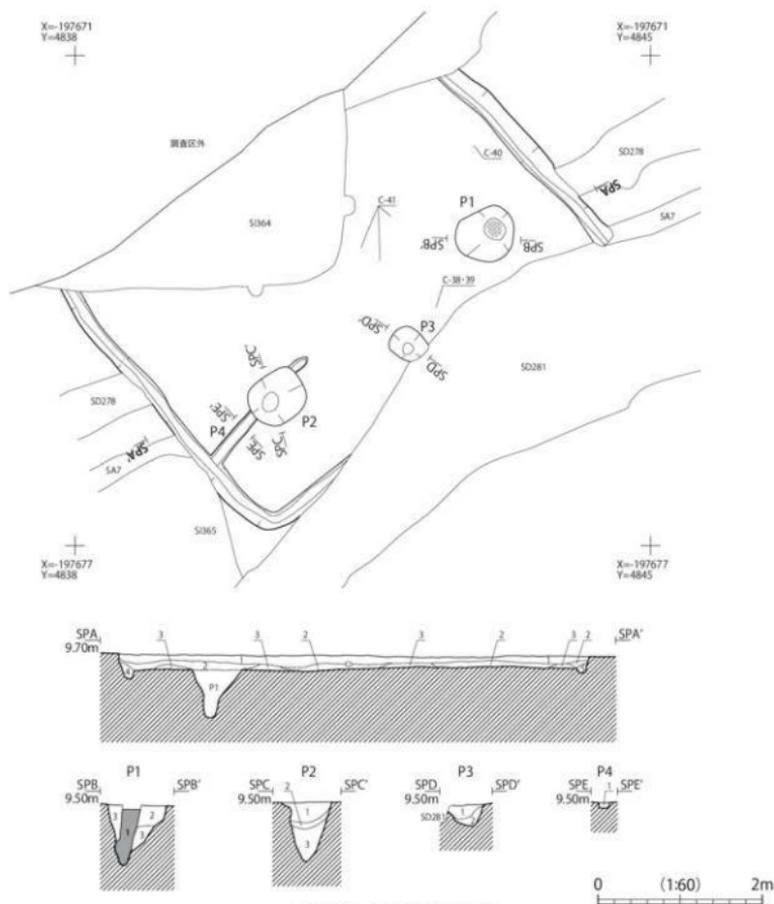
【重複】 SI364・365・382、SA7、SD278・281 と重複し、SI382 より新しく、他の遺構より古い。

【規模・形態】 検出された規模は、長軸 566cm、短軸 391cm を測る。平面形状は方形と考えられる。

【方向】 東壁面を基準として $N - 39^{\circ} - W$ である。

【堆積土】 5 層に分層した。1 ~ 3 層は住居堆積土、4・5 層は周溝堆積土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は 9cm ~ 21cm を測る。



第 36 図 SI369 竪穴住居跡

SI369 増築土柱記表

| 階位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|------|----|----------------|--------|------------------------------|
| 自然層土 | 1 | 10YR4/3 にふい黄褐色 | シルト | IV層土小粒20%、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/1 黒褐色 | シルト | IV層土ブロック(5mm程度)15%、炭化物を微量含む。 |
| | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土小粒40%含む。 |
| 周溝 | 4 | 10YR4/3 にふい黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む。 |
| | 5 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土小粒15%含む。 |

SI369 施設観察表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | | 備考 |
|-----|------|--------|----|--|----|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | | |
| P1 | 円形 | 70×70 | 70 | | |
| P2 | 圓丸方形 | 71×60 | 68 | | |

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | | 備考 |
|-----|-------|-----------|----|--|------|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | | |
| P3 | 圓丸長方形 | 43×37 | 26 | | |
| P4 | 長楕円形 | 168×12×17 | 7 | | 間仕切溝 |

SI369 施設増築土柱記表

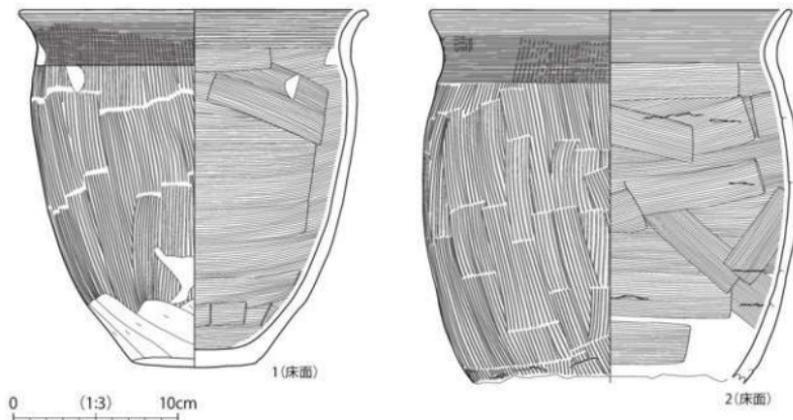
| 遺構名 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|----------------|--------|---------------------------|
| P1 | 1 | 10YR4/4 褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック30%、炭化物微量含む。(柱痕跡) |
| | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック10%含む。 |
| | 3 | 10YR4/3 にふい黄褐色 | シルト | IV層土ブロック40%含む。 |
| P2 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土粒10%、炭化物5%含む。(柱痕跡) |
| | 2 | 10YR4/3 にふい黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物30%含む。 |
| | 3 | 10YR4/1 灰褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック40%含む。 |
| P3 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土粒10%、炭化物微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック20%含む。 |
| P4 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土ブロック20%含む。 |

【床面】 基本土層IV層面を床面とする。検出した部分では、わずかに起伏があるが概ね平坦である。

【柱穴】 床面から2基 (P1・2) を検出した。P1・2 は規模や位置関係から主柱穴と考えられる。規模は、長径70cm、深さ68～70cmと類似しており、P1 では径21cmの柱痕跡および底面に径20cmの変色範囲が確認された。

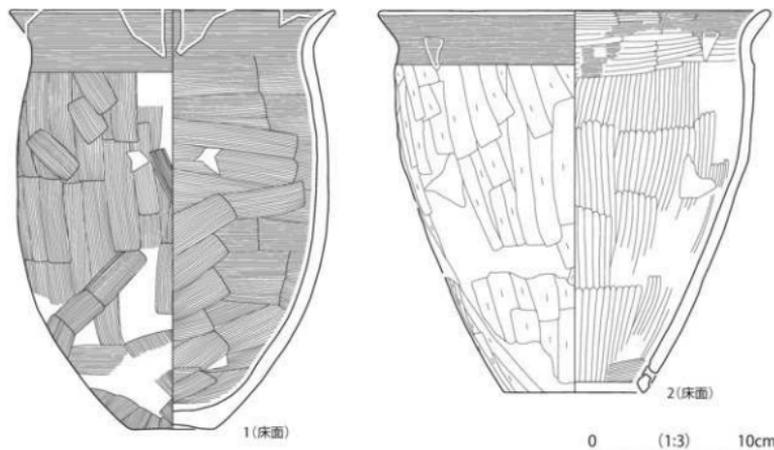
【周溝】 検出した部分では、壁面に沿って全周する。断面は「U」字状を呈し、規模は幅10～20cm、深さ6～11cmを測る。

【その他の施設】 床面から土坑1基 (P3)、溝跡1条 (P4) を検出した。P3 は平面圓丸長方形を呈し、規模は長



| 図録番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真枚数 |
|------|------|-------|----|-----|----|--------|-----|--------|-----------------------------|------------------------|----|------|
| | | | | | | C1E | 底径 | 高さ | | | | |
| 1 | C-38 | SI369 | 床面 | 土師器 | 甕 | 21.0 | 7.5 | 21.9 | □縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ→胴部下位ヘラケズリ | □縁部ハケメ、胴部ヘラナデ | | 28 |
| 2 | C-39 | SI369 | 床面 | 土師器 | 甕 | (22.0) | - | (22.9) | □縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ、輪軸痕 | □縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪軸痕 | | 28 |

第37図 SI369 竪穴住居跡出土遺物 (1)



| 図版 番号 | 発掘 番号 | 出土 地点 | 層位 | 種類 | 器種 | 法線(cm) | | | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真 図版 |
|----------|----------|----------|----|-----|----|--------|-----|------|---------------------|--------------------------------|---------------------------------|----------|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 高さ | | | | |
| 1 | C-40 | SI369 | 床面 | 土師器 | 甕 | 19.6 | 5.0 | 25.7 | 口縁部ココナデ、胴部ヘラナ デ | 口縁部ココナデ、胴部ヘラナ デ | | 29 |
| 2 | C-41 | SI369 | 床面 | 土師器 | 甕 | (23.5) | 8.6 | 23.4 | 口縁部ココナデ、胴部ヘラナ 式リ | 口縁部ココナデ・ヘラミガキ、 胴部ヘラナデ・ヘラミガキ | 胴部下位封鎖する2ヶ所の 穿孔(径0.4cm)あり、単孔 | 29 |

第38図 SI369 竪穴住居跡出土遺物(2)

軸45cm、深さ26cmを測る。南壁際のはぼ中央に位置することから、入口施設の可能性が考えられる。P4は西壁からP2へ延びる断面箱状の間切り溝と考えられ、規模は長さ168cm、幅12~17cm、深さ7cmを測る。

【出土遺物】床面からの遺物が比較的多く出土した。土師器甕1点、土師器甕3点を図示した(第37・38図)。第37図-1・2は甕で、胴部外面がハケメ、内面はヘラナデで調整され、1は口縁部内面にハケメが施されている。第38図-1は甕で、胴部内外面ともヘラナデ調整が主体である。いずれの甕も、胴部が砲弾形で口縁部が外反する。2は甕であり、胴部下半は直線状に外傾して立ち上がり、胴部上半は円状を呈し、口縁部は外反する器形である。内面の調整はヘラミガキが主体である。胴部下位の2箇所に孔が穿たれており、径は0.4cmを測る。

【時期】図示した床面出土の土師器甕・甕4点が直接伴う遺物で、5期(7世紀末葉~8世紀初頭)以前と考えられる。

SI370 竪穴住居跡(第39・40図)

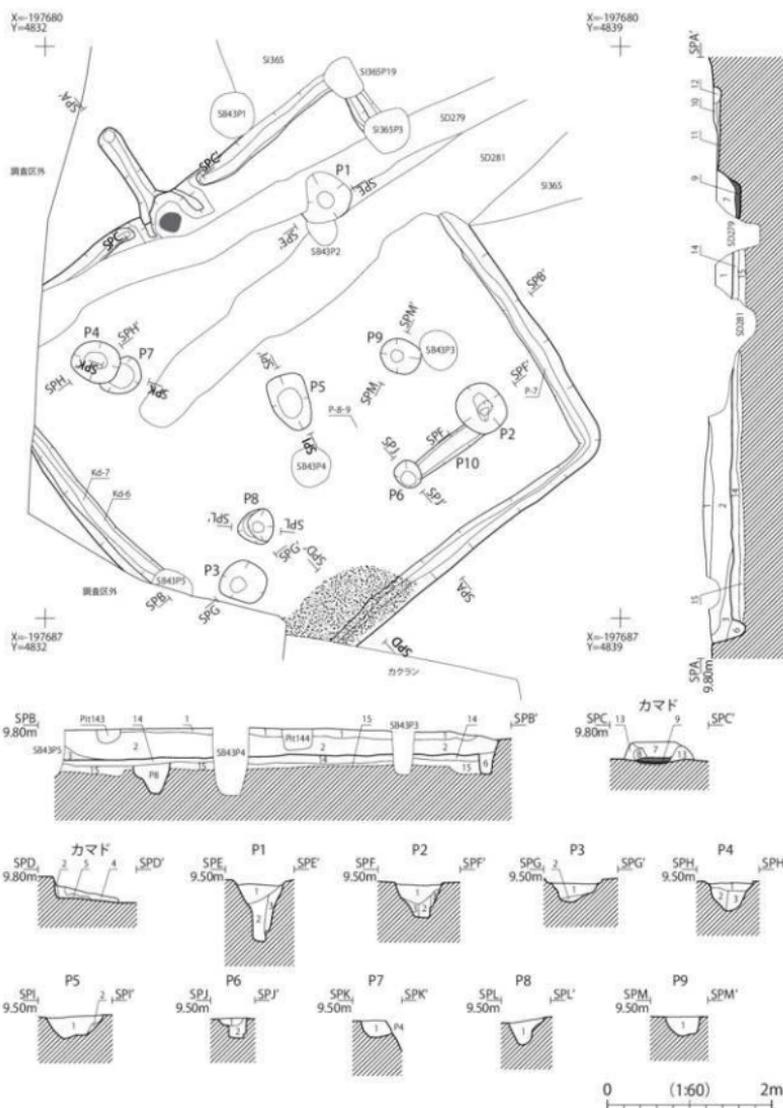
【位置・確認】調査区南西隅の16・20グリッドに位置する。基本土層IV層上面で確認し、北西隅および南西隅は調査区西壁外へ延びる。

【重複】SI365・377~379、SB43、SD279・281と重複し、SI377~379より新しく、他の遺構より古い。

【規模・形態】検出した規模は長軸594cm、短軸579cmを測る。平面形状は方形ないし隅丸方形である。

【方向】カマド煙道部を基準としてN-34°-Wである。

【堆積土】15層に分層した。1~3層は住居堆積土、4・5層は南壁西側にみられる焼土範囲の堆積土、6層は周溝堆積土である。7~13層はカマド関連の堆積土で、7層は天井崩落土、9層は燃焼部、10~12層は煙道部堆積土、



第 39 図 SI370 竪穴住居跡

S370 埋積土誌記表

| 部位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 | |
|-------|-------|----------------|----------------|-----------------------------|--------------------------|
| 自然埋積土 | 1 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | IV 類土粒 10%、焼土粒、炭化物を微量含む。 | |
| | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV 類土ブロック 20%、炭化物を微量含む。 | |
| | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV 類土中粒 10%、焼土粒少量、炭化物を微量含む。 | |
| 焼土 | 4 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 焼土粒 20%、炭化物 10% 含む。 | |
| | 5 | 10YR3/1 黒褐色 | 粘土質シルト | 炭化物 60%、焼土粒 10% 含む。 | |
| カマド | 6 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV 類土小粒 30% 含む。 | |
| | 7 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 焼土粒 30%、炭化物を微量含む。 | |
| | 8 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 焼土粒 30%、炭化物を微量含む。 | |
| | 9 | 10YR4/1 黄褐色 | シルト | 焼土粒 20%、炭化物を微量含む。 | |
| | 10 | 10YR3/1 黒褐色 | シルト | グライ化。 | |
| | 11 | 10YR4/1 黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む、グライ化。 | |
| | 12 | 10Y3/1 オリーブ黒色 | シルト | 炭化物中粒 30% 含む、グライ化。 | |
| | カマド袖 | 13 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | 灰白色粘土を帯びるに 20% 含む。(面床面) |
| | 住居掘り方 | 14 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV 類土粒 10%、焼土粒、炭化物を微量含む。 |
| | | 15 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV 類土粒 10%、焼土粒、炭化物を微量含む。 |

S370 施設埋積土誌記表

| 遺構名 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|----------------|--------|------------------------------|
| P1 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | IV 類土ブロック、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV 類土粒 30%、炭化物を微量含む。 |
| | 3 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | 粘土質シルト | IV 類土中粒を微量含む。 |
| P2 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物、IV 類土粒 10% 含む。(住居面) |
| | 2 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | IV 類土ブロック 10% 含む。 |
| | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | IV 類土粒少量含む。 |
| P3 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 焼土粒少量、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | IV 類土粒 10% 含む。 |
| P4 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物少量含む。 |
| | 2 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | IV 類土ブロック 10% 含む。 |
| | 3 | 10YR4/1 黄褐色 | 粘土質シルト | IV 類土粒 15%、炭化物を微量含む。 |
| P5 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV 類土ブロック 10%、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/1 黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む。 |
| P6 | 1 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | IV 類土ブロック 60%、焼土粒、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | IV 類土粒 10%、白色粘土ブロック、炭化物少量含む。 |
| P7 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | IV 類土ブロック少量、焼土粒を微量含む。 |
| P8 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | IV 類土粒 20% 含む。 |
| P9 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | IV 類土ブロック 70% 含む。 |
| P10 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | IV 類土中粒、炭化物を微量含む。 |

S370 施設構築表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 |
|-----|-----|--------|----|----|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P1 | 円形 | 62×62 | 71 | |
| P2 | 円形 | 63×57 | 63 | |
| P3 | 楕円形 | 54×49 | 47 | |
| P4 | 円形 | 57×51 | 53 | |
| P5 | 楕円形 | 70×45 | 26 | |

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 |
|-----|------|------------|----|------|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P6 | 円形 | 32×32 | 24 | |
| P7 | 円形 | 46×(20) | 21 | |
| P8 | 楕円形 | 43×43 | 28 | |
| P9 | 円形 | 49×42 | 23 | |
| P10 | 長楕円形 | (77)×25~32 | 7 | 掘り切溝 |

13 層はカマド構築土である。14・15 層は掘り方埋土で、14 層は灰白色粘土を板状に含む粘床面である。

【壁面】直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、26～35cm を測る。

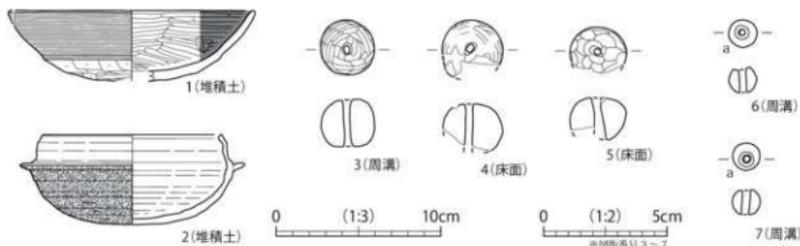
【床面】検出された部分では 14 層上面を床面とする。粘床である。緩やかな起伏がみられるが、概ね平坦である。

【柱穴】床面から 4 基 (P1～4) を検出した。いずれも、規模や位置関係から主柱穴と考えられる。規模は長径 54～63cm、深さ 47～71cm を測る。

【周溝】検出した部分では、北壁のカマド周辺を除き壁面に沿って全周する。断面は「U」字状で、規模は幅 18～21cm、深さ 15～21cm を測る。

【カマド】北壁中央に、壁面に直交して付設される。袖は北壁面に対し「ハ」字状に付設され、検出した袖の規模は、東袖は長さ 54cm、幅 34cm、西袖は長さ 31cm、幅 19cm を測る。燃焼部の規模は、奥行き 36cm、幅 32～42cm、奥壁高 28cm を測る。燃焼部に径 26cm 程の焼面がみられ、奥壁は直線的に外傾して立ち上がる。煙道部の規模は、長さ 104cm、幅 23～27cm、深さ 9cm を測り、底面はほぼ平坦である。煙出し部分は径 20cm、深さ 10cm を測り、ピット状の掘り込みは持たない。

【その他の施設】床面から土坑 2 基 (P5・6)、粘床面下から土坑 3 基 (P7～9)、溝跡 1 条 (P10) の、総数 6 基を検出した。P5 は床面のほぼ中央に位置し、平面楕円形を呈する。規模は長軸 70cm、深さ 26cm を測り、底



| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真掲載 |
|------|------|-----------|-----|-----|----|--------|----|-----|--------------------------|-----------------|----|------|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1 | C-42 | SI370 | 堆積土 | 土師器 | 杯 | (14.8) | - | 4.3 | 口縁部コナデ、体部ヘラケズリ | 口縁～体部ヘラミガキ、黒色処理 | | 29 |
| 2 | E-4 | SI370(a)C | 堆積土 | 須恵器 | 杯 | (10.8) | - | 5.5 | 口縁調整、体部口縁ヘラケズリ、フタより下位自然割 | 口縁調整 | | 29 |

| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 備考 | 写真掲載 |
|------|------|-------|-----|-----|----|--------|------|-------|-------|-------|------|
| | | | | | | 全長 | 幅 | 厚さ | | | |
| 3 | P-7 | SI370 | 河溝 | 土製品 | 土玉 | 1.9 | 径2.2 | 孔径0.3 | 10.4 | ミガキ調整 | 29 |
| 4 | P-8 | SI370 | 床面 | 土製品 | 土玉 | 1.1 | 径2.5 | 孔径0.3 | 8.8 | ミガキ調整 | 29 |
| 5 | P-9 | SI370 | 床面 | 土製品 | 土玉 | 1.7 | 径2.3 | 孔径0.3 | 5.9 | ナデ調整 | 29 |
| - | P-14 | SI370 | 堆積土 | 土製品 | 土玉 | 2.0 | 径2.4 | 孔径0.3 | 11.4 | ミガキ調整 | 29 |

| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 石材 | 備考 | 写真掲載 |
|------|------|-------|----|-----|----|--------|------|-------|-------|-----|----|------|
| | | | | | | 全長 | 幅 | 厚さ | | | | |
| 6 | Ka6 | SI370 | 河溝 | 石製品 | 丸玉 | 1.1 | 径1.2 | 孔径0.3 | 1.8 | 蛇紋岩 | 29 | |
| 7 | Ka7 | SI370 | 河溝 | 石製品 | 丸玉 | 1.1 | 径1.1 | 孔径0.3 | 1.8 | 蛇紋岩 | 29 | |

第40図 SI370 竪穴住居跡出土遺物

面は起伏がみられる。P6は平面円形で、規模は径33cm、深さ24cmを測り、堆積土に白色粘土ブロックを含む。P10はP2～P6間の間仕切り溝と考えられ、規模は幅25～32cm、深さ7cm程を測る。断面は浅い皿状を呈す。**【掘り方】** 深さ3～15cmを測る。底面には起伏がみられ、壁面に沿って一段掘り窪められる。

【出土遺物】 堆積土から多量の遺物が出土しており、床面や掘り方から土玉や丸玉などが出土している。土師器杯1点、須恵器杯1点、土玉3点、丸玉2点を図示した(第40図)。1は有段丸底形で、口縁部がほぼ直線状に外傾し、底部は丸底を呈する。内面の調整はヘラミガキであり、黒色処理が施される。2は鈎付きの杯で、口径は10.8cm、器高は5.5cmを測る。また、鈎から口唇部までの立ち上がり高は1.8cm、口縁部の立ち上がり角度は垂直方向を0°とした場合、22°内傾する。3～5は土玉であり、径が2.2～2.5cmとほぼ同じ大きさである。調整は3・4がミガキ、5がナデである。6・7は石製の丸玉であり、径1.1～1.2cmとこちらもほぼ同じ大きさである。石材は蛇紋岩である。

【時期】 時期を決定できる遺物は出土していない。重複関係にあるSI378・379が3期(7世紀初頭～前葉)であることから3期以降と考えられる。

SI371A 竪穴住居跡(第41・42図)

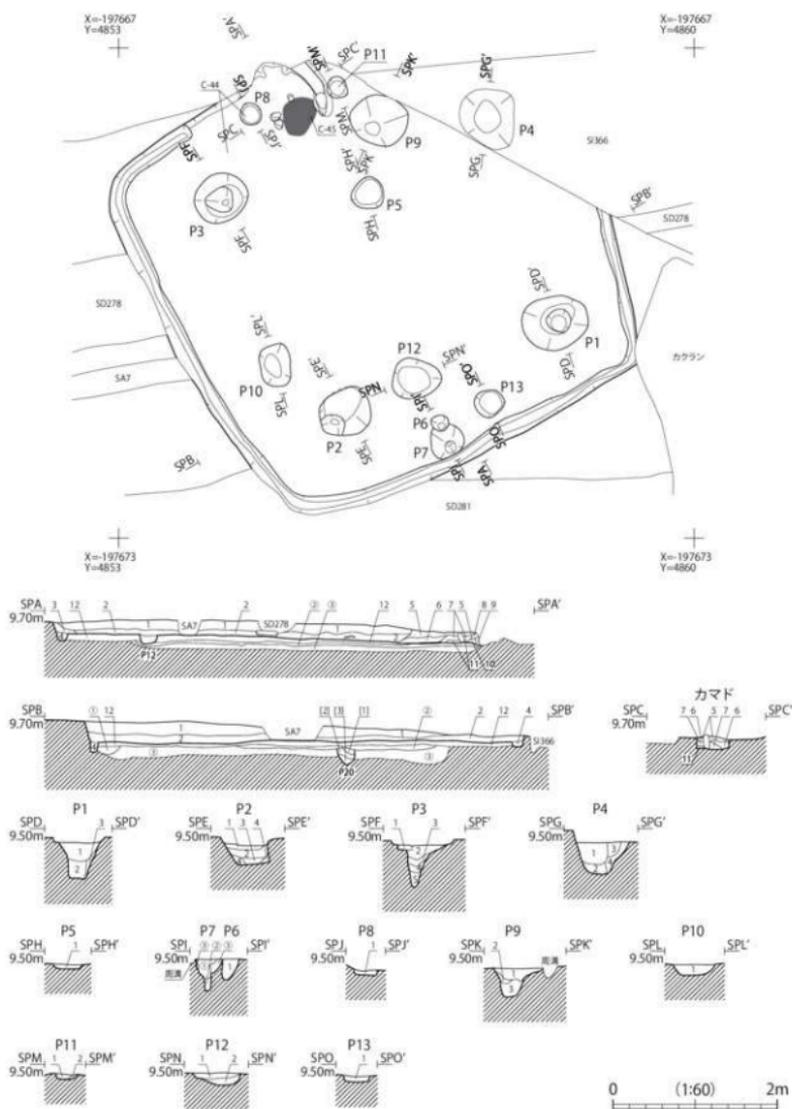
【位置・確認】 調査区北端東寄りの6・10グリッドに位置する。基本土層IV層上部で検出したが、掘乱により削平を受け上部が一部失われている。

【重複】 SI366・371B、SA7、SD278・281、SM417・418・420と重複し、SI371Bより新しく、他の遺構より古い。

【規模・形態】 検出された部分での規模は、長軸536cm、短軸532cmを測る。平面形状は隅丸方形である。

【方向】 カマドを基準としてN-28°-Wである。

【堆積土】 12層に分層した。1～3層は住居堆積土で、3層は炭化物を多く含む。4層は周溝堆積土、5～11層



第 41 図 SI371A 竪穴住居跡

S071A 堆積土層記表

| 部位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-------|----|----------------|-----|----------------------------------|
| 住居堆積土 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | B層土ブロック(5~50mm)30%、炭化物微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | B層土ブロック(5~50mm)10%、炭化物微量含む。 |
| | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | B層土約40%、炭化物を微量含む。 |
| 周溝 | 4 | 10YR3/3 に近い黄褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 |
| | 5 | 10YR3/4 に近い黄褐色 | シルト | B層土約50%、炭化物微量含む。(天井崩落土) |
| カマド | 6 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 焼土約30%、炭化物を微量含む。 |
| | 7 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | |
| | 8 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | |
| | 9 | 10YR6/6 明黄褐色 | シルト | B層土約30%、焼土約、炭化物を微量含む。 |
| | 10 | 10YR6/6 明黄褐色 | シルト | B層土約50%、炭化物を微量含む。 |
| | 11 | 7.5YR3/1 黒褐色 | シルト | 炭化物10%含む。 |
| 住居崩方 | 12 | 10YR4/1 灰褐色 | シルト | B層土ブロック(5~20mm)40%、炭化物微量含む。(壁跡面) |

S071A 施設堆積土層記表

| 遺構名 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|----------------|--------|---|
| P1 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘質シルト | B層土ブロック30%含む。(柱状取組) |
| | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘質シルト | 炭化物を微量含む。(柱跡跡) |
| | 3 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | 粘質シルト | B層土ブロック40%含む。 |
| P2 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘質シルト | B層土ブロック30%、炭化物微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘質シルト | B層土ブロック40%含む。 |
| | 3 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘質シルト | B層土約微量含む。 |
| P3 | 4 | 10YR3/2 に近い黄褐色 | シルト | B層土ブロック10%含む。 |
| | 1 | 10YR2/3 に近い黄褐色 | 粘質シルト | 炭化物微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘質シルト | B層土ブロック20%、焼土約、炭化物微量含む。一部グライ化。 |
| P4 | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘質シルト | B層土ブロック30%、炭化物を微量含む。 |
| | 4 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘質シルト | B層土約10%含む。 |
| | 5 | 10YR4/1 灰褐色 | 粘質シルト | B層土約を微量含む。 |
| P5 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | B層土ブロック40%含む。 |
| | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | B層土ブロック50%、炭化物を微量含む。 |
| | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | B層土ブロック30%含む。 |
| | 4 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | B層土ブロック30%、炭化物を微量含む。 |
| P6 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | B層土ブロック、焼土ブロック20%、炭化物10%含む。 |
| P7 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | B層土約40%、炭化物を微量含む。 |
| P7 | ① | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | B層土約15%、炭化物を微量含む。 |
| | ② | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | B層土約50%含む。 |
| P8 | ③ | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | B層土ブロック60%、炭化物を微量含む。 |
| | 1 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | 黒褐色シルトブロック2%含む。 |
| P9 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | B層土ブロック(10~50mm)20%、焼土約10%、炭化物を微量含む。グライ化。 |
| | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | B層土ブロック30%含む。 |
| | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | B層土ブロック20%、炭化物微量含む。 |
| P10 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | B層土ブロック(10~20mm)50%、焼土約、炭化物を微量含む。 |
| | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 焼土ブロック(10~20mm)40%、B層土ブロック少量、炭化物微量含む。 |
| P11 | 2 | 10YR4/1 灰褐色 | シルト | B層土ブロック30%、焼土約、炭化物微量含む。 |
| | 1 | 10YR4/1 灰褐色 | シルト | B層土ブロック15%、炭化物微量含む。 |
| P12 | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | B層土ブロック30%、炭化物微量含む。 |
| P13 | 1 | 10YR4/4 褐色 | シルト | B層土ブロック50%、焼土ブロック、炭化物微量含む。 |

S071A 施設断面表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 | 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 |
|-----|-----|---------|----|----|-----|-------|--------|----|----|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P1 | 扇形 | 80×65 | 62 | | P8 | 円形 | 26×25 | 7 | |
| P2 | 不整形 | 65×58 | 71 | | P9 | 円形 | 70×60 | 35 | |
| P3 | 円形 | 65×63 | 74 | | P10 | 楕円長方形 | 50×38 | 13 | |
| P4 | 不整形 | 70×65 | 40 | | P11 | 円形 | 27×25 | 8 | |
| P5 | 円形 | 40×40 | 5 | | P12 | 不整形 | 60×52 | 15 | |
| P6 | 円形 | 20×20 | 26 | | P13 | 円形 | 35×33 | 7 | |
| P7 | 不整形 | (32)×42 | 39 | | | | | | |

はカマド関連の堆積土で、5層は天井崩落土、6層は燃焼部の堆積土である。12層は掘り方埋土である。

【壁面】 ほぼ直線的に外傾して立ち上がる。壁高は7~27cmを測る。

【床面】 12層上面を床面とする。貼床である。中央部がやや高く、壁際に向かって緩やかに傾斜する。

【柱穴】 床面より7基(P1~4・6・7・9)を検出した。P1~4は、規模や位置関係から主柱穴と考えられる。規模は、長径65~80cm、深さ40~74cmを測る。P6・7は南壁際中央に位置し、形態や位置関係から入口施設と考えられる。

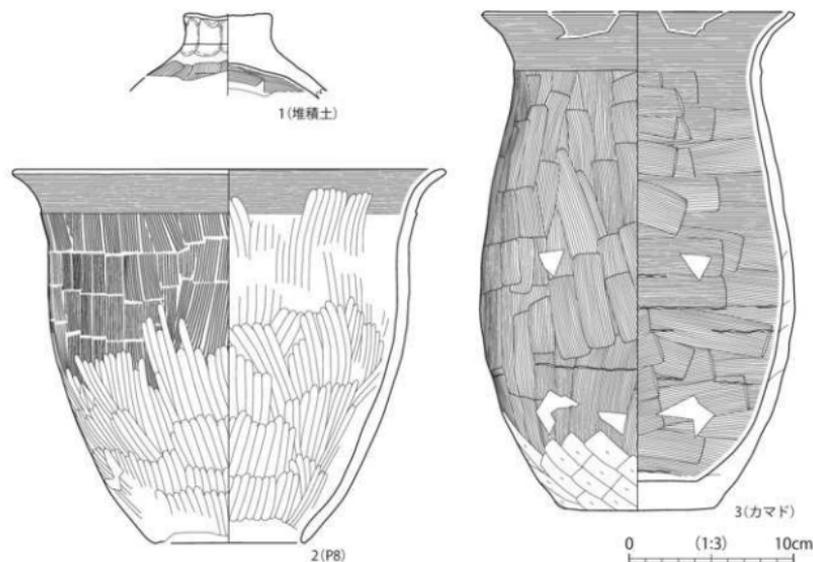
【周溝】 検出した部分では、北壁のカマド周辺を除き壁面に沿って全周する。断面は、「U」字状ないしは半円状を呈する。規模は、幅9~14cm、深さ6~12cmを測る。

【カマド】 北壁中央に、壁面に直交して付設される。東袖の規模は、長さ65cm、幅23cmを測り、先端部に長さ

30cm、幅9cm、厚さ7cmの自然礫の芯材が埋設される。西袖は削平により残存状態が悪く、規模は長さ60cm程であったと推察され、先端部に長さ26cm、幅12cm、厚さ7cmの自然礫の芯材が確認された。袖は、北壁面に対し「ハ」字状に付設されていたと考えられる。燃焼部の規模は、奥行き75cm、幅30～40cm程であったと考えられ、残存する奥壁高は8cm程で緩やかに立ち上がる。燃焼部には径40×50cm程の焼面がみられ、焼面に接した燃焼部中央には長さ18cm、幅6cm、厚さ5cmの自然礫の支脚が埋設される。煙道部は、削平により検出できなかった。

【その他の施設】 床面から5基 (P5・8・10・11・12)、貼床面下から1基 (P13) の計6基を検出した。P5は堆積土に焼土ブロック・炭化物を含み、カマドに関連する施設の可能性が考えられる。P8・11は規模が類似し、カマドを介して対称位置にあることから、カマド関連の施設である可能性が高い。

【出土遺物】 堆積土を中心に、比較的多くの遺物が出土している。堆積土出土の遺物が多く、重複するSI371Bの遺物の混在は少ないと思われる。土師器蓋1点、土師器甕1点、土師器甕1点を図示した(第42図)。1は土師器の蓋であり、今回の調査では唯一の出土例である。ツمامミ部はユビオサエで円柱状に整えられ、体部の内外面はヘラナデで調整される。過去の調査では、長町駅東遺跡第3次調査でSI109からの出土例が確認でき(仙台市教委2009)、周辺の遺跡では、郡山遺跡第167次調査でSI4Aから蓋のツمامミ部分の出土例が確認できる(仙台市



| 図版 番号 | 登録 番号 | 出土 層位 | 層位 | 種別 | 器種 | 寸法(cm) | | | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真 掲載 |
|----------|----------|----------|-----|-----|----|--------|-----|-------|--------------------------------------|----------------------------|----|----------|
| | | | | | | 口縁 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1 | C-43 | SI371 | 埋積土 | 土師器 | 蓋 | (12.0) | 5.0 | (5.2) | ツمامミ部ユビオサエ、坏部ヘラナデ | 坏部ヘラナデ | | 29 |
| 2 | C-44 | SI371 | P8 | 土師器 | 甕 | 26.0 | 9.2 | 22.9 | 口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ →胴部下位ヘラミガキ | 口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ 手、胴部ヘラミガキ | 甲孔 | 29 |
| 3 | C-45 | SI371 | カマド | 土師器 | 甕 | 18.6 | 9.0 | 3.5 | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナ デ→胴部下位ヘラミガキ、輪 脚部 | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナ デ、輪脚部 | | 29 |

第42図 SI371A 竪穴住居跡出土遺物

教委 2013)。これらと比較してみると、器形に差異は認められるものの調整方法は同一であり、SI109 は郡山 I 期官衙期前半、郡山遺跡 SI4A は郡山 I 期官衙以前という年代が与えられている。2 は単孔の甕であり、口縁部は外反し、胴部上半は円筒状、胴部下半は窄まる器形を呈する。口縁部と胴部の境にやや段がみられる。調整は口縁部が内外面ヨコナデであるが、胴部外面は上半がハケメ、下半がヘラミガキとなり、胴部内面はヘラミガキとなる。3 は甕であり、口縁部は外反し、胴部は楕円形状を呈し、最大径は胴部中央からやや下半にくる。調整は胴部が内外面ともヘラナデを主体とする。

【時期】 床面から出土した第 42 図-2・3 が直接伴う遺物と考えられ、3～5 期（7 世紀初頭～8 世紀初頭）と考えられる。

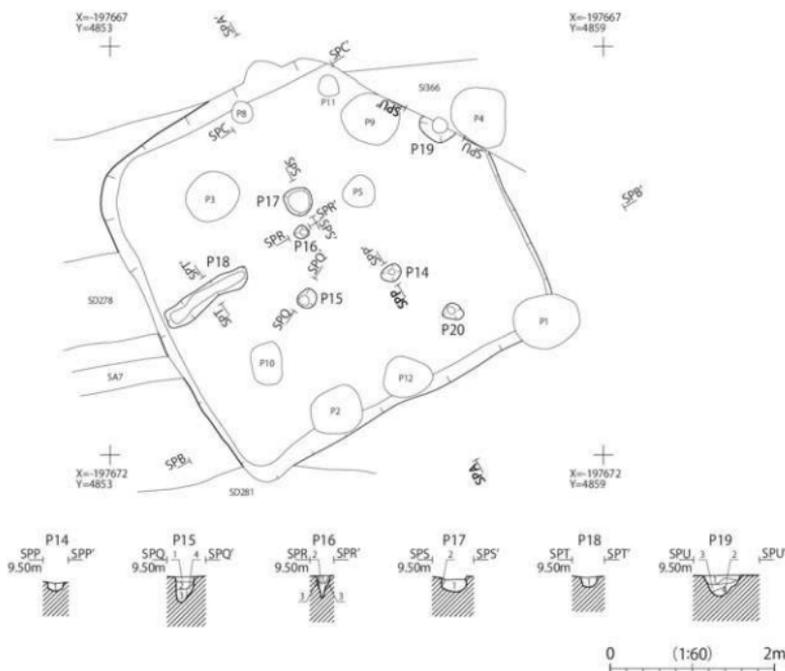
SI371B 竪穴住居跡（第 43 図）

【位置・確認】 調査区北端東寄りの 6・10 グリッドに位置する。SI371A の掘り方調査時に一回り狭い貼床面を検出し、SI371B とした。

【重複】 SI366・371A、SA7、SD278・281、SM417・418・420 と重複し、それらより古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 452cm、短軸 441cm を測る。平面形状は方形ないし隅丸方形である。

【方向】 西壁面を基準として N-26°-W である。



第 43 図 SI371B 竪穴住居跡

SI3718 堆積土記表

| 層位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-------|----|----------------|-----|-------------------------------|
| 周溝 | ① | HOYR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土ブロック(5~10mm)30%、炭化物を微量含む。 |
| 日返掘り方 | ② | HOYR4/3 に近い黄褐色 | シルト | IV層土粒40%、灰白色粘土ブロック20%含む。(貼床面) |
| | ③ | HOYR5/4 に近い黄褐色 | シルト | 黄褐色シルトブロック40%、炭化物を微量含む。 |

SI3718 施設堆積土記表

| 遺構名 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|-----|----------------|-----|--------------------------------|
| P14 | 1 | HOYR4/3 に近い黄褐色 | シルト | IV層土ブロック40%、炭化物、粘土粒微量含む。 |
| | 1 | HOYR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土粒30%、炭化物微量含む。 |
| | 2 | HOYR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック30%含む。 |
| | 3 | HOYR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土粒20%含む。 |
| P15 | 4 | HOYR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土粒20%含む。 |
| | 1 | HOYR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土ブロック20%、炭化物微量含む。 |
| | 2 | HOYR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック10%含む。 |
| P16 | 3 | HOYR4/3 に近い黄褐色 | シルト | 暗褐色シルトブロック50%含む。 |
| | 1 | HOYR4/2 灰黄褐色 | シルト | 黄土ブロック70%、IV層土ブロック、炭化物各10%含む。 |
| P17 | 2 | HOYR4/4 褐色 | シルト | IV層土粒20%含む。 |
| | 1 | HOYR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土粒30%含む。 |
| P19 | 1 | HOYR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土粒20%、炭化物、粘土粒微量含む。 |
| | 2 | HOYR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土粒40%、炭化物を微量含む。 |
| | 3 | HOYR3/2 黒褐色 | シルト | IV層土粒30%、炭化物を微量含む、含む。 |
| | 4 | HOYR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック20%、炭化物微量含む。 |
| P20 | [1] | HOYR4/3 に近い黄褐色 | シルト | IV層土ブロック20%含む。 |
| | [2] | HOYR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック(10~30mm)20%、炭化物を微量含む。 |
| | [3] | HOYR4/1 褐色 | シルト | IV層土ブロック(10~20mm)30%含む。 |

SI3718 施設観察表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(m) | | 備考 | 遺構名 | 平面形 | 規模(m) | | 備考 |
|-----|-----|-------|----|----|-----|-----|---------|----|------|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P14 | 楕円形 | 25×20 | 10 | | P18 | 不整形 | 114×22 | 12 | 掘り切溝 |
| P15 | 円形 | 24×23 | 31 | | P19 | 楕円形 | 46×(21) | 20 | |
| P16 | 楕円形 | 16×16 | 27 | | P20 | 楕円形 | 24×19 | 10 | |
| P17 | 円形 | 35×34 | 15 | | | | | | |

【堆積土】 3層に分層した。①層は周溝堆積土、②・③層は掘り方埋土で、②層は灰白色粘土ブロックを含む貼床面である。

【壁面】 SI371A によって失われているが、SI371A と同様の立ち上りを呈したと考えられる。

【床面】 ②層上面を床面とする。貼床である。概ね平坦であったと考えられるが、SI371A の掘り方による起伏がみられる。

【柱穴】 床面から2基 (P15・16) を検出した。P15 は径 24cm、深さ 31cm を測り、P16 は径 16cm、深さ 27cm を測る。

【周溝】 土層断面の観察によれば、断面は半円状を呈し、規模は幅 30cm、深さ 10cm 程を測る。

【その他の施設】 床面から土坑2基 (P14・17)、溝跡1条 (P18)、貼床面下から土坑2基 (P19・20) の総数5基を検出した。P17 は床面中央やや北壁寄りに位置し、平面円形を呈す。規模は径 35cm、深さ 15cm を測り、堆積土に焼土ブロックを多く含むことからカマド関連の施設と考えられる。P18 は断面「U」字状を呈し、規模は長さ 114cm、深さ 12cm を測る。西壁に直交しており、一種の間仕切り溝と考えられる。

【掘り方】 深さ 7~22cm を測る。底面はほぼ平坦であるが、東西壁際は 40~50cm 幅で一段掘り下げられる。

【出土遺物】 SI371A と重複するため、SI371B に直接伴うと思われる遺物はほとんど出土していない。図示可能なものはない。

【時期】 SI371A が 3~5 期 (7 世紀初頭~8 世紀初頭) であり、それよりは古くなる。しかし SI371A・B は北壁と西壁の一部を共有しており SI371A への建て替えが予想されることから、3~5 期と考えられる。

SI372 竪穴住居跡 (第 44~46 図)

【位置・確認】 調査区中央部西寄りの 9・13・14・17・18 グリッドに位置する。南東隅は掘乱により失われる。

【重複】 SI368・382・383、SA9、SD279・281、SE10、SK324、Pt36・59・77・79・80・82・83・87・90・

99・102・110・112・113・118と重複し、S1382・383より新しく、他の遺構より古い。

【規模・形態】 規模は、長軸760cm、短軸748cmを測る。平面形状は方形である。

【方向】 カマドを基準としてN-30°-Wである。

【堆積土】 23層に分層した。1～9層は住居堆積土で、中位に堆積する4層には焼土ブロック・炭化物を比較的多く含む。10・11層は周溝堆積土、12～21層はカマド関連の堆積土で、12・13層は天井崩落土、14層は燃焼部堆積土、15層は焼土、17層は煙道部堆積土、18層は支脚埋設施設埋土、19・20層はカマド袖崩落土、21層は白色粘土のカマド構築土である。22・23層は掘り方埋土で、22層は貼床面である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は20～44cmを測る。

【床面】 22層上面を床面とする。貼床である。やや起伏がみられるが、概ね平坦である。

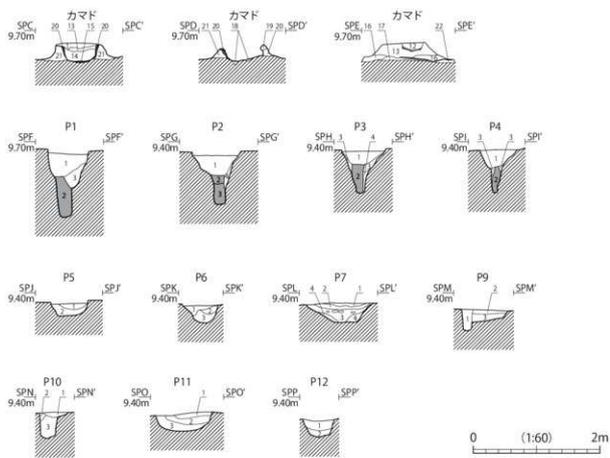
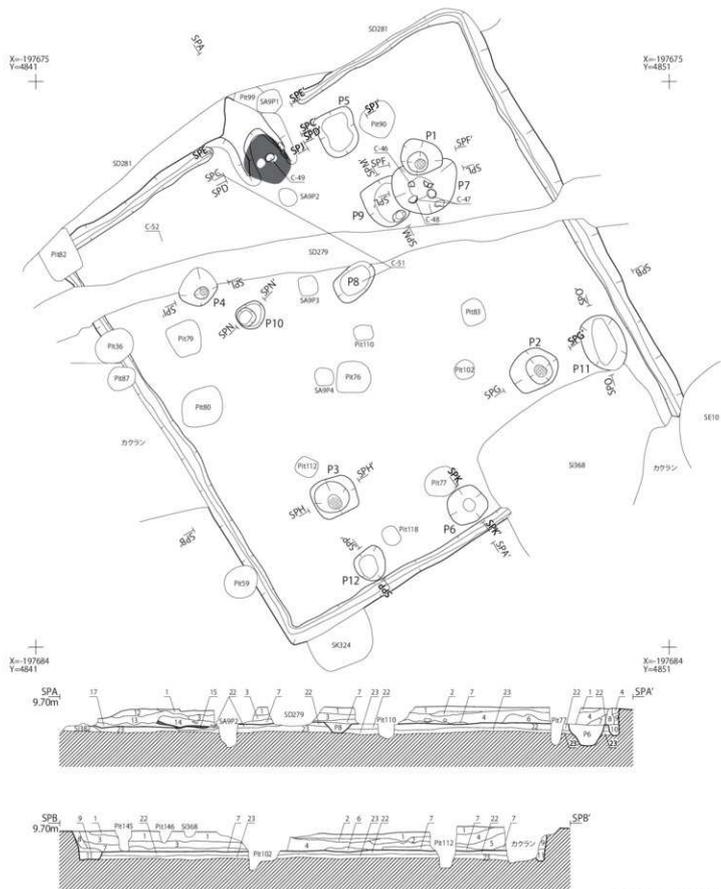
【柱穴】 床面から4基（P1～4）、貼床面下から2基（P9・10）、総数6基を検出した。P1～4は、規模と位置関係から主柱穴と考えられる。規模は、長径60～77cm、深さ69～110cmを測る。いずれの柱穴からも径12～22cmの柱痕跡、径8～19cmの底面の変色部分が確認されている。

【周溝】 検出した部分では、北壁のカマド周辺を除いて壁面に沿って全周する。断面は「U」字状を呈し、規模は幅15～21cm、深さ8～18cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、北壁にほぼ直交して付設される。袖の規模は、東袖が長さ75cm、幅20～35cm、西袖が長さ82cm、幅26～35cmを測る。袖は、壁面に対してほぼ直線的に付設される。燃焼部の規模は、奥行き65cm、幅28～48cm、奥壁高15cm程である。底面は皿状に5cm程窪み、長径80cm程の焼面がみられる。奥壁は被熱が顕著で、やや外傾して立ち上がる。焼面中央に、被熱の弱いビット状の窪みを2基並列して検出した。位置関係から支脚の埋設施設と考えられ、規模は径7cm、深さ3～5cmを測る。煙道部の先端はSD281によって失われており、検出した規模は長さ100cm、幅20cm程、深さ6cmを測る。底面はほぼ平坦で、いったん窪ん

S1372 施設堆積土層記述表

| 遺構名 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|----------------|--------|--------------------------------|
| P1 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土ブロック60%含む。(柱穴底面) |
| | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む。(柱穴跡) |
| | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土粒20%、炭化物、褐色粒を微量含む。 |
| P2 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック30%、炭化物を微量含む。(柱穴底面) |
| | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土粒10%含む。(柱穴跡) |
| | 3 | 10YR4/1 褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を微量含む。(柱穴跡) |
| P3 | 4 | 10YR4/4 褐色 | シルト | IV層土ブロック30%含む。 |
| | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック30%、褐色粒を微量含む。(柱穴底面) |
| | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック10%、炭化物5%含む。(柱穴跡) |
| | 3 | 10YR4/1 褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック20%含む。 |
| P4 | 4 | 10YR3/2 暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土粒10%、炭化物を微量含む。 |
| | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック30%、炭化物を微量含む。(柱穴底面) |
| | 2 | 10YR3/2 暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土粒、炭化物を微量含む。(柱穴跡) |
| | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック30%含む。 |
| P5 | 1 | 10YR3/1 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック少量、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/1 褐色 | シルト | IV層土粒40%、炭化物5%、焼土粒を微量含む。 |
| P6 | 1 | 10YR4/1 褐色 | 粘土質シルト | IV層土粒10%、炭化物少量含む。 |
| | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック10%含む。 |
| | 3 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック30%、褐色粒、炭化物を微量含む。 |
| P7 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 白色粘土ブロック30%、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/2 暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック10%、炭化物を少量含む。 |
| | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土粒10%、炭化物10%含む。 |
| | 4 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土粒10%含む。 |
| P8 | 1 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土粒10%、炭化物を微量含む。 |
| | 1 | 10YR4/1 褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック10%、炭化物を微量含む。 |
| P9 | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック、炭化物を微量含む。 |
| | 3 | 10YR4/4 褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック20%含む。 |
| | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック30%、焼土ブロック、炭化物を微量含む。 |
| P10 | 2 | 10YR3/2 暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土中粒を少量含む。 |
| | 3 | 10YR3/1 暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック20%、炭化物を微量含む。 |
| P11 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック10%、黒褐色粘質シルトブロックを微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/4 褐色 | シルト | 黒褐色シルトブロックを少量含む。 |
| | 3 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | IV層土ブロック20%含む。 |
| P12 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック20%、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 2.5Y4/1 黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土粒を微量含む。 |



S132 増積土記表

| 部位 | 層位 | 主色 | 主性 | 備考 | |
|-------|------|-----------------|-------------|-----------------------------------|----------------------------|
| 住居増積土 | 1 | H0YR4 1 濁灰色 | シルト | IV層土中粒20%, 堆土ブロック, 炭化物を微量含む。 | |
| | 2 | H0YR4 3 におい・炭褐色 | シルト | IV層土中粒0%, 炭化物10%含む。 | |
| | 3 | H0YR4 3 暗褐色 | シルト | IV層土中粒10%, 炭化物を微量含む。 | |
| | 4 | H0YR4 1 黒色 | シルト | 炭化物20%, 堆土ブロック10%含む。 | |
| | 5 | H0YR4 2 黒褐色 | シルト | IV層土中粒5%含む。 | |
| | 6 | H0YR4 2 灰黒褐色 | シルト | IV層土中粒30%, 炭化物を微量含む。 | |
| | 7 | H0YR4 3 におい・炭褐色 | シルト | IV層土中粒10%, 堆土粒, 炭化物を微量含む。 | |
| | 8 | H0YR4 2 黒褐色 | シルト | IV層土中粒30%, 炭化物を微量含む。 | |
| | 9 | H0YR4 3 におい・炭褐色 | シルト | IV層土中粒10%, 炭化物を微量含む。 | |
| 河床 | 10 | H0YR4 4 暗褐色 | 粘土質シルト | | |
| | 11 | H0YR4 2 灰黒褐色 | 粘土質シルト | | |
| | 12 | F2 3YR4 3 暗褐色 | シルト | 白色粘土ブロック20%, 堆土ブロック20%, 炭化物を微量含む。 | |
| カマド | 13 | H0YR4 2 灰黒褐色 | 粘土質シルト | 灰白色粘土ブロック60%含む。(天井崩壊土) | |
| | 14 | H0YR4 2 黒褐色 | シルト | 堆土15%, 炭10%含む。 | |
| | 15 | F2 3YR4 2 黒褐色 | シルト | 堆土を少量含む。 | |
| | 16 | H0YR4 2 灰黒褐色 | 粘土 | 堆土ブロック10%, 炭化物を微量含む。 | |
| | 17 | H0YR4 3 におい・炭褐色 | 粘土質シルト | 炭化物10%, 堆土ブロックを少量含む。 | |
| | 18 | H0YR4 3 におい・炭褐色 | シルト | 焼熱により, 上部崩壊土化する。 | |
| | 19 | H0YR4 2 灰黒褐色 | シルト | 堆土15%, 白粘土ブロック10%含む。 | |
| | 20 | F2 3YR4 3 暗褐色 | シルト | 堆土ブロックを少量含む。 | |
| | カマド地 | 21 | H0YR4 1 濁灰色 | 粘土 | 灰白色粘土主体, 堆土粒を微量含む。 |
| | | 22 | H0YR4 4 黒色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック10%, 炭化物5%含む。(河床面) |
| 23 | | H0YR4 1 黒褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック20%, 炭化物を微量含む。 | |

S137 施設観測表

| 施設名 | 平面形 | 周長(m) | | | 備考 | 施設名 | 平面形 | 周長(m) | | | 備考 |
|-----|------|-------|-----|--|-----|------|---------|-------|----|--|----|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | | 長軸×短軸 | 深さ | | |
| P1 | 円形 | 65×50 | 110 | | P7 | 円形 | 108×95 | 31 | | | |
| P2 | 円形 | 77×64 | 84 | | P8 | 円形 | 73×66 | 14 | | | |
| P3 | 隅丸方形 | 70×61 | 70 | | P9 | 隅丸方形 | 76×(49) | 34 | | | |
| P4 | 隅丸方形 | 60×52 | 69 | | P10 | 円形 | 46×49 | 41 | | | |
| P5 | 隅丸方形 | 73×63 | 58 | | P11 | 隅形 | 62×67 | 28 | | | |
| P6 | 円形 | 60×58 | 27 | | P12 | 隅丸方形 | 50×50 | 20 | | | |

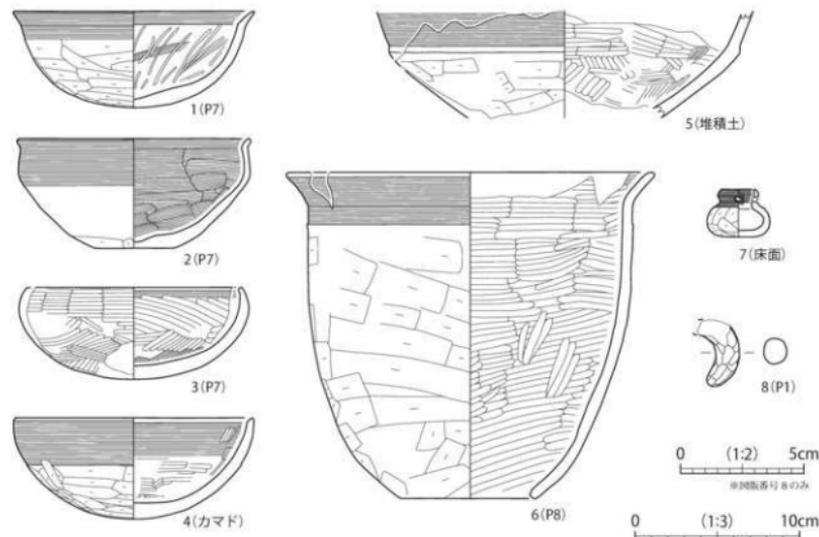
第 44 図 S1372 壁穴住居跡

最後に煙出し部分に向けて緩やかに立ち上がると考えられる。煙出し部分の形状は不明である。カマド構築土は、3段に積み重ねられた灰白色粘土が使用される。

【その他の施設】 床面から土坑4基（P5～8）、貼床面下から土坑2基（P11・12）の総数6基を検出した。P5はカマド東側に位置する平面隅丸方形の土坑で、規模は長径73cm、深さ18cmを測る。位置関係から、貯蔵穴と考えられる。P6は南壁際中央に位置する平面円形の土坑で、規模は長径60cm、深さ27cmを測る。堆積状況と位置関係から、入口施設と考えられる。P7は長軸108cm、深さ31cmを測る平面楕円形の土坑で、堆積土中から土師器環（第45図-1～3）がまとまって出土した。P1の掘り方とも考えられるが、性格は不明である。

【掘り方】 深さ11～15cmを測る。底面には起伏がみられ、西側に向かって緩やかに傾斜する。

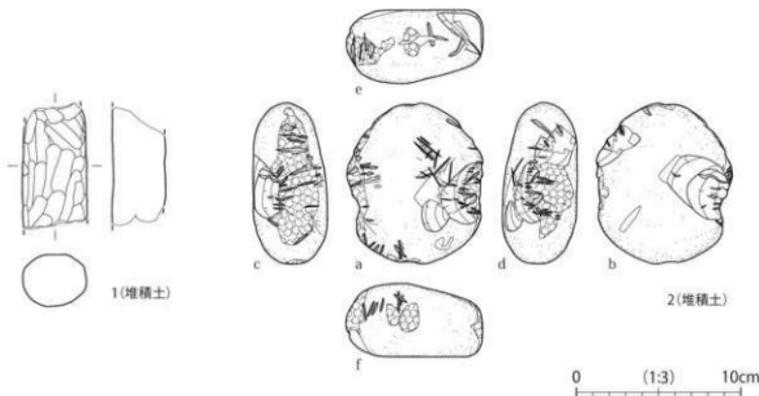
【出土遺物】 住居の面積が広いこともあり、比較的多量の遺物が出土した。土師器の環4点、高環1点、ミニチュ



| 図版番号 | 発掘番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真図版 |
|------|------|------------|-----|-----|-------------|--------|-----|-------|--------------------|------------------------|-----------------|------|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1 | C-47 | SI372 | P7 | 土師器 | 環 | 14.6 | - | 5.9 | 口縁部ヨコナデ、体-底部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、体-底部ヘラケズリ | | 30 |
| 2 | C-48 | SI372 | P7 | 土師器 | 環 | 14.0 | 4.8 | 6.7 | 口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、体-底部ヘラケズリ | | 30 |
| 3 | C-46 | SI372 | P7 | 土師器 | 環 | (13.0) | - | 5.6 | 口縁-体部ヘラミガキ | 口縁-体部ヨコナデヘラミガキ、底部ヘラケズリ | | 30 |
| 4 | C-49 | SI372 | カマド | 土師器 | 環 | 14.4 | - | 6.2 | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデヘラミガキ、体部ヘラケズリ | | 30 |
| 5 | C-50 | SI372(60C) | 埋積土 | 土師器 | 高環? | - | - | (6.5) | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、赤彩 | 口縁-体部ヘラミガキ | | 30 |
| 6 | C-51 | SI372 | P8 | 土師器 | 皿 | 22.4 | 8.3 | 20.0 | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ一部ヘラミガキ、胴部ヘラミガキ | 単孔 | 30 |
| 7 | C-52 | SI372 | 床面 | 土師器 | ミニチュア土器(前形) | 2.0 | 2.0 | 2.9 | 口縁部ヨコナデ、胴-底部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ | 口縁部穿孔あり(径0.4cm) | 30 |

| 図版番号 | 発掘番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 備考 | 写真図版 |
|------|------|-------|----|-----|----|--------|------|----|-------|------|------|
| | | | | | | 全長 | 幅 | 厚さ | | | |
| 8 | P-11 | SI372 | P1 | 土製品 | 写玉 | (2.7) | 径1.0 | | 3.4 | ナデ調整 | 30 |

第45図 SI372 竪穴住居跡出土遺物(1)



| 回数 番号 | 登録 番号 | 出土 地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 備考 | 写真 撮影 | |
|----------|----------|----------|-----|-----|----|--------|------|-----|-------|------|----------|----------|
| | | | | | | 全長 | 幅 | 厚さ | | | | |
| 1 | P-10 | SI372(区) | 堆積土 | 土製品 | 支脚 | (7.7) | 径3.9 | | 101.2 | ナデ調整 | 30 | |
| 回数 番号 | 登録 番号 | 出土 地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 石材 | 備考 | 写真 撮影 |
| | | | | | | 全長 | 幅 | 厚さ | | | | |
| 2 | Kc-3 | SI372(区) | 堆積土 | 礫石器 | 石鉢 | 9.9 | 8.2 | 4.5 | 254.6 | 凝灰岩 | 30 | |

第46図 SI372 竪穴住居跡出土遺物 (2)

ア土器1点、甌1点、土製品2点、礫石器1点を图示した(第45・46図)。

第45図-1~4は土師器の坏である。1は体部が半球状を呈し、口縁部が直線状にするどく外傾するものである。体部内面の調整は、ヘラナデ後に放射状にヘラミガキが施される。2は口縁部が直立し、口唇部で短く外反する。底部は平底を呈する。調整は胴部内面がヘラナデである。3は口縁部が内湾気味で、底部が丸底である。調整は内外面ともにヘラミガキが主体である。4は半球状の器形を呈し、調整は口縁部が内外面ヨコナデで、体部は外面がヘラケズリ、内面がヘラミガキである。5は高環の坏部と思われ、口縁部と体部の境には段が付く。外面は口縁部がヨコナデ、体部がヘラケズリ、内面はヘラミガキで調整され、外面には赤彩が確認できる。6は甌で、口縁部は直線状に外傾し、胴部上半は円筒状、胴部下半で丸みを帯びつつ窄まる器形である。口縁部と胴部の境にはわずかに段が確認できる。外面は口縁部がヨコナデ、胴部がヘラケズリで、内面はヘラミガキで調整される。7は壺形のミニチュア土器である。紐を通すためか、頸部の正対する位置に口径0.4cmの孔が2箇所穿たれている。調整は口縁部が内外面ヨコナデ、胴部は外面がヘラケズリ、内面は不明である。8は土製勾玉である。上部が欠損しており、ナデ調整される。

第46図-1は土製の支脚である。支脚の上下部が欠損しているが、最大径は3.9cmを測る。ナデ調整される。2は両側面の中央部を意識的に打ち欠いているとみられたため石鉢とした。ただし、敲石として両側面を敲打している可能性があり、結果として石鉢の器形になっているとも考えられる。石材は凝灰岩である。

【時期】 P7堆積土より第45図-1~3、カマドより4、P8堆積土より6が出土している。これらは直接伴う遺物で、2a期(6世紀初頭~前葉)と考えられる。

SI373 竪穴住居跡 ※欠番 整理段階でSI365の一部と判明

SI374 竪穴住居跡（第 47 図）

【位置・確認】 調査区北端西隅の 26 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面でカマドの煙道部のみを確認し、大部分は調査区南壁外へ延びる。

【重複】 SI356、SX36 と重複し、SI356 より新しく、SX36 より古い。

【規模・形態】 不明である。

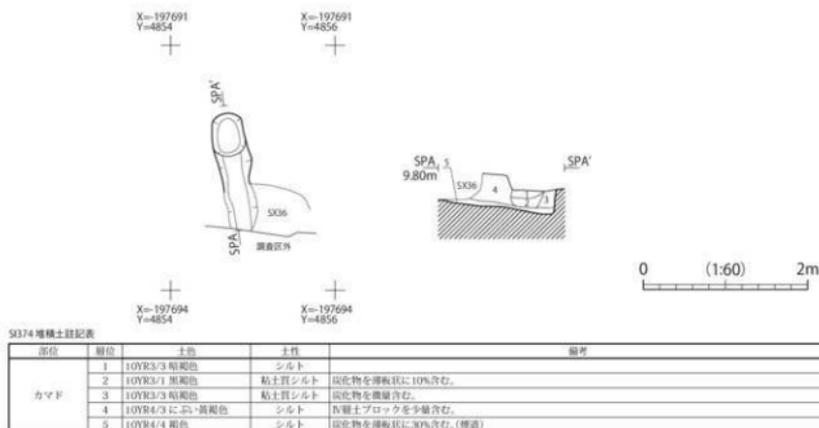
【方向】 カマド煙道部を基準として $N-9^{\circ}-W$ である。

【堆積土】 5 層に分層した。いずれもカマド煙道部関連の堆積土で、1～3 層は煙出し部分の堆積土、5 層は炭化物を薄板状に含む煙道の堆積土である。

【カマド】 検出した煙道部の規模は、長さ 143cm、幅 32～42cm、深さ 40cm を測る。底面は、煙出し部分に向かって緩やかに傾斜する。煙出し部分は平面楕円形を呈するピット状に掘り込まれ、規模は長軸 53cm、深さ 20cm を測る。

【出土遺物】 煙道部から土師器の小片が微量出土したが、図示可能なものはなかった。

【時期】 SI356 が 2b 期（6 世紀中葉～末葉）であることから、それ以降と考えられる。



第 47 図 SI374 竪穴住居跡

SI375 竪穴住居跡（第 48 図）

【位置・確認】 調査区南寄り東端の 23 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で検出したが、調査区東壁の土層観察からⅢ層上面より掘り込まれる。東側の大部分は調査区東壁外へ延びる。

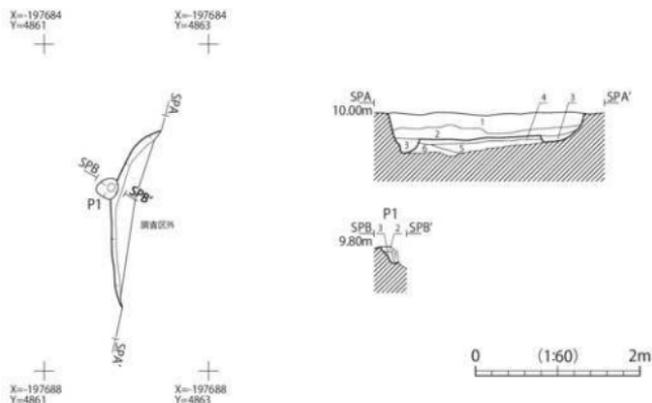
【重複】 SM407 と重複し、それより新しい。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 205cm、短軸 50cm 程を測る。平面形状は、隅丸方形ないし隅丸長方形と推察される。

【方向】 西壁面を基準として $N-3^{\circ}-W$ である。

【堆積土】 6 層に分層した。1・2 層は住居堆積土で、2 層は炭化物・IV層土ブロックを比較的多く含む。3 層は周溝堆積土、4～6 層は掘り方埋土で、4 層は貼床面で焼土ブロックを含む。

【壁面】 検出した部分では、ほぼ直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、18～32cm を測る。



SI375 堆積土層記表

| 層位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-------|----|--------------|-----|---|
| 住居埋積土 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N層土ブロック(2~20mm)25%、炭化物10%、粘土を微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 炭化物40%、N層土ブロック(5~10mm)20%、粘土を微量含む。 |
| 周溝 | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | N層土ブロック30%、炭化物を少量含む。 |
| | 4 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N層土ブロック(10~20mm)50%、炭化物、粘土ブロックを微量含む。(埋込面) |
| 住居掘り方 | 5 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | N層土ブロック(10~20mm)50%、炭化物少量含む。 |
| | 6 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | N層土粘土30%、炭化物、粘土を微量含む。 |

SI375 施設埋積土層記表

| 遺構名 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|----------------|-----|-------------|
| P1 | 1 | 10YR5/4 に近い淡褐色 | シルト | 炭化物約30%含む。 |
| | 2 | 10YR4/4 褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 |
| | 3 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | N層土粘土を微量含む。 |

SI375 施設観測表

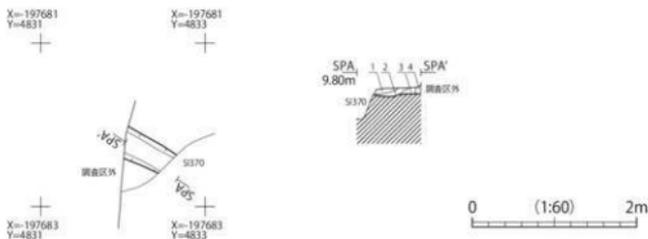
| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 |
|-----|-----|--------|----|----|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P1 | 円形 | 26×24 | 21 | |

第 48 図 SI375 竪穴住居跡

- 【床面】 4層上面を床面とする。貼床である。やや起伏がみられ、北側に向かって緩やかに傾斜する。
- 【柱穴】 壁面より1基(P1)検出した。平面円形で、規模は径26cm、深さ21cmを測る。
- 【周溝】 検出した部分では、壁面に沿って全周する。断面は「U」字状ないし半円状を呈し、規模は幅15~30cm、深さ7~18cmを測る。
- 【掘り方】 深さ9~21cmである。底面には起伏がみられ、北側が低くなる。
- 【出土遺物】 堆積土から土師器の小片が出土したが、図示可能なものはなかった。
- 【時期】 時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、時期は不明である。

SI376 竪穴住居跡 (第 49 図)

- 【位置・確認】 調査区南側西端の16グリッドに位置する。基本土層IV層上面でカマド煙道部の一部を検出した。南側は重複するSI370によって失われており、北側は調査区西壁外へ延びる。SI370のカマドに隣接することからSI370に付設するカマドの可能性も考えたが、煙道部の方向がSI370のN-34°-Wに対して振りが大きいことから単独の遺構とした。
- 【重複】 SI370と重複し、それより古い。



SI376 堆積土柱記表

| 部位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|--------------|--------|------------------|
| カマド | 1 | 10YR5/2 灰黄褐色 | シルト | 炭化物を微量含む。グライ化。 |
| | 2 | 10YR2/1 黒色 | 粘土質シルト | 炭化物80%含む。 |
| | 3 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 炭化物10%含む。 |
| | 4 | 10YR2/1 黒色 | 粘土質シルト | 炭化物90%、粘土粒を微量含む。 |

第 49 図 SI376 竪穴住居跡

【規模・形態】 不明である。

【方向】 カマド煙道部を基準として $N-60^{\circ}-W$ である。

【堆積土】 4層に分層した。1～4層はいずれもカマド煙道部堆積土で、4層は煙出し部分の堆積土と考えられる。

【カマド】 検出した煙道部の規模は、長さ 58cm、幅 32～36cm、深さ 7～10cm を測る。底面は浅い皿状の窪みから北側に向かって緩やかな立ち上がりを示す。煙出し部分の形状は不明である。

【出土遺物】 遺物は出土していない。

【時期】 時期は不明である。

SI377 竪穴住居跡 (第 50・51 図)

【位置・確認】 調査区南西隅の 20 グリッドに位置する。基本土層IV層上面で検出し、北側は重複する SI370、南側は攪乱により失われる。攪乱の東側で本住居跡の延長は検出されておらず、南側の攪乱内に南東隅が位置すると考えられる。

【重複】 SI370 と重複し、それより古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 125cm、短軸 112cm を測る。平面形状は不明である。

【方向】 東壁面を基準として $N-34^{\circ}-W$ である。

【堆積土】 4層に分層した。1・2層は住居堆積土、3層は周溝堆積土、4層は掘り方埋土である。

【壁面】 検出した部分では、直線的にほぼ直立する。壁高は 22cm を測る。

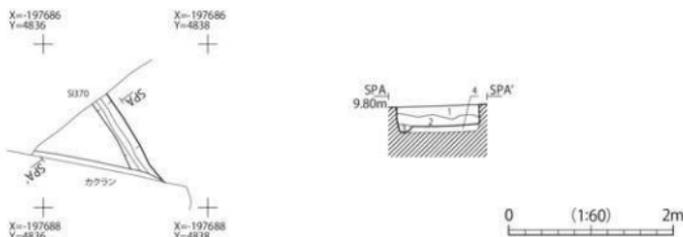
【床面】 4層掘り方埋土上面を床面とする。検出した部分は、概ね平坦である。

【周溝】 壁面に沿って周る。規模は幅 16cm、深さ 10cm を測る。

【掘り方】 深さ 6～8cm である。底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土から微量の土師器や石器が出土した。土師器裏 1 点を図示した (第 51 図)。1 は小型の裏であり、口縁部は外反し、胴部は上から徐々に窄まり、底部は平底を呈する。口縁部は内外面ヨコナデ、胴部は外面の上半がヘラナデ、下半がヘラケズリ、内面がヘラナデで調整される。

【時期】 直接伴う遺物は出土しておらず、時期は不明である。重複関係からみると、本竪穴住居跡より新しい SI370 が 3 期 (7 世紀初頭～前葉) 以降であることから、それ以前の時期となる。



SI377 堆積土目録表

| 層位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-------|----|---------------|--------|-------------------------|
| 住居堆積土 | 1 | 10YR4/1暗褐色 | シルト | IV層土粒10%、炭化物5%含む。 |
| | 2 | 10YR4/3にぶい暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック30%、焼土ブロック微量含む。 |
| 周溝 | 3 | 10YR3/4暗褐色 | 粘土質シルト | |
| 住居掘り方 | 4 | 10YR3/3暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土中粒30%、炭化物を微量含む。 |

第50図 SI377 竪穴住居跡



| P45 番号 | 登録 番号 | 出土 地点 | 層位 | 種別 | 部種 | 法量(cm) | | |
|-----------|----------|----------|------------------------------|-----|----------------|--------|-----|----------|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 部高 |
| I | C-53 | SI377 | 堆積土 | 土師器 | 甕 | 18.6 | 6.5 | 13.8 |
| | | | 外面調整 | | 内面調整 | | 備考 | 写真 掲載 |
| | | | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ →体部平位ヘラナデリ | | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ | | | 30 |

第51図 SI377 竪穴住居跡出土遺物

SI378 竪穴住居跡 (第52～54図)

【位置・確認】 調査区南側西寄りの16・17・20・21グリッドに位置する。基本土層IV層上面で検出し、南西隅上面は視乱により失われる。

【重複】 SI365・370・379、Pit107と重複し、SI379より新しく、他の遺構より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸376cm、短軸310cmを測る。平面形状は隅丸長方形である。

【方向】 東壁面を基準としてN-39°-Wである。

【堆積土】 5層に分層した。1～3層は住居堆積土で、いずれの層も炭化物を含み、2層は白色粘土中粒を含む。4層は周溝堆積土で、灰白色火山灰と考えられる白色微粒を含む。5層は掘り方埋土である。

【壁面】 検出した部分では、直線的に緩やかに外傾して立ち上がる。壁高は、8～11cmを測る。

【床面】 5層掘り方上面を床面とする。起伏がみられ、南側に向かって緩やかに傾斜する。

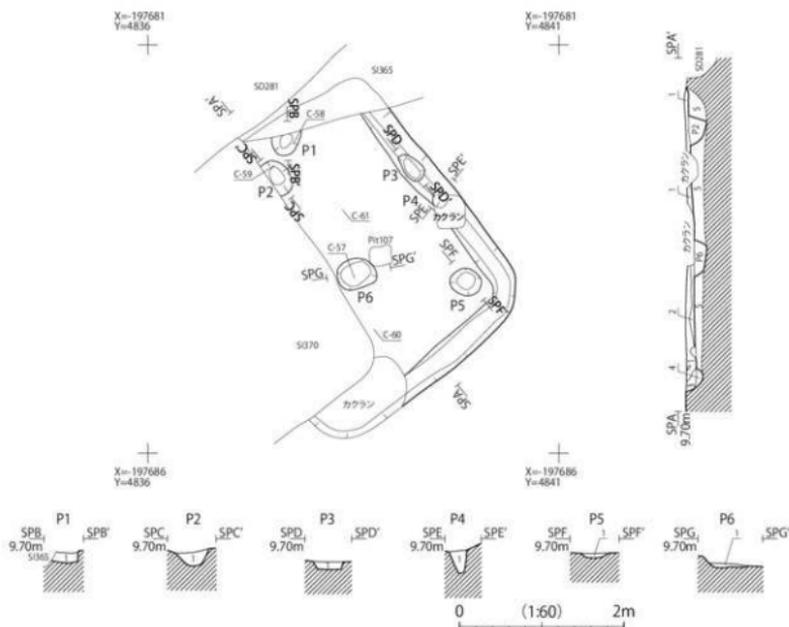
【柱穴】 周溝内から1基(P4)検出した。平面楕円形を呈し、規模は長径20cm、深さ28cmを測る。

【周溝】 検出した部分では、壁面に沿って全周する。断面は浅い皿状を呈し、規模は幅20～30cm、深さ6～8cmを測る。

【その他の施設】 床面から土坑5基（P1～P3・5・6）を検出した。P1は平面楕円形を呈し、規模は長軸32cm、深さ15cmを測る。堆積土中から土師器甕（第54図-1）が出土した。P2は平面楕円形を呈し、規模は長軸46cm、深さ20cmを測り、堆積土中から土師器甕（第54図-2）が出土した。

【掘り方】 深さ7～18cmである。底面には起伏がみられ、東壁際を一段深く掘り込む。

【出土遺物】 出土量に対して復元可能な個体が多く、土師器甕の割合が多い。土師器環1点、土師器高環1点、



SI378 堆積土誌記表

| 部位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-------|----|--------------|-----|---|
| 住居埋積土 | 1 | 10YK3/1 黒褐色 | シルト | IV層土ブロック30%、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YK3/1 黒褐色 | シルト | IV層土ブロック(10～20cm)10%、白色粘土中粒少量、粘土粒、炭化物を微量含む。 |
| | 3 | 10YK4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土ブロック(5～10cm)30%、炭化物を微量含む。 |
| 河溝 | 4 | 10YK3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物5%、白色塵粒(粘土)少量含む。 |
| | 5 | 10YK3/1 黒褐色 | シルト | 灰白色粘土ブロック40%、IV層土ブロック(5～10cm)20%、炭化物を微量含む。 |

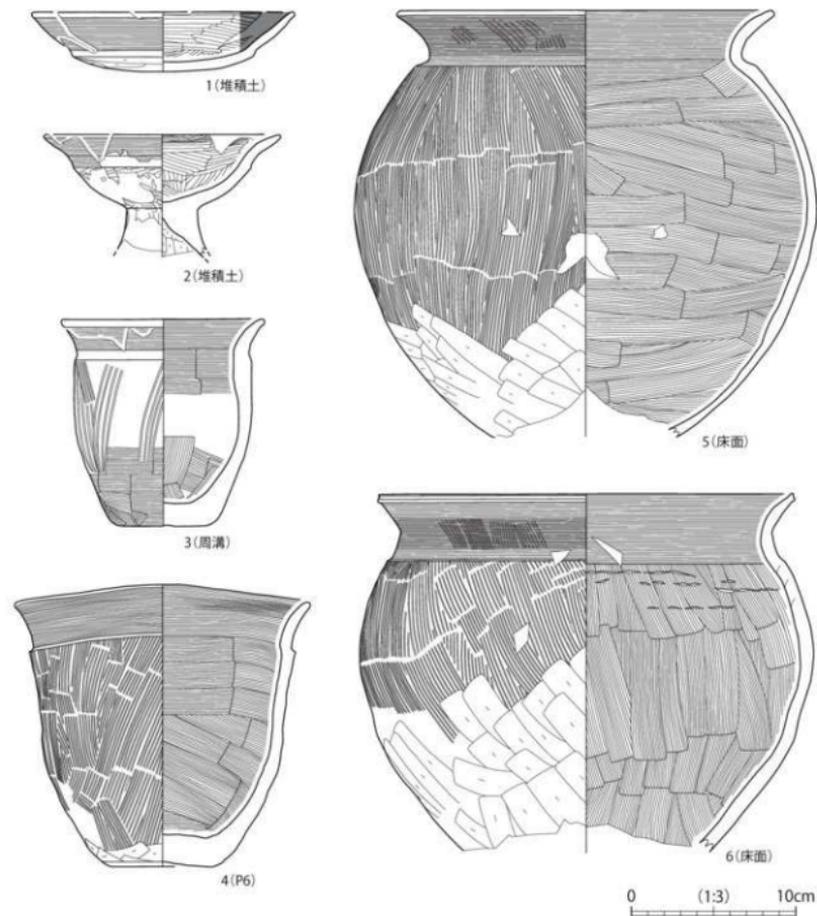
SI378 施設埋積土誌記表

| 遺構名 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|-------------|-----|---------------------|
| P1 | 1 | 10YK3/3 暗褐色 | シルト | IV層土粒10%、炭化物を微量含む。 |
| P2 | 1 | 10YK4/1 褐灰色 | シルト | IV層土粒10%、炭化物を微量含む。 |
| P3 | 1 | 10YK3/3 暗褐色 | シルト | IV層土粒30%含む。 |
| P4 | 1 | 10YK3/3 暗褐色 | シルト | IV層土粒30%含む。 |
| P5 | 1 | 10YK3/3 暗褐色 | シルト | IV層土粒、褐色粒、炭化物を微量含む。 |
| P6 | 1 | 10YK3/3 暗褐色 | シルト | IV層土粒少量、炭化物を微量含む。 |

SI378 施設断面表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 | 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 |
|-----|-------|---------|----|----|-----|-----|---------|----|----|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P1 | 楕円形 | 32×(25) | 15 | | P4 | 楕円形 | 20×(18) | 28 | |
| P2 | 楕円形 | 46×(25) | 20 | | P5 | 円形 | 38×35 | 5 | |
| P3 | 隅丸長方形 | 38×22 | 10 | | P6 | 楕円形 | 48×38 | 6 | |

第52図 SI378 竪穴住居跡



| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真回数 |
|------|------|-------------|-----|-----|----|---------|-------|--------|---|----------------------|----|------|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1 | C-54 | SI378 (b/c) | 堆積土 | 土器器 | 杯 | (15.8) | - | 3.6 | 口縁部ヨコナデ, 体部ヘラケズリ | 口縁~体部ヘラミガキ, 黒色処理 | | 30 |
| 2 | C-55 | SI378 (c/k) | 堆積土 | 土器器 | 高杯 | (14.2) | - | (7.0) | 口縁部ヨコナデ, 体部ヘラミガキ | 口縁~体部ヘラミガキ, 胴部ヘラケズリ | | 30 |
| 3 | C-56 | SI378 (c/k) | 周溝 | 土器器 | 甕 | (12.2) | 5.4 | 12.7 | 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ | 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ | | 30 |
| 4 | C-57 | SI378 | P6 | 土器器 | 甕 | (17.8) | (6.2) | 17.3 | 口縁部ヨコナデ, 胴部上~中位ハケメ, 胴部下位ハケメヘラケズリ, 底部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ | | 31 |
| 5 | C-60 | SI378 | 床面 | 土器器 | 甕 | (22.6) | - | (26.1) | 口縁部ハケメヨコナデ, 胴部ハケメヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ | | 31 |
| 6 | C-61 | SI378 | 床面 | 土器器 | 甕 | 25.2 | - | (21.9) | 口縁部ハケメヨコナデ, 胴部ハケメヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ, 輪積面 | | 31 |

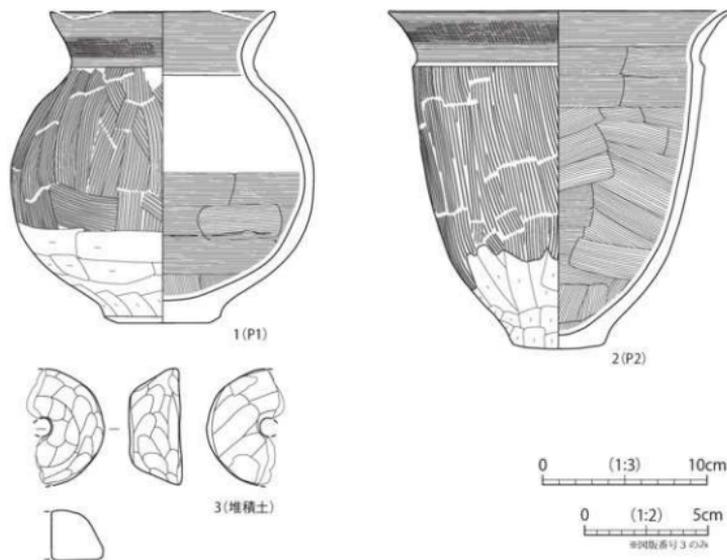
第 53 図 SI378 竪穴住居跡出土遺物 (1)

土師器甕6点、土製品1点を図示した(第53・54図)。

第53図-1は有段丸底環であり、口縁部は直線状に外傾し、底部はほぼ丸底を呈する。口縁部と体部の境の段は体部下位にみられる。内面の調整はヘラミガキであり、黒色処理が施される。2は高環で、SI370の堆積土から出土した破片と接合した。器形は口縁部がほぼ直線状に大きく外傾し、口縁部と体部の境には段を有する。脚部は下位をわずかに広げているところまでは確認できる。環部の体部外面と内面はヘラミガキで調整される。

3・4は小型の甕である。口縁部が外反し、胴部上半が円筒状、胴部下半がやや窄まる。口縁部と胴部の境には段が確認でき、底部は平底である。調整は口縁部が内外面ともにヨコナデで、胴部は外面がハケメ主体で、内面はヘラナデである。5・6は大型の球胴甕で、口縁部は外反し、口縁部と胴部の境にわずかに段がみられ、最大径は胴部中央よりやや上である。調整は胴部外面がハケメで、下半はヘラケズリ、胴部内面はヘラナデである。5は、SI370の掘り方や堆積土から出土した破片と接合した。6は、胴部外面のヘラケズリが胴部中央付近まで及んでいる。

第54図-1は中型の甕で、口縁部は直線状に外傾し、胴部は球状で、最大径が胴部中央にくる。底部は台座を意識した作りとなっており、口縁部と胴部の境の段はあまり明瞭ではない。胴部の調整は外面がハケメ主体となり、



| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真図版 |
|------|------|------------|-----|-----|-----|--------|---------|------|--------------------------------------|----------------|------|------|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1 | C-58 | SE378 | P1 | 土師器 | 甕 | 13.5 | 5.5 | 18.9 | 口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ→ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ | | 31 |
| 2 | C-59 | SE378 | P2 | 土師器 | 甕 | 20.6 | 5.6 | 20.7 | 口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ヘラケズリ→粘土削付→ハケメ、底部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ | | 31 |
| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 備考 | 写真図版 | |
| | | | | | | 全長 | 幅 | 厚さ | | | | |
| 3 | P-12 | SE378(60C) | 堆積土 | 土製品 | 碇跡中 | 径(4.8) | 孔徑(0.8) | 2.0 | 25.3 | ナデ調整 | 31 | |

第54図 SI378 竪穴住居跡出土遺物(2)

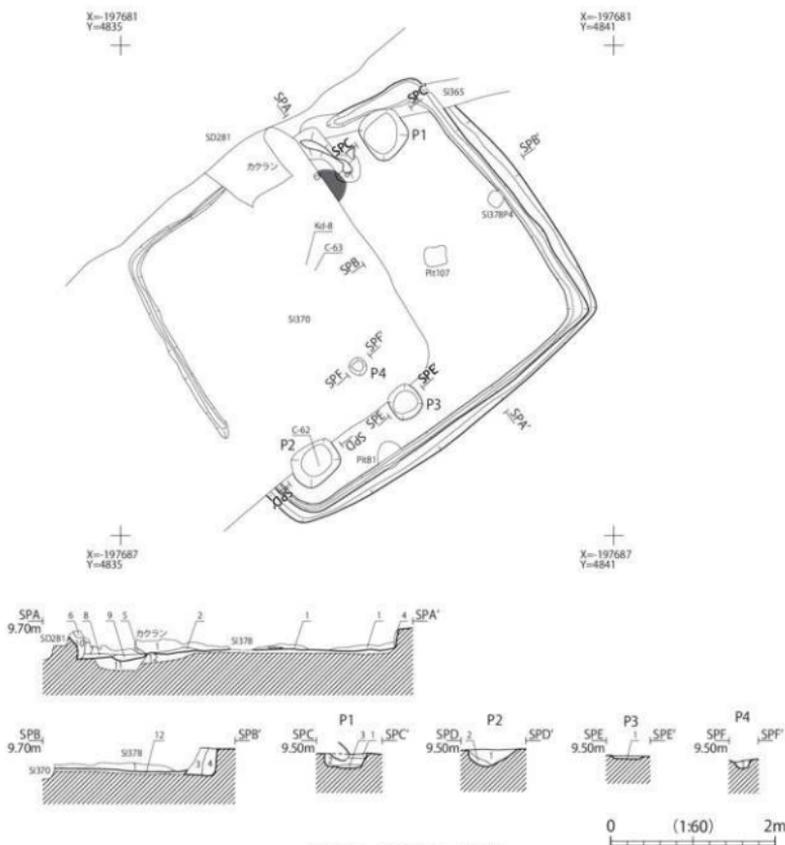
内面がヘラナデとなる。2の裏は口縁部が外反し、口縁部と胴部の境に段を持ち、胴部は砲弾形、底部は平底を呈する。胴部の調整は外面がハケメ主体であり、内面がヘラナデである。3は土製の紡錘車であり、半分欠損した状態で出土した。中心の孔径は0.8cmを測り、ナデ調整される。

【時期】 周溝から出土した第53図-3、床面から出土した5・6、P1・2から出土した第54図-1・2などが直接伴う遺物で、3期（7世紀初頭～前葉）と考えられる。

SI379 竪穴住居跡（第55・56図）

【位置・確認】 調査区南側西寄りの16・17・20・21グリッドに位置する。基本土層IV層上面、重複するSI370南東壁面などの観察により検出した。

【重複】 SI365・370・378、SB43、Pit81・107と重複し、それらより古い。



第55図 SI379 竪穴住居跡

S379 堆積土誌記表

| 部位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-------|----|----------------|--------|------------------------------|
| 住居堆積土 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | V層土粒10%、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/2 灰黒褐色 | シルト | V層土粒10%、炭化物を微量含む。 |
| | 3 | 10YR3/1 黒褐色 | シルト | V層土粒30%、炭化物を微量含む。 |
| 周溝 | 4 | 10YR4/4 褐色 | シルト | V層土粒40%、炭化物を微量含む。 |
| | 5 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | V層土粒20%、炭化物を微量含む。 |
| カマド | 6 | 10YR3/1 黒褐色 | シルト | 焼土ブロック10%含む。 |
| | 7 | 10YR2/3 黒褐色 | シルト | 焼土70%、灰白色粘土ブロックを微量含む。 |
| | 8 | 10YR4/4 褐色 | シルト | 焼土粒10%、炭化物、白色粘土粒を微量含む。 |
| | 9 | 5YR3/2 暗赤褐色 | シルト | 焼土主体。 |
| | 10 | 10YR3/3 に近い黄褐色 | シルト | 黒褐色シルトブロック、焼土粒を微量含む。 |
| 住居掘り方 | 11 | 10YR4/2 灰黒褐色 | 粘土質シルト | V層土ブロック10%、炭化物を微量含む。 |
| | 12 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | 粘土質シルト | V層土ブロック(10~20mm)少量、炭化物を微量含む。 |

S379 施設堆積土誌記表

| 遺構名 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|----------------|--------|------------------------------------|
| P1 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | V層土粒20%、炭化物微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/1 黒褐色 | 粘土質シルト | 土色に黒褐色シルトブロック30%、V層土粒20%、炭化物を微量含む。 |
| | 3 | 10YR6/3 に近い黄褐色 | 粘土 | 灰白色粘土ブロック60%、黒褐色シルト中粒、炭化物を微量含む。 |
| P2 | 1 | 10YR4/1 暗褐色 | 粘土質シルト | V層土ブロック20%、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/2 灰黒褐色 | 粘土質シルト | V層土ブロック少量、炭化物を微量含む。 |
| P3 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 灰白色粘土ブロック10%含む。 |
| P4 | 1 | 10YR3/1 黒褐色 | 粘土質シルト | V層土中粒15%含む。 |

S379 施設断面表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(m) | | 備考 | 遺構名 | 平面形 | 規模(m) | | 備考 |
|-----|-------|-------|----|----|-----|------|-------|----|----|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P1 | 楕円方形 | 58×53 | 18 | | P3 | 楕円方形 | 40×39 | 4 | |
| P2 | 楕円長方形 | 61×46 | 22 | | P4 | 円形 | 22×20 | 11 | |

【規模・形態】 規模は、長軸 480cm、短軸 416cm を測る。平面形状は方形である。

【方向】 カマドを基準として N - 35° - W である。

【堆積土】 12 層に分層した。1・2 層は住居堆積土、3・4 層は周溝堆積土で堰板跡と考えられる。5～10 層はカマド関連の堆積土で、9 層は焼土、10 層はカマド構築土である。11・12 層は掘り方埋土である。

【壁面】 検出した部分では、ほぼ直立する。壁高は 23～33cm を測る。

【床面】 1・2 層下の掘り方埋土上面を床面とする。床面には、軽微な起伏が多くみられる。

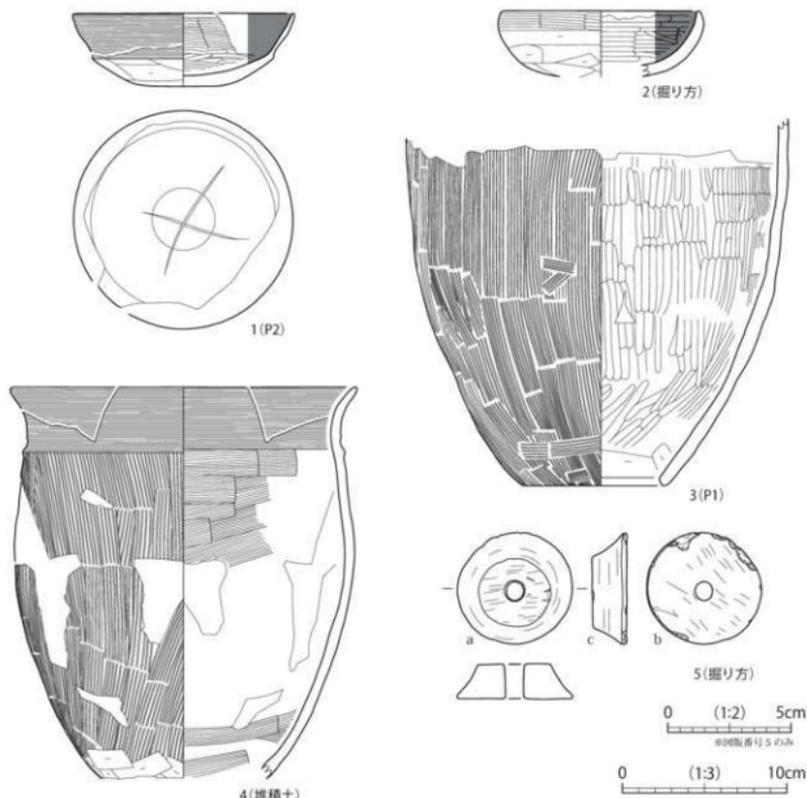
【周溝】 北壁のカマド周辺および西壁の一部を除いて全周する。残存状態の良い東・南壁際では、南東隅を除き壁面より 20cm 程内側に周溝が位置しており、北・西壁際も同様であったと推察される。周溝は断面「U」字状を呈し、規模は幅 5～25cm、深さ 2～27cm を測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、北壁にほぼ直交して付設されると考えられる。袖の規模は、東袖が長さ 75cm、幅 32cm を測る。西袖は SI370 によって失われている。東袖の形状から、袖は壁面に対して馬蹄形状に付設されていたと考えられる。東袖の先端部から長さ 35cm、幅 18cm、厚さ 10cm 前後の自然礫が直立した状態で出土した。出土状況からカマド芯材と考えられる。燃焼部の規模は奥行き 50cm、幅は推定で 40cm 程、奥壁高は 15cm 程と考えられる。底面は皿状に 5cm 程窪み、径 44cm 程の焼面がみられる。焼面中央に長さ 15cm、幅 10cm、厚さ 3cm 程の礫が埋設されており、位置関係から支脚と考えられる。奥壁および煙道部は失われており、形状は不明である。

【その他の施設】 床面から土坑 4 基 (P1～4) を検出した。P1 は北東隅に位置し、平面隅丸方形を呈す。規模は長軸 58cm、深さ 18cm を測る。底面には粘土が貼られ、堆積状況から人為的に埋め戻されていると考えられる。形状や位置関係から貯蔵穴と考えられ、堆積土中から土師器甕(第 56 図-3)が出土した。P2 は南西隅に位置し、平面隅丸長方形を呈す。規模は、長軸 61cm、深さ 22cm を測る。P3 は平面隅丸方形を呈し、堆積土に白色粘土ブロックを含む。規模は長辺 40cm、深さ 4cm を測る。P4 は平面円形で、規模は径 22cm、深さ 11cm を測る。

【掘り方】 深さ 5～13cm である。カマド周辺が一段深く掘り下がる。底面はほぼ平坦で、中央部から土師器環(第 56 図-2)と石製紡錘車(第 56 図-5)が出土した。

【出土遺物】 石製紡錘車 1点以外は土師器で、出土量は少量である。土師器環 2点、土師器甕 1点、土師器甕 1点、石製品 1点を図示した(第56図)。1は有段丸底環であり、口縁部と体部の境に段を持ち、底部は平底を呈する。また、底部には「×」のヘラ記号が確認できる。調整は外面口縁部がヨコナデ、体部がヘラケズリ、内面がヘラミ



| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 群位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真図版 |
|------|------|-----------|-----|-----|------|--------|--------|--------|---------------------------|--------------------|-----|------|
| | | | | | | 口径 | 口径 | 高さ | | | | |
| 1 | C-62 | SI379 | P2 | 土師器 | 環 | (13.5) | — | 4.5 | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、底部ヘラ記号「×」 | 口縁～体部ヘラミガキ、黒色処理 | | 32 |
| 2 | C-63 | SI379 | 振り方 | 土師器 | 環 | (12.0) | — | (4.1) | 口縁部ヘラミガキ、体部ヘラケズリ | 口縁～体部ヘラミガキ、黒色処理 | | 32 |
| 3 | C-65 | SI379 | P1 | 土師器 | 甕 | — | 8.6 | (22.5) | 胴部ハケメ | 胴部ヘラミガキ→胴部下位ヘラケズリ | 穿孔 | 32 |
| 4 | C-64 | SI379-06C | 堆積土 | 土師器 | 甕(甕) | (21.0) | (10.1) | 24.0 | 口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ→胴部下位ヘラケズリ | 口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ヘラナデ | | 32 |
| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 群位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 石材 | 備考 | 写真図版 |
| | | | | | | 全長 | 幅 | 厚さ | | | | |
| 5 | K-68 | SI379 | 振り方 | 石製品 | 紡錘車 | 径4.7 | 孔径0.8 | 1.5 | 37.3 | | 粘板石 | 32 |

第56図 SI379 竈穴住居跡出土遺物

ガキで黒色処理が施される。2は口縁部と体部の境に段や稜が不明瞭で、丸みを帯びる。外面は口縁部がヘラミガキ、体部がヘラケズリ、内面はヘラミガキで調整される。また、内面には黒色処理が施される。3は単孔の甗であり、胴部上半は円筒状、胴部下半は窄まる。胴部外面はハケメ、胴部内面はヘラミガキ、下位はヘラケズリで調整される。4は大型の甗であり、口縁部は外反し、口縁部と胴部の境に段を持ち、胴部は楕円状を呈する。口縁部は内外面ヨコナデで、胴部は外面がハケメ、下位はヘラケズリ、内面はヘラナデで調整される。底部を意識的に欠いて甗として転用した可能性が考えられる。5は、粘板岩製の紡錘車である。

【時期】 掘り方より出土した土師器環（第56図-2）が直接伴う遺物で、3期（7世紀初頭～前葉）と考えられる。重複関係にあるSI378も3期と考えており、3期の中でもそれよりは古くなる。

SI380 竈穴住居跡（第57図）

【位置・確認】 調査区中央部の13グリッドに位置する。基本土層IV層上面で、煙道部を検出した。

【重複】 SI372と重複し、それより古い。

【規模・形態】 不明である。

【方向】 カマド煙道部を基準としてN-90°-Eである。方向から、本調査区で唯一の東カマドと考えられる。

【堆積土】 5層に分層した。1～5層はカマド煙道部関連の堆積土で、5層は煙出し部分の堆積土である。

【カマド】 検出した煙道部の規模は、長さ61cm、幅33cm、深さ7cmを測る。底面は概ね平坦で、煙出し部分に向かって緩やかに立ち上がる。煙出し部分は平面楕円形、断面は半円状のビット状を呈す。規模は長径25cm、深さ16cmを測る。

【出土遺物】 遺物は出土していない。

【時期】 重複関係にあるSI372が2a期（6世紀初頭～前葉）であることから、それ以前の時期である。



SI380 堆積土層記表

| 部位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|----------------|--------|------------------------------|
| カマド | 1 | 10YR4/4 褐色 | シルト | 焼土30%、焼土粒10%、炭化物、IV層土粒を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土粒20%、炭化粒を微量含む。 |
| | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 帯状に焼土ブロック(10~25mm)30%含む。 |
| | 4 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | IV層土粒30%含む。 |
| | 5 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | シルト | IV層土粒、炭化物を微量含む。 |

第57図 SI380 竈穴住居跡

SI381 竈穴住居跡（第58・59図）

【位置・確認】 調査区北東隅の7・11グリッドに位置する。大半は掘乱により失われる。

【重複】 SI366、SA7、SD278、Pit91・147と重複し、それより古い。

【規模・形態】 検出した部分の規模は、長軸432cm、短軸143cmを測る。平面形状は、隅丸方形ないし隅丸長

方形と考えられる。

【方向】 東壁面を基準としてN-17°-Wである。

【堆積土】 5層に分層した。1層は住居堆積土、2層は周溝堆積土、3・4層はカマド関連の堆積土で、3層は被熱による赤化がみられ燃焼部と考えられる。5層は掘り方柱土である。

【壁面】 検出した部分では、ほぼ直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、5～13cmを測る。

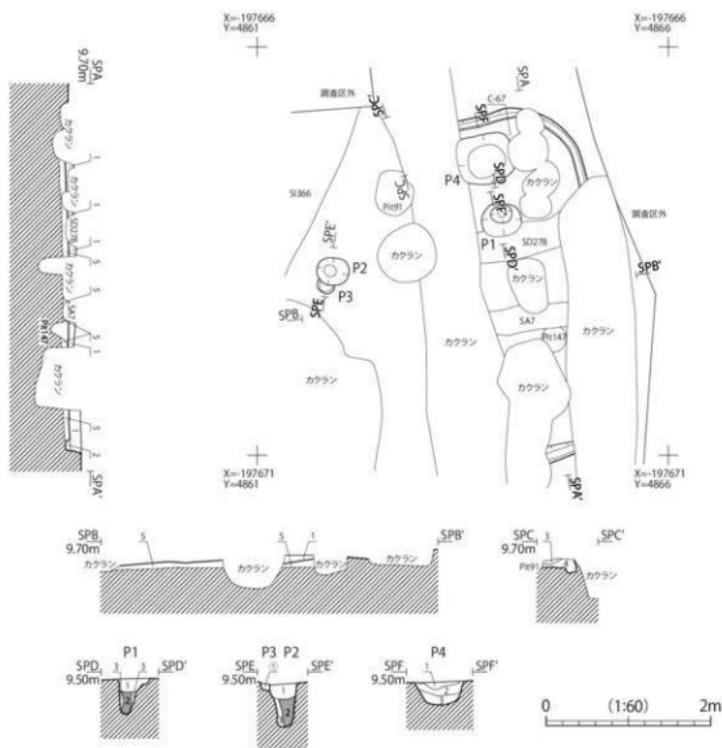
【床面】 5層掘り方柱土上面を床面とする。起伏はみられるが、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から3基（P1～3）検出した。P1の規模は長径49cm、深さ44cm、P2の規模は長径39cm、深さ53cmを測る。P1・2は、規模と位置関係から主柱穴と考えられる。

【周溝】 検出した部分では、壁面に沿って全周する。規模は、幅10cm前後、深さ4～6cmを測る。

【カマド】 北壁ほぼ中央部に位置したと推察される。掘削の断面でカマド関連の堆積土を一部確認したのみで、規模や形状は不明である。

【その他の施設】 床面から土坑1基（P4）を検出した。P4は北東隅に位置し、平面丸方形を呈す。規模は長辺



第58図 SI381 竪穴住居跡

S381 埋積土層記表

| 層位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-------|----|----------------|-----|---------------------------|
| 住居埋積土 | 1 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | 5割土粒50%、炭化物微量含む。 |
| 埋積 | 2 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | 5割土粒50%含む。 |
| カマド | 3 | 7.5YR5/4 に近い褐色 | シルト | 焼土ブロック(10~20cm)40%含む。 |
| | 4 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | 灰白色粘土粒50%、焼土粒5%含む。 |
| 住居掘り方 | 5 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 5割土粒40%、灰白色粘土粒少量、焼土粒微量含む。 |

S381 施設埋積土層記表

| 遺構名 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|----------------|--------|----------------------------------|
| P1 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 5割土ブロック40%、炭化物少量、焼土粒を微量含む。(柱状取面) |
| | 2 | 10YR4/1 褐色 | 粘土質シルト | 5割土ブロック10%、炭化物少量含む。(柱状取面) |
| | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 5割土ブロック50%、炭化物を微量含む。(柱状取面) |
| P2 | 1 | 10YR4/1 褐色 | シルト | 5割土ブロック50%、炭化物を微量含む。(柱状取面) |
| | 2 | 10YR2/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 5割土粒20%、炭化物を微量含む。(柱状取面) |
| | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 5割土粒30%含む。 |
| P3 | ① | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 5割土ブロック60%、炭化物微量含む。 |
| | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 5割土ブロック30%、炭化物、焼土粒微量含む。 |
| P4 | 2 | 10YR4/1 褐色 | シルト | 焼土ブロック40%、炭化物20%、5割土中粒少量含む。 |
| | 3 | 10YR7/2 に近い黄褐色 | シルト | 5割土ブロック20%、焼土粒、炭化物を微量含む。グライ化。 |

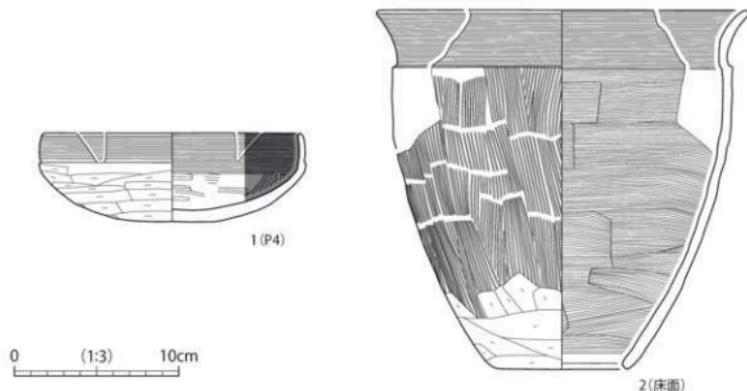
S381 施設観測表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 | 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 |
|-----|-----|--------|----|----|-----|-----|---------|----|----|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P1 | 楕円形 | 49×41 | 44 | | P3 | 円形 | 22×(11) | 8 | |
| P2 | 楕円形 | 39×34 | 53 | | P4 | 楕円形 | (60)×62 | 28 | |

63cm、深さ28cmを測る。埋積土に焼土ブロック・炭化物を多く含み、カマド関連の施設の可能性もあるが、位置関係からは貯蔵穴と考えられる。P4から土師器環(第59図-1)、床面から土師器甕(第59図-2)などが出土した。

【掘り方】 深さ6~10cmである。底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 出土遺物は土師器が主体であり、出土量は他の住居に比べ少量である。土師器環1点、土師器甕1点を図示した(第59図)。1は関東系土師器の環であり、口縁部は直立し、底部が丸底を呈する。調整は口縁部が内外面ヨコナデ、体部外面がヘラケズリ、体部内面がヘラミガキであり、内面は黒色処理が施される。2は単孔



| 図号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 寸法(cm) | | | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真図録 |
|----|------|------|----|-----|----|--------|-----|------|-----------------|----------------------|----|------|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1 | C-66 | S381 | P4 | 土師器 | 環 | (15.6) | - | 5.4 | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ、黒色処理 | | 32 |
| 2 | C-67 | S381 | 床面 | 土師器 | 甕 | (22.4) | 8.0 | 22.0 | 口縁部ヨコナデ、胴部ハケズリ | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ | 単孔 | 32 |

第59図 S381 竪穴住居跡出土遺物

S382 埋積土層記表

| 部位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-------|----|----------------|--------|--------------------------------|
| 住居堆積土 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | IV類土ブロック、炭化物、褐色鉄を微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/4 褐色 | シルト | 焼土ブロック9%、炭化物を微量含む。 |
| | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 焼土粒80%、炭化物塊・板状に5%含む。 |
| カマド跡 | 4 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | 粘土質シルト | IV類土中粒、炭化物を微量含む。 |
| | 5 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | 粘土質シルト | IV類土ブロック10%、炭化物を微量含む。(貼床面) |
| 住居掘り方 | 6 | 10YR4/4 褐色 | シルト | IV類土ブロック(10～30mm)30%、炭化物を微量含む。 |
| | 7 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV類土粒20%含む。 |

S382 施設埋積土層記表

| 遺構名 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|--------------|--------|---------------------|
| P1 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | IV類土粒10%、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物、焼土ブロックを微量含む。 |
| P3 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | IV類土ブロック30%含む。 |
| | 2 | 10YR3/1 黒褐色 | 粘土質シルト | IV類土中粒、炭化物を微量含む。 |
| | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV類土中粒10%、炭化物を微量含む。 |
| P4 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 砂質シルト | 炭化物、焼土粒を微量含む。 |

S382 施設断面表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 | 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 |
|-----|-----|--------|----|----|-----|-----|--------|----|----|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P1 | 円形 | 26×24 | 43 | | P3 | 円形 | 24×24 | 46 | |
| P2 | 円形 | 58×49 | 11 | | P4 | 円形 | 27×25 | 25 | |

【方向】 カマドを基準としてN-2°-Wである。

【埋積土】 7層に分層した。1層は住居堆積土、2～4層はカマド関連の埋積土で、2層は天井崩落土、3層は燃焼部、4層はカマド構築土である。5～7層は掘り方埋土で、5層は貼床面である。

【壁面】 北壁のみの残存であり、緩やかに外傾して立ち上がる。壁高は24cm程を測る。

【床面】 5層上面を床面とする。貼床である。検出した部分では、やや起伏は見られるが概ね平坦である。

【柱穴】 SI372掘り方から3基(P1～3)、SD281底面から1基(P4)、計4基を検出した。位置関係からいずれも主柱穴と考えられ、規模は長径24～58cm、深さ11～46cmを測る。

【周溝】 検出した部分では、北壁のカマド周辺を除き壁面に沿って周る。規模は、幅12～15cm、深さ7～11cmを測る。

【カマド】 北壁中央部やや東寄りに位置し、北壁面に直交して付設されている。検出した西袖の規模は、長さ48cm、幅26cmを測る。袖は壁面に直交して付設されていたと考えられる。検出した燃焼部の規模は、奥行き20cm、幅36cm、奥壁高10cm程である。奥壁は緩やかに立ち上がり、長径28cmの平面半円形の焼面がみられる。

【掘り方】 深さ22～36cmである。底面にはやや起伏がみられ、壁面に沿って一段掘り下げる。

【出土遺物】 SI382の出土遺物として取り上げたものは土師器がわずかにみられるのみであるが、重複するSD281やSI372の出土遺物に混入している可能性がある。SI382の出土遺物として明らかなものの中には、図示可能な遺物はなかった。

【時期】 重複関係にあるSI369を4～5期(7世紀中葉～8世紀初頭)、SI372を2a期(6世紀初頭～前葉)としていることから、SI382は2a期以前になると考えられる。

SI383 竪穴住居跡(第61・62図)

【位置・確認】 調査区中央部西寄りの17・21グリッドに位置する。基本土層IV層上面で検出し、東半は重複するSI372によって失われる。

【重複】 SI372、SK324、Pit59と重複し、それらより古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸452cm、短軸447cmを測る。平面形状は方形である。

【方向】 西壁面を基準としてN-24°-Wである。

【埋積土】 8層に分層した。1～5層は住居堆積土で、2層は灰白色粘土ブロックを比較的多く含む。6層は周溝

堆積土、7・8層は掘り方埋土である。

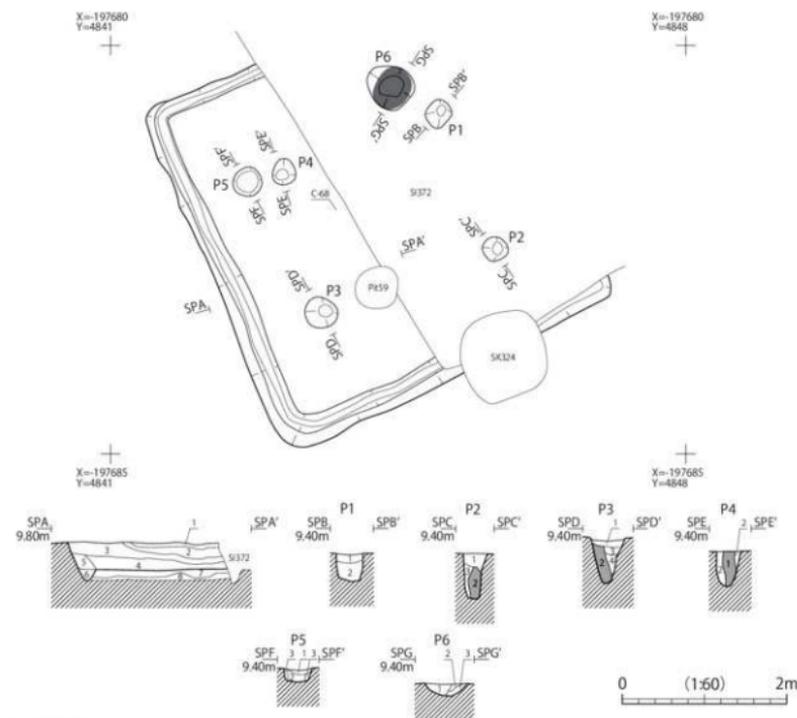
【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、13～32cmを測る。

【床面】 7層掘り方埋土上面を床面とする。緩やかな起伏はみられるが、概ね平坦である。

【柱穴】 SI372掘り方から2基（P1・2）、床面から2基（P3・4）、計4基を検出した。規模や位置関係から主柱穴と考えられる。規模は、長径31～40cm、深さ33～57cmを測る。P2～4は、径14～16cmの柱痕跡のみられる。

【周溝】 検出した部分では、壁面に沿って全周する。規模は、幅10～22cm、深さ7～14cmを測る。

【その他の施設】 床面から土坑1基（P5）、SI372掘り方から土坑1基（P6）を検出した。P6は平面円形を呈し、規模は長径58cm、深さ14cmを測る。堆積土に焼土を多量に含み、堆積状況から人為的に埋め戻されていると考



SI383 堆積土層記表

| 部位 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-------|----|----------------|--------|--------------------------------|
| 住居堆積土 | 1 | 10YR3/1 加褐色 | シルト | 炭化物15%、焼土粒を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 灰白色粘土ブロック20%含む。 |
| | 3 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック(10～20mm)少量、炭化物を微量含む。 |
| | 4 | 10YR4/4 褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック、炭化物を微量含む。 |
| | 5 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土粒10%含む。 |
| 周溝 | 6 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土粒を少量含む。 |
| 住居掘り方 | 7 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土粒10%含む。 |
| | 8 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック(10～30mm)20%、炭化物を微量含む。 |

第61図 SI383 竪穴住居跡

S383 施設増殖土誌記表

| 遺構名 | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 |
|-----|----|----------------|--------|----------------------------|
| P1 | 1 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | V層土ブロック主体、粘土粒、炭化物を微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | V層土ブロック20%含む。 |
| P2 | 1 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | V層土ブロック主体、(柱状収縮) |
| | 2 | 10YR4/1 褐色 | 粘土質シルト | V層土粒、炭化粒を微量含む。(柱状収縮) |
| | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | V層土ブロック10%含む。 |
| P3 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | V層土粒40%含む。(柱状収縮) |
| | 2 | 10YR4/1 褐色 | 粘土質シルト | V層土ブロック30%、炭化粒を微量含む。(柱状収縮) |
| | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | V層土粒30%含む。 |
| | 4 | 10YR4/1 褐色 | 粘土質シルト | V層土ブロック20%含む。 |
| P4 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | V層土粒、炭化物を少量含む。(柱状収縮) |
| | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | V層土ブロック10%含む。 |
| P5 | 1 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化粒を微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | V層土ブロック40%、炭化粒を微量含む。 |
| | 3 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | V層土粒20%含む。 |
| P6 | 1 | 10YR2/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 塊土ブロック60%、炭化物を少量含む。 |
| | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | V層土ブロック主体、粘土粒、炭化粒を微量含む。 |
| | 3 | 10YR2/3 黒褐色 | 粘土質シルト | 塊土ブロック20%、炭化物、V層土ブロック少量含む。 |

S383 施設観察表

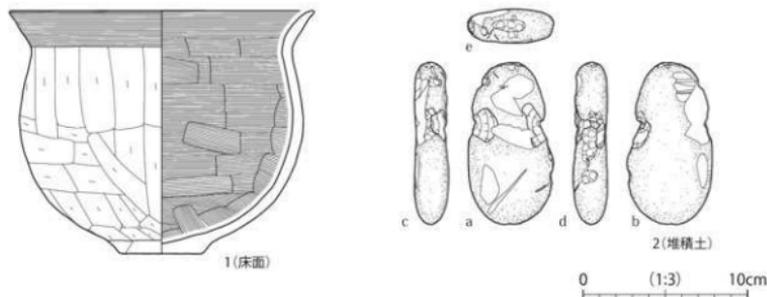
| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 | 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | | 備考 |
|-----|------|--------|----|----|-----|-----|--------|----|----|
| | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | 長軸×短軸 | 深さ | |
| P1 | 楕円方形 | 32×28 | 33 | | P4 | 楕円形 | 32×28 | 44 | |
| P2 | 円形 | 31×29 | 36 | | P5 | 円形 | 37×35 | 14 | |
| P3 | 円形 | 40×38 | 37 | | P6 | 楕円形 | 58×50 | 14 | |

えられる。規模や位置関係から、貯蔵穴ないしはカマド関連の施設と考えられる。

【掘り方】 深さ 12～14cm である。底面は軽微な起伏のみみられるが、概ね平坦である。

【出土遺物】 土師器と石製品が少量出土した。土師器甕 1 点と礫石器 1 点を図示した(第 62 図)。1 は小型の甕で、口縁部はほぼ直線状に外傾し、胴部は球状を呈し、底部は台を意識した作りとなっている。胴部外面はヘラケズリ、胴部内面はヘラナデで調整される。2 は楕円形の礫の両側面を意識的に打ち欠いていると考えられたため、石錘とした。石材は凝灰岩である。

【時期】 床面から出土した土師器甕(第 62 図-1) が直接伴う遺物で、2a 期(6 世紀初頭～前葉)以前と考えられる。重複関係にある SI372 は 2a 期であるが、それより古い段階となる。



| 図録番号 | 発掘番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真掲載 |
|------|------|-------|-----|-----|----|--------|-----|------|-------------------|----------------|----|------|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1 | C-68 | SI383 | 床面 | 土師器 | 甕 | 18.4 | 5.0 | 14.9 | 口縁部ヨコナデ、胴～底部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ | | 32 |
| 図録番号 | 発掘番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 重量(g) | 石材 | 備考 | 写真掲載 |
| | | | | | | 全長 | 幅 | 厚さ | | | | |
| 2 | Kc-4 | SI383 | 増殖土 | 礫石器 | 石錘 | 9.9 | 5.2 | 2.1 | 69.8 | 凝灰岩 | | 32 |

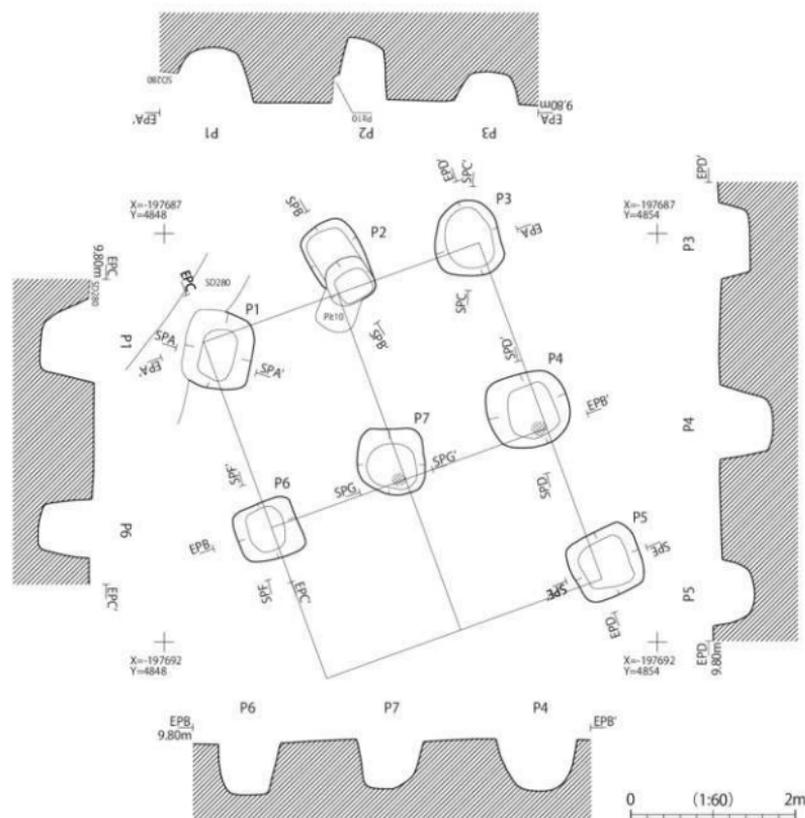
第 62 図 SI383 壁穴住居跡出土遺物

(2) 掘立柱建物跡 (第63～67図)

本調査区で掘立柱建物跡3棟を検出したが、調査時に検出したものはSB42の1棟である。SB43・44については、調査段階で桁行の柱列は確認していたが梁間が不明であり、整理段階で柱穴の規模や形状、柱間寸法などから掘立柱建物跡とした。本調査区で検出した単独ピットには柱痕跡の認められるものが多くあり、さらに掘立柱建物跡が存在した可能性も考えられる。

SB42 掘立柱建物跡 (第63・64図)

調査区中央部南端の21・22・25・26グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で7基の柱穴を検出した。SI355・356・359、SD280と重複し、SI355・356・359より新しくSD280より古い。



第63図 SB42 掘立柱建物跡 (1)

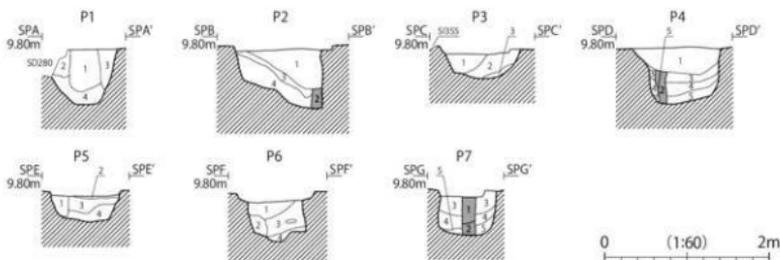
桁行（南北）2間、梁間（東西）2間の南北棟の総柱建物跡と考えられる。棟方向は東側の桁行方向でN-20°-Wである。

規模は桁行総長450cm、梁間長360cmを測る。柱間寸法は、桁行北柱間（P1～P6・P2～P7・P3～P4）で240cm、南柱間（P4～P5）では210cmを測り、梁間は180cmで等間である。

柱掘り方は平面隅丸方形を基本形としており、規模は長軸76～105cm、短軸67～92cmと大型である。断面形は箱状ないし台形状を呈し、深さ31～69cmを測る。P2・4・6では柱抜取痕がみられ、P2・4・7で径13～16cmの柱痕跡、P4・7の底面で径16cm程の変色範囲が確認できた。

遺物はP2～7の堆積土から土師器や須恵器の破片が少量出土したのみで、図示できるものはない。

時期は、重複するSI355を5期（7世紀末葉～8世紀初頭）としたことから、5期以降と考えられる。



第64図 SB42 掘立柱建物跡(2)

SB42 掘立柱建物跡 観察表

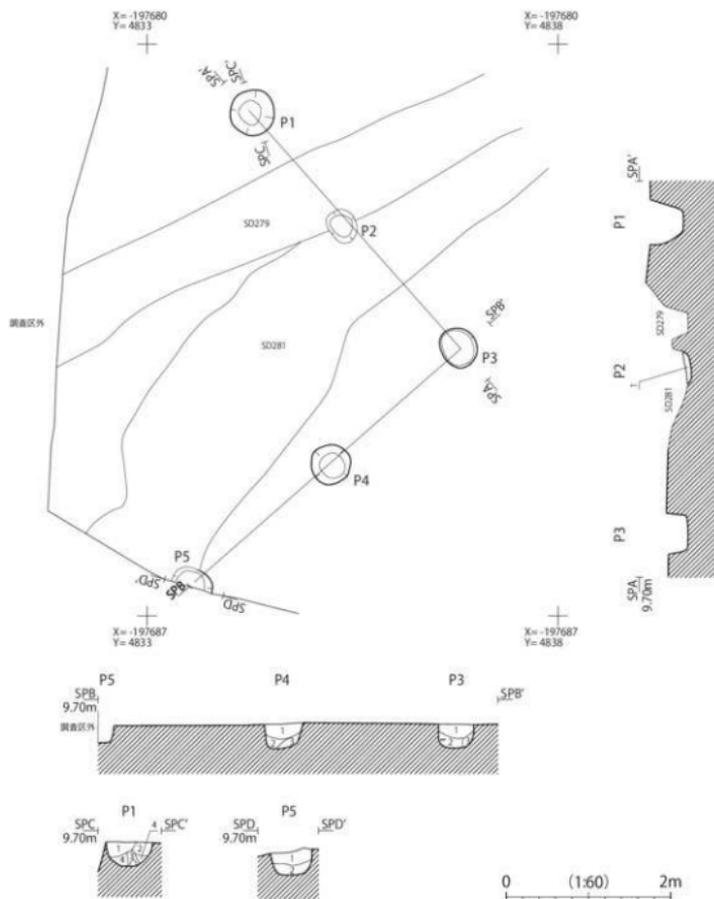
| 遺構名 | ドット | 平面形 | 規模(cm) | | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 | 産地 |
|-----|-------|-------|--------|----|----|--------------|--------|--------------------------------------|----------------------|
| | | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | | |
| P1 | 21 | 隅丸方形 | 95×82 | 67 | 1 | 10YR3/3 相褐色 | 粘土質シルト | IV層土粒10%、炭化物微量含む。 | SI355より新しい、SD280より古い |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土粒10%含む。 | |
| | | | | | 3 | 10YR3/4 相褐色 | シルト | IV層土ブロック10%含む。 | |
| | | | | | 4 | 10YR3/2 相褐色 | 粘土質シルト | IV層土粒、炭化物を微量含む。 | |
| P2 | 21-22 | 隅丸長方形 | 105×67 | 34 | 1 | 10YR3/3 相褐色 | シルト | IV層土ブロック40%、炭化物、粘土を微量含む。(柱抜取痕) | |
| | | | | | 2 | 10YR3/2 栗褐色 | シルト | IV層土ブロック(20～50cm)10%、炭化物を微量含む。(柱抜取痕) | |
| | | | | | 3 | 10YR4/1 靑灰色 | シルト | IV層土ブロック50%含む。 | |
| | | | | | 4 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土ブロック30%含む。 | |
| P3 | 22 | 楕円形 | 93×81 | 30 | 1 | 10YR3/4 相褐色 | シルト | IV層土ブロック10%、炭化物、褐色粒を微量含む。 | SI355・SI356より新しい |
| | | | | | 2 | 10YR3/2 相褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック20%、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック40%、炭化物微量含む。グライ化。(柱抜取痕) | |
| | | | | | 4 | 10YR4/1 靑灰色 | シルト | IV層土ブロック、炭化物微量含む。グライ化。(柱抜取痕) | |
| P4 | 22 | 隅丸方形 | 98×92 | 69 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック10%、炭化物微量含む。グライ化。 | SI355・356より新しい |
| | | | | | 2 | 10YR4/1 靑灰色 | シルト | IV層土ブロック、炭化物微量含む。グライ化。(柱抜取痕) | |
| | | | | | 3 | 10YR4/1 靑灰色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック10%、炭化物微量含む。グライ化。 | |
| | | | | | 4 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック20%含む。グライ化。 | |
| | | | | | 5 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土粒10%含む。グライ化。 | |
| P5 | 26 | 隅丸方形 | 83×82 | 31 | 1 | 10YR3/3 相褐色 | 粘土質シルト | IV層土中粒、炭化物微量含む。(柱抜取痕) | SI355より新しい |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土粒、炭化物、褐色粒を微量含む。 | |
| | | | | | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック(10～30cm)30%含む。 | |
| | | | | | 4 | 10YR4/4 相色 | 粘土質シルト | IV層土粒40%、炭化物微量含む。 | |
| P6 | 25-26 | 隅丸方形 | 76×71 | 49 | 1 | 10YR3/3 相褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック20%、炭化物10%含む。(柱抜取痕) | SI359より新しい |
| | | | | | 2 | 10YR3/2 栗褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック10%、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 3 | 10YR3/4 相褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 4 | 10YR4/1 靑灰色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック10%含む。 | |
| P7 | 22-26 | 楕円形 | 82×80 | 55 | 1 | 10YR3/3 相褐色 | 粘質シルト | 炭化物10%、粘土粒10%、IV層土粒微量含む。(柱抜取痕) | SI355より新しい |
| | | | | | 2 | 10YR3/2 栗褐色 | 粘質シルト | 炭化物80%、IV層土粒微量含む。(柱抜取痕) | |
| | | | | | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘質シルト | IV層土ブロック30%含む。 | |
| | | | | | 4 | 10YR3/4 相褐色 | シルト | IV層土ブロック10%含む。 | |
| | | | | | 5 | 10YR4/1 靑灰色 | シルト | IV層土粒少量含む。 | |

SB43 掘立柱建物跡 (第 65 図)

調査区南西隅の 16・20 グリッドに位置し、5 基の柱穴を検出した。SI365・370・379、SD279・281 と重複し、SI365・370・379 より新しい。SD279・281 との新旧関係は、直接的な切り合いがないため確認できなかった。

検出した部分は南北 2 間、東西 2 間の範囲で、北側および西側は調査区外へ延びるため全体の規模は不明である。

規模は南北総長 390cm、東西総長 420cm を測り、柱間寸法は南北柱列の P1～P2 が 180cm、P2～P3 が 210cm、東西柱列は 210cm で等間である。柱間寸法から南北棟の側柱建物跡と考えられ、棟方向は東側の桁行方向で $N-42^{\circ}-W$ である。



第 65 図 SB43 掘立柱建物跡

SB43 独立柱建物跡 観察表

| 遺構名 | Y' (m) | 平面形 | 規模 (cm) | | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 | 重層 |
|-----|--------|------|---------|----|----|---------------|--------|-------------------------|----------------|
| | | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | | |
| P1 | 16 | 円形 | 56×55 | 30 | 1 | 7.5Y4/1 灰色 | シルト | IV層土中粒10%、炭化物3%含む。グライ化。 | SI365-370より新しい |
| | | | | | 2 | 7.5Y4/1 灰色 | シルト | IV層土粒、炭化物微量含む。グライ化。 | |
| | | | | | 3 | 5Y4/1 灰色 | 粘土質シルト | IV層粒10%、微かに炭化物含む。グライ化。 | |
| | | | | | 4 | 10Y3/1 オリーブ黒色 | シルト | IV層土中粒20%、炭化物微量含む。グライ化。 | |
| P2 | 16 | 円形 | 43×33 | 11 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物、IV層土ブロック各10%含む。 | SD279-281より古い |
| | | | | | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | |
| P3 | 16 | 円形 | 50×44 | 30 | 2 | 10YR4/1 褐色 | 粘土質シルト | IV層土中粒30%含む。 | SI379より新しい |
| | | | | | 3 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化物微量、IV層土中粒含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化物微量含む。 | |
| P4 | 16・20 | 円形 | 50×48 | 30 | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土中粒10%含む。 | SI370より新しい |
| | | | | | 3 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | IV層土中粒20%含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | |
| P5 | 20 | 隅丸方形 | 51×(22) | 33 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SI370より新しい |
| | | | | | 2 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | IV層土中粒20%含む。 | |

柱掘り方は、平面円形で、規模は長径 43～56cm、深さ 11～33cmを測る。断面形は「U」字状を呈す。

遺物は P3～5 の堆積土から土器器がわずかに出土したが、図示可能なものはなかった。

時期は、重複する SI365 を 5 期 (7 世紀末葉～8 世紀初頭) と推定しており、SB43 はそれ以降と考えられる。

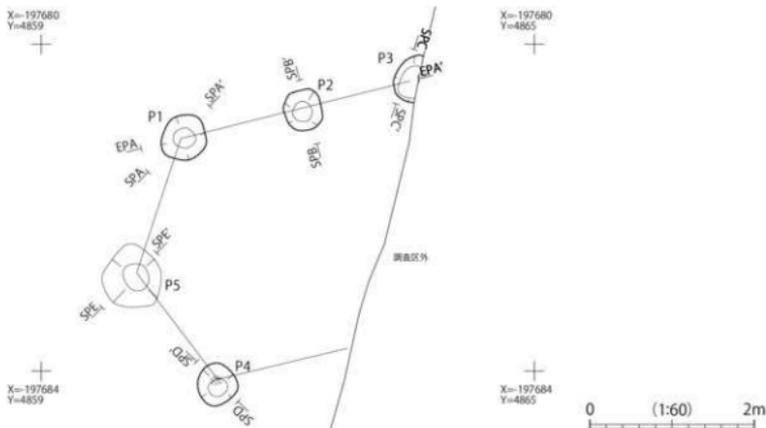
SB44 独立柱建物跡 (第 66・67 図)

調査区南寄り東端の 18・19 グリッドに位置し、5 基の柱穴を検出した。SI361、SX35、SM413 と重複し、SI361、SM413 より新しく、SX35 より古い。東側は調査区外へ延びる。

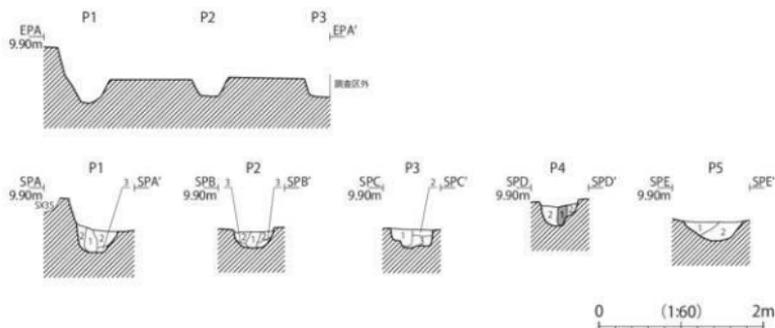
桁行 (東西) 2 間以上、梁間 (南北) 1 間の東西棟の独立棟持式の創柱建物跡で、北側桁行方向を基準とした棟方向は N-76°-E である。

規模は、桁行総長 300cm、梁間長 300cm を測り、西側梁間の中央より 80cm 西側に棟持柱 (P5) が設置される。柱間寸法は、桁行は 150cm 等間、梁間は 300cm で棟持柱までの寸法は P1～P5・P4～P5 間ともに 170cm を測る。

柱掘り方は、P1～4 は平面円形を基本形とし、規模は長径 50～60cm、深さ 20～29cm を測る。断面形は「U」字状を呈し、調査区東壁の土層観察などから、本来は 80cm 以上の深さを有していたと考えられる。P5 は長



第 66 図 SB44 独立柱建物跡 (1)



第 67 図 SB44 掘立柱建物跡 (2)

SB44 掘立柱建物跡 観察表

| 遺構名 | ヤ+丁 | 平面形 | 取壊(cm) | | | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 | 重複 |
|-----|-------|-------|---------|----|----|----------------|-----|--------------------------------|------------|----|
| | | | 長軸×短軸 | 高さ | 深さ | | | | | |
| P1 | 19 | 円形 | 55×54 | 29 | 1 | 10YR4/1 黄灰色 | シルト | IV層土和10%、炭化物微量含む、グライ化。(柱基礎) | SI361より新しい | |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土ブロック20%、炭化物微量含む。 | | |
| | | | | | 3 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | IV層土ブロック(10mm)60%、黒褐色シルト粒微量含む。 | | |
| P2 | 19 | 隅丸方形 | 50×44 | 20 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土和微量含む。(柱基礎) | SI36より新しい | |
| | | | | | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土和20%炭化物微量含む。 | | |
| | | | | | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック30%含む。 | | |
| P3 | 19 | 円形 | 60×(29) | 22 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土和10%、炭化物微量含む。 | SI36より新しい | |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土ブロック20%、炭化物微量含む。 | | |
| | | | | | 3 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | IV層土ブロック30%含む。 | | |
| P4 | 19 | 円形 | 50×48 | 24 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土和10%、炭化物微量含む、一部グライ化。(柱基礎) | SM413より新しい | |
| | | | | | 2 | 10YR4/1 黄灰色 | シルト | IV層土ブロック30%含む。 | | |
| | | | | | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土和10%、炭化物微量含む、グライ化。 | | |
| P5 | 18-19 | 不整形円形 | 78×72 | 23 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土和10%、炭化物微量含む、グライ化。 | SX35より古い | |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土ブロック20%、炭化物微量含む。 | | |

径78cm、深さ23cmを測り、断面形は皿状を呈す。P4で径11cmの柱痕跡が認められ、底面では径13cmの紫色範囲がみられた。

遺物は、P1～3の堆積土から土師器がわずかに出土したが図示できるものはない。

時期は、重複関係にあるSI361が3期(7世紀初頭～前葉)、SX35が6期(8世紀前葉以降)であることから3期～6期と考えられる。

(3) 杭列・一本柱列(第68～72・75図)

本調査区で杭列1列、一本柱列2列を検出した。塀などの区画施設と考えられるが、本来は掘立柱建物跡の柱穴列であった可能性も考えられる。

SA7 杭列(第72・75図)

調査区北側の9・10・11・12・13グリッドに位置する。SI363・365・369・371・381・382、SD281と重複し、それより新しい。東端は、調査区外へ延びる。

検出した規模は、長さ3000cm程、幅20～35cm、深さ10～18cmを測る。方向はN-60°～80°-Eと湾曲している。断面形は半円状ないしは「U」字状を呈し、30～35cm間隔で径5cm程の杭が打杭される。

堆積土はIV層土主体で、底面には起伏がみられる。北側に位置するSD278と並走しており、SD278に伴う施設の可能性も考えられる。

遺物は土師器や須恵器とともに近世陶磁器が少量出土しているが、図示できるものはない。

時期は、堆積土や出土遺物から近世以降と考えられる。

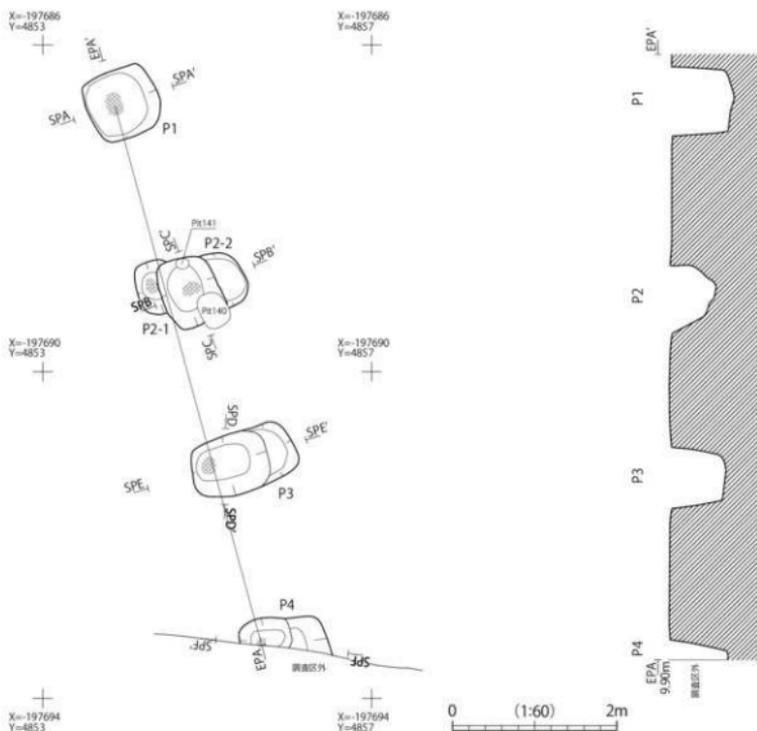
SA7 柱列観測表

| 遺構名 | ヤサシ' | 方向 | 規模(cm) | | | | 層位 | 土色 | | 備考 |
|-----|-------------------|-------------|--------|-------|-------|-------|----|--------------|-----|-------------|
| | | | 全長 | 上端幅 | 下端幅 | 深さ | | 1 | 2 | |
| SA7 | 9・10・11 ・12・13 | N 60°~80° E | 3000 | 20~35 | 10~20 | 10~18 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土粒10%含む。 |
| | | | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | |

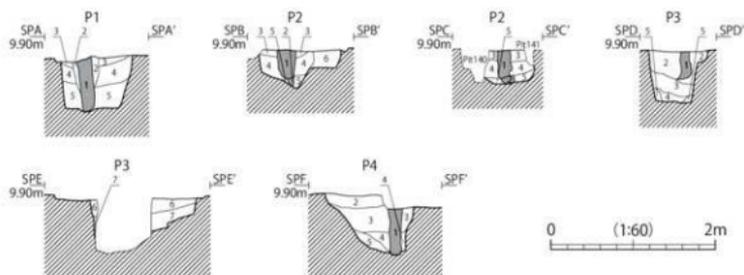
SA8 一本柱列 (第 68 ~ 70 図)

調査区南側東寄りの 22・26 グリッドに位置する。基本土層IV層上面で柱穴 4 基を検出し、南側は調査区外へ延びる可能性がある。SI355・356、SX36 と重複し、それらより新しい。

方向は N - 15° - W で、検出した規模は長さ 690cm、柱間寸法は 220 ~ 240cm とほぼ等間である。柱掘り方は、平面隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈し、規模は長軸 87 ~ 128cm、短軸 35 ~ 85cm、断面は台形状を呈し、深さ 47 ~ 72cm を測る。すべての柱穴から、径 12 ~ 21cm の柱痕跡と底面に径 12 ~ 22cm の変色範囲が確認さ



第 68 図 SA8 一本柱列 (1)



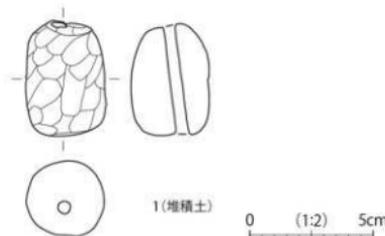
第 69 図 SAB 一本柱列 (2)

SAB 一本柱列詳細表

| 遺構名 | 『リ』 | 平面形 | 規模 (cm) | | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 | 重複 |
|-----|-----|-------|----------|----|----|--------------|--------|----------------------------|----------------|
| | | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | | |
| P1 | 22 | 隅丸方形 | 87×85 | 67 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物・IV層土ブロック20%。(柱痕跡) | SK356より新しい |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土粘微量,炭化物含む。 | |
| | | | | | 3 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | IV層土粘20%,炭化物5%含む。 | |
| | | | | | 4 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック20%,炭化物10%含む。 | |
| | | | | | 5 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック20%,炭化物微量含む。(柱面跡) | |
| P2 | 22 | 隅丸長方形 | 92×69 | 47 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物・IV層土粘20%,焼土粘微量含む。(柱面跡) | SK355-356より新しい |
| | | | | | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | | |
| | | | | | 3 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | IV層土ブロック20%,炭化物5%含む。 | |
| | | | | | 4 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック層厚い部位に40%,炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 5 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | | |
| | | | | | 6 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック互層に80%含む。赤染土。 | |
| P3 | 26 | 隅丸長方形 | 128×75 | 62 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土粘10%含む。(柱面跡) | SK356より新しい |
| | | | | | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック層厚に50%,炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 3 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック30%含む。 | |
| | | | | | 4 | 10YR3/1 黒褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック60%含む。 | |
| | | | | | 5 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | | |
| | | | | | 6 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | | |
| | | | | | 7 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック層厚い部位に60%,炭化物含む。 | |
| P4 | 26 | 隅丸方形 | 105×(35) | 72 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化物20%,IV層土ブロック10%含む。(柱面跡) | SK37より新しい |
| | | | | | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック80%含む。 | |
| | | | | | 3 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | IV層土ブロック40%含む。 | |
| | | | | | 4 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 5 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック10%層かに炭化物含む。 | |

れている。堆積状況から柱痕跡の両側には版築がみられ、P2～P4は東側にテラス状の掘り方を伴う。P2では柱痕跡が2本あることから、建て替えなどの可能性も考えられる。

柱穴の形態や規模からは掘立柱建物跡の柱穴列とも考えられるが対応する柱穴列がなく、柱間寸法など類似性が



| 図録番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | | 重量 (g) | 備考 | 写真 00% |
|------|------|----------|-----|-----|----|---------|------|-------|--------|------|-----------|
| | | | | | | 全長 | 幅 | 厚さ | | | |
| 1 | P-13 | SAB P2.2 | 埋積土 | 土製品 | 土跡 | 4.7 | 径3.2 | 孔径0.5 | 48.4 | 十字調整 | 33 |

第 70 図 SAB 一本柱列出土遺物

高いSB42の付施設とも考えたが、方向にずれが生じるため単独の一本柱列とした。

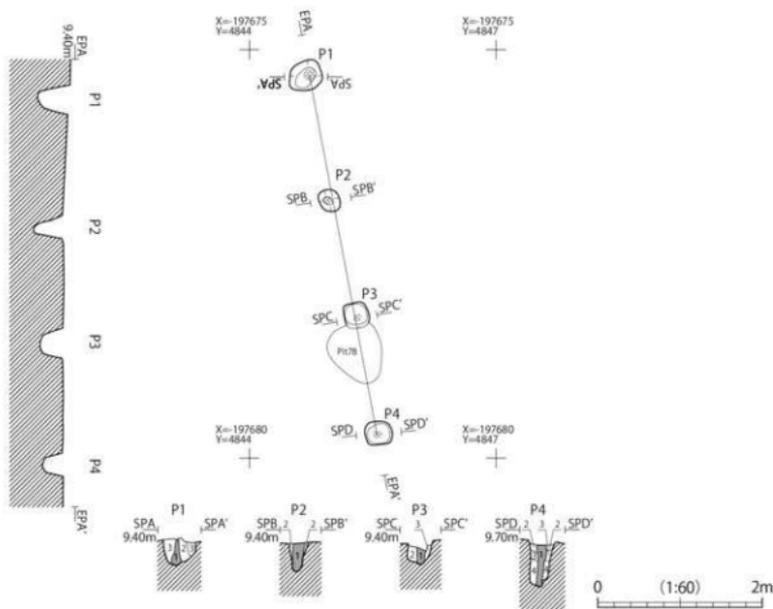
遺物はP1～3から土師器や須恵器、石器が出土しており、P2出土の土製品1点を図示した（第70図）。1は土錘であり、径3.2cm、長さ4.7cmの円柱状であり、中央に径0.5cmの孔が穿たれる。ナデ調整される。

時期は、重複関係にあるSI355が5期（7世紀末葉～8世紀初頭）であるため、5期以降と考えられる。

SA9一本柱列（第71図）

調査区中央部西寄りの13グリッドに位置し、柱穴4基を検出した。SI372・382、SD279と重複し、SI372・382より新しい。SD279とは直接的な切り合いを持たないため、SD279との新旧関係は確認できなかった。

方向はN-10°-Wで、規模は長さ450cmを測り、柱間寸法は150cm等間である。柱掘り方は平面方形を基



SA9一本柱列観測表

| 遺構名 (P1/P2) | 平面形 | 幅(m) | 層位 | 土色 | | 備考 | 重複 |
|----------------|-----|-------|----|----|--------------|--------|------------------------------|
| | | | | 土色 | 土性 | | |
| P1 | 方形 | 40×34 | 33 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 赤層土粒微量含む。(柱基礎) |
| | | | | 2 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 赤層土ブロック40%含む。 |
| | | | | 3 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 赤層土ブロック20%含む。 |
| P2 | 円形 | 29×25 | 35 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 赤層土ブロック状況に30%、炭化物10%含む。(柱基礎) |
| | | | | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 赤層土ブロック20%、僅かに炭化物含む。 |
| P3 | 方形 | 31×30 | 23 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 赤層土粒、炭化物粘着状に含む。しまりあり。(柱基礎) |
| | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 赤層土可視5%含む。 |
| | | | | 3 | 10YR4/1 褐色 | 粘土質シルト | 赤層土可視20%含む。 |
| P4 | 方形 | 34×28 | 52 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 僅かに赤層土粒、炭化物含む。(柱基礎) |
| | | | | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 赤層土ブロック50%、炭化物微量含む。 |
| | | | | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 赤層土可視50%含む。 |
| | | | | 4 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 炭化物微量、赤層土ブロック含む。 |

第71図 SA9一本柱列

本とし、長径 29～40cm、深さ 23～52cm を測る。SA9 周辺に平面形状や規模などの類似するピットがみられるが、対応関係が確認できなかったため一本柱列とした。

遺物は、P2 と P4 から土師器、須恵器がわずかに出土したのみで図示できるものはない。

時期は、直接の重複関係にある SI372 からみれば 2a 期（6 世紀初頭～前葉）以降ということになる。間接的な重複関係にある SD279 は出土遺物から近世以降としており、堆積土にレンガ片が混じるなど近・現代的な要素が多分に見受けられる。SA9 は 5 期以降だが SD279 より古いと考えられる。

(4) 溝跡（第 72～75 図）

溝跡は 7 条検出し、東西方向に走行する溝跡（SD278・279・281）と南北方向に走行する溝跡（SD277・280・282・283）がある。

東西方向の溝跡は両端が調査区外へ延びるのに対し、南北方向の溝跡の北端はいずれも調査区内で収まる。これは、調査区北側が旧河川である地形的な要因によるものと考えられる。

いずれの溝跡も重複する竅穴住居跡より新しく、特に SD278・279 は堆積土から近・現代の可能性も考えられる。

SD277 溝跡（第 72・75 図）

調査区南東隅の 27 グリッドに位置する。基本土層 IV 層上面で確認し、南端は調査区外へ延びる。検出した規模は、長さ 120cm、上幅 40～44cm、深さ 7～12cm を測り、断面は浅い皿状を呈す。南北方向にやや湾曲して延び、中軸を基準とする走行方向は N-26°-W を指す。

堆積土は 3 層に分層され、IV 層土ブロックを多く含む灰黄褐色シルトが主体である。

遺物は出土していない。時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、時期は不明である。

SD278 溝跡（第 72・75 図）

調査区北側の 6～10・12 グリッドに位置する。基本土層 IV 層上面で検出し、東西両端は調査区外へ延びる。SI365・369・382・363・371・366・381、SM406、Pit69・98 と重複し、それより新しい。

検出した規模は、長さ 3310cm、上幅 20～130cm、深さ 16～25cm を測る。断面は台形状ないし「U 字状」を呈し、底面は起伏がみられる。東西方向に湾曲して延び、中軸を基準とする走行方向は N-63～81°-E である。

3 層に分層した堆積土の 1 層中に小礫を多く含むが、本溝跡の北側には礫を大量に含む河川堆積土がみられ、氾濫などによりそれらの礫が流入したものと考えられる。また南側に SA7 が並走しており、本溝跡に付設する可能性も考えられる。

遺物は堆積土から土師器がわずかに出土したのみである。重複する遺構で新しいのは 5 期（7 世紀末葉～8 世紀初頭）としている SI365 などが挙げられるが、並走する SA7 が付設するとすれば、近世以降の時期が考えられる。

SD279 溝跡（第 72・75 図）

調査区中央部北側の 10～16 グリッドに位置する。基本土層 IV 層上面で検出し、東西両端は調査区外へ延びる。SI363・365・370・372・382、SD281・282・284、SM417～421・431～433 と重複し、それより新しい。

検出した規模は、長さ 3320cm、上幅 60～100cm、深さ 50～67cm を測る。断面は「U」字状で、部分的に箱葉研掘状の掘り方を呈す。底面には起伏がみられ、西側に向かって傾斜する。東西方向に湾曲して延び、中軸を基準とする走行方向は N-63～78°-E を指す。

堆積土は 3 層に分層され、黒褐色シルトが主体で下層堆積土中にまでレンガ片がみられる。SD278 と 450～



第72図 SA7 枕列・SD277～283 溝跡 (1)

600cmの間隔をもってほぼ並走しており、断面形状から2条一対で道路状遺構の側溝などを形成していた可能性も考えられる。

遺物は堆積土から土師器や須恵器、陶器、金属製品などが少量出土した。時期は近世以降と考えられる。

SD280 溝跡 (第72・73・75図)

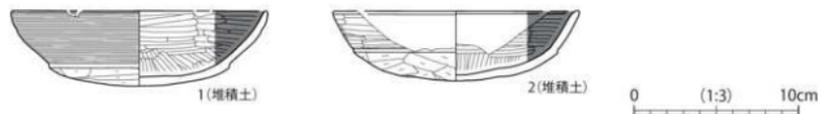
調査区中央部南側の18・21・25グリッドに位置する。基本土層IV層上面で検出したが、調査区南壁の土層観察でIII層上面からの掘り込みが確認できる。南端は調査区外へ延び、北端は攪乱によって失われるが、走行方向からSD282に連続する可能性が考えられる。SI359、SB42、SM404・405と重複し、SI359、SB42より新しく、SM404・405より古い。

検出した規模は、長さ880cm、上幅40～120cm、深さ8～46cmを測る。断面は台形状を呈し、底面は南側に向かって傾斜する。南北方向にほぼ直線的に延び、中軸を基準とした走行方向はN-31°-Eを指す。

堆積土は3層に分層され、最下層はIV層土ブロックを多量に含み人為埋土と考えられる。

遺物は堆積土から土師器が少量出土しており、土師器環2点を図示した(第73図)。1・2は有段丸底環であり、1は外面の段が体部下端にくるものである。2は口縁部が直線状に外傾し、口縁部と体部の境に段を持ち、底部が丸底を呈する。調整は1・2ともに外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリで、内面がヘラミガキである。

時期は、第73図-1・2からみれば4～5期(7世紀中葉～8世紀初頭)と考えられる。重複関係にあるSI359からみれば3期(7世紀初頭～前葉)以降となり遺物の年代観と一致するが、SB42を5期(7世紀末葉～8世紀初頭)以降としており、SD280はSB42-P1より新しいため5期以降になると考えられる。



| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真掲載 |
|------|------|-------|-----|-----|----|--------|----|-----|-------------------|-----------------|----|------|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 高さ | | | | |
| 1 | C-69 | SD280 | 堆積土 | 土師器 | 環 | (15.4) | — | 4.6 | 口縁～体部ヨコナデ、底部ヘラケズリ | 口縁～体部ヘラミガキ、黒色処理 | | 33 |
| 2 | C-70 | SD280 | 堆積土 | 土師器 | 環 | (15.0) | — | 4.3 | 口縁部ヘラミガキ、体部ヘラケズリ | 口縁～体部ヘラミガキ、黒色処理 | | 33 |

第73図 SD280 溝跡出土遺物

SD281 溝跡 (第72・75図)

調査区中央部北側から西側にかけての9～13・16・20グリッドに位置する。基本土層IV層上面で検出し、東西両端は調査区外へ延びる。SI363・365・369・370～372・379・382、SA7、SB43、SD279、SM419～421・434・435、Pit82・84・95・111・131・132と重複し、SD279、SA7より古く、他の遺構より新しい。

検出した規模は、長さ3900cm、上幅102～145cm、深さ21～67cmを測る。断面は台形状ないしは浅い皿状を呈し、底面には大きな起伏がみられる。東西方向に延びるが9グリッドを境に走行方向を大きく変換し、東側ではN-87°-E、西側ではN-41°-Eを指す。

堆積土は3層に分層され、1層は僅かに炭化物を含む暗褐色シルト、3層はIV層土ブロックを比較的多く含む灰黄褐色シルトである。

遺物は堆積土から土師器や須恵器が多量に出土しているが、図示できるものはない。

時期は、重複関係にある SI365 を 5 期（7 世紀末葉～8 世紀初頭）と考えており、SD281 はそれ以降で SD279 より古いと考えられる。

SD282 溝跡（第 72・74・75 図）

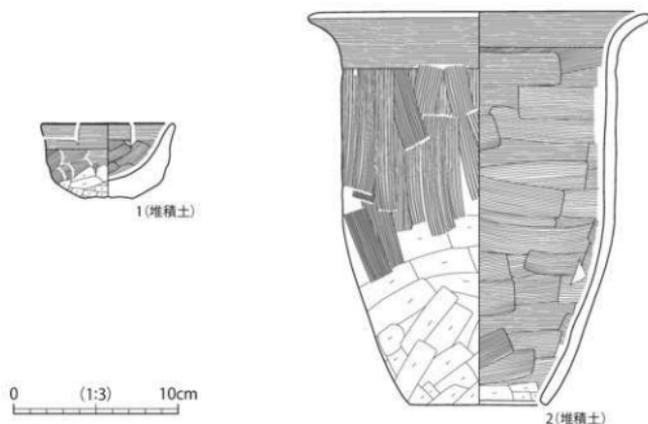
調査区中央部東側の 10・14・18 グリッドに位置する。基本土層 IV 層上面で検出し、南端は擾乱により失う。SI367、SD279・283、SM415・416・431～433、Pit105 と重複し、SI367、SD283、SM415・416・431～433、Pit105 より新しく、SD279 より古い。

検出した規模は、長さ 1100cm、上幅 70～120cm、深さ 17～29cm を測る。断面は皿状を呈し、底面は南に向かって僅かに傾斜する。南北方向に湾曲して伸び、中軸を基準とする走行方向は、N-38°-E を指す。

堆積土は 5 層に分層され、僅かに炭化物を含む暗褐色土が主体である。堆積土と走行方向から、SD280 と同一溝跡の可能性も考えられる。

遺物は堆積土から土師器と石器がわずかに出土した。ミニチュア土器 1 点、土師器甕 1 点を図示した（第 74 図）。1 は鉢形のミニチュア土器であり、器壁が厚い。2 は単孔の甕であり、口縁部は外反し、胴部上半は円筒状、胴部下半は窄まる。胴部の調整は外面がヘラケズリ後、上半のみハケメ、内面がヘラナデ、下位のみヘラケズリとなる。

時期は重複する SD283 を 3 期（7 世紀初頭～前葉）以降と推定しており、SD282 はさらにそれ以降と考えられる。



| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真掲載 |
|------|------|-------|-----|-----|-------------|---------|-------|------|------------------------------|--------------------------|----|------|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1 | C-71 | SD282 | 堆積土 | 土師器 | ミニチュア土器(鉢形) | (8.0) | 3.0 | 4.6 | 口縁部ヨコナデ、体部ユビナデ→スビオサエ、底部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ | | 33 |
| 2 | C-72 | SD282 | 堆積土 | 土師器 | 甕 | (20.2) | (8.2) | 24.1 | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ→ハケメ | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ→胴部下位ヘラケズリ | 単孔 | 33 |

第 74 図 SD282 溝跡出土遺物

SD283 溝跡 (第 72・75 図)

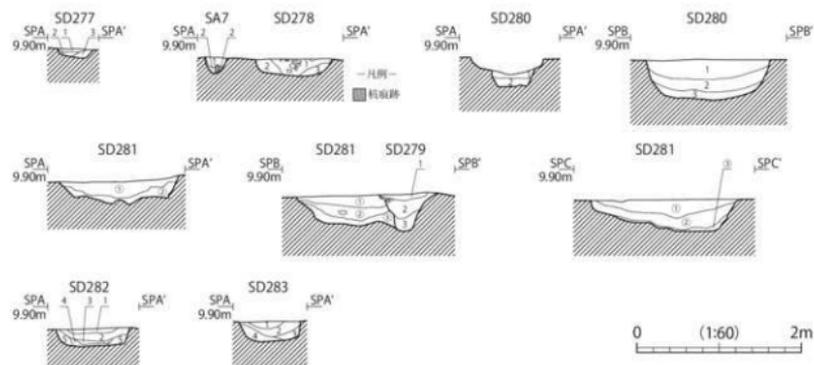
調査区中央部東端の 11・15 グリッドに位置する。基本土層 IV 層上面で検出し、北端は攪乱によって失われ、南端は調査区外へ延びる。SI361 と重複し、それより新しい。

検出した規模は、長さ 460cm、上幅 77～93cm、深さ 15～30cm を測り、断面は台形状を呈す。南北方向にやや湾曲して延び、中軸を基準とする走行方向は、N-19°-W を指す。

堆積土は 4 層に分類され、IV 層土ブロックを比較的多く含む灰黄褐色シルトが主体である。

遺物は堆積土から土師器がわずかに出土したが、図示できるものはない。

時期は重複する SI361 を 3 期 (7 世紀初頭～前葉) と推定しており、SD283 はそれ以降と考えられる。



溝跡 観察表

| 遺構名 | F' (m) | 方向 | 規模 (cm) | | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 | 重荷 | |
|-------|------------|------------------|--------------|-------|----|----------------|--------|------------------------------|---|----------------------------------|
| | | | 長さ×幅 | 深さ | | | | | | |
| SD277 | 27 | N 26°W | 120×40～44 | 7～12 | 1 | 10YR3/4 灰褐色 | シルト | IV 層土ブロック (20mm 程度) 140% 含む。 | | |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | | | |
| | | | | | 3 | 10YR3/2 黄褐色 | シルト | | | IV 層土ブロック (10mm 以下) 30% 含む。 |
| SD278 | 6～10・12 | N 63～81°E | 3310×20～130 | 16～25 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 礫を多く含む。 | SE363-365-366-369-371・381・382, SM 406, P469-08 より新しい | |
| | | | | | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | | | |
| | | | | | 3 | 10YR3/1 黒褐色 | シルト | | | IV 層土ブロック (10mm 程度) 20%、炭化物微量含む。 |
| SD279 | 10～16 | N 63～78°E | 3320×60～100 | 50～67 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SE363-365-370-372-382, SD281・282-284, SM417～421・431～433 より新しい | |
| | | | | | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | | | |
| | | | | | 3 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | | | 炭化物微量含む。 |
| SD280 | 18・21・25 | N 31°E | 880×40～120 | 8～46 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SE350, SB42 より新しく、SM404・405 より古い | |
| | | | | | 2 | 10YR3/2 黄褐色 | 粘土質シルト | | | |
| | | | | | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | | | |
| SD281 | 9～13・16-20 | N 87°E N 41°E | 3900×102～145 | 21～67 | ① | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV 層土と 10%、炭化物微量含む。 | SE363-365-369-370～372-379・382, SB43, SM419～421・434・435, P482-84-95-111-131・132 より新しく、SD279-SA7 より古い | |
| | | | | | ② | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | | | |
| | | | | | ③ | 10YR4/1 暗灰色 | シルト | | | IV 層土ブロック 30% 含む。 |
| SD282 | 10・14・18 | N 38°E | 1100×70～120 | 17～29 | 1 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | IV 層土と 30%、炭化物微量含む。 | SE367, SD283, SM415・416-431～433-P4105 より新しく、SD279 より古い | |
| | | | | | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | | | |
| | | | | | 3 | 10YR4/1 暗灰色 | シルト | | | IV 層土と 30% 含む。 |
| | | | | | 4 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | | | IV 層土と 20% 含む。 |
| | | | | | 5 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | | | |
| SD283 | 11・15 | N 19°W | 460×77～93 | 15～30 | 1 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | IV 層土ブロック 20%、炭化物微量含む。 | SE361 より新しい | |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | | | |
| | | | | | 3 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | | | |
| | | | | | 4 | 10YR4/1 暗灰色 | シルト | | | IV 層土ブロック 30% 含む。 |

第 75 図 SA7 杭列・SD277～283 溝跡 (2)

(5) 小溝状遺構 (第76・77図)

本調査区から、32条の小溝状遺構が検出された。耕作の痕跡と考えられ、検出位置や走行方向などからA・Bの2群に分類した。

A群 (第76・77図)

調査区北端西側の25グリッドに位置するSM404・405の2条で構成する。基本土層IV層上面で確認し、南端はともに調査区南壁外へ延びる。

SI359、SD280、Pit14と重複し、それより新しい。

検出した規模は、長さ150～190cm、幅18～24cm、条間は30cm程を測る。中軸を基準とする走行方向は、SM404がN-68°-E、SM405がN-51°-Eを指し、ばらつきがみられる。

堆積土は、SM404は単層、SM405は2層に分層されるが、いずれも灰黄褐色シルトが主体である。

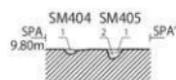
遺物は、SM404・405ともに堆積土から土師器片がわずかに出土したが、図示できるものはない。

時期はSD280を5期(7世紀末葉～8世紀初頭)以降としており、それ以降と考えられる。

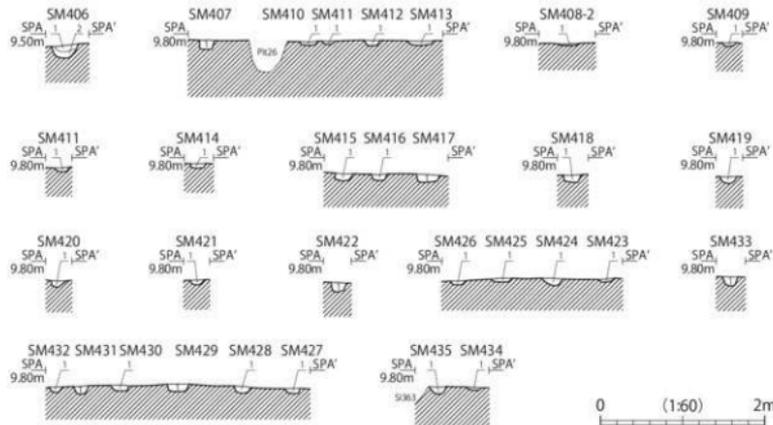
B群 (第76・77図)

調査区東半の7・10・11・14・15・18・19・22・23・26グリッドに位置する。基本土層IV層上面で検出した概ね東西15m、南北30mの範囲にあるSM406～435の30条からなる。

A群



B群



第76図 SM404～435小溝状遺構 (1)



第 77 図 SM404 ~ 435 小溝状遺構 (2)

小溝状遺構群A群 観察表

| 遺構名 | サイズ | 方向 | 規模(m) | | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 | 重複 |
|-------|-----|--------|-------------|------|----|--------------|--------|----|-----------------------|
| | | | 長さ×幅 | 深さ | | | | | |
| SM404 | 25 | N-68°E | (150)×18 | 2~4 | 1 | 10YR3/4 灰黄褐色 | シルト | | SI359・SD280・Pr14より新しい |
| SM405 | 25 | N-51°E | (190)×18~21 | 6~12 | 1 | 10YR3/4 灰黄褐色 | シルト | | SI359・SD280・Pr14より新しい |
| | | | | | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | | |

小溝状遺構群B群 観察表

| 遺構名 | サイズ | 方向 | 規模(m) | | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 | 重複 |
|-------|-----------------|--------|--------------|-------|----|-------------|-----|-----------------|----------------------------------|
| | | | 長さ×幅 | 深さ | | | | | |
| SM406 | 7 | N-26°E | (288)×25~42 | 0~16 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 赤層土10%含む。 | SI366より古い |
| | | | | | 2 | 10YR3/4 褐色 | シルト | 赤層土ブロック30%含む。 | SI366より古い |
| SM407 | 23 | N-42°E | (282)×18~22 | 8~12 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | — |
| SM408 | 23 | N-29°E | 80×27 | 3 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | — |
| SM409 | 22-23 | N-38°E | 270×19~31 | 3~8 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | Pr26・101より古い |
| SM410 | 22 | N-47°E | (108)×23 | 6 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | Pr56より古い |
| SM411 | 22-23 | N-43°E | 336×18~28 | 5 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | Pr53より古い |
| SM412 | 19-22-23 | N-43°E | (696)×26 | 4~9 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SI356・Pr29より古い |
| SM413 | 19-22-23 | N-45°E | (744)×39 | 6 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SI356・Pr27・30・54より古い |
| SM414 | 26 | N-40°E | (300)×22 | 6~9 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 赤層土50%、炭化物微量含む。 | SI356より古い |
| SM415 | 14-18 | N-41°E | (300)×21~30 | 6~15 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 赤層土85%、炭化物微量含む。 | SI282より古い |
| SM416 | 14-18 | N-40°E | (372)×21~30 | 4~9 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 赤層土85%、炭化物微量含む。 | SI282より古い |
| SM417 | 10-14-18 | N-31°E | (1020)×19~32 | 6~10 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 赤層土85%、炭化物微量含む。 | SI371・SD279・SE10より古い |
| SM418 | 10-14 | N-30°E | (912)×21 | 5~8 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SI371・SD279・SE10より古い |
| SM419 | 10-14 | N-38°E | 468×18~21 | 8 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SD279より古い |
| SM420 | 10-14 | N-32°E | (390)×20 | 7~13 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SE371・SD279より古い |
| SM421 | 10-14 | N-21°E | 480×18~21 | 6~9 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SD279・SD281より古い |
| SM422 | 10 | N-29°E | 166×21 | 11 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SI281より古い |
| SM423 | 19-22 | N-45°E | (672)×24 | 3~16 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SI356・361・Pr30・51より古い |
| SM424 | 18-19-22 | N-40°E | 318×26 | 4~7 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SE361・SX35・Pr39より古い |
| SM425 | 18-22 | N-43°E | (366)×32 | 6 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SI356・361・SX35・Pr40・52・64より古い |
| SM426 | 18-22 | N-45°E | (438)×24 | 3~7 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SI356・361・SX35・Pr41・42・43より古い |
| SM427 | 18-22 | N-38°E | (732)×20 | 2~10 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SI356・361・SX35・Pr44・45・66より古い |
| SM428 | 18-22 | N-35°E | (450)×18~30 | 8~12 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SE361・367・Pr48・49より古い |
| SM429 | 14-18 | N-38°E | (660)×20~36 | 5~9 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SE361・367・Pr61より古い |
| SM430 | 14-18 | N-36°E | (672)×21 | 4~9 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SE361・367・SD283・SX38・Pr50・65より古い |
| SM431 | 11-14 +15-18 | N-36°E | (588)×20 | 7~11 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SE361・367・SD283・SX38・39・Pr37より古い |
| SM432 | 14-18 | N-36°E | 600×18~24 | 8~11 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SD282・SX39・Pr37より古い |
| SM433 | 14 | N-39°E | (402)×20~28 | 11~14 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SD279・282より古い |
| SM434 | 10 | N-21°E | (120)×20 | 3~8 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SE363・SD281・Pr73より古い |
| SM435 | 10 | N-15°E | (115)×23 | 10 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SE363・SD281より古い |

SI356・361・363・366・367・371、SE10、SD279・281・282、SX35などと重複するが、新旧関係をもつ遺構の中で一番古い。

検出した規模は、長さ80～1020cm、上幅18～42cm、条間は20～110cmを測る。中軸を基準とする走行方向はN-21～42°-Eを指し、条間と走行方向から本来は3群程度の支群に分別されると考えられる。

堆積土は単層ないし2層に分層され、いずれも暗褐色シルトが主体である。

遺物はSM406・413・414・434から土師器片がわずかに出土したが、図示できるものはない。

時期は、重複関係にある遺構の中で最も古いSI367を2b期(6世紀中葉～末葉)としているため、それ以前と考えられる。

(6) 井戸跡(第78図)

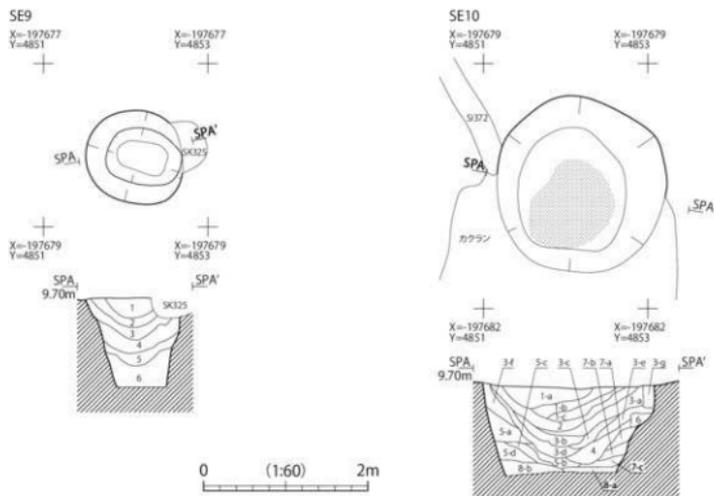
本調査区から、井戸跡を2基検出した。いずれも基本土層IV層上面での検出であり、その間隔は1m程と近接している。いずれも基底面まで調査を行えなかったため、本体構造など不明点が多い。小溝状遺構B群の西縁部に位置するが、小溝状遺構とは時期差が認められるため小溝状遺構との関連性は無いと考えられる。また、本調査区で検出した竪穴住居跡の軒数に対して極端に少なく、集落に伴う給水施設とは考え難い。

SE9 井戸跡 (第78・79 図)

調査区中央部やや東寄りの14グリッドに位置し、重複するSK325によって東壁の一部を失う。

平面形状は円形、断面は台形状を呈し、主軸方向はN-46°-Wを指す。規模は、長軸125cm、短軸116cm、深さ109cm以上を測る。底部は長辺90cm、短辺60cmの長方形を呈す。本体の調査はしておらず、井戸側などの有無は確認できなかった。

堆積土は6層に分層され、自然堆積と考えられる。2層はIV層土が10cm程の厚さでレンズ状に堆積しており、



SE9-10 井戸跡 断面表

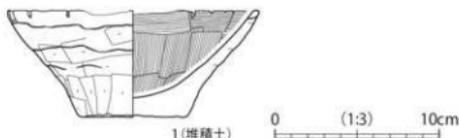
| 遺構名 | Y (4) | 平面形 | 規模 (cm) | | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 | 重複 |
|------|--------------|--------|---------------------------|-----|----|----------------|--------|-----------------------------|-----------------------|
| | | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | | |
| SE9 | 14 | 円形 | 125×116 | 109 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土中粒40%、炭化物1%含む。 | SK325より古い |
| | | | | | 2 | 10YR3/4 に近い黄褐色 | シルト | IV層土中粒5%、炭化物、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土中粒5%、炭化物、褐色炭微量含む。 | |
| | | | | | 4 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | IV層土中粒5%含む。 | |
| | | | | | 5 | 10YR4/4 褐色 | 粘土質シルト | IV層土中粒10%含む。 | |
| | | | | | 6 | 10YR4/3 暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土中粒5%、褐色炭微量、炭化物含む。 | |
| | | | | | 1a | 10YR4/1 褐色 | シルト | 炭化物微量(1)に25%、IV層土粒10%含む。 | |
| | | | | | 1b | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | IV層土ブロック20%、炭化物1%含む。 | |
| | | | | | 1c | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土ブロック5%、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層礫混土。 | |
| SE10 | 14・18 | 円形 | 215×215 | 110 | 3a | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | IV層土ブロック3%含む。 | SE372, SM417・418より新しい |
| | | | | | 3b | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | IV層土ブロック10%、層下部帯状に炭化物20%含む。 | |
| | | | | | 3c | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土ブロック5%含む。 | |
| | | | | | 3d | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 白色粘土 大粒15%、層下部に帯状に炭化物10%含む。 | |
| | | | | | 3e | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 白色粘土 大粒15%含む。 | |
| | | | | | 3f | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | IV層土中粒5%含む。 | |
| | | | | | 3g | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | IV層土ブロック10%含む。 | |
| | | | | | 4 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック15%含む。 | |
| | | | | | 5a | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | IV層土中粒5%含む。 | |
| | | | | | 5b | 10YR4/4 褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック5%、炭化物微量、白色粘土粒含む。 | |
| 5c | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 白色粘土ブロック10%、IV層土ブロック微量含む。 | | | | | | |
| 5d | 2.5Y/1 黄灰色 | 粘土質シルト | 粘土質土層上部を帯状に帯状に30%含む。 | | | | | | |
| 6 | 10YR3/1 黒褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック80%含む。 | | | | | | |
| 7a | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック30%含む。 | | | | | | |
| 7b | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | | | | | | | |
| 7c | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | | | | | | | |
| 8a | 2.5Y/1 黄灰色 | 粘土 | | | | | | | |
| 8b | 10YR3/1 黒褐色 | 粘土質シルト | 粘土ブロック10%、粗砂を含む。 | | | | | | |

第78 図 SE9-10 井戸跡

それより下層は粘性が強くなり色調も暗くなる。

遺物は堆積土から土師器がわずかに出土した。土師器甕 1 点を図示した（第 79 図）。1 は大型の甕の胴部下半から底部で、輪積みの部分で欠損する。欠損部の内面を横位のヘラナデによって調整し擬口縁としており、擬口縁部外面には帯状にススが附着する。底部は平底を呈する。外面は、底部は縦位、胴部は横位のヘラケズリ、内面はヘラナデで調整される。また、内面には漆の付着がみられる。

時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、時期は不明である。



| 図録 番号 | 発掘 番号 | 出土 地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 外面調整 | 備考 | 写真 図版 |
|----------|----------|----------|-----|-----|----|--------|-----|-------|--------------------------------|----|----------|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 高さ | | | |
| 1 | C-73 | SE9 | 堆積土 | 土師器 | 甕 | — | 6.4 | (6.5) | 胴~底部ヘラケズリ、輪積み面 胴~底部ヘラナデ、漆付着 | | 33 |

第 79 図 SE9 井戸跡出土遺物

SE10 井戸跡（第 78 図）

調査区中央部やや東寄りの 14・18 グリッドに位置する。南半上部は、攪乱により失われる。SI372、SM417・418 と重複し、それより新しい。

平面形状は円形、断面は台形状を呈し、主軸方向は N-1°-E を指す。規模は、径 215cm、深さ 110cm 以上である。本体の調査はしておらず、井戸側などの有無は確認できなかった。

堆積土は大略 8 層に分層され、2 層は層厚 6~15cm の IV 層土である。3~5 層は人為埋土と考えられる。4 層以降は粘性が強くなり、8 層は黄灰色粘土である。8 層下面で、長軸 113cm、短軸 88cm を測る青灰色粘土範囲を検出した。平面形状は楕円形で、井戸本体部分にあたると考えられる。

遺物は、堆積土より土師器がわずかに出土したが、図示できるものはない。

時期は、重複関係にある SI372 を 2a 期（6 世紀初頭~前葉）、SM417・418 を 2b 期（6 世紀中葉~末葉）以前としていることから、SE10 は 2b 期以降と考えられる。

(7) 土坑（第 80 図）

基本土層 IV 層上面で、土坑を 3 基検出した。SK324 が大型の土坑で、掘立柱建物跡の柱穴に形状が類似する。また、SK325・326 は検出した場所や規模、堆積土などに類似性が認められる。

SK324 土坑（第 80 図）

調査区中央部南寄りの 17 グリッドに位置する。SI372・383 と重複し、それより新しい。

平面形状は隅丸方形、断面は台形状を呈し、主軸方向は N-80°-E を指す。規模は、長辺 104cm、深さ 40cm を測る。堆積土は 5 層に分層され、黒褐色シルトが主体である。規模と形状からは SB42 の柱穴と類似性が認められるが、堆積土の状況が異なるため土坑とした。

遺物は、堆積土から土師器がわずかに出土したが、図示できるものはない。

時期は、重複関係にある SI372 を 2a 期（6 世紀初頭~前葉）としていることから、SK324 はそれ以降と考えられる。

SK325 土坑 (第 80 図)

調査区中央部やや東寄りの 14 グリッドに位置する。SE9 と重複し、それより新しい。

平面形状は円形、断面は半円状を呈す。規模は、長径 68cm、短径 66cm、深さ 22cm を測る。堆積土は、IV 層土ブロックを含む黒褐色シルトの単層である。

遺物は、堆積土から土師器がわずかに出土したが、図示できるものはない。

時期は不明である。

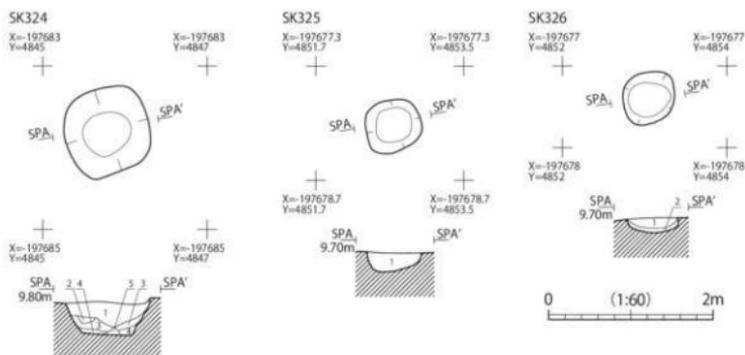
SK326 土坑 (第 80 図)

調査区中央部やや東寄りの 14 グリッドに、SK325 に近接して位置する。

平面形状は円形、断面は浅い皿状を呈す。規模は、長径 72cm、短径 63cm、深さ 18cm を測る。堆積土は 2 層に分層され、IV 層土ブロックを含む黒褐色シルトが主体である。

遺物は、堆積土から土師器環・甕の小片が数点出土したが、図示できるものはない。

時期は不明である。



SK 土坑 観測表

| 遺構名 | Y+V | 平面形 | 規模 (cm) | | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 | 遺物 |
|-------|-----|------|---------|----|----|-------------|--------|-----------------------|----------------|
| | | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | | |
| SK324 | 17 | 隅丸方形 | 104×103 | 40 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | SE372-383より新しい |
| | | | | | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック混状に20%含む。 | |
| | | | | | 3 | 10YR4/4 藍色 | シルト | | |
| | | | | | 4 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 5 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | IV層土ブロック(10%程度)20%含む。 | |
| SK325 | 14 | 円形 | 68×66 | 23 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | IV層土ブロック20%、炭化物5%含む。 | SE9より新しい |
| SK326 | 14 | 円形 | 72×63 | 18 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | IV層土ブロック20%、炭化物5%含む。 | |
| | | | | | 2 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | IV層土ブロック5%、炭化物微量含む。 | |

第 80 図 SK324～326 土坑

(8) ビット (第 81～84 図)

本調査において 105 基のビットを検出した。分布は調査区のほぼ全域におよぶが、特に調査区中央部西側の 13・17 グリッド、調査区南東側の 18・19・22・23 グリッドに集中する傾向が窺われる。柱痕跡のあるビットも多く、掘立柱建物跡や柱列などを考慮したが、規則的な配列はみられなかった。

竪穴住居跡では SI355・356・359・360・363・367・372・378・379・381・382・383 と重複しており、いずれのビットもそれより新しい。

平面形状は円形・楕円形・隅丸方形などがあり、規模も長軸 13～82cm と多様である。長軸を基準に分類すると、



※ゴシック体は柱痕検出ビット
 ([] 表記は別図あり)

第81図 ビット (1)

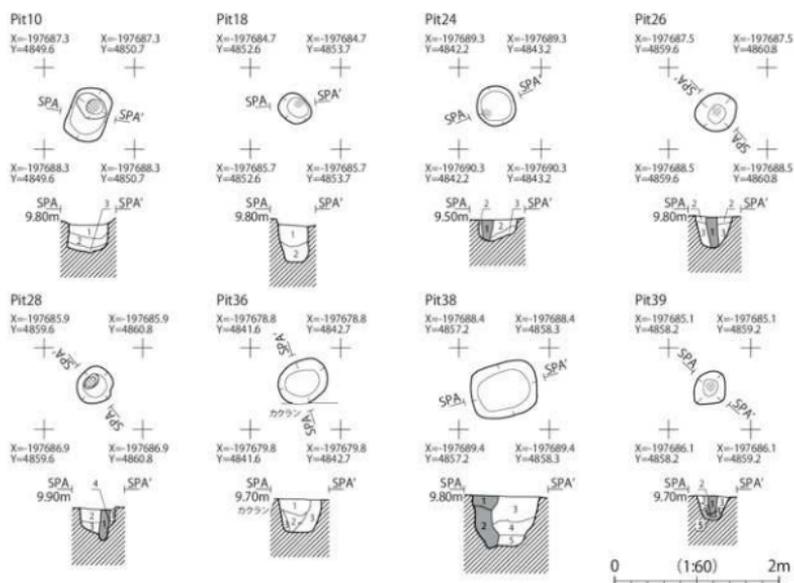
24cm未満が23基、25～50cmが58基と半数以上を占め、51cm以上と大型のものが25基である。断面形状は「U」字状でないしは台形状を呈するものが多く、検出面からの深さは4～65cmを測る。検出した深さは、15cm以下が19基、16～30cmが53基と半数以上を占め、31～45cmが28基、46cm以上が5基を数え、最深はPit38の65cmを測る。

Pit24・26・28・39・41・49・51・58・59・62・63・69・72・73・78・80・81・83・85・86・87・91・93・97・98・99・101・106・107・108・109・121・127・131・132・138の36基で柱痕跡がみられた。柱痕跡の径はPit131の7cm～Pit86の22cmまで幅があるが、15cm前後のものが大半である。底面で柱のアタリが確認できたピットは22基あり、その内16基で顕著な変色がみられた。底面の柱のアタリ部分が階段状に掘り込まれるピットが19基あり、Pit18では柱痕跡の直下に扁平礫が置かれる。

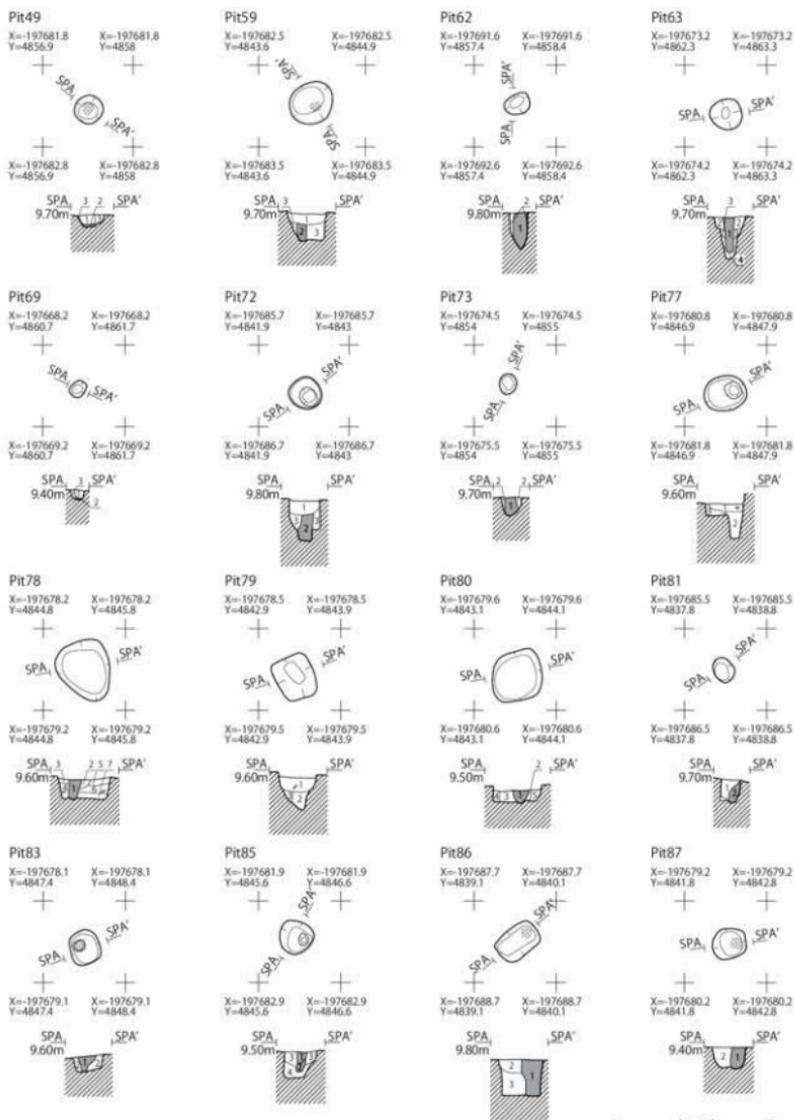
各ピットの詳細については、観察表を参照していただきたい。

遺物は、P10・12～14・18・21～23・30・36・38・39・41・46・47・54・59・62・63・70・73・76～80・82・83・85・87・90・91・106・109・110・112・118・125・127・131・133・139の合計42基から出土したが、少量の土師器にわずかに須恵器や礫石器が混じる程度の破片資料がほとんどであり、図示できるものはない。

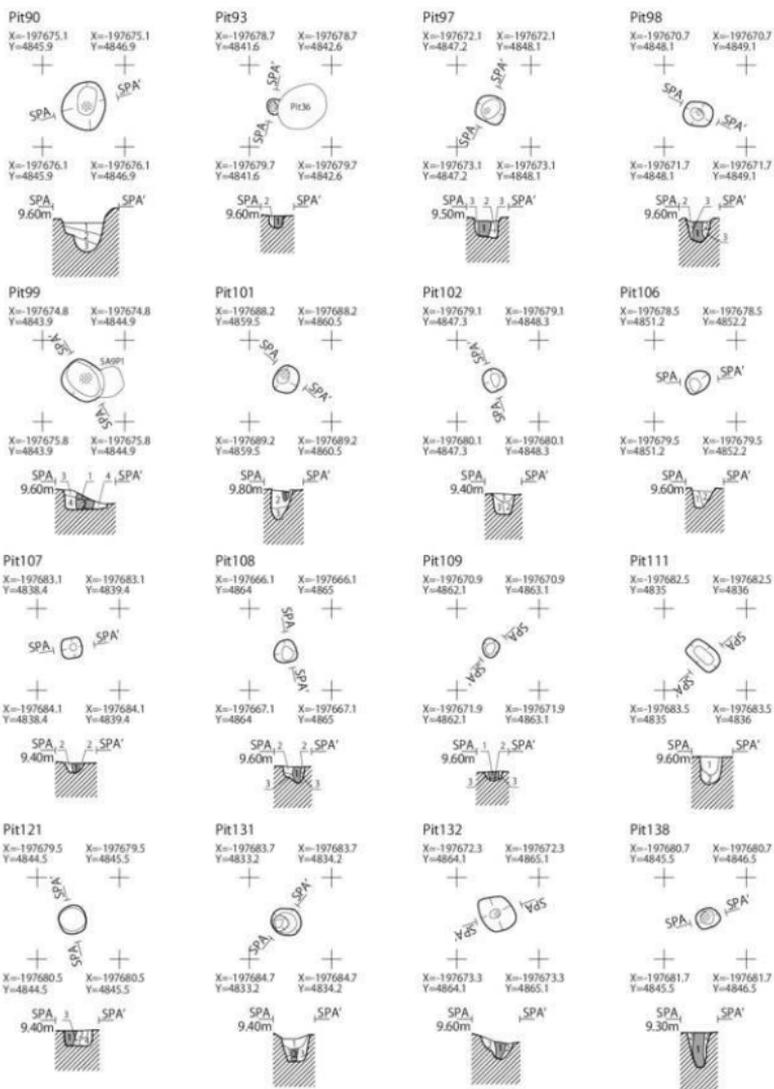
ピットは時期幅が大きいと考えられるが、いずれのピットも重複関係にある竪穴住居跡より新しい。本調査区における竪穴住居跡は2a期（6世紀初頭～前葉）～5期（7世紀末葉～8世紀初頭）と年代幅が広く、一概にピットの時期を決定できないが、検出された掘立柱建物跡や一本柱列がいずれも5期以降であることから、ピットの主たる時期も5期以降と考えられる。



第82図 ピット(2) ※一部抜粋



第 83 図 ビット (3) ※一部抜粋



第 84 図 ビット (4) ※一部抜粋

ビット継ぎ表 (1)

| 道標名 | No. | 平面形 | 継ぎ(m) | | 順位 | 土色 | | 土性 | 備考 | 重複 |
|------|-------|-------|---------|----|----|--------------|--------|--------------------------------|------------------------------|----|
| | | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | | | |
| Pi10 | 21-22 | 不整円形 | 39×29 | 34 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 灰層土ブロック20%含む。 | SB42より新しい | |
| | | | | | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック20%含む。 | | |
| | | | | | 3 | 10YR2/2 灰黄褐色 | シルト | 灰層土ブロック40%含む。 | | |
| Pi12 | 10 | 不整円形 | 79 | 36 | 1 | 10C2/1 緑灰色 | 粘土質シルト | 灰層土ブロック10%含む、グライ化。 | SC63より新しい | |
| | | | | | 2 | 5G1/1 暗緑灰色 | 粘土質シルト | 灰層土ブロック20%、グライ化。 | | |
| Pi13 | 22 | 円形 | 56×51 | 33 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック20%、炭化物5%含む。 | SI355+356より新しい | |
| | | | | | 2 | 10YR2/2 黒褐色 | シルト | 灰層土ブロック20%、炭化物微量含む。 | | |
| | | | | | 3 | 10YR1/1 黒灰色 | シルト | 灰層土ブロック50%、炭化物微量含む。 | | |
| | | | | | 4 | 10YR4/4 褐色 | シルト | 灰層土ブロック40%、炭化物微量含む。 | | |
| | | | | | 5 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック10%、炭化物微量含む。 | | |
| Pi14 | 25 | 楕円形 | 65×56 | 29 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 灰層土ブロック20%、炭化物微量含む。 | SI359+360より新しく、SM404+405より古い | |
| | | | | | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック30%、炭化物少量含む。 | | |
| Pi15 | 25 | 円形 | 30×27 | 17 | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック20%、炭化物微量含む。 | SI359より新しい | |
| Pi16 | 22 | 楕丸方形 | 27×22 | 19 | 1 | 10YR2/2 黒褐色 | シルト | 灰層土ブロック40%含む。 | — | |
| Pi17 | 22 | 円形 | 37×32 | 14 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック50%含む。 | SI355より新しい | |
| Pi18 | 22 | 楕丸方形 | 40×35 | 45 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 灰層土ブロック30%含む。 | SI367より新しい | |
| | | | | | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック10%含む。 | | |
| Pi21 | 22 | 楕丸長方形 | (83)×69 | 38 | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 灰層土ブロック中粒に40%含む。 | SI355,SB42より新しい | |
| | | | | | 3 | 10YR1/1 黒灰色 | シルト | 灰層土ブロック20%含む。 | | |
| | | | | | 4 | 10YR3/3 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物微量含む。 | | |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック20%、炭化物10%、粘土粒微量含む。 | | |
| Pi22 | 22 | 楕丸長方形 | 59×47 | 49 | 2 | 10YR2/2 黒褐色 | シルト | 灰層土ブロック20%、炭化物微量含む。 | SI355より新しい | |
| | | | | | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 灰層土ブロック40%、炭化物微量含む。 | | |
| | | | | | 1 | 10YR2/2 黒褐色 | シルト | 炭化物、骨殖、粘土粒、粘土粒微量含む。 | | |
| Pi23 | 22 | 楕丸長方形 | 38×(27) | 37 | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 灰層土ブロック20%、炭化物微量含む。 | SI355より新しい | |
| | | | | | 3 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 灰層土中粒、炭化物微量含む。 | | |
| | | | | | 1 | 10YR2/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 灰層土ブロック、炭化物微量含む。(付属録) | | |
| Pi24 | 21 | 円形 | 48×47 | 36 | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック10%、炭化物微量含む。 | SI359+360より新しい | |
| | | | | | 3 | 10YR4/4 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック40%含む。 | | |
| | | | | | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 灰層土ブロック10%、炭化物微量含む。一部グライ化。 | | |
| Pi25 | 21-25 | 楕円形 | 52×47 | 22 | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 灰層土ブロック少量、炭化物微量含む。 | SI359+360より新しい | |
| | | | | | 3 | 10YR4/4 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック30%含む。一部グライ化。 | | |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック(20a粒)30%、炭化物微量含む。(付属録) | | |
| Pi26 | 23 | 円形 | 49×47 | 38 | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック20%、炭化物微量含む。 | SM409より新しい | |
| | | | | | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック50%含む。 | | |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック10%、炭化物微量含む。(付属録) | | |
| Pi28 | 23 | 円形 | 46×44 | 38 | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック50%、炭化物微量含む。 | SM412より新しい | |
| | | | | | 3 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック20%、粘土粒、炭化物微量含む。 | | |
| | | | | | 4 | 10YR3/4 灰黄褐色 | シルト | — | | |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック20%、炭化物微量含む。 | | |
| Pi29 | 19 | 円形 | 47×47 | 19 | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック30%含む。一部グライ化。 | SM412より新しい | |
| | | | | | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 灰層土ブロック40%、炭化物微量含む。 | | |
| Pi30 | 19 | 円形 | 52×50 | 43 | 2 | 10YR1/1 黒灰色 | 粘土質シルト | 灰層土ブロック20%含む。 | SM413+423より新しい | |
| Pi31 | 10 | 円形 | 20×19 | 24 | 1 | 10YR4/4 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック30%含む。 | SM421より新しい | |
| Pi36 | 13 | 円形 | 60×(40) | 41 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 灰層土中粒程度に20%、炭化物微量含む。 | SI372,PI103より新しい | |
| | | | | | 2 | 10YR2/2 黒褐色 | シルト | 灰層土ブロック5%、炭化物微量含む。 | | |
| | | | | | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 灰層土粒微量含む。 | | |
| Pi38 | 22 | 楕丸長方形 | 82×66 | 65 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物、粘土粒微量含む。 | SI356より新しい | |
| | | | | | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 灰層土ブロック20%、炭化物微量含む。 | | |
| | | | | | 3 | 10YR2/2 黒褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | | |
| | | | | | 4 | 10YR4/4 褐色 | 粘土質シルト | 灰層土ブロック20%、炭化物微量含む。 | | |
| | | | | | 5 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 灰層土ブロック20%、炭化物微量含む。 | | |
| Pi39 | 22 | 楕丸方形 | 38×37 | 30 | 1 | 10YR4/1 黒灰色 | シルト | 灰層土中粒10%、粘土粒、炭化物微量含む。(付属録) | SM424より新しい | |
| | | | | | 2 | 10YR6/2 灰黄褐色 | シルト | グライ化。(付属録) | | |
| | | | | | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 灰層土ブロック30%含む。 | | |
| | | | | | 4 | 10YR4/3 灰黄褐色 | シルト | 灰層土ブロック60%含む。 | | |
| Pi40 | 18 | 楕丸方形 | 28×26 | 9 | 5 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック10%含む。 | SM425より新しい | |
| | | | | | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 灰層土ブロック20%、炭化物微量含む。 | | |
| | | | | | 2 | 10YR1/1 黒灰色 | シルト | 灰層土中粒20%、炭化物、粘土粒微量含む。 | | |
| Pi41 | 18 | 楕円形 | 49×34 | 22 | 3 | 10YR6/3 暗褐色 | シルト | 灰層土中粒10%、炭化物、粘土粒微量含む。(付属録) | SM426+Pi42より新しい | |
| | | | | | 4 | 10YR4/3 灰黄褐色 | シルト | 灰層土ブロック20%含む。 | | |
| | | | | | 5 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 灰層土ブロック30%、炭化物、粘土粒微量含む。 | | |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック20%、炭化物微量含む。 | | |
| Pi43 | 18 | 円形 | 20×19 | 7 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック20%、炭化物微量含む。 | SM426より新しい | |
| Pi46 | 18-22 | 円形 | 19×19 | 27 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック30%含む。 | — | |
| Pi47 | 22 | 円形 | 21×21 | 11 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック40%含む。 | — | |
| Pi48 | 18 | 楕丸方形 | 29×28 | 21 | 2 | 10YR2/2 黒褐色 | シルト | 灰層土ブロック30%含む。 | SM428より新しい | |
| Pi49 | 18 | 円形 | 34×34 | 45 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 灰層土中粒20%、粘土粒、炭化物微量含む。(付属録) | SM428より新しい | |
| | | | | | 2 | 10YR6/3 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック30%、炭化物微量含む。グライ化。(付属録) | | |
| | | | | | 3 | 10YR4/3 灰黄褐色 | シルト | 灰層土ブロック50%含む。 | | |
| Pi50 | 14 | 楕丸長方形 | 37×29 | 4 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 灰層土ブロック40%、炭化物微量含む。 | SM430より新しく、SX38より古い | |
| Pi51 | 19 | 楕丸方形 | 37×36 | 5 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 灰層土粒、炭化物少量含む。(付属録) | SM423より新しい | |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 灰層土ブロック20%、炭化物微量含む。 | | |

ビット 縦断面 (2)

| 品番名 | ノード | 平面形 | 幅(mm) | | 階位 | 土色 | 土性 | 備考 | 重複 |
|------|-------|-------|-------|----|----|----------------|--------|---------------------------------|------------------|
| | | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | | |
| Pa52 | 18 | 楕円方形 | 32×28 | 16 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 石膏土ブロック20%、炭化物微量含む。 | SM425より新しい |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 石膏土ブロック30%、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 3 | 10YR4/4 にぶい黄褐色 | シルト | 石膏土粒20%含む。 | |
| Pa53 | 23 | 円形 | 26×22 | 12 | 1 | 10YR6/2 灰黄褐色 | シルト | 石膏土粒20%、炭化物微量含む、グライ化。 | - |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 石膏土ブロック30%含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 石膏土粒少量、炭化物微量含む。 | |
| Pa54 | 22 | 円形 | 38×36 | 20 | 2 | 10YR4/4 暗褐色 | シルト | 石膏土ブロック30%、炭化物微量含む。 | SM413より新しい |
| | | | | | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 石膏土中粒40%含む。 | |
| | | | | | 4 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | シルト | 石膏土ブロック30%、炭化物少量含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物、褐色粘り量含む。 | |
| Pa55 | 22 | 楕円方形 | 20×20 | 5 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物粒、粘土粘り量含む。 | - |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 石膏土ブロック20%含む。 | |
| | | | | | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 石膏土ブロック30%含む。 | |
| Pa57 | 22 | 楕円長方形 | 62×34 | 27 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 石膏土粒20%、炭化物微量含む。 | - |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 石膏土粒30%含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 石膏土ブロック20%、炭化物微量含む。(柱編跡) | |
| Pa58 | 22-26 | 円形 | 56×52 | 23 | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 石膏土ブロック30%、炭化物粘り量含む。 | - |
| | | | | | 3 | 10YR4/1 灰褐色 | シルト | 石膏土粒30%、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 石膏土中粒20%、褐色粘り量含む。(柱編跡) | |
| Pa59 | 17 | 円形 | 54×50 | 33 | 2 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 石膏土中粒30%、褐色粒、炭化物微量含む。(柱編跡) | SK372-383より新しい |
| | | | | | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 石膏土ブロック30%、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 石膏土ブロック30%、炭化物微量含む。 | |
| Pa60 | 19 | 楕円方形 | 26×26 | 9 | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 石膏土ブロック30%、炭化物微量含む。 | - |
| | | | | | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 石膏土中粒30%含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR4/1 灰褐色 | シルト | 石膏土粒10%、炭化物微量含む。 | |
| Pa61 | 18 | 楕円長方形 | 52×41 | 19 | 2 | 10YR6/1 灰褐色 | シルト | 石膏土粒10%、炭化物微量含む。グライ化。 | SM429より新しい |
| | | | | | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 石膏土粒20%含む。 | |
| | | | | | 4 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | シルト | 石膏土ブロック30%含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 石膏土中粒少量、炭化物微量含む。(柱編跡) | |
| Pa62 | 26 | 楕円形 | 32×25 | 42 | 2 | 10YR4/4 暗褐色 | シルト | 石膏土ブロック30%含む。 | - |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 石膏土ブロック10%、炭化物微量含む。(柱編跡) | |
| | | | | | 2 | 10YR6/1 灰褐色 | シルト | 石膏土ブロック20%、炭化物微量含む。 | |
| Pa63 | 11 | 円形 | 39×37 | 52 | 3 | 10YR4/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 石膏土中粒30%含む。 | SD279より古い |
| | | | | | 4 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 石膏土粒30%含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 石膏土粒少量、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 石膏土ブロック50%、炭化物微量含む。 | |
| Pa67 | 7 | 円形 | 20×20 | 8 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 石膏土粒30%、炭化物微量含む。 | - |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 石膏土粒30%、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 石膏土中粒、炭化物10%含む。 | |
| Pa69 | 7 | 楕円方形 | 22×17 | 14 | 2 | 10YR6/1 灰褐色 | シルト | 石膏土ブロック10%、炭化物微量含む。グライ化。(柱編跡) | SD278より古い |
| | | | | | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 石膏土ブロック40%含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 石膏土ブロック20%、粘土粒、炭化物微量含む。 | |
| Pa70 | 17 | 不整形円形 | 51×41 | 19 | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 石膏土ブロック30%、炭化物微量含む。 | - |
| | | | | | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 石膏土中粒20%、炭化物微量含む。(柱編跡) | |
| | | | | | 2 | 10YR3/1 黒褐色 | 粘土質シルト | 石膏土粘り量、炭化物含む。(柱編跡) | |
| Pa72 | 21 | 円形 | 40×38 | 49 | 3 | 10YR4/1 灰褐色 | 粘土質シルト | 石膏土粒20%含む。 | - |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 石膏土中粒、炭化物10%含む。 | |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物少量、石膏土粘り量含む。 | |
| Pa73 | 10 | 円形 | 25×21 | 22 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 石膏土ブロック10%、炭化物微量含む。一部グライ化。(柱編跡) | SK363、SM434より新しい |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 石膏土ブロック30%、炭化物粘り量含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 石膏土ブロック40%、炭化物微量含む。 | |
| Pa74 | 21 | 楕円形 | 29×24 | 19 | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 石膏土粒20%含む。 | - |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物少量、石膏土粘り量含む。 | |
| Pa76 | 13 | 楕円方形 | 53×49 | 27 | 3 | 10YR4/4 暗褐色 | シルト | 石膏土中粒10%、炭化物微量含む。 | SK372より新しい |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 石膏土ブロック15%、炭化物少量、褐色粘り量含む。 | |
| | | | | | 5 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 炭化物少量、石膏土中粒、褐色粘り量含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 炭化物少量、石膏土粘り量含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 石膏土ブロック10%、白褐色、炭化物少量含む。 | |
| Pa77 | 17 | 楕円方形 | 49×43 | 43 | 2 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 石膏土中粒30%、炭化物微量含む。(柱編跡) | SK372より新しい |
| | | | | | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 石膏土粒20%、白色粘り量含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 石膏土中粒30%、炭化物微量含む。(柱編跡) | |
| Pa78 | 13 | 楕円形 | 75×58 | 24 | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 石膏土粒少量、炭化物、褐色粘り量含む。 | SK372、SA9より新しい |
| | | | | | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 石膏土ブロック10%、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 5 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 石膏土中粒30%、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 6 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 石膏土ブロック40%、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 7 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 石膏土中粒20%、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR4/4 暗褐色 | シルト | 石膏土中粒10%、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 3 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 石膏土中粒15%、炭化物微量含む。 | |
| Pa79 | 13 | 楕円方形 | 53×47 | 41 | 3 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 石膏土粒5%、炭化物微量含む。 | SK372より新しい |
| | | | | | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 石膏土中粒10%、炭化物、粘土粘り量含む。(柱編跡) | |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 石膏土粒20%含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR4/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 石膏土中粒20%、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 5 | 10YR4/1 灰褐色 | 粘土質シルト | 石膏土ブロック10%、炭化粒、粘土粘り量含む。 | |
| Pa80 | 13-17 | 楕円方形 | 61×60 | 16 | 3 | 10YR4/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 石膏土中粒20%、炭化粘り量含む。 | SK372、Pa82より新しい |
| | | | | | 4 | 10YR4/1 灰褐色 | 粘土質シルト | 石膏土ブロック10%、炭化粒、粘土粘り量含む。 | |
| | | | | | 5 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化粒、粘土粒、石膏土粘り量含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物少量含む。(柱編跡) | |
| | | | | | 2 | 10YR4/4 暗褐色 | シルト | 石膏土粒20%、炭化粘り量含む。 | |
| Pa81 | 20 | 楕円形 | 30×24 | 27 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 炭化物少量含む。(柱編跡) | SK379より新しい |
| | | | | | 2 | 10YR4/4 暗褐色 | シルト | 石膏土粒20%、炭化粘り量含む。 | |

ビット観察表 (3)

| 道標名 | ドック | 平面形 | 規模(m) | | 階位 | 土色 | 土性 | 備考 | 重複 |
|-------|-------|-------|---------|----|----|------------------|--------|-----------------------------------|-----------------------|
| | | | 長軸×短軸 | 高さ | | | | | |
| Pi02 | 13 | 隅丸長方形 | 74×56 | 42 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 互層土粒微量含む。 | S3372より新しく、S3281より古い。 |
| | | | | | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 互層土ブロック30%、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 互層土中粒少量含む。 | |
| | | | | | 4 | 10YR4/4 褐色 | シルト | 互層土ブロック40%含む。 | |
| | | | | | 5 | 10YR4/3 に、赤い-黄褐色 | シルト | 互層土中粒30%含む。 | |
| Pi03 | 13 | 隅丸方形 | 41×36 | 18 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 互層土中粒少量、炭化物微量含む。(柱状跡) | S3372より新しい |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 互層土ブロック20%含む。 | |
| Pi04 | 9 | 隅丸長方形 | 79×64 | 2 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 互層土ブロック多量、炭化物微量含む。 | S3382より新しく、S3282より古い。 |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 互層土中粒多量、炭化物、焼土粒微量含む。(柱状跡) | |
| Pi05 | 17 | 楕円形 | 42×40 | 33 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 互層土中粒少量、炭化物、焼土粒微量含む。(柱状跡) | S3372より新しい |
| | | | | | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 互層土中粒少量、炭化物、焼土粒微量含む。(柱状跡) | |
| | | | | | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 互層土粒30%、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 4 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 互層土ブロック10%、炭化物微量含む。 | |
| Pi06 | 20 | 隅丸長方形 | 54×36 | 44 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 互層土粒30%、炭化物微量含む。(柱状跡) | - |
| | | | | | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 互層土中粒10%、炭化物含む。 | |
| | | | | | 3 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 互層土ブロック40%、炭化物微量含む。 | |
| Pi07 | 13 | 隅丸方形 | 42×36 | 25 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 互層土中粒10%、炭化物微量含む。(柱状跡) | S3372より新しい |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 互層土中粒30%、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 3 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 互層土中粒10%、褐色粒微量含む。 | |
| Pi09 | 13 | 円形 | 59×51 | 35 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 互層土ブロック20%、炭化物微量含む。 | S3372-382より新しい |
| | | | | | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 互層土ブロック30%、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 3 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 互層土粒、焼土粒、炭化物微量含む。(柱状跡) | |
| Pi09 | 7 | 円形 | 38×36 | 30 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 互層土ブロック20%、炭化物微量含む。(柱状跡) | S3381より新しい |
| | | | | | 3 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 互層土ブロック30%、炭化物少量、焼土ブロック(5mm)微量含む。 | |
| | | | | | 4 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 互層土ブロック20%、炭化物、焼土粒微量含む。 | |
| Pi09 | 13 | 円形 | 20×(13) | 16 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 互層土ブロック30%、炭化物20%含む。(柱状跡) | Pi036より古い |
| | | | | | 2 | 10YR4/3 に、赤い-黄褐色 | 粘土質シルト | 互層土ブロック多量、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 炭化物10%、焼土粒微量含む。 | |
| Pi09 | 9 | 不整形円形 | 50×(27) | 29 | 1 | 10YR4/3 に、赤い-黄褐色 | シルト | 互層土ブロック20%、炭化物微量含む。 | S3382より新しく、S3282より古い。 |
| | | | | | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 焼土粒20%、互層土粒10%、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 互層土ブロック10%、炭化物微量含む。(柱状跡) | |
| Pi09 | 9 | 隅丸方形 | 35×35 | 19 | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 互層土ブロック20%含む。 | S3382より新しい |
| | | | | | 3 | 10YR4/3 に、赤い-黄褐色 | シルト | 互層土ブロック15%含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR2/1 黒褐色 | シルト | 互層土ブロック10%、褐色粒、炭化物微量含む。(柱状跡) | |
| Pi08 | 9 | 隅丸方形 | 36×30 | 25 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 互層土ブロック10%含む。 | S3278より古い |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 互層土中粒20%含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 互層土粒15%含む。(柱状跡) | |
| Pi09 | 13 | 隅丸方形 | 53×45 | 24 | 1 | 10YR4/1 灰白色 | シルト | 灰白色粘土ブロック30%、炭化物粒微量含む。(柱状跡) | S3372-382より新しい |
| | | | | | 3 | 10YR1/1 黒褐色 | シルト | 互層土ブロック10%、炭化物粒微量含む。 | |
| | | | | | 4 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 互層土ブロック30%、炭化物粒微量含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 炭化物微量含む。(柱状跡) | |
| Pi101 | 22-23 | 円形 | 36×32 | 36 | 2 | 10YR4/3 に、赤い-黄褐色 | シルト | 互層土ブロック20%、炭化物微量含む。 | SM409より新しい |
| | | | | | 3 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 互層土ブロック20%、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 互層土ブロック少量含む。 | |
| Pi102 | 13 | 円形 | 27×26 | 26 | 2 | 10YR4/4 褐色 | 粘土質シルト | 互層土粒30%含む。 | S3372-Pi115より新しい |
| | | | | | 3 | 10YR4/3 に、赤い-黄褐色 | シルト | 互層土ブロック10%含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 互層土中粒40%、炭化物微量含む。グライ化。(柱状跡) | |
| Pi106 | 14 | 楕円形 | 31×24 | 21 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 互層土中粒10%、炭化物微量含む。グライ化。 | - |
| | | | | | 1 | 10YR3/1 黒褐色 | 粘土質シルト | 互層土中粒10%含む。(柱状跡) | |
| | | | | | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 互層土中粒30%、炭化物微量含む。 | |
| Pi108 | 7 | 楕円形 | 27×27 | 20 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | 互層土粒20%含む。(柱状跡) | - |
| | | | | | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 互層土ブロック30%含む。 | |
| | | | | | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 互層土ブロック40%含む。 | |
| Pi109 | 11 | 円形 | 29×23 | 11 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 互層土粒、炭化物微量含む。(柱状跡) | - |
| | | | | | 2 | 10YR4/1 灰白色 | シルト | 互層土粒30%含む。グライ化。(柱状跡) | |
| | | | | | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 互層土粒10%含む。 | |
| Pi110 | 13 | 隅丸方形 | 24×24 | 23 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 互層土ブロック15%、炭化物微量含む。 | S3372より新しい |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 互層土粒40%、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 互層土ブロック30%含む。 | |
| | | | | | 4 | 10YR4/1 灰白色 | シルト | 互層土ブロック20%含む。 | |
| Pi111 | 16 | 隅丸長方形 | 43×27 | 34 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 互層土ブロック編入に30%含む。 | S3281より古い |
| | | | | | 2 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 互層土ブロック10%、炭化物微量含む。 | |
| | | | | | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | 互層土中粒30%含む。 | |
| Pi112 | 17 | 隅丸方形 | 30×29 | 24 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 互層土粒20%、炭化物微量含む。 | S3372より新しい |
| | | | | | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 互層土ブロック20%含む。一部グライ化。 | |
| | | | | | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | |
| Pi114 | 13 | 楕円形 | 24×19 | 27 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | Pi139より新しい |
| | | | | | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 炭化物微量、焼土粒含む。 | |
| Pi115 | 13 | 円形 | 22×(12) | 42 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 炭化物微量、焼土粒含む。 | Pi102より古い |
| | | | | | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 炭化物微量、焼土粒含む。 | |
| Pi116 | 17 | 隅丸方形 | 21×18 | 32 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 炭化物微量、焼土粒含む。 | - |
| | | | | | 1 | 10YR3/1 黒褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | |
| Pi118 | 17 | 隅丸方形 | 31×26 | 21 | 1 | 10YR3/1 黒褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | S3372より新しい |
| | | | | | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 互層土ブロック5%、褐色粒微量含む。 | |
| Pi119 | 17 | 隅丸方形 | 32×30 | 14 | 1 | 10YR3/1 黒褐色 | シルト | 互層土中粒微量含む。(柱状跡) | - |
| | | | | | 1 | 10YR3/1 黒褐色 | 粘土質シルト | 互層土中粒微量含む。(柱状跡) | |
| Pi120 | 17 | 隅丸長方形 | 30×25 | 14 | 1 | 10YR3/1 黒褐色 | シルト | 互層土中粒微量含む。(柱状跡) | - |
| | | | | | 2 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 互層土ブロック20%含む。 | |
| | | | | | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 互層土中粒微量含む。(柱状跡) | |
| | | | | | 4 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 互層土ブロック40%含む。 | |
| Pi122 | 13 | 円形 | 16×14 | 26 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | S3372より新しい |
| | | | | | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 炭化物微量含む。 | |

ピット観察表 (4)

| 遺構名 | ドット | 平面形 | 規模(cm) | | | 階位 | 土色 | | 土性 | 備考 | 重視 |
|-------|-----|-------|-----------|----|---|----------------|--------|--|----|----|------------|
| | | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | | | | |
| Pr123 | 13 | 円形 | 21×18 | 41 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | | | | SK372より新しい |
| Pr125 | 17 | 円形 | 28×27 | 13 | 1 | 10YR3/1 黒褐色 | シルト | | | | SK372より新しい |
| Pr127 | 26 | 不整形円形 | (44)×(11) | 23 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | | | | |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | | | | |
| Pr130 | 22 | 不整形円形 | 16×11 | 19 | 1 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | シルト | | | | |
| | | | | | 2 | 10YR4/4 暗褐色 | シルト | | | | |
| Pr131 | 16 | 円形 | 36×34 | 27 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト | | | | |
| | | | | | 2 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | | | | |
| | | | | | 3 | 10YR3/2 暗褐色 | 粘土質シルト | | | | |
| Pr132 | 11 | 隅丸方形 | 43×40 | 23 | 1 | 10YR3/2 暗褐色 | シルト | | | | |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | | | | |
| Pr133 | 16 | 隅丸方形 | 23×20 | 21 | 1 | 10YR3/2 暗褐色 | 粘土質シルト | | | | |
| | | | | | 2 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | | | | |
| | | | | | 3 | 10YR3/2 暗褐色 | 粘土質シルト | | | | |
| Pr135 | 19 | - | 58×(-) | 56 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | | | | |
| | | | | | 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | | | | |
| | | | | | 3 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | | | | |
| | | | | | 4 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | | | | |
| Pr137 | 18 | 楕円形 | 24×14 | 21 | 1 | 10YR3/2 暗褐色 | シルト | | | | |
| Pr138 | 17 | 円形 | 30×25 | 44 | 1 | 10YR3/2 暗褐色 | 粘土質シルト | | | | |
| | | | | | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | | | | |
| Pr139 | 13 | 円形 | 23×18 | 27 | 1 | 10YR3/1 黒褐色 | 粘土質シルト | | | | |
| Pr140 | 22 | 隅丸長方形 | 44×34 | 43 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | | | | |
| Pr141 | 22 | 円形 | 17×13 | 21 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | | | | |
| Pr142 | 15 | - | 58×- | 27 | 1 | 10YR3/3 にぶい黄褐色 | シルト | | | | |
| | | | | | 2 | 10YR3/2 暗褐色 | シルト | | | | |
| Pr143 | 20 | - | 29×- | 17 | 1 | 10YR3/2 暗褐色 | シルト | | | | |
| Pr144 | 20 | - | 37×- | 25 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | | | | |
| Pr145 | 13 | - | 26×- | 33 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | | | | |
| Pr146 | 13 | - | 19×- | 19 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | | | | |
| Pr147 | 7 | 円形 | 30×(29) | 10 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | シルト | | | | |

(9) 性格不明遺構 (第 85・86 図)

SX35 性格不明遺構 (第 85 図)

調査区中央部東側の 18・19 グリッドに位置する。基本土層 III 層中で検出したが、北側上部は擾乱によって失う。SI361、SB44、SM424～428 と重複し、それより新しい。

平面は、楕円形の土坑に長楕円形のテラスが付帯した形状を呈す。2 遺構に分離される可能性もあるが、堆積土が連続することから 1 つの遺構とした。規模は、長さ 412cm、幅 157～203cm、深さ 4～30cm を測る。土坑部とテラス部で分離した場合の規模は、土坑部で長軸 217cm、短軸 180cm、深さ 30cm、テラス部で長軸 310cm、短軸 157～206cm、深さ 4～15cm を測る。

堆積土は 7 層に分層される。黒褐色および暗褐色粘土質シルトが主体を占め、3 層には多量の炭化物と比較的多い焼土粒を含む。焼成遺構の可能性も考えられる。

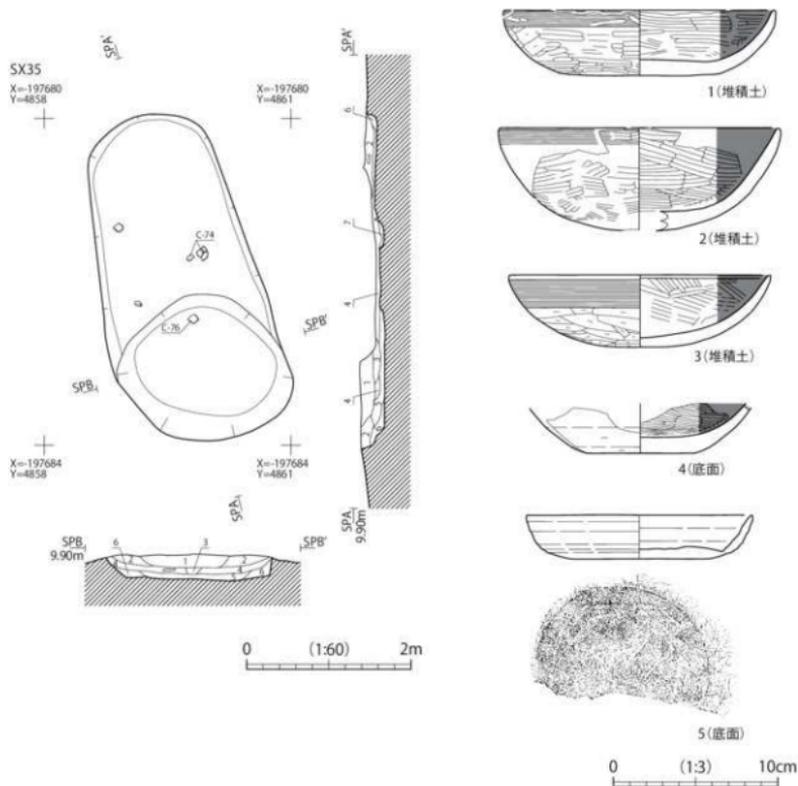
遺物は底面や堆積土から土師器や須恵器がまとめて出土しており、土師器環 4 点、須恵器環 1 点を図示した (第 85 図)。

1～3 は、口縁部と体部の境の段や稜が不明瞭で丸みを帯びる。1 は平底であるが、2・3 は丸底である。内面の調整はヘラミガキで、黒色処理が施される。4 はロクロ土師器の環である。体部は外面が回転ヘラケズリで、内面がヘラミガキで黒色処理が施される。5 は須恵器の環であり、口径が推定 6.8cm、器高が 2.7cm を測る。底部は静止ヘラ切り後、ヘラケズリで調整される。

時期は遺構底面から出土した第 85 図-4・5 が直接伴う遺物で、6 期 (8 世紀前葉以降) と考えられる。

SX36 性格不明遺構 (第 86 図)

調査区南端東側の 26 グリッドに位置し、南側は調査区外へ延びる。SI374、SA8-P4 と重複し、SI374 より新しく、SA8-P4 より古い。



SX35 性格不明遺構 観察表

| 遺構名 | Y'9+ | 平面形 | 規模(m) | | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 | 重層 |
|------|-------|-----|-----------------|------|----|-------------|--------|------------------------------|-----------------------------|
| | | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | | |
| SX35 | 18-19 | 楕円形 | 412×157 ~203 | 4~30 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 炭化物30%、焼土和10%含む。 | |
| | | | | | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 赤褐色土、炭化物10%含む。 | |
| | | | | | 3 | 10YR3/1 黒褐色 | 粘土質シルト | 炭化物50%、焼土和20%含む。 | |
| | | | | | 4 | 10YR3/2 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化物10%、焼土和微量含む。 | SE361, SB44, SM424~428より新しい |
| | | | | | 5 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化物少量含む。 | |
| | | | | | 6 | 10YR3/2 暗褐色 | 粘土質シルト | 炭化物少量含む。 | |
| | | | | | 7 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | 赤褐色土ブロック(50mm程度)10%、炭化物少量含む。 | |

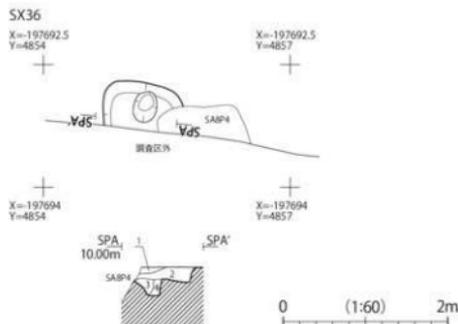
| 調査番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真撮影 |
|------|------|------|-----|-----|----|--------|-----|-------|----------------------------------|-----------------|----|------|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 1 | C-74 | SX35 | 堆積土 | 土師器 | 杯 | 16.4 | 9.6 | 4.0 | 口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ、体部ヘラケズリ→ヘラミガキ | 口縁→体部ヘラミガキ、黒色処理 | | 33 |
| 2 | C-75 | SX35 | 堆積土 | 土師器 | 杯 | (17.0) | — | 6.3 | 口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ、体部ヘラミガキ | 口縁→体部ヘラミガキ、黒色処理 | | 33 |
| 3 | C-76 | SX35 | 堆積土 | 土師器 | 杯 | (16.0) | — | 4.4 | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ | 口縁→体部ヘラミガキ、黒色処理 | | 33 |
| 4 | D-1 | SX35 | 底面 | 土師器 | 杯 | — | 6.6 | (3.1) | 体部4枚ヘラケズリ | 体部ヘラミガキ、黒色処理 | | 33 |
| 5 | E-5 | SX35 | 底面 | 須恵器 | 杯 | (13.6) | 8.4 | 2.7 | ロウロ調整、体部下位4枚ヘラケズリ、底面静止ヘラ切り→ヘラケズリ | ロウロ調整 | | 33 |

第85図 SX35 性格不明遺構・出土遺物

平面形状は隅丸方形と推察され、断面は階段状を呈する。検出した規模は、長軸 97cm、深さ 35cm を測る。堆積土は 4 層に分層され、1 層には焼土粒を含む。重複する SI374 の影響とも考えられるが、本性格不明遺構が SI374 の一部であった可能性も考えられる。

遺物は、堆積土から土師器と須恵器がわずかに出土したが図示できるものはない。

時期は、重複する SI374 を 2b 期（6 世紀中葉～末葉）以降、SA8 を 5 期（7 世紀末葉～8 世紀初頭）以降としており、2b～5 期と考えられる。



SX36 性格不明遺構 観察表

| 遺構名 | Y' ヲ' | 平面形 | 規模 (cm) | | 層位 | 土色 | 土性 | 備考 | 重複 |
|------|-------|------|---------|----|----|----------------|--------|--------------------------|----------------------|
| | | | 長軸×短軸 | 深さ | | | | | |
| SX36 | 26 | 隅丸方形 | 97×59 | 35 | 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | シルト | 焼土和炭屑含む。 | SI374より新しく、SA8/4より古い |
| | | | | | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | N 層土ブロック (10mm程) 20% 含む。 | |
| | | | | | 3 | 10YR4/3 に近い黄褐色 | シルト | | |
| | | | | | 4 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | | |

第 86 図 SX36 性格不明遺構

第 6 章 総括

第 1 節 長町駅東遺跡第 13 次調査区について

今回の調査では、竪穴住居跡 29 軒、掘立柱建物跡 3 棟、杭列・一本柱列 3 列、溝跡 7 条、小溝状遺構 32 条、井戸跡 2 基、土坑 3 基、ピット 105 基、性格不明遺構 2 基が検出された。

これらの遺構に相伴して出土した遺物は土師器が大半であり、時間的には古墳時代の 5 世紀末葉から古代の 8 世紀前半のものがある。調査区内は長期にわたって居住域として存続していたと考えられ、1～6 期に区分した各期の特徴を考えてみたい。

1 期（5 世紀中葉～後葉）

長町駅東遺跡の集落の初現と考えられるが、本調査区では竪穴住居跡は検出されていない。第 9 次調査区の当期に属する SI324・328 はともに東壁にカマドが付設されており、本調査区で唯一東壁にカマドが付設すると考察される SI380 に可能性が考えられる。

2a 期（6 世紀初頭～前葉）

調査区中央部西寄りに位置する SI372・383 の 2 軒が当期と考えられる。SI372 は本調査区において最大の竪

穴住居跡で、床面積はおよそ 57㎡である。他の竪穴住居跡と比べて大きく違いが認められるのがカマドの構造で、両袖は灰白色粘土を 3 段に積み重ねて構築され、燃焼部から支脚を埋設したと考えられる落ち込みが 2 基並列して検出されている。

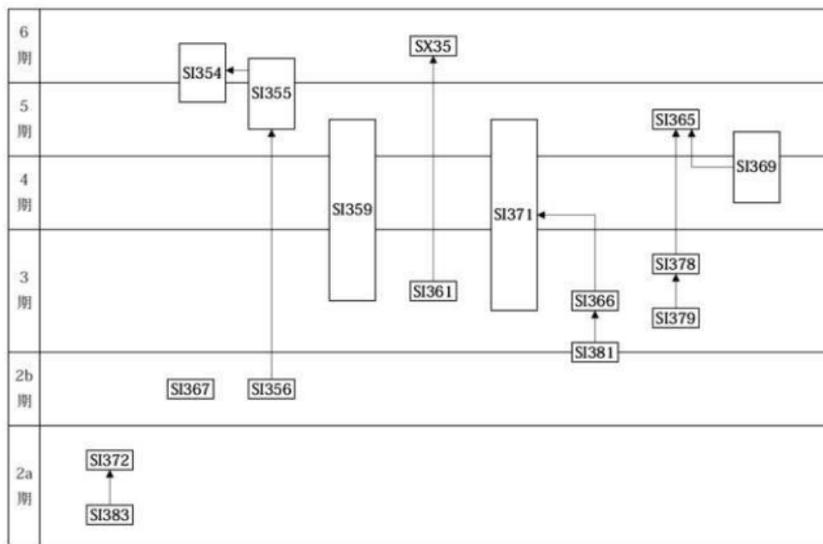
本調査区の小溝状遺構 B 群 (SM406 ~ 435) は、2a 期との重複関係はないが、重複する 2b 期の竪穴住居跡よりも古く、当期以前の遺構と考えられる。小溝状遺構 B 群を当期の遺構とした場合、水利的要因から河川沿いに占地した住耕一体型の在来集落であったと考えられる。

2b 期 (6 世紀中葉～末葉)

調査区南東寄りの SI356、中央部東寄りの SI367、北東隅の SI381 の 3 軒が当期の竪穴住居跡と考えられる。竪穴住居跡の方向をみると、SI356・381 が N - 17° - W、SI367 が N - 35° - W といずれも西側に傾くものの角度に違いがみられる。平面形状はいずれも方形基調でカマドは北壁に付設されるが、長軸での規模は SI356 で 610cm、SI381 で 432cm、SI367 で 320cm と規格性は認められず多様化する。

3 期 (7 世紀初頭～前葉)

調査区北側に位置する SI366、東側に位置する SI361、西側に位置する SI378・379 などが当期の竪穴住居跡と考えられる。竪穴住居跡の方向をみると、25 ~ 41° 西側に傾いている。長町駅東遺跡で当期の竪穴住居跡は 30 ~ 50° 西側に傾くものが主体であり、本調査区も同様の様相を呈している。平面形状はいずれも方形基調で、カマドは北壁に付設される。長軸での規模は 500cm 前後が主体であり、また SI361・366 では壁沿いを一段掘り下げる掘り方が確認されており、規格化の一端が垣間見られる。



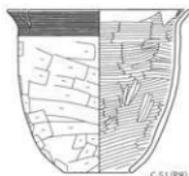
第 87 図 主要遺構重複関係模式図

2a期(6世紀初頭～前葉)

SI383

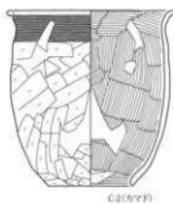


SI372

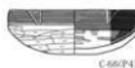


2b期(6世紀中葉～末葉)

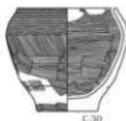
SI356



SI381



SI367

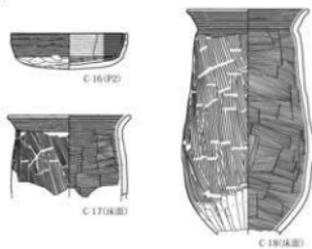


0 (1:6) 20cm

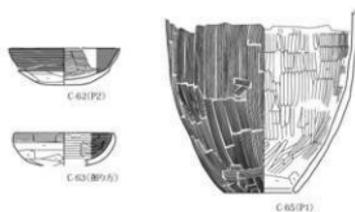
第 88 図 出土遺物集成 (1)

3期(7世紀初頭～前葉)

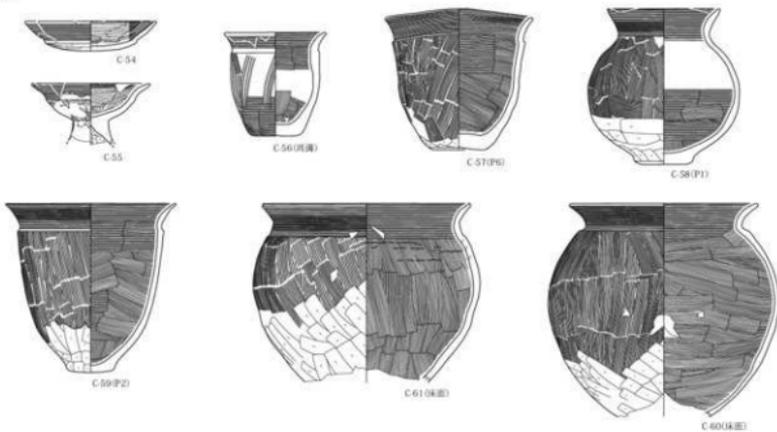
SI361



SI379

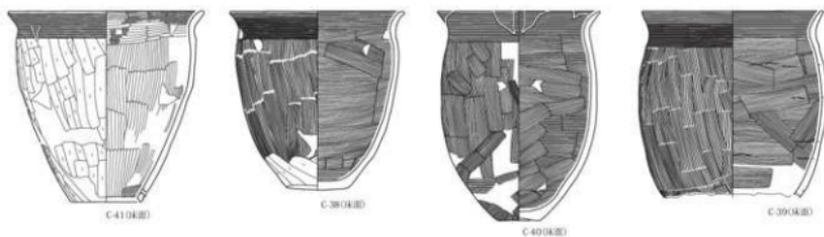


SI378



5期(7世紀末葉～8世紀初頭)以前

SI369



0 (1:6) 20cm

第 89 図 出土遺物集成 (2)

5期(7世紀末葉～8世紀初頭)

SI355

SI365



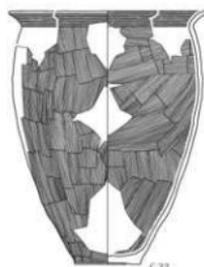
C-1(カヤフ)



C-21(カヤフ)



C-20



C-22

6期(8世紀前葉以降)

SX35



D-1(底面)



E-5(底面)



C-74



C-76



C-75



第90図 出土遺物集成(3)

4期(7世紀中葉～後葉)

郡山遺跡のⅠ期官衙期にあたり、調査区北側に位置するSI369が当期に属する可能性が高い。SI369の方向はN-39°-Wを指し、規模は長軸566cmを測る。第4次調査などで検出された区画施設と考えられる大溝跡(SD66)のN-34°-Wと概ね同方向であり、区画を意識したものと考えられる。

5期(7世紀末葉～8世紀初頭)

郡山遺跡のⅡ期官衙期にあたり、調査区中央部南側のSI355、中央部西端のSI365が当期に属すると考えられる。竪穴住居跡の方向は、SI355がN-32°-W、SI365がN-8°-Wを指す。平面形状はいずれも方形が基調で、主柱穴は4基を対角線上に配置する。長軸での規模は、SI355の418cmに対し、SI365は642cmと大型である。カマドは北壁に付設され、煙道部の長さはいずれも100cmを超える。

6期(8世紀前葉以降)

当期の竪穴住居跡は検出されておらず、性格不明遺構(SX35)が1基あるのみである。SX35は堆積土中に多量の炭化物が確認されており、焼成遺構の可能性も考えられる。底面からはロクロ土師器環(第85図-4)、須恵器環(第85図-5)などが出土しているが、このロクロ土師器は破片資料も含めて本調査区で唯一の出土であり、集落の下限を示す資料と考えられる。

竪穴住居跡がみられなくなる一方で5期以降に3軒の掘立柱建物跡が構築され、重複関係から5期末～6期前半には掘立柱建物跡と一本柱列(SA8)が集落の一端を担っていたと考えられる。調査区南側に位置する南北棟の総柱建物跡であるSB42の棟方向はN-20°-Wを指し、調査区中央部東端に位置する側柱建物跡のSB44は東西棟であるため棟方向がN-76°-Eを指すが、梁間でみた場合はN-14°-Wとなる。SB42の西側に隣接するSA8の方向もN-15°-Wを指し、長町駅東遺跡の5期の竪穴住居跡の大半が西側へ20°未満傾くことに一致している。

長町新築通計第13次調査 壁・柱位置の属性一覧(1)

| 住居 番号 | F/F | 平面形状・規模 | | 軸方位 | | カマド | | | | 煙道部 | | | その他の施設 | 備考 |
|----------|---------------------|---------------------|----------------------|-------|-------------|-------------------------|-----------|-----------------------------|-------------|------------|----------|---|--|----|
| | | 平面 形状 | 長軸 × 短軸 (m) | 方位 | 算出 基準 | 付設 位置 | 燃焼部 位置 | 基礎土 ※()は芯材 | 長さ (cm) | 底面 | 開口 | 開口 | | |
| SE354 | 26 | 方形 or 隅丸方形 | 256×135 | N26°W | カマド 煙道部 | 北壁 | や中外 | 盛土 | 104 | 低くなる | ピット状 | 床面から土坑2基 (1基は貯蔵穴) | カマドを含む北壁の2/3程度の 幅出し、南側の大半は調査区 外へ延びる。 | |
| SE355 | 21-22 26 | 隅丸方形 | 418×410 | N32°W | カマド 煙道部 | 北壁 | 西 | 盛土 | 115 | - | ピット状 | 床面から土坑5基 | | |
| SE356 | 18-22 26 | や中廊らむ 方形 | 610×580 | N17°W | カマド | 北壁 | 西 | 盛土(東軸自然 礎+加工礎、 西軸加工礎) | ①170 ②54 | - | 芯柱状 | 床面から土坑6基、 貼床面下から6基 (5基はカマド側) | 東側の延長上に煙道を抽出し、 カマドとした。 | |
| SE357 | 22-27 | 隅丸方形 or 隅丸長方形 | 138×112 | N27°W | 西壁 | - | - | - | - | - | - | - | 北西隅のみを抽出、大半は調 査区東壁外へ延びる。 | |
| SE358 | 26 | 不明 | 不明 | N21°W | カマド 煙道部 | - | - | - | 85 | - | ピット状 | - | 煙道部のみを抽出。 | |
| SE359 | 20-21 24-25 | 方形 or 長方形 | 684×656 | N33°W | カマド | 北壁 | 西 | 白色粘土(礫) | 133 | - | ピット状 | 床面から土坑3基 (2基はカマド側)、 貼床面から土坑6基 | 南西半は調査区南壁外へ延び る。 | |
| SE360 | 20-21 24-25 | 隅丸方形 | 420×419 | N36°W | 東壁 | - | - | - | - | - | - | - | SE359の外周で抽出、調査区南 壁の土崩れ部より壁穴付設部 とした。 | |
| SE361 | 14-15 18-19 | 隅丸方形 | 508×487 | N41°W | カマド | 北壁 | 西 | - | 147 | - | ピット状 | 床面から土坑3基(1 基は貯蔵穴)、溝1条 | 南東隅は調査区東壁外に延び る。 | |
| SE362 | 26 | 不明 | 不明 | N20°W | カマド 煙道部 | - | - | - | 53 | - | ピット状 | - | 煙道部のみを抽出。 | |
| SE363 | 9-10 13-14 | 方形 | 398×394 | N15°W | カマド 煙道部 | 北壁 | 西 | 盛土 | 171 | 壁やかに 傾斜 | 不明 | 床面から土坑2基 (1基は貯蔵穴、1基カマ ド側溝?)、溝1条 | | |
| SE364 | 8-9 | 隅丸方形 or 隅丸長方形 | 355×196 | N1°E | 東壁 | - | - | - | - | - | - | - | 南東隅の一部を抽出、大半は 調査区北壁外へ延びる。 | |
| SE365 | 8-12 13-16 17 | 方形 | 642×575 | N8°W | カマド1 煙道部 | ①北壁 ②カマ ド1の 西側 | 西 | - | ①160 ②47 | ①傾斜 ②平床 | ①芯 柱状 | 床面から土坑12基 (6基はカマド側)、 貼床面下から3基 | 西部はグラウ化が著しく一部 部を下下り確認を行った。 | |
| SE366 | 6-7 | 方形 or 隅丸方形 | 532×333 | N25°E | 東壁 | - | - | - | - | - | - | 張り方から1基 (張り方の一部) | 北側および南東隅は龍瓦に よって壊される。 | |
| SE367 | 18-22 | 隅丸方形 | 320×301 | N35°W | 東壁 | 北壁 | や中外 | - | - | - | - | - | 北西隅は龍瓦によって失われ ている。 | |
| SE368 | 13-14 17-18 | 隅丸方形 | 295×292 | N30°W | カマド 煙道部 | 北壁 | 西 | - | 105 | 傾かに 傾斜 | - | 床面から土坑1基 | 南東隅は龍瓦によって失われ ている。 | |
| SE369 | 8-9 12-13 | 方形 | 566×391 | N39°W | 東壁 | - | - | - | - | - | - | 床面から土坑1基、 間仕切り溝1条 | 産瓦遺構により南壁の大半は 失われる。北側は調査区北壁 外へ延びる。 | |
| SE370 | 16-20 | 方形 or 隅丸方形 | 594×579 | N34°W | カマド 煙道部 | 北壁 | 西 | 盛土 | 104 | ほぼ平坦 | - | 床面から土坑2基、 貼床面下から土坑3 基、間仕切り溝1条 | 北西隅および南西隅は調査区 に壁外へ延びる。 | |
| SE371A | 6-10 | 隅丸方形 | 536×532 | N28°W | カマド | 北壁 | 西 | (自然礎) | - | - | - | 床面から5基(1基 はカマド側溝)、 貼床面下から1基 | 龍瓦により割平を受け上部が 一部失われる。 | |
| SE371B | 6-10 | 方形 or 隅丸方形 | 452×441 | N26°W | 西壁 | - | - | - | - | - | - | 床面から土坑2基 (1基はカマド側溝)、 溝1条、貼床面下 から土坑2基 | SE371Aの入り方調査時に一回 り掘り貼床面を抽出。 | |
| SE372 | 9-13 14-17 18 | 方形 | 760×748 | N30°W | カマド | 北壁 | 西 | 灰白色粘土 | 100 | ほぼ平坦 | 不明 | 床面から土坑4基 (1基は貯蔵穴)、貼床 面下から土坑2基 | 南東隅は龍瓦によって失われ る。 | |
| SE374 | 26 | 不明 | 不明 | N9°W | カマド 煙道部 | - | - | - | 143 | 傾やかに 傾斜 | ピット状 | - | カマドの煙道部のみを抽出、 大部分は調査区南壁外へ延び る。 | |
| SE375 | 23 | 隅丸方形 or 隅丸長方形 | 205×50 | N3°W | 西壁 | - | - | - | - | - | - | - | 東側の大部分は調査区東壁外 へ延びる。 | |
| SE376 | 16 | 不明 | 不明 | N60°W | カマド 煙道部 | - | - | - | 58 | 浅い凹状 | 不明 | - | カマド煙道部の一部を抽出、 南側は産瓦するSE370によっ て失われる。 | |
| SE377 | 20 | 不明 | 125×112 | N34°W | 東壁 | - | - | - | - | - | - | - | 北側は産瓦するSE370、南側は 龍瓦により失われる。 | |

長町駅東遺跡第13次調査 竪穴住居跡の属性一覧(2)

| 自然番号 | F'ホド' | 平面形状・規模 | | 軸方位 | | カマド | | | | 煙道部 | | その他の施設 | 備考 |
|-------|----------------|---------------------|----------|---------|------------|------|-------|-----------|-------|-----|------|-----------------------------------|------------------------|
| | | 平面形状 | 長軸×短軸(m) | 方位 | 露出基準 | 付設位置 | 煙道部位置 | 築造土(※)は2材 | 長さ(m) | 断面 | 煙出し | | |
| SI378 | 16-17 20-21 | 隅丸長方形 | 376×310 | N 30°-W | 東壁 | - | - | - | - | - | - | 床面から土坑1基 | 南西隅上部は覆瓦により失われる。 |
| SI379 | 16-17 20-21 | 方形 | 480×416 | N 35°-W | カマド | 北壁 | 内 | 壤土(自然露) | - | - | - | 床面から土坑1基(1基は貯蔵穴) | 東平は重複するSI370によって失われる。 |
| SI380 | 13 | 不明 | 不明 | N 90°-E | カマド 煙道部 | - | - | - | 61 | 平坦 | ピット状 | - | 煙道部のみを抽出。 |
| SI381 | 7-11 | 隅丸方形 or 隅丸長方形 | 432×143 | S 17°-W | 東壁 | 北壁 | - | - | - | - | - | 床面から土坑1基(貯蔵穴) | 東平は覆瓦によって失われる。 |
| SI382 | 9-13 | 方形 | 535×480 | N 2°-W | カマド | 北壁 | 内 | 壤土 | - | - | - | - | 南側の大部分を重複する遺構によって失われる。 |
| SI383 | 17-21 | 方形 | 452×447 | N 24°-W | 西壁 | - | - | - | - | - | - | 床面から土坑1基、 腰り方から土坑1基 (カマド関連) | 東平は重複するSI372によって失われる。 |

※カマド煙道部位置は、壁面の内側に構築されるものを「内」、壁面の外側に1/2程度張り出すものを「外」とした。

長町駅東遺跡第13次調査 竪穴住居跡の属性一覧

| 遺構番号 | F'ホド' | 平面形状・規模 | | | 方位 | 露出基準 | 柱穴 | | | 備考 | |
|------|----------------|----------|------|---------------|-----------|---------|------------------|-----|--------|--------|--------------------------------------|
| | | 前行×梁間(間) | 柱間構造 | 平面形状 | | | 柱径 (前行×梁間 cm) | 柱出数 | 平面形状 | | 長軸短軸(m) |
| SB42 | 21-22 25-26 | (2)×2 | 組柱 | 長方形 | 450×360 | N 20°-W | 東側柱列 | 7 | 隅丸方形基調 | 76-105 | SI355(5-6期)より新しい、南側調査区外。 |
| SB43 | 16-20 | (2)×2 | 組柱 | - | 300×420 | N 42°-W | 東側柱列 | 5 | 円形基調主体 | 43-56 | SI365(5期)、SI370(3期以降)より新しい、北・西側調査区外。 |
| SB44 | 18-19 | (2)×1 | 組柱 | 長方形 (独立露柱) | (300)×300 | N 76°-E | 北側柱列 | 5 | 円形基調主体 | 50-60 | SI361(3期)より新しく、SI355(6期)より古い、東側調査区外。 |

※表中の各数値について、()は現存値を表す。

※組柱については、前行・梁間ともに最大値を示した。

長町駅東遺跡では、多賀城の築城に伴い郡山II期官衙がその機能を移転する段階で集落としての機能を急激に低下させるが、本調査区でもそれに従い6期の前半には既に居住域としての機能を失っていたと考えられる。

居住域としての機能が失われると、長町駅東遺跡は小溝状遺構などの検出状況から生産域(耕作域)へと変貌を遂げると考えられており、本調査区も溝跡や小溝状遺構A群の存在から同様の変化を辿ったと考えられる。

引用・参考文献

- 吾妻俊典 2004 「多賀城とその周辺におけるロクロ土師器の普及開始年代」『宮城考古学』第6号 宮城県考古学会
- 加藤道男 1983 「宮城県における土師器研究の現状」『考古学論叢』芹沢長介先生還暦記念論文集刊行会
- 菊池佳子 1994 「多賀城以前の陸奥国と須恵器」『歴史』第82号 東北史学会
- 木本元治 1990 「南東北地方における歴史時代の須恵器編年1」『伊東信雄先生追悼考古学古代史論叢』伊東信雄先生追悼論文集刊行会
- 工藤信一郎 2010 「長町駅東遺跡・西台畑遺跡の集落について」『宮城考古学』第12号 宮城県考古学会
- 国史館大塚考古学会 2009 『古代社会と地域間交流』六一書房
- 松本太郎 「鬼高系の系譜と歴史的背景」 富田和夫 「移民の携えた土器」
- 桜岡正信 「古代東北と上野」 池田敏広 「栃木県域における6・7世紀の土器様相」
- 長島榮一 「官衙からみた関東系土師器」 村田晃一 「律令国家形成期の陸奥北辺経営と坂東」

- 櫻井友祥 2011 「古墳時代終末期から多賀城創建前後の須恵器生産の展開」『宮城考古学』第13号 宮城県考古学会
- 佐藤敏幸 2007 「宮城県北部・沿岸部」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』東北学院大学文学部
- 仙台市教育委員会 1992 「郡山道跡—第65次発掘調査報告—」仙台市文化財調査報告書第156集
- 1992 「郡山道跡—第112次発掘調査報告書—」仙台市文化財調査報告書第222集
- 1994 「南小泉道跡—第22・23次発掘調査報告書—」仙台市文化財調査報告書第192集
- 1998 「南小泉道跡—第26次調査報告書—」仙台市文化財調査報告書第225集
- 1998 「南小泉道跡—第30・31次発掘調査報告書—」仙台市文化財調査報告書第226集
- 2000 「王ノ塚道跡」仙台市文化財調査報告書第249集
- 2001 「郡山道跡—第124次発掘調査報告書—」仙台市文化財調査報告書第251集
- 2004 「湯ノ果道跡—第7次発掘調査報告書—」仙台市文化財調査報告書第280集
- 2005 「郡山道跡発掘調査報告書—総括編—」仙台市文化財調査報告書第283集
- 2007 「長町駅東道跡第4次調査」仙台市文化財調査報告書第315集
- 2008 「長町駅東道跡第1・2次調査」仙台市文化財調査報告書第324集
- 2008 「南小泉道跡他」仙台市文化財調査報告書第326集
- 2009 「長町駅東道跡第3次調査」仙台市文化財調査報告書第340集
- 2010 「西台畑道跡第1・2次調査」仙台市文化財調査報告書第359集
- 2010 「沼向道跡第4～34次調査（第9分冊）」仙台市文化財調査報告書第360集
- 2011 「西台畑道跡第3次調査」仙台市文化財調査報告書第388集
- 2013 「西台畑道跡第8次調査」仙台市文化財調査報告書第409集
- 2013 「西台畑道跡第4・5・7次調査」仙台市文化財調査報告書第411集
- 2013 「郡山道跡第167・180・196次調査」仙台市文化財調査報告書第412集
- 高橋誠明 1999 「宮城県における古墳時代中期の土器様相」『東国土器研究』（第5号）東国土器研究会
- 東北古代土器研究会 2005 「東北古代土器集成—古墳後期～奈良・集落編—」<福島> 研究報告1
- 2005 「東北古代土器集成—古墳後期～奈良・集落編—」<宮城> 研究報告2
- 2008 「東北古代土器集成—須恵器・窯跡編—」<陸奥> 研究報告3
- 奈良佳子 2003 「宮城県域の7世紀の須恵器」『古代東北北海道研究会資料』古代東北北海道研究会
- 奈良文化財研究所 2003 「古代の官衙道跡Ⅰ遺構編」
- 2004 「古代の官衙道跡Ⅱ遺物・道跡編」
- 古川市教育委員会 1991 「名生館道跡Ⅰ」古川市文化財調査報告書8集
- 宮城県教育委員会 1991 「合戦原道跡ほか」宮城県文化財調査報告書第140集
- 1994 「山王道跡八幡地区の調査」宮城県文化財調査報告書第162集
- 1999 「名生館道跡・下草古城本丸跡ほか」宮城県文化財調査報告書第181集
- 2001 「山王道跡八幡地区の調査2—古墳時代後期SD2050B 河川編—」宮城県文化財調査報告書第186集
- 2009 「市川橋道跡の調査」宮城県文化財調査報告書第218集
- 村田見一 1996 「陸奥国における7世紀の様相」『飛鳥・白鳳時代の諸問題1』国際古代史シンポジウム実行委員会
- 2000 「飛鳥・奈良時代の陸奥国北辺」『宮城考古学』第2号 宮城県考古学会
- 2002 「7世紀集落研究の視点（1）」『宮城考古学』第4号 宮城県考古学会
- 2003 「宮城県中・南部における6～8世紀の土師器編年」『古代東北北海道研究会第1回研究資料』
古代東北北海道研究会
- 2007 「v. 宮城県中部から南部」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』東北学院大学文学部
- 柳沼賢治 1999 「福島県における5世紀土器とその前後」『東国土器研究』（第5号）東国土器研究会
- 利府町教育委員会 2011 「碓沢堂跡Ⅱ」利府町文化財調査報告書第13集

写 真 图 版

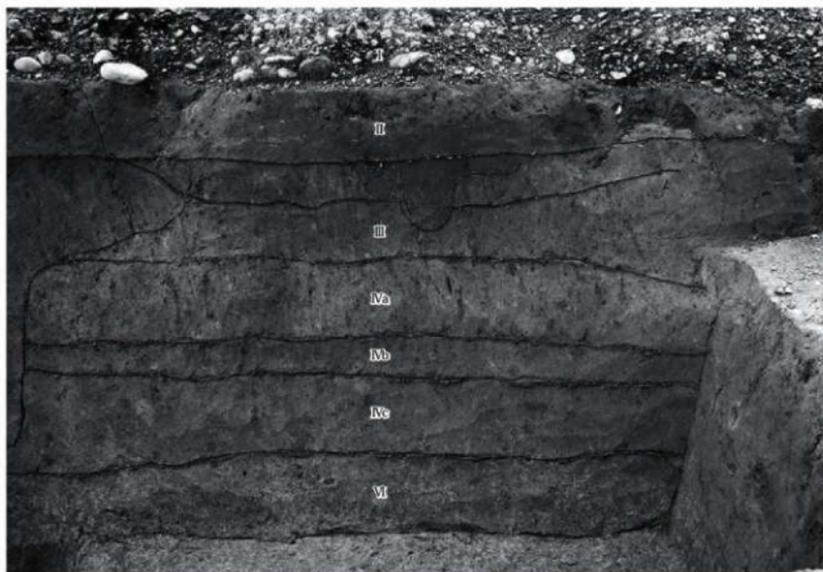


全景（北から）



全景（南東から）

写真図版 1 調査区全景



南壁断面（北から）



東壁断面（西から）

写真図版 2 基本層序



SI354 完掘（南から）



SI354 煙道断面（南西から）



SI355 完掘（南東から）



SI355 カマド遺物出土状況（南東から）



SI356 完掘（南から）



SI356 カマド袖芯材検出状況（南から）



SI356 床面検出（南から）



SI357 完掘（東から）



SI358 完掘 (南東から)



SI359 完掘 (南東から)



SI359 カマド完掘 (南東から)



SI359 カマド遺物出土状況 (南東から)



SI359 カマド2断面 (西から)



SI361 完掘 (南東から)



SI361 カマド (南東から)



SI361 遺物出土状況 (西から)

写真図版4 竪穴住居跡 (2)



SI363 完掘 (南から)



SI364 完掘 (南西から)



SI365 床面検出 (南から)



SI365 カマド1 煙道断面 (東から)



SI365 カマド2 煙道断面 (東から)



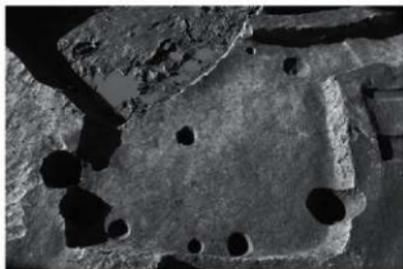
SI365 掘り方完掘 (南から)



SI366 完掘 (南西から)



SI366-P1 遺物出土状況 (東から)



SI367 完掘 (南東から)



SI367 遺物出土状況 (東から)



SI367 作業風景 (北から)



SI368 完掘 (南東から)



SI368 カマド袖芯材埋設穴断面 (南から)



SI368 断面 (南から)



SI369 完掘 (南東から)



SI369 遺物出土状況 (北西から)

写真図版 6 竪穴住居跡 (4)



SI370 完掘 (南東から)



SI370 カマド断面 (南東から)



SI370 遺物出土状況 (東から)



SI371A 完掘 (南から)



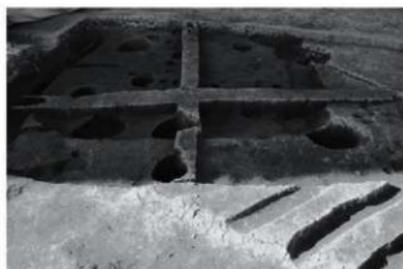
SI371A カマド完掘 (南から)



SI371A カマド遺物出土状況 (南東から)



SI371B 完掘 (南から)



SI371B 断面 (南から)



SI372 完掘 (南から)



SI372 カマド (南から)



SI372 カマド支脚断面 (南東から)



SI372 カマド遺物出土状況 (南から)



SI372-P7 遺物出土状況 (北西から)

写真図版 8 竪穴住居跡 (6)



SI374 煙道完掘（南から）



SI375 掘り方完掘（西から）



SI376 煙道完掘（南東から）



SI377 完掘（南東から）



SI378 完掘（東から）



SI378 遺物出土状況（北西から）



SI378 遺物出土状況（西から）



SI378 遺物出土状況（西から）



SI379 完掘 (南東から)



SI379 カマド (南東から)



SI379-P1 断面 (南から)



SI379 振り方遺物出土状況 (北から)



SI380 煙道完掘 (南西から)



SI381 遺物出土状況 (南から)

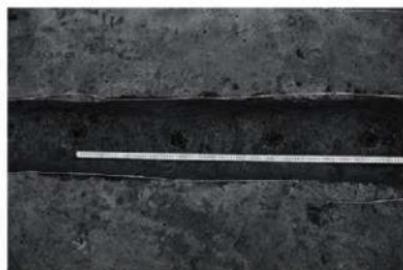


SI382 完掘 (南から)



SI383 完掘 (南から)

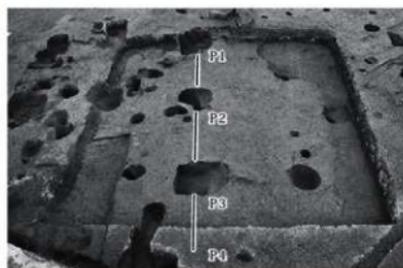
写真図版 10 竪穴住居跡 (8)



SA7 検出状況 (南から)



SA7・SD278 断面 (東から)



SA8 全景 (南から)



SA8-P1 完掘 (南から)



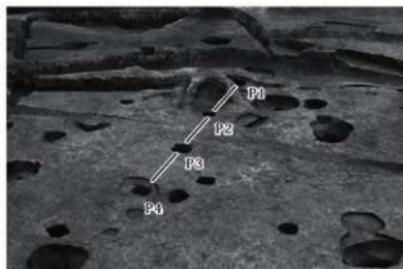
SA8-P2 断面 (北東から)



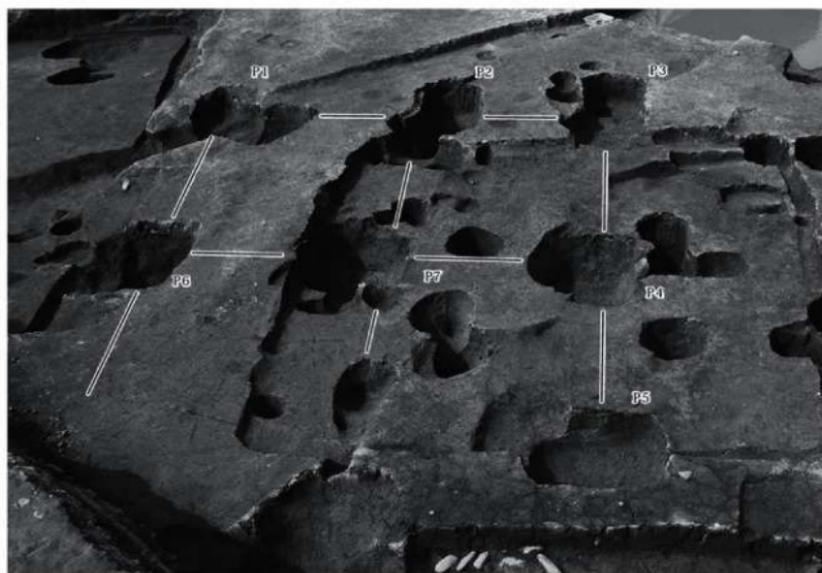
SA8-P3 完掘 (南から)



SA8-P4 断面 (北から)



SA9 全景 (南から)



SB42 全景 (南から)



SB42-P2 完掘 (南西から)



SB42-P4 断面 (東から)

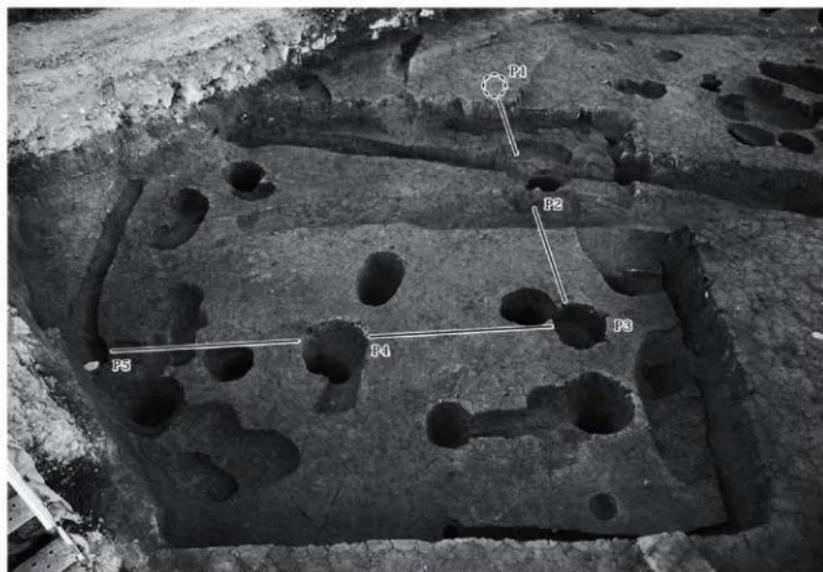


SB42-P5 完掘 (北から)



SB42-P7 断面 (南から)

写真図版 12 掘立柱建物跡 (1)



SB43 全景 (南東から)



SB43-P1 断面 (北東から)



SB43-P3 断面 (南東から)



SB43-P4 完掘 (東から)

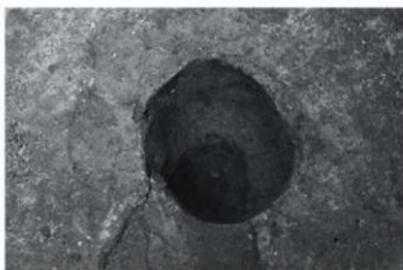


SB43-P5 断面 (北から)

写真図版 13 掘立柱建物跡 (2)



SB44-P1 断面 (南西から)



SB44-P2 完掘 (南から)



SB44-P2 断面 (南東から)



SB44-P4 断面 (北東から)



SD280 完掘 (北から)



SD281 断面 (東から)



SD282 断面 (南西から)



SD284 断面 (北西から)

写真図版 14 掘立柱建物跡 (3)・溝跡



SMA 群 (404・405) 完掘 (北東から)



SMA 群 (404・405) 断面 (北東から)



SMB 群 (406) 断面 (南から)

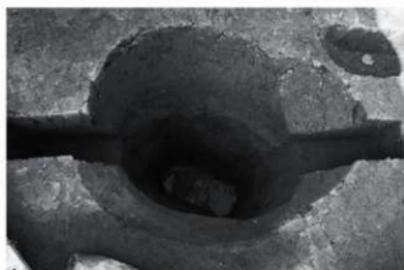


SMB 群 (415) 断面 (北東から)



SMB 群全景 (北から)

写真図版 15 小溝状遺構



SE9 完掘 (南から)



SE9 断面 (南から)



SE10 完掘 (南から)



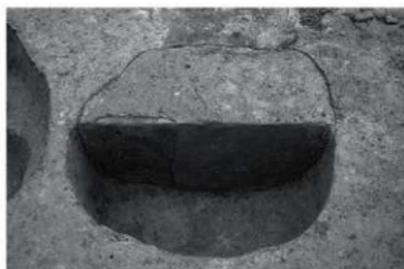
SE10 断面 (南から)



SK324 完掘 (北から)



SK324 断面 (南から)



Pit24 断面 (南東から)



Pit26 断面 (北東から)

写真図版 16 井戸跡・土坑・ピット (1)



Pit28 断面 (北東から)



Pit39 断面 (南西から)



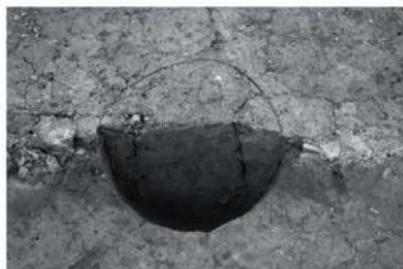
Pit49 断面 (南から)



Pit59 断面 (東から)



Pit62 断面 (東から)



Pit73 断面 (東から)



Pit76 断面 (東から)



Pit78 断面 (南から)



Pit79 断面 (南から)



Pit80 断面 (南から)



Pit85 断面 (南東から)



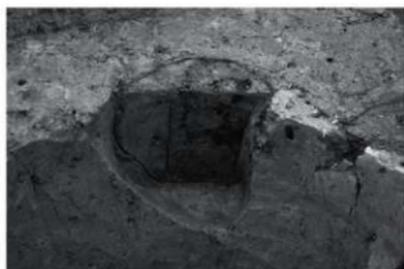
Pit86 断面 (南東から)



Pit87 断面 (南から)



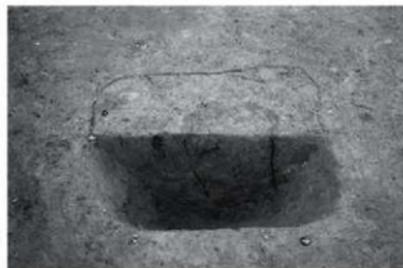
Pit91 断面 (東から)



Pit93 断面 (南東から)



Pit98 断面 (南西から)



Pit107 断面 (南から)



Pit108 断面 (西から)



Pit121 断面 (東から)



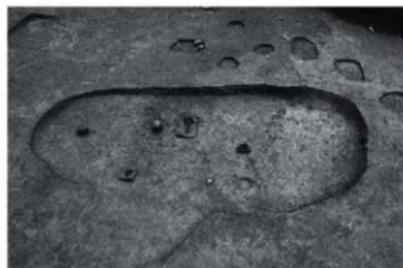
Pit127 断面 (西から)



Pit132 断面 (北から)



Pit138 断面 (南から)



SX35 完掘 (南西から)



SX35 遺物出土状況 (西から)



SI372 出土土器 (2a 期)



SI367 出土土器 (2b 期)

写真図版 20 竪穴住居跡出土遺物 (1)



SI378 出土土器 (3期)



SI361 出土土器 (3期)

写真図版 21 竪穴住居跡出土遺物 (2)

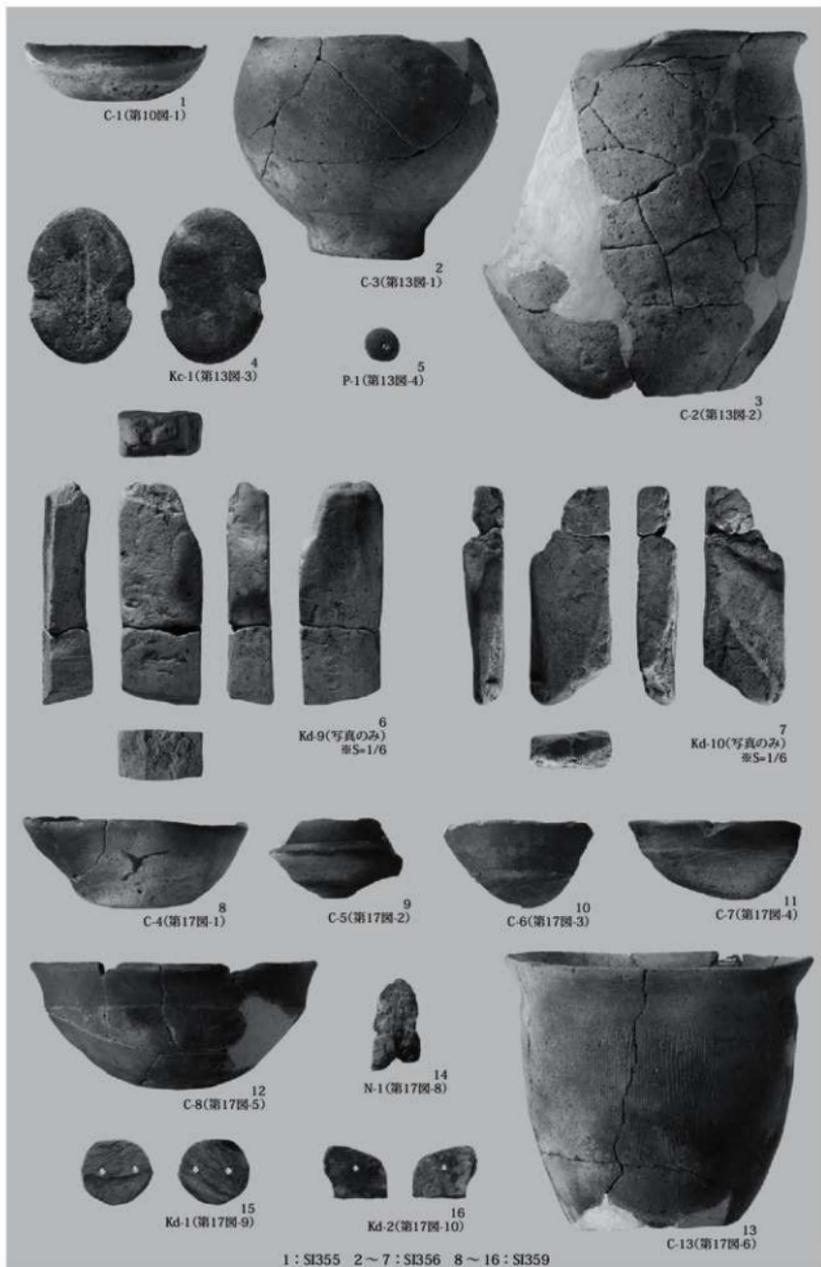


SI359 出土土器 (3~5期)

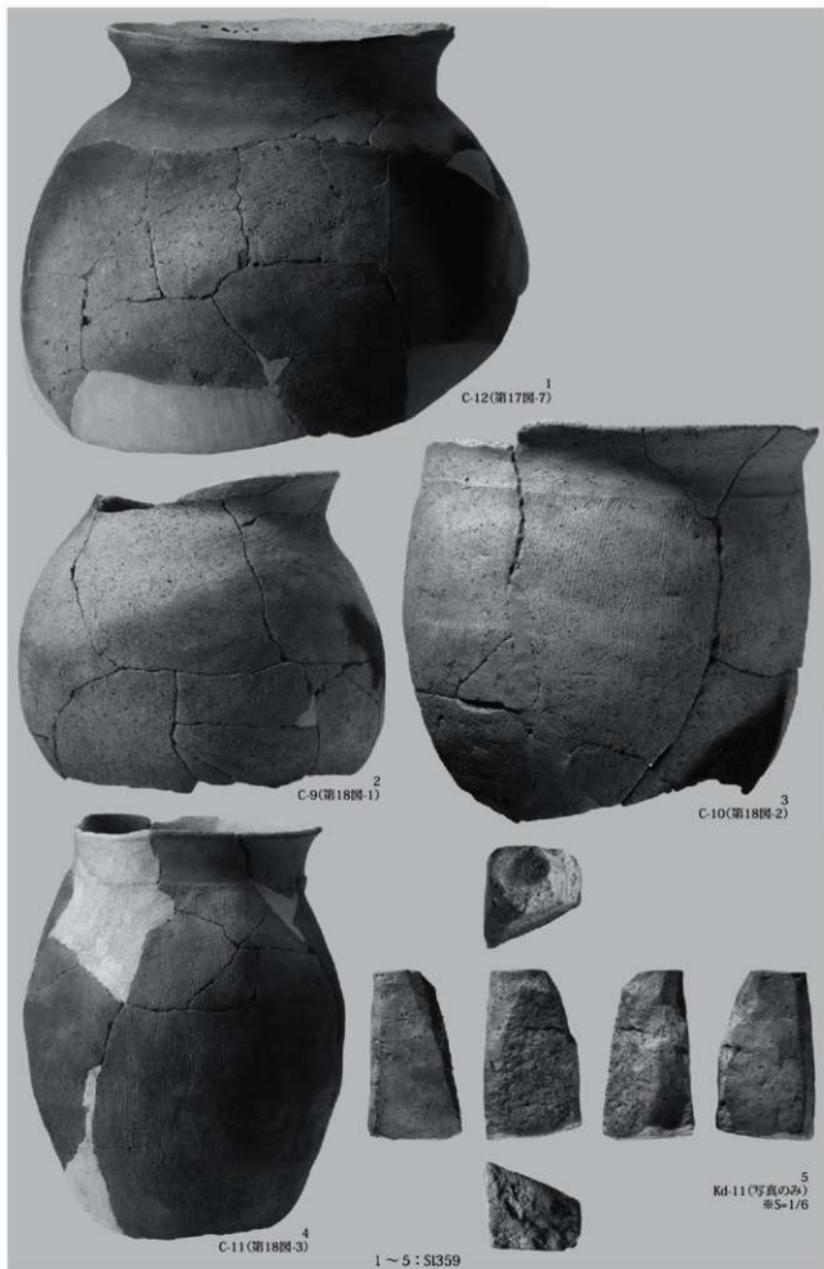


SI369 出土土器 (5期以前)

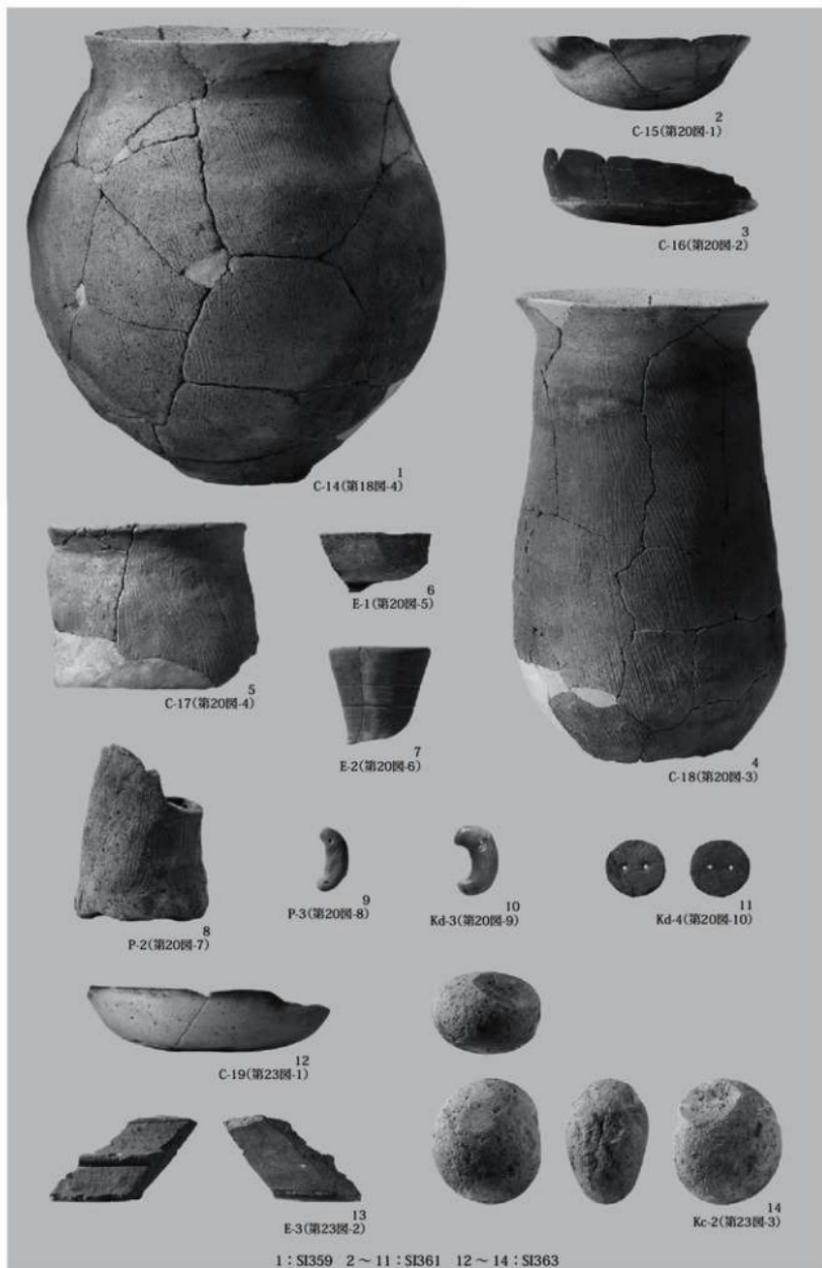
写真図版 22 竪穴住居跡出土遺物 (3)



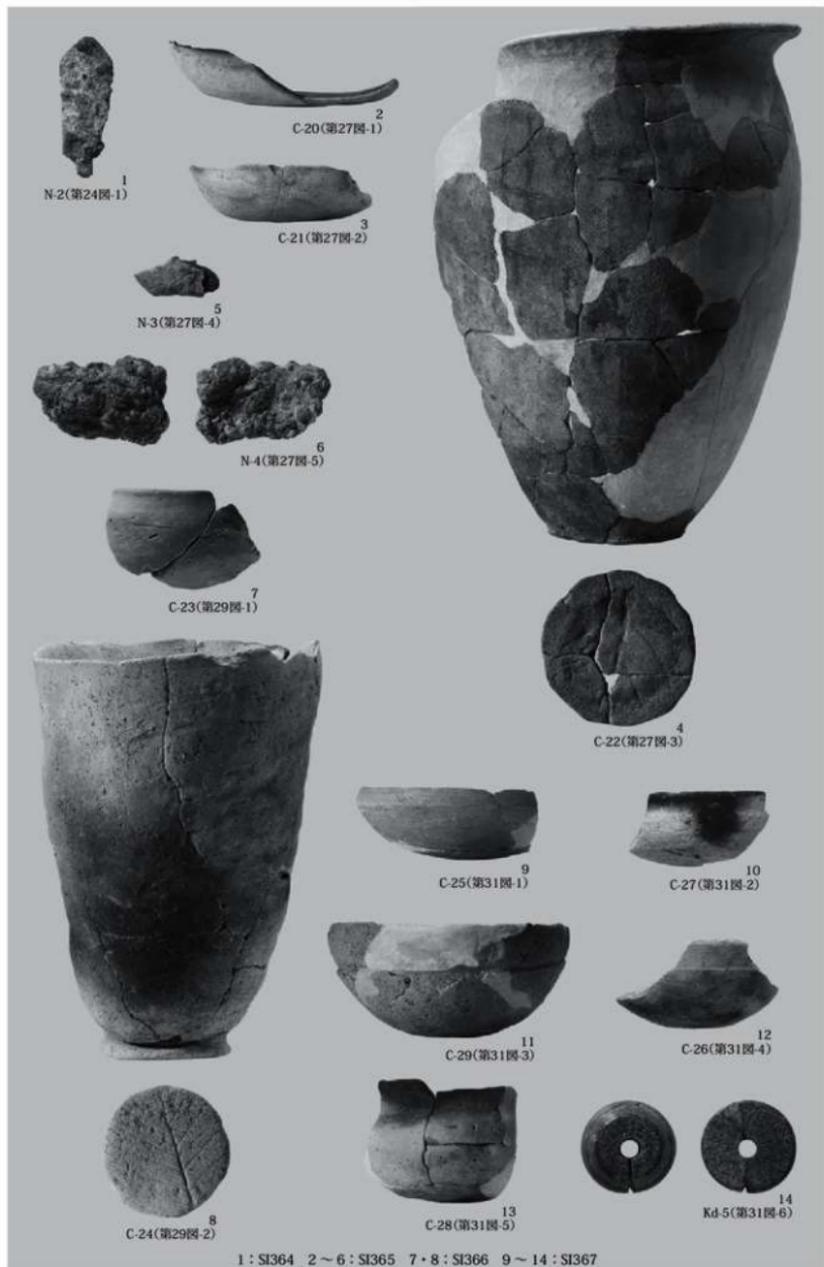
写真図版 23 竪穴住居跡出土遺物 (4)



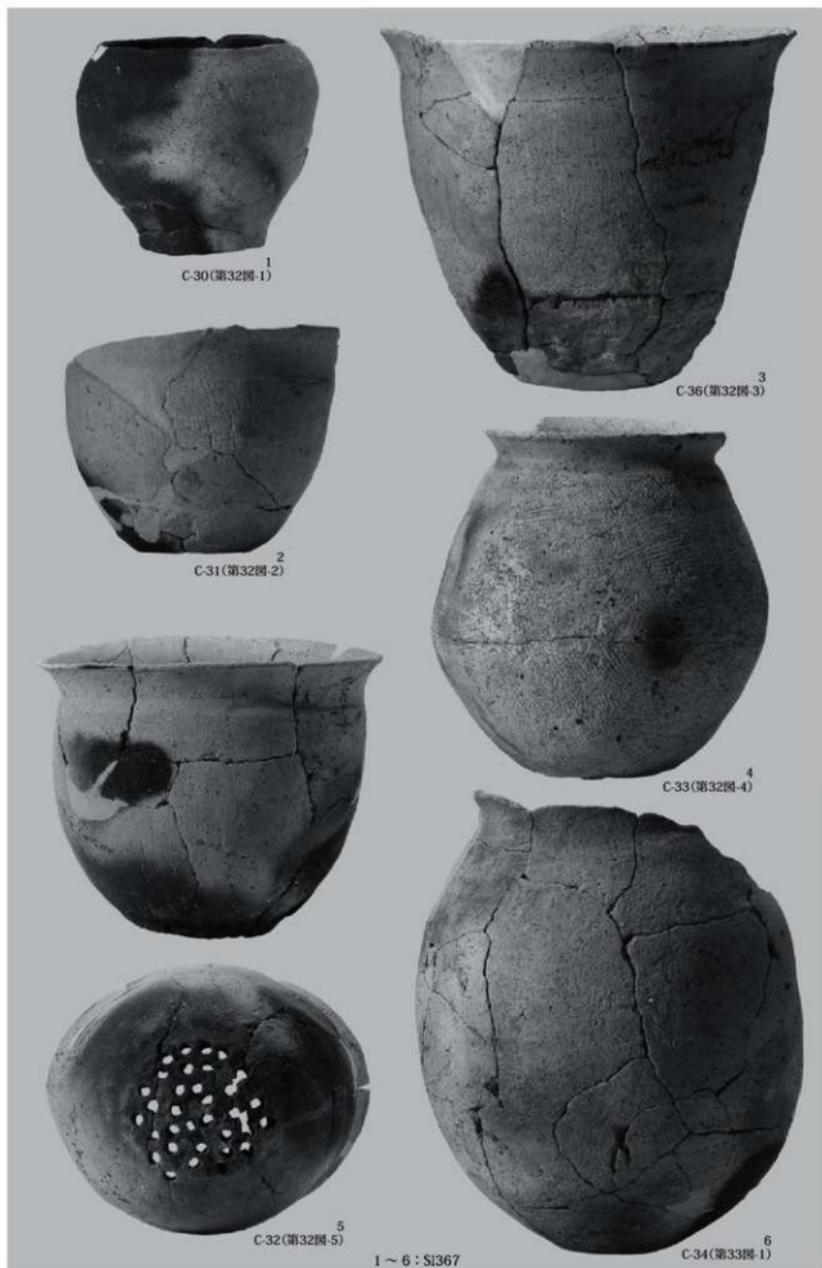
写真図版 24 竪穴住居跡出土遺物 (5)



写真図版 25 竪穴住居跡出土遺物 (6)



写真图版 26 竪穴住居跡出土遺物 (7)



写真図版 27 竪穴住居跡出土遺物 (8)



1
C-37(第33图-2)



2
C-35(第33图-3)



3
N-5(第35图-1)



4
P-5(第35图-2)



5
P-4(第35图-3)



6
P-6(第35图-4)



7
C-38(第37图-1)



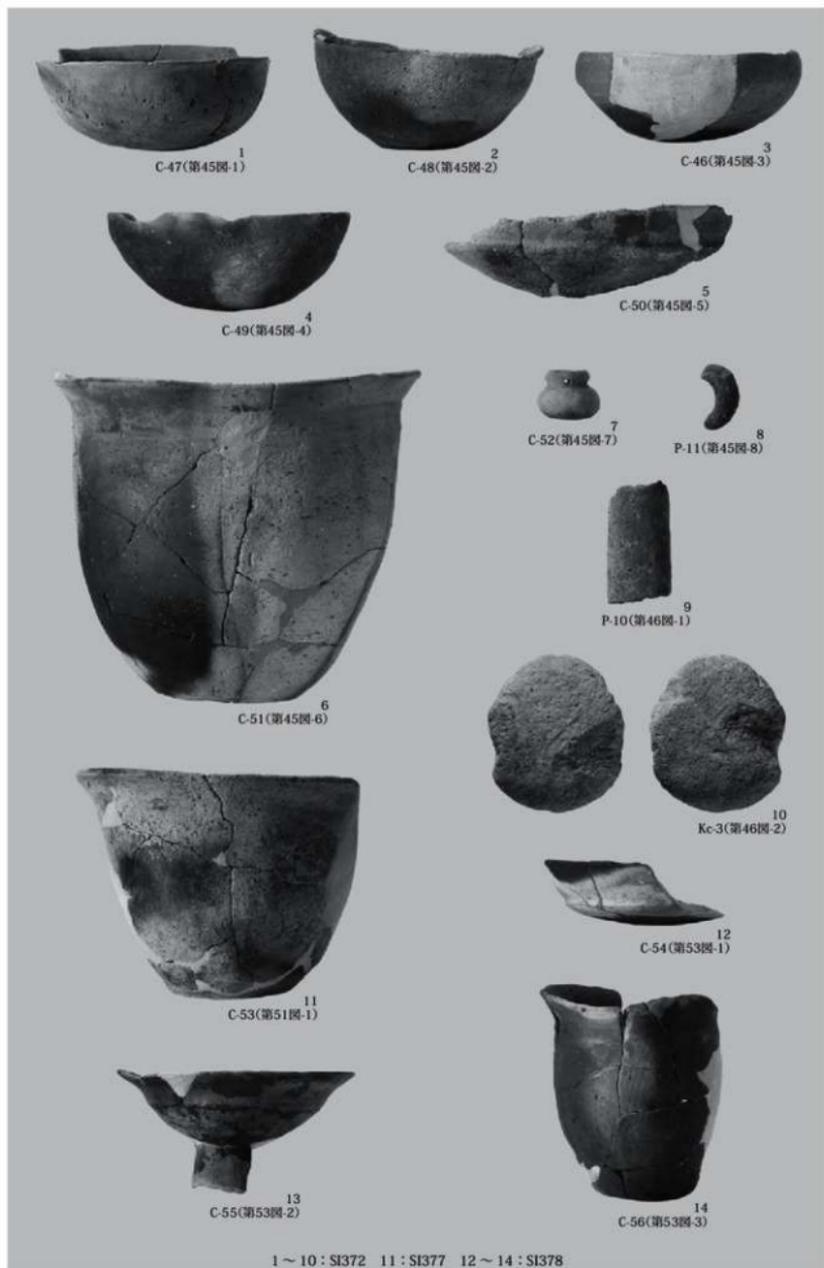
8
C-39(第37图-2)

1・2：SI367 3～6：SI368 7・8：SI369

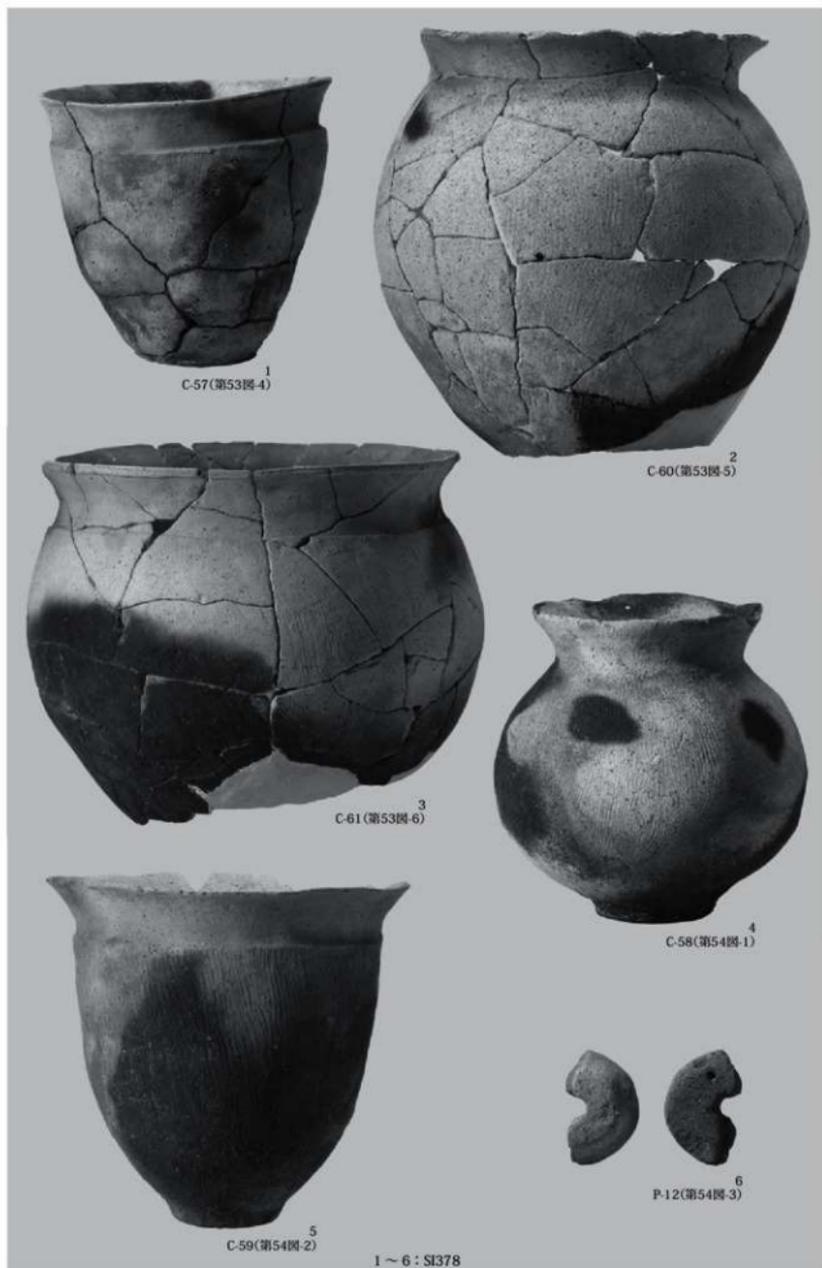
写真図版 28 竪穴住居跡出土遺物 (9)



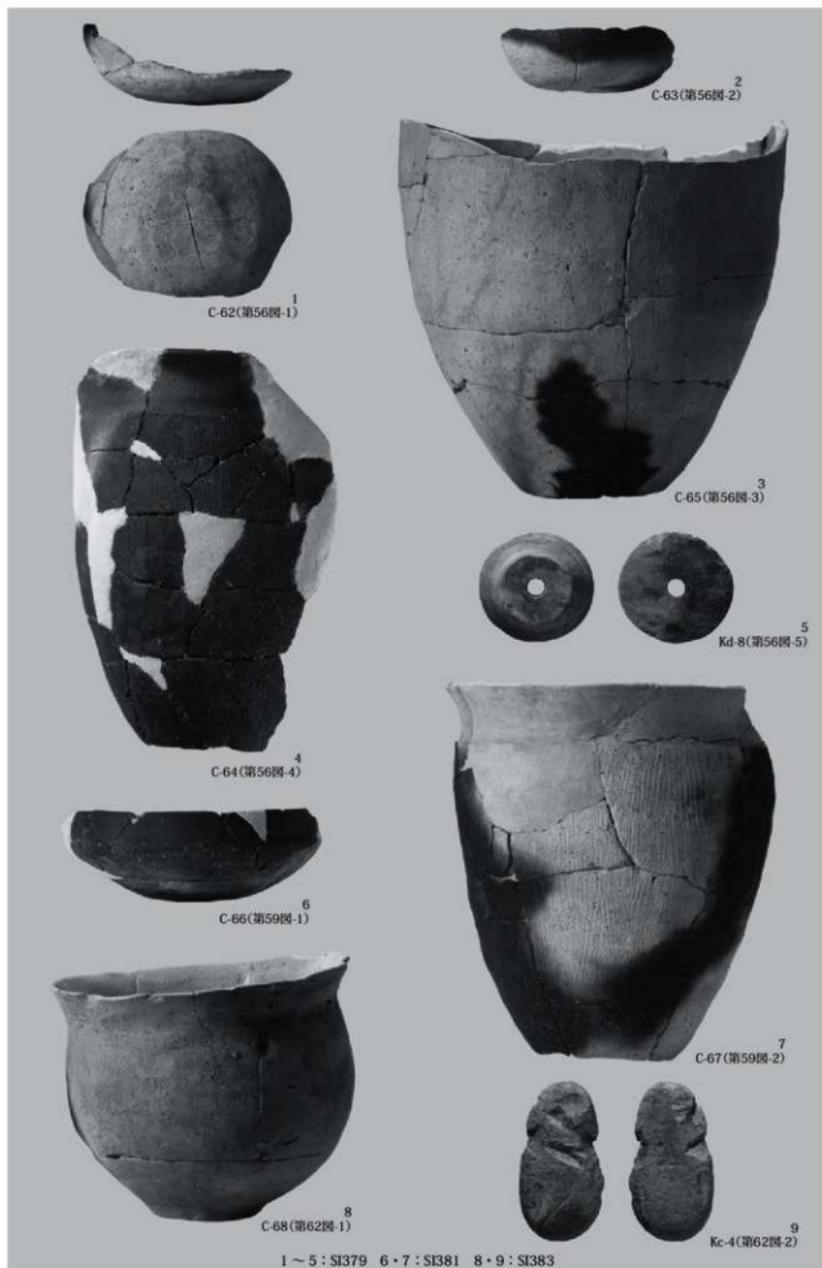
写真図版 29 竪穴住居跡出土遺物 (10)



写真図版 30 竪穴住居跡出土遺物 (11)



写真図版 31 竪穴住居跡出土遺物 (12)



写真図版 32 竪穴住居跡出土遺物 (13)



1
P-13(第70図-1)



2
C-69(第73図-1)



3
C-70(第73図-2)



4
C-71(第74図-1)



5
C-72(第74図-2)



6
C-73(第79図-1)



7
C-74(第85図-1)



8
C-75(第85図-2)



9
C-76(第85図-3)



10
D-1(第85図-4)



11
E-5(第85図-5)

1 : SA8 2・3 : SD280 4・5 : SD282 6 : SE9 7 ~ 11 : SX35

写真図版 33 一本柱列・溝跡・井戸跡・性格不明遺構出土遺物

報 告 書 抄 録

| | | | | | | | | |
|------------------------|---|-----------------|-----------------|----------------------------|-------------------|-----------------------------|-------------|-------------------------------------|
| ふりがな | ながまらえきひがしいせきだい13じちようさ | | | | | | | |
| 書名 | 長町駅東遺跡第13次調査 | | | | | | | |
| 副書名 | 仙台市あすと長町28街区・店舗付駐車場新築工事に伴う発掘調査報告書 | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 仙台市文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第423集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 荒井格 工藤信一郎 水野一夫 庄子裕美 結城慎一 細野高伯 北村和穂 | | | | | | | |
| 編集機関 | 仙台市教育委員会(文化財課) | | | | | | | |
| 所在地 | 〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町四丁目1番25号 | | | | | | | |
| 発行年月 | 2014年 3月 20日 | | | | | | | |
| ふりがな | ふりがな | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 (㎡) | 調査原因 |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| ながまらえきひがしいせき 長町駅東遺跡 | みやぎけんせんだいし 宮城県仙台市 たいはくあすとながまち 太白区あすと長町 28街区4かまち 28街区4画地 | 4100 | 01449 | 38° 13' 20" | 140° 53' 7" | 2013/7/1 ～ 2013/10/31 | 824㎡ | 店舗付駐車場 新築工事に伴う 埋蔵文化財の 事前調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 長町駅東遺跡 | 集落跡 | 古墳時代 ～ 古代 | 竪穴住居跡 掘立柱建物跡 | 土師器・須恵器 石製品・土製品 金属製品 | | | | |
| 要約 | 長町駅東遺跡では、これまでに350軒以上の竪穴住居跡や集落の区画施設と考えられる大溝跡・材木列が検出されている。出土土器の年代幅などから隣接する郡山遺跡の官衛造営・運宮に関連すると考えられており、今回の調査地点は長町駅東遺跡の北西端に位置する。検出された竪穴住居跡から、郡山Ⅱ期官衛機能移転時まで継続した集落跡と考えられ、特に郡山Ⅰ期官衛造営時に集落が盛行したと考えられる。 | | | | | | | |

仙台市文化財調査報告書第423集

長町駅東遺跡第13次調査

—仙台市あずと長町28街区・店屋付駐車場新築工事に伴う発掘調査報告書—

2014年3月

発行 仙台市教育委員会

〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町
4丁目1番25号 東二番丁仮庁舎
TEL.022-214-8899 (文化財課)

印刷 株式会社 仙台紙工印刷

〒983-0036 宮城県仙台市宮城野区苦竹3丁目1-14
TEL.022-231-2245
